

ISSN 0910-7282

大阪府立図書館紀要  
第42号

2013年10月

Bulletin of Osaka Prefectural Library No. 42

大阪府立中之島図書館

大阪府立中央図書館

## 目 次

大阪府立図書館における政策立案支援サービスの満足度調査報告 ～平成23年度の満足度調査とサービスの現状について～	高萩 綾子 p1 木下 厚美
（館資料）「長田富作資料」目録 <文書の部> 長田富作資料目録 <文書の部> （凡例） 長田富作資料目録	垣口弥生子 p26 本多 まつ 門上 光夫
翻刻『大坂御加番御徒目付役諸事勤方帳』	小笠原弘之 p78 八木 美恵 北川 敬子 苗村 昌世 日置 将行 山田 瑞穂 佐藤 敏江
翻刻『葵丑詠草 丙辰詠艸』	佐藤 敏江 p121
大阪府立中之島図書館所蔵 『萬色一睨』目録稿 一乾一の部一	小林 孔 一頁 岸本 悠子
編集後記	

# 大阪府立図書館における 政策立案支援サービスの満足度調査報告 ～平成 23 年度満足度調査とサービスの現状について～

高萩綾子（中央図書館）

木下厚美（中央図書館）

## 1. はじめに

大阪府庁各行政部局の業務に必要な情報・資料の提供を行う大阪府立図書館の政策立案支援サービス（以下、「P-support」という）<sup>(1)</sup> は、2006（平成 18）年 4 月の開始から今年で 7 年目を迎える。依頼件数は着実に増加しており、このサービスの利用が定着していることがうかがえる（詳細は巻末の統計資料を参照のこと）。

2011（平成 23）年 10 月には、サービス当初から懸案事項であった出先機関職員への貸出資料の搬送が、庁内通送搬送物の契約内容を変更することにより実現した。これによって出先機関職員からの貸出申込が増え、貸出冊数の増加にもつながっている。

また、2011（平成 23）年 7 月には、マッセ大阪（おおさか市町村職員研修研究センター）や府内の市町村図書館を通じ、大阪府内市町村行政職員にも府立図書館が提供しているサービスの広報を実施し、レファレンスの受け付けを開始した。

メールや電話による日々のやりとりの中で、要望等を伺う機会はあるが、利用者である本府職員の「P-support」に対する率直な意見や要望を把握し、サービスをより一層充実させ、今後の方向性を探るために、利用者満足度調査を実施することにした。

本稿は 2011（平成 23）年 12 月に実施した満足度調査の結果とサービスの現状についての報告である。

## 2. 大阪府立図書館 政策立案支援サービス（P-support）満足度調査結果

### 2.1 調査概要

1. 目的： 政策立案支援サービス（P-support）の利用状況を把握し、今後のサービスの整備・充実を図る。

- 2.対象： 平成 22 年度及び 23 年度（10 月 31 日まで）に政策立案支援サービスを利用した大阪府職員 212 名
- 3.期間： 平成 23 年 12 月 8 日（木）～12 月 20 日（火）
- 4.配布： 対象者にメールで調査票を送付
- 5.回収： メール返信・FAX で回収
- 6.回答： 212 名中 133 名から回答が得られた（回答率 約 63%）  
年齢 20 歳代：10 名、30 歳代：30 名、40 歳代：65 名、  
50 歳代：26 名、無回答：2 名

## 2.2 設問と回答

アンケートの集計結果については、別紙「満足度調査集計表」を参照のこと。以下に回答結果と若干の分析を試みたい。

### 【1】 政策立案支援サービスを何でお知りになりましたか。（複数回答可）

庁内 Web（大阪府職員ポータルサイト）：97 人（66%）、案内チラシ：5 人（3%）、口コミ：31 人（21%）、その他：15 人（10%）で、「庁内 Web」からの利用が 6 割以上となっており「庁内 Web」への広報が効果的のようである。「その他」は「担当業務の前任者より」、「図書館の窓口担当者の紹介」等で「口コミ」に関連するものであった。「案内チラシ」は職員研修所に配布しているが認知度は低い。広報について対策が必要である。

### 【2】 利用された申し込み方法についてお聞かせください。（複数回答可）

メール：112 人（68%）、電話：41 人（25%）、FAX：4 人（2%）、来館：9 人（5%）であった。「メール」と「電話」で 9 割を占めている。急を要する場合は来館されることもある。

### 【3】 利用されたサービスについてお聞かせください。（複数回答可）

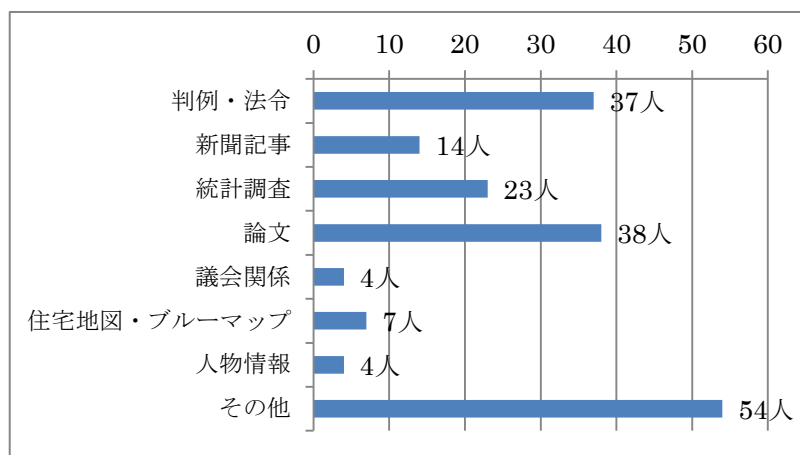
貸出：74 人（37%）、複写：78 人（39%）、レファレンス：48 人（24%）であった。「貸出」、「複写」に偏ることなくレファレンスも利用されているが、割合としては少ない。

### 【4】 利用された内容はどのようなものでしたか。（複数回答可）

判例・法令：37人（20%）、新聞記事：14人（8%）、統計調査：23人（13%）、論文：38人（21%）、議会関係：4人（2%）、住宅地図・ブルーマップ：7人（4%）、人物情報：4人（2%）、その他：54人（30%）であった。

「判例・法令」、「統計調査」等社会科学系の資料がよく利用されている。「大阪文化賞」や「山片蟠桃賞」の選定情報の収集として人物情報も定期的に利用されている。「その他」は、「特許関係（地域ブランドの成功事例収集）」「文化財関係資料」「税制度に関する書籍」「緑化関係の資料」「郷土史の調査・建築に関する専門書」「世論調査結果」等、調査案件により多岐にわたっている。

図1 利用内容分野



**【5】 貸出サービスについてお聞かせください。**

大変役に立った：60人（45%）、役に立った：18人（13%）、あまり役に立たなかった：1人（1%）、役に立たなかった：0人（0%）、利用していない：34人（26%）、無回答：20人（15%）であった。利用された方からは「大変役に立った」、「役に立った」、という評価をいただいた。通常、翌日には発送し（図書館休館日の月曜日及び本庁への配送便が運休する土、日、祝日を除く）、迅速にサービスを提供していることが高い評価につながったと思われる。

**【6】 複写サービスについてお聞かせください。**

大変役に立った：61人（46%）、役に立った：16人（12%）、あまり役に立たなかった：1人（1%）、役に立たなかった：2人（2%）、利用していない：34人（26%）、無回答：19人（14%）であった。利用された方からは「大変役に立った」、「役に立った」、という

評価をいただいた。通常、午前中に受けた依頼は当日の 13:00 頃の通送便に載せている。それ以降の依頼は翌日には発送し、迅速にサービスを提供していることが高い評価につながったと推測される。

【7】 レファレンスサービスについてお聞かせください。

大変役に立った：39 人（29%）、役に立った：13 人（10%）、あまり役に立たなかった：1 人（1%）、役に立たなかった：1 人（1%）、利用していない：50 人（38%）、無回答：29 人（22%）であった。利用された方からは「大変役に立った」、「役に立った」、という評価をいただいた。無回答も「利用していない」、と推測されるので合わせると 6 割の方が利用していない。「貸出」、「複写」に比べて依頼内容が特定できるものではないので、「こんな質問をしていいのだろうか」、「どのように質問をしたらいいのだろうか」と思い依頼を躊躇している方もいると推測される。

以下に 2011（平成 23）年から 2012（平成 24）年に受けたレファレンス依頼の一部を紹介する。

- ・「地方議会議員」「首長」「国会議員」における、『多選禁止』及び『定年制』について議論の状況
- ・昭和 27 年～28 年頃に文部省から通知された「学校給食用小麦粉に対するビタミン類の強化について」に関する通知文
- ・地方議会において、首長等が議員の質問に対して行使する「反問権」について、同権限に関する考え方や運用面での留意事項など
- ・地方議会、とりわけ都道府県議会に対する「住民意識調査」についての資料
- ・民法に規定される「不当利得返還請求」にかかわる、「善意」と「悪意」はどのような基準で判断されるか。
- ・府有地を事業用定期借地権を設定する方法で土地の賃貸を行っているが、借地借家法第 23 条にある、「居住の用に供するものを除く。」について、高齢者介護関係施設はあてはまるかどうか。
- ・ちらし等を作成する際に使用できるような山片蟠桃の肖像画があるか
- ・府営住宅の移転料（補償料）の過去の判例
- ・関西または大阪の、家庭における夏と冬の時間帯別の消費電力で、電気製品による内訳が分かるもの。

- ・大阪市・堺市を除く大阪府内の事例で、最近3年間くらいの児童虐待に関する新聞記事
- ・大阪のソース、みそに関する資料
- ・放射性物質の焼却・拡散は法律で禁じられているか。国内法、国際的観点、双方の観点から関連文献を紹介してほしい。
- ・「府立少年自然の家」の（自治体や民間の）類似施設の利用者満足度調査の結果、苦情、事故件数、料金水準などが出ている資料
- ・チェルノブイリ原発事故によるベラルーシの低線量被ばくによるガンへの影響の内容の翻訳書
- ・「読書が好きな子どもの割合」と「学力」、「家庭での読書量」、「家庭で読み聞かせをしてもらった時期」等の相関関係がわかる調査や文献
- ・破産法 143 条第 3 項の考え方
- ・食品産業（特区創設）において最大限活用できる地域資源について
- ・密集市街地整備法における権利変換手続に関する資料
- ・都市公園法第 16 条の解説や判例について
- ・コンクリート解体工事で生じたアルカリ排水が土壌に浸透した場合の影響について
- ・野生の鹿が食べない園芸植物について
- ・社会保障審議会の資料について
- ・密集市街地整備法における権利変換手続に関する資料

法令に関するものや過去の判例についての質問が多いが、図書館の使い方として、行政資料、地域資料保存図書館としての利用と、現在担当している仕事の問題解決を可能にする図書館のレファレンス機能利用に分類できる。専門家（弁護士等）に相談する前の情報収集や下調べにもよく利用されている。

**【8】 政策立案支援サービス全般についてお聞かせください。**

大変役に立った：88人（66%）、役に立った：35人（26%）、あまり役に立たなかった：2人（2%）、役に立たなかった：3人（2%）、無回答：5人（4%）であった。

利用された方からは「大変役に立った」、「役に立った」、という高い評価をいただいた。

「あまり役に立たなかった」、「役に立たなかった」理由は「探していた記事を見つけられなかった」、「急を要した案件であったため、多方面に情報収集を行っており、結果的に他

機関からの情報提供により対応しました」とコメントしている。

【そう思われました理由をお聞かせください】（自由記述回答）

様々な部局の職員から多くのご意見をいただいたが、大部分はこのサービスが役に立っているという内容であった。効率性（図書館へ直接出向く必要がない。情報収集にかけていた時間の短縮）、図書館所蔵資料の多様性、司書の視点が入ることによる思考のひろがり（自分が調べるアプローチ以外のヒントをもらえる）などのメリットを利用者はこのサービスを受けることにより感じている。

以下回答転記（抜粋）

- ・調査したいことについて漠然としか理解していない場合に、この支援サービスからのご回答により調査あるいは考察すべきポイントを見出すことができる、ということが、最も役に立ったと考えている。
- ・図書館に出向く必要がなく、こちらが求める期限までに必要な資料を一定探し出してくれるので助かった。ただ、こちらが求める資料が所蔵されていないようなケースもあり、もっと所蔵資料を充実していただきたい。
- ・シンガポールに訪問する際に、事前に教育事情を把握していることにより、訪問する際に見学したり、現地の先生や教育行政に対する質問などのポイントを絞ることができた。
- ・個人での情報検索に限りがあり、専門家の支援は効果的。
- ・インターネットで検索することあるが、法例文の注釈などは、図書館所蔵の専門書しかない場合が多い。
- ・情報収集にかけていた時間を短縮し、本筋の論文や企画案作成に役立てられる
- ・自分が調べるアプローチ以外のヒントをもらえる
- ・資料アプローチに当たる時間と同時に、別の資料アプローチに当たれる、効率性がよい
- ・資料がなく、どこにあるか問い合わせ先も分からなかった。そのとき、庁内 Web で政策立案支援サービスの事を知り、「ダメもと」で問い合わせをしたところ、資料が所蔵されていた。
- ・東大阪まで行かなければならぬかと思っただが、資料を送ってくれた。
- ・専門的な内容であっても、電話やメールでのやり取りで内容を検討していただき、関係書籍の案内や目次の Fax などを迅速に対応してもらっている。



- ・各部署では、予算に限りもあり、図書館のような専門図書（特に多種の雑誌（金融関係の解説書や各種の判例の解説書））をすべて購入することは不可能。また、保管している場合でも、問題解決に必要な内容を探し出すためには相当の時間が必要で、人員もさけない。このような部分を政策立案支援サービスで補完してもらい、大変助かっている。
- ・情報収集にかけていた時間を命令書案検討に向けることができた。拙い依頼文、短い時間の中で、こちらの依頼内容を的確に把握していただき、図書館で契約されている判例DBの資料等、必要な資料を提供してもらえた。
- ・インターネットを通じてかなり情報を探せるようになったが、信頼性や分厚い蓄積という面では、文献に軍配が上がる。砂漠の砂の一粒をさがす作業を専門家の方にしていただけるという点でも、たいへんありがたいサービスと思う。
- ・今回のご相談は内容がマニアックすぎて残念ながら適切な資料が見つかりませんでした。文献検索のみならず関係先に電話でお問い合わせいただくなど手を尽くしていただき、たいへん感謝しています。
- ・自分では辿り着けなかった情報を提供してもらった。専門家には勝てないと思った次第。
- ・複写サービスを利用したが、図書館に出張して資料を入手する必要がなく、出張旅費や時間が大幅に節約できた。

質問者とのやりとり（レファレンスインタビュー）を電話やメールで行っているが、同じ大阪府の職員ということもあり、質問内容や、施策目的について詳しく説明を聞くことができる。そうすることにより、質問者のニーズにより近い回答の提供が可能になっている。行政課題を共有し、その解決へ向けての施策策定、条例作成への支援に繋がっていることが実感できる。質問について詳しく教えていただけるのは、図書館が直営で運営され、府の職員である司書がいることによるものと言えるだろう。

今後は、より積極的な広報や行政的課題へのヒントとなる資料情報提供などにも力を入れて行く必要がある。

**【9】** レファレンスサービスの回答の詳しさについてお聞かせください。

要点のみでよいのでできるだけ早く回答してほしい：29人（22%）、多少時間がかかってもよいので詳しく回答してほしい：19人（14%）、その他：30人（23%）、無回答：55人（41%）で「できるだけ早く回答してほしい」が「多少時間がかかっても詳しく回答し

てほしい」より若干多かった。「案件によって違うので、ケースバイケースで都度選択できるのが望ましい」というご意見もあり、レファレンス依頼様式には「回答希望期限」を記入する欄を設けているので、状況を見極め依頼者の方と連絡を取り適切なサービスを提供していく必要がある。

**【10】** 府政の重点課題や、現代の社会情勢に関連のあるテーマについて庁内Webで資料を紹介していますがご存知でしたか。

知っていた：30人（23%）、知らなかった：96人（72%）、無回答：7人（5%）であった。「知らなかった」が7割でありあまり利用されていないことがうかがえる。「庁内Web」の掲載場所がわかりにくいという意見や、「（社会情勢に関連のあるテーマ）という整理も有用だと思うが、テーマを絞り過ぎると、それを活用する利用者の減少につながり、せっかく労力をかけてきめ細かな分類をしてもコストパフォーマンスが落ちるというジレンマが生まれる。セグメントをもう少し幅広に捉え、たとえば「経済」「人口」「物流」「組織マネジメント」「海外情勢」「地方分権」などに分類するなどすれば、汎用性がより高まるのではないか。」という具体的な意見をいただいた。

**【11】** 大阪府立図書館は政策立案に必要な資料がそろっていると思いますか。（自由記述回答）

充実している：46人（35%）、不十分：14人（11%）、わからない：67人（50%）、無回答：6人（4%）であった。「充実している」と感じている人が35%で、「わからない」が5割となっている。蔵書構成に関わる質問なので「わからない」が多くなったと思われる。

「資料については政策によって様々なものがあるので一概にこれが必要といったことは言えないと考えます。」という意見もいただいた。

**【12】** 政策立案にはどのような資料が必要と思われますか。（自由記述回答）

大阪府が振興している国際戦略総合特区の医薬品や医療機器分野、新エネルギー分野についての資料、市場規模、需要予測、海外との比較についての資料の要望がある。法令や判例資料に加え、産業振興のための施策の資料を求められることも多く、この部分は図書館のビジネス支援サービスと重なっているといえる。

### 以下回答転記（抜粋）

- ・資料作りには、エビデンスが欠かせない。統計、とくに市場規模、需要予測などビジネスの将来性、海外との比較、世界の中の日本や大阪の地位について、具体的数値で詳しく書かれているような資料が求められる（国際戦略総合特区に活用）。特に大阪の場合、医薬品や医療機器分野、新エネルギー分野について重点的に振興しているので、それら分野をそろえてほしい。
- ・企業の詳細データがわかる、帝国データバンクや商工リサーチの詳細資料、大阪産業にかかわる戦前、戦後年代の文献資料
- ・普段、関係ないと思われるものもいきなり必要になることがあるため分からない。専門書についてはできるだけ豊富に揃えておいて欲しい。
- ・権威ある専門書の充実
- ・これからは事案の複雑化、多様化により、今まで調査したことのない事項、統計データを収集したことのないデータなどが必要になると思います。
- ・もう少し法律に関する判例や論文等に関する資料があれば助かります。
- ・過去の事例が数多く掲載している資料。大阪府庁内でそのようなデータベースがあっても便利だと思います。例えば、今特別清算に関わっていますが、特別清算は手続き、弁護士へ確認する事柄、裁判所への事前の根回しなど、事例ごとに対応が異なる案件もあります。対応が異なっても他の事例は非常に参考になるので、職員どうしの情報共有のためにデータベース化したものがあれば非常にありがたいと思う今日このごろです。
- ・バイオメディカル分野は海外との連携・競争が多く、国際的な統計資料や個別国の医療・医薬品情報や・薬事関連法令の資料があればありがたいと思います。
- ・企業情報の特集（業種、分野等できる限り詳細に）
- ・統計資料や他都市との比較データ
- ・現下のグローバル社会のもと、海外の状況に関する調査・研究等が必要になるが、インターネットだけでは情報入手に限界があるので、海外を扱った文献が必要であると感じている。
- ・担当業務によって資料のニーズはまちまちだと思うので、行政に直接関連するものだけに限らず、さまざまな分野の資料を幅広く収集しておくことが有効だと思います。
- ・官民発行問わず、府事業に関連する市況分析ができるような資料があれば助かります。  
（所属では高価で買えない年鑑などのデータ集 etc）しかもできるかぎり最新版があると

助かります。

- ・仕事によって様々なので、欲を言えばあらゆる資料。1館で揃えるのは不可能だから、他機関からの又貸しとか、連携が充実していれば問題ない。中央図書館は府民の図書館としては不便な場所にありすぎる。位置的には中之島図書館が中央図書館たるべき
- ・専門書などはある程度、所属でも対応できるのですが、統計、過去の論文・新聞・雑誌など所属では収集保管が難しい資料が特に助かりました。
- ・府立図書館が収集している、「各部局発行の資料」と同様の、他府県立図書館が収集している他府県の行政関連資料
- ・国内外での先進的な取り組みや事例などの情報
- ・大学・研究機関が発行する紀要、報告書
- ・各種行政関連資料の到着図書案内
- ・シンクタンクの報告書（国勢調査のような大規模、継続的な調査でなくてもよいので「ニッチ」な調査結果
- ・どれか特定されたものではなくアイデアに結びつく幅広いさまざまな資料があることが重要

調査依頼を受けた資料のうち「官公庁発行の資料」等は寄贈依頼をして入手に努めている。要望にあがっていた「民間調査会社の高額なマーケティング資料」は、資料購入費の問題もありすべてを購入できるわけではないが、中之島図書館ビジネス支援室とも調整しながら入手に努めている。

**【13】** どのようなサービスがあると便利ですか。（自由記述回答）

電子データ（PDF ファイル等）によるメール送付サービスの希望が複数あった。資料の電子化の他、国立国会図書館、大学図書館等他の図書館との連携（借受、複写取寄せ）に関する要望は以前からいただいている。

**以下回答転記（抜粋）**

- ・資料の電子化
- ・国会図書館や各大学図書館と連携する。
- ・新聞等で話題になっている内容に関する簡単な説明と併せて、図書の紹介など。（興味を

持つきっかけとして用語等の紹介が少しあった上で、詳細を知る場合はお勧めの本を紹介してもらうようなイメージ)

- ・年間購読契約をしなければ読めないような専門誌の記事
- ・例（過去のレファレンス紹介 アラートサービス）にある案内を、各部局程度の区別をもって整理して頂き、それをいつでもネットで見る事ができたら助かります。
- ・自分の必要とする内容の最新の本が入ってきたときに、メールで連絡してくれるシステム。
- ・行政関連資料の新着図書案内
- ・分野別の目録と検索ツールがあればありがたい。
- ・海外の事例紹介として、邦訳されていない資料についてサマリーを公開し、こんな資料があるよ、というのがわかれば便利だと思います（費用対効果からできないと思いますが）。
- ・大阪産業にかかわる戦前、戦後年代の、文献一覧、インデックス
- ・経済研究職の立場から言えば、経済学の海外専門雑誌、国内専門雑誌の閲覧、コピーができるサービスがあると望ましい。政策立案における高度な定量分析が求められるなか、これらのサービスは、大阪産業経済リサーチセンターだけでなく、政策企画室等の企画セクションにも、必要と考えられる。図書館自体に保管できなくとも、大阪府立大学との連携で閲覧、複写できるサービスが整備されると、業務上、大変有益である。
- ・政策に関連する周辺の資料提供。
- ・政策立案に向けていろいろと相談できる有識者を紹介してもらえそうなサービスがあればありがたい。
- ・全国の図書館からの図書取り寄せサービス。
- ・新着図書を希望カテゴリー別にアラート・メールで案内いただけるようなサービスがあれば。
- ・新聞記事の検索、記事の送付サービス
- ・過去のレファレンス事項の紹介（Q&A形式で）
- ・判例データベースを庁内で共有して、自由に検索できたら便利です。
- ・行政関連資料の新着図書案内
- ・各種データベースの検索・照会
- ・政策立案等全体では幅広い資料が必要なので、職員向けに限定して考えると、各部署が

購入しているリストも含めた蔵書リストがあれば、より便利かと思います。

- ・ 知りたい項目、論点を列挙したら、それにかかる論文等参考文献を送付してもらえるサービス
- ・ 企業情報の検索
- ・ 庁内各部署でよく使っている本のリストを入手し、揃えておく。
- ・ 職場のパソコンから、図書館の本のページが読める機能。不確かな情報を手がかりに探すときに、職場に居ながらにして図書館の資料をパラパラと見て、目的のものを探し出せるようなイメージ
- ・ (法的に不可とは存じていますが)複製の電子データでの提供
- ・ 都道府県別の行政関連資料の目録
- ・ 全国的なレベルでの各図書館の蔵書を府立図書館のページで検索でき、必要な図書を図書館間で融通してもらえるようなサービス
- ・ WEB を含む幅広い情報の提供
- ・ 海外における先進的な事例の収集（例：まちづくり、緑化、景観形成など）
- ・ 学会や各種機関が発行している季刊誌などの情報

【14】 情報検索などに役立つ知識や技術が習得できる講習があれば、参加してみたいですか。

参加してみたい：53（40%）、参加したくない：6人（5%）、わからない：58人（44%）、無回答：16人（12%）であった。

「参加してみたい」、「わからない」がそれぞれ4割程度である。案件ごとに必要とする情報が違うだろうし、業務が忙しい中、参加するのは難しいと思われる。

「未知の分野の仕事も沢山あり、人からみたら簡単なことでも、当人にとっては本当にどうしていいかわからないこともあるので、ホテルのコンシェルジュのように、1対1で、テレビ電話的に、何でも聞けるサービスが理想。情報検索講習等をするなら、家のパソコンからでも好きな時間にみられる通信教育みたいな形式がいい」という意見をいただいた。

【最後に政策立案支援サービス（P-support）に対するご意見・ご要望がありましたらご記入ください。】（自由記述回答）

たくさんの要望をいただいた。「他館との連携」に関する要望、「更なるスピードアップ

(当日便)」、「具体例的な調査事例の作成に関する要望」を複数いただいている。

#### 以下回答転記（抜粋）

- ・今後も政策立案サービスを一層充実させていただければ幸いです。
- ・情報収集に大変役立っているのので、気軽に利用できるサービスとしていただきたい。
- ・今回知り合いより聞き、このようなサービスがあることを知った。もう少し周知をしたらもっと活用者が増えるのではと思われる。
- ・庁内で知っている職員はまだ少数、また、利用をためらっている職員もいるので、更なるPR。
- ・とてもすばらしいサービスだと思います。今後も事業継続を望んでいます。統計学講座や資料作成講座、資料読み解き講座などがあれば是非参加したいです。
- ・庁内ウェブページによく掲載されているのに、このサービスを知らない職員が多いように感じる。
- ・「政策立案」という名称から、利用を限定されている等の誤解があるのでは。利用者の声や利用による効果をもっとPRしてみてもどうでしょう。
- ・場合によっては、可能な限り早く情報が必要ということもありますので、そのあたりについて、柔軟な対応をしていただけると、利用する側としてはありがたいと思う。
- ・希望する図書が無かった場合、購入してもらえれば有難い
- ・他の図書館の蔵書の複写について、府立図書館で取り寄せ、無料で複写いただければありがたい。
- ・複写サービスで、「資料のコピー送付サービス」ではなく、「電子データ（PDFファイル等）によるメール送付サービス」をしてもらえれば便利だと思います。
- ・自分では探すことができない情報を調べていただき、ありがたかった。
- ・読みたい資料（紀要関係が多いのですが）が無いことが多く、府立大学人間科学部資料室に出向くことが多いので、ぜひ、紀要・報告書関係の蔵書充実をお願いします。
- ・電子メールでレファレンスが受けられるのは、時間を効率よく使えるうえ、大変便利でよかった。対応も親切丁寧であり満足した。今後も継続してほしい。
- ・「行政」という概念にとらわれず、図書館でなければできない情報サービスを目指すことが、市民にとっても行政にとっても重要だと考えます。
- ・顕彰事業（大阪文化賞、山片蟠桃賞）では大変お世話になっております。限られた時間

で資料を収集する必要がありますので、本当に助かっています。引き続き利用させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

- ・大阪府から出向している場合、政策立案サポートが受けることができるかどうかご検討下さい。独立行政法人や企業団に行った場合にも、できればこのサービスを受けたいと思います。
- ・今は、一つの施策を考える中で民間視点を常に意識することが必須なので、いろいろと調査が必要ですが、職員が自力でやることも多いかと思うので、この支援サービスは有意義だと思います。以前の所属でも貸出サービスなど利用させていただいていました。
- ・他の職員の方がどのようにこのサービスを使い、政策立案に生かしたのかわかる資料があれば、公開して欲しい。こんな使い方があるというのをもっと具体例を使って紹介して欲しい。

### 3. 調査結果からみた今後の課題

他館資料の取寄せ・複写について、今回の調査でも複数の要望をいただいているが、他館からの借受や取り寄せ代行は送料やコピー料金が発生するため、予算の確保が難しい状況である。現在は依頼者から直接所蔵機関への申込みを案内している。大学図書館や国立国会図書館に所蔵していることがわかっているのに必要な資料を提供できないことにもどかしさを感じることもあり、特に雑誌論文については代行複写ができると調査の幅が広がりサービスも充実するので、予算措置へ向けて関係部署とも調整していきたい。

資料リストについて、設問【10】で72%の方が「知らない」と回答している。庁内Webのリンク集からも入れるが見つかりにくい。庁内Webの「お知らせ欄」に掲載する回数を増やしてP-supportのページへナビゲートするようにしている。

「(現在再生可能エネルギーへの転換について検討しているところであり、議会でも多く質問があったため) テーマ別蔵書紹介「再生可能エネルギー関連資料リスト」を最新の情報に更新いただければと思います。」という具体的な要望もあり、「再生可能エネルギー」改訂し、新たに「人権問題」を作成した。

府立中央図書館の資料リストにリンクする方法に変更し、今後は定期的な更新をすぐ反映できるようにしたい。

資料の新着資料案内について大阪府立図書館では登録利用者へ「新着図書お知らせサー



ビス」を提供している。当日受け入れた資料をメールで通知するサービスである。**P-support** の登録とは別に個人の「利用者カード」とパスワードが必要だが、担当者が抱えている案件や関心のあるテーマについて新刊情報を得ることができるので案内していきたい。

雑誌の新着資料案内については「CiNii」や「国立国会図書館雑誌記事索引」が雑誌記事の RSS 配信を行っている。雑誌の目次が掲載されているサイトの RSS を、RSS リーダーというツールで閲覧すると、最新の目次情報をみることができるシステムである。これらを利用した API を活用して府立図書館所蔵雑誌の行政関連資料の「新着記事情報」を「庁内 Web」で公開していきたいと考えている。

「他の職員の方がどのようにこのサービスを使い、政策立案に生かしたのかわかる資料があれば、公開して欲しい」という要望が複数あった。東日本大震災後、大阪府でもがれきの受入れが問題となっていた時期に「放射性物質の焼却・拡散は法律で禁じられているか。国内法、国際的観点、双方の観点から関連文献を紹介してほしい」という質問をいただいた。回答後、大阪府での受入基準が公表されたが、当館での回答が少しでも参考になっていれば幸いである。具体的な事例集を作成し、質問の増加につなげていきたい。

#### 4. 庁内部署との連携と利用の促進

議会図書室より依頼があり、「大阪府議会 図書室ニュース」2012（平成 24）年 12 月号に「府立図書館の政策立案支援サービス（**P-support**）について（議員の皆様へ）」を掲載していただいた。これを機会に今後議員の方のサービスを拡大していければと考えている。**P-support** の準備段階から本庁内へのサービスポイントの開設を目指していたが、人員配置等の事情により実現していない。<sup>②③</sup>この連携を契機として行政部局との関係を深めて **P-support** の有用性をアピールし、サービスポイント開設の糸口になればと考えている。

政策企画部局で民間調査会社を通じて行っている資料収集サービス（マーケティング関係）との連携についてのご提案もいただいている。このサービスは当館が所蔵していない民間調査会社の高額なマーケティング資料や当館が契約していないデータベースを活用して市場予測等を行っているので、図書館では対応できない資料や調査案件について、担当部局と連携し、このサービスを案内できるようにしていければと考えている。

2006（平成 18）年のサービス開始以降、利用件数は着実に増加している。今回の満足度調査の結果やレファレンスの回答に対する返信を見ていると、当初は半信半疑で大して期待はしていなかったが、結構使えるのではないかと考えておられる方も少なからずいらっしゃると思われる。リピーターの方もおられるので、利用を通じて「仕事に活用できる」と認識していただいていることが継続的な利用につながっている要因ではないかと思われる。

利用の多い判例文の依頼のほか、実務で困っている細かな運用の法的根拠を探している内容もあり、判例や法令の解釈に苦慮されていることがうかがえる。逐条解説やコメントのほか、判例データベースやインターネットの情報を利用して調査しているが、回答が見つからない場合がある。その場合でも調査経緯を回答としてお知らせしているので「自分が調べるアプローチ以外のヒントをもらえる」というご意見のように解決の手掛かりの提供にはなっているように思われる。

P-support は業務で困っている身近な調べものにも対応している。これらも含めて「調査事例」を紹介し、「政策立案」という名称にかかわらず、気軽に利用していただけるよう PR に努めていきたい。

設問【7】から「レファレンスサービス」は 38%の方が利用していない。2013（平成 25）年 2 月に、教員委員会の図書館担当課とともに人事課と調整し、新規採用職員研修期間に P-support 事業の周知とパンフレット等の配布を行うことと、入庁 3 年目の職員全体研修において、事業紹介のための講義時間をカリキュラムに入れていただくことが決まりつつある。入庁後早い段階からこのサービスを活用してもらえればレファレンスサービスの利用も増えていくと考えられる。

## 5. おわりに

部局の再編が頻繁に行われる中で、当該課においても事業報告や過去の資料を保存することが難しくなっている。行政資料を収集し、永く保存することが図書館には求められている。地域の歴史や物産等についての質問も多く、府立中之島図書館の地域資料を収集している大阪資料・古典籍室との協力も欠かせない。また、産業振興施策で求められる市場調査資料の収集面からは、府立中之島図書館のビジネス室との協力も必要である。P-support に求められる資料は幅広い。

図書館や資料室は知識の集積場所であり、資料の宝庫であるにもかかわらず、行政改革の名のもとに予算削減や閉室、外部委託化が進んでいる現状がある。図書館の仕事は地味で大きなアピールはなかなかしにくい施設であるが、P-support を通じて府民サービスに貢献していることを認知してもらい、存在価値を高めることができればよいと思う。

行政支援サービスはビジネス支援サービス以上に対象が明確に絞られており、内容は多岐に渡るが、使用目的が明確で課題について把握しやすい。社会人向けサービスとして、公共図書館が特に力を入れるべきサービスと考えられる。地方分権が進む中、自立性を求められる自治体の職員を支える P-support は、図書館のサービスとしてますます欠かせないものとなっていくと思われる。

現在、P-support 専任の担当者はいないため、他の業務と兼任で職員が協力して対応しているが、迅速に対応できるよう今後体制を整えていく必要がある。質問者の高度な質問に必ずしも満足いただける回答ができているかは甚だ心もとない部分もあるが、資料を揃え、職員のレファレンス能力を日々研鑽し、経験を共有・蓄積していく努力続けることでよりよいサービスを提供していきたい。

## 注

---

- (1) 政策立案支援サービスの英訳である Policy Planning support service の略称として、「P-support (ピ一サポート)」を用いている。
- (2) 日置将之「大阪府立図書館における政策立案支援サービスの現状について」48 頁、『大阪府立図書館紀要』37、大阪府立中之島図書館・大阪府立中央図書館、2008 年
- (3) 徳森耕太郎「大阪府立図書館における政策立案支援サービスの現状と事例について」57 頁、『大阪府立図書館紀要』40、大阪府立中之島図書館・大阪府立中央図書館、2011 年

## 参考文献

---

- (1) 根本彰「公共図書館における行政レファレンスサービスの可能性：日野市立図書館市政図書室での調査に基づいて」99 頁～123 頁、『続 情報基盤としての図書館』勁草書房、2004 年所収

(統計資料) ～P-support の実施状況～

1.月別申込件数

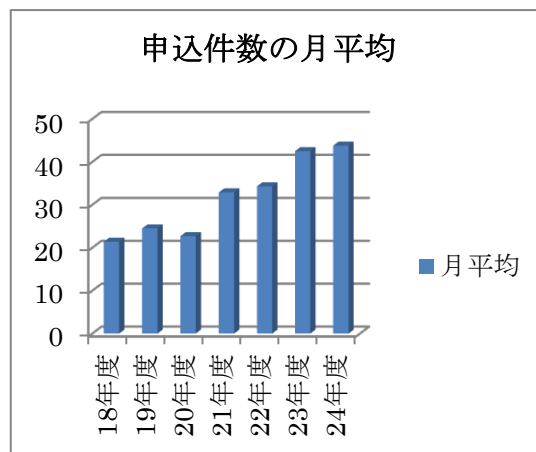
2006（平成 18）年 4 月から 2012（平成 24）年 11 月末までの月別申込件数は表 1 のとおりである。

2010（平成 22）年度の申込件数は 412 件で月平均は 34.3 件、2011（平成 23）年度の申込件数は 510 件で月平均は 42.5 件、2012（平成 24）年度の申込件数は 11 月末までで 407 件、月平均は 51 件となっており、年々増加している。リピーターに加え、新規申込みも増えており、サービスが定着してきたことを日々感じる。2011（平成 23）年度は 9 月議会の際に、議事関連のレファレンスが連日寄せられ、数人がかりで対応したこともあった。

表 1 月別申込件数（2006.4-2012.11）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
2006	14	17	26	28	27	28	27	10	18	15	21	17	257
2007	26	18	27	17	23	17	28	36	32	22	25	23	294
2008	11	33	19	29	22	30	18	20	29	22	21	18	272
2009	37	32	28	27	27	22	28	27	34	48	46	39	395
2010	35	25	45	47	34	37	35	22	36	35	37	24	412
2011	23	36	45	39	49	64	38	46	54	39	38	39	510
2012	34	58	60	38	49	57	53	58					

図 2 年別申込件数の推移



## 2. サービス別の利用状況

サービス別の利用状況は表 2 のとおりである。全体的に増加しているが、特にレファレンスと貸出冊数が伸びている。

表 2 サービス別申込件数 (2006.4-2011.11)

	レファレンス	貸出	(冊数)	複写	(枚数)
2006	71	71	(133)	131	(2434)
2007	63	115	(324)	116	(2764)
2008	74	80	(291)	134	(2012)
2009	81	133	(323)	181	(2899)
2010	110	161	(374)	141	(2500)
2011	117	232	(561)	161	(2307)

図 3 年別貸出件数の推移

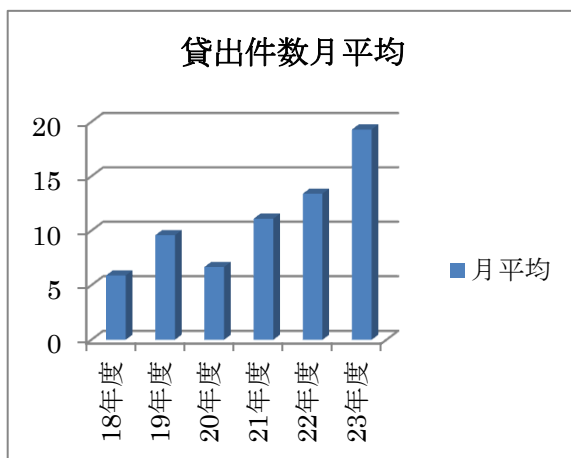


図 5 年別複写件数の推移

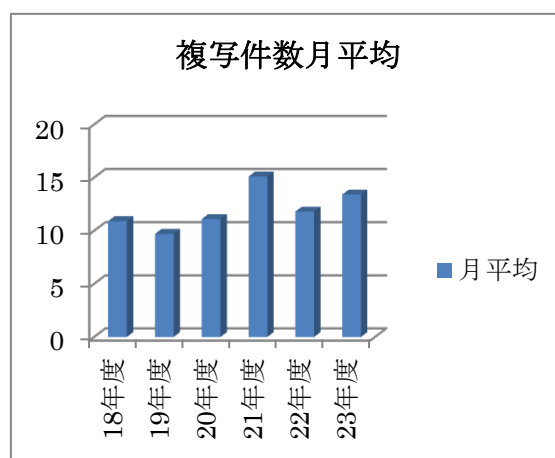
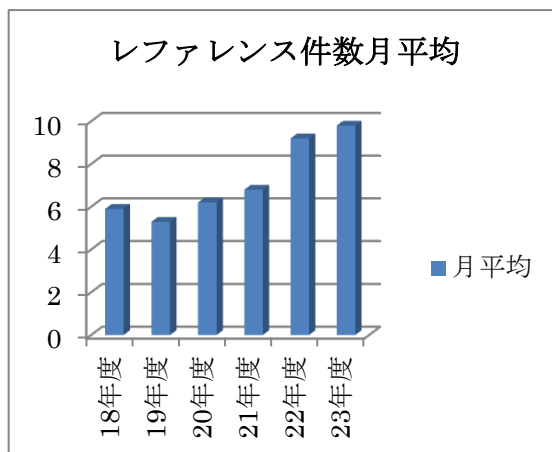


図 4 年別レファレンス件数の推移



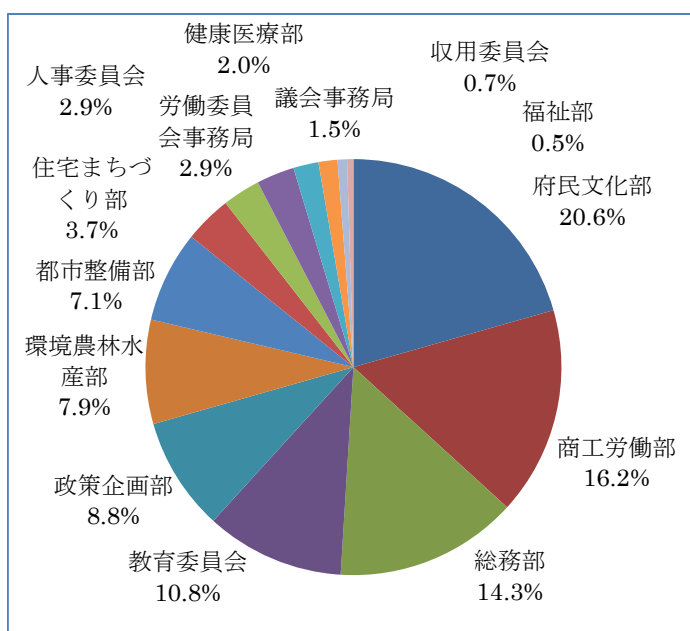
### 3.申込者の状況

部局ごとの申込状況について、2012（平成24）年4月から11月末までの申込部署別件数は表3のとおりである。

府民文化部からの申込みがやや多いが、大阪府が設けている国際文化賞「山片蟠桃賞」の選定の年にあたっており、候補者の下調べのレファレンス数が多かったためである。概ね幅広い部署から利用されているといえるだろう。

表3 申込部署別件数（2012.4-11）

部局	件数(割合)
府民文化部	84件 (20.6%)
商工労働部	66件 (16.2%)
総務部	58件 (14.3%)
教育委員会	44件 (10.8%)
政策企画部	36件 (8.8%)
環境農林水産部	32件 (7.9%)
都市整備部	29件 (7.1%)
住宅まちづくり部	15件 (3.7%)
人事委員会	12件 (2.9%)
労働委員会事務局	12件 (2.9%)
健康医療部	8件 (2.0%)
議会事務局	6件 (1.5%)
収用委員会	3件 (0.7%)
福祉部	2件 (0.5%)
合計	407件 (100%)



政策立案支援サービス満足度調査集計表

No.	質問	回答	人数	割合
1	政策立案支援サービスを何でお知りになりましたか。(複数回答可)	.庁内Web	97	66%
		案内チラシ	5	3%
		口コミ	31	21%
		その他	15	10%
		合計	148	100%
2	利用された申し込み方法についてお聞かせください。(複数回答可)	メール	112	68%
		電話	41	25%
		FAX	4	2%
		来館	9	5%
		合計	166	100%
3	利用されたサービスについてお聞かせください。(複数回答可)	貸出	74	37%
		複写	78	39%
		レファレンス	48	24%
		合計	200	100%
4	利用された内容はどのようなものでしたか。(複数回答可)	判例・法令	37	20%
		新聞記事	14	8%
		統計調査	23	13%
		論文	38	21%
		議会関係	4	2%
		住宅地図・ブルーマップ	7	4%
		人物情報	4	2%
		その他	54	30%
		合計	181	100%
5	貸出サービスについてお聞かせください。	大変役に立った	60	45%
		役に立った	18	13%
		あまり役に立たなかった	1	1%
		役に立たなかった	0	0%
		利用していない	34	26%
		無回答	20	15%
		合計	133	100%
6	複写サービスについてお聞かせください。	大変役に立った	61	46%
		役に立った	16	12%
		あまり役に立たなかった	1	1%
		役に立たなかった	2	2%
		利用していない	34	26%
		無回答	19	14%
		合計	133	100%
7	レファレンスサービスについてお聞かせください。	大変役に立った	39	29%
		役に立った	13	10%
		あまり役に立たなかった	1	1%
		役に立たなかった	1	1%
		利用していない	50	38%
		無回答	29	22%
合計	133	100%		
8	政策立案支援サービス全般についてお聞かせください。	大変役に立った	88	66%
		役に立った	35	26%
		あまり役に立たなかった	2	2%
		役に立たなかった	3	2%
		無回答	5	4%
		合計	133	100%



政策立案支援サービス満足度調査集計表

No.	質問	回答	人数	割合
9	レファレンスサービスの回答の詳しさについてお聞かせください。	要点のみでよいのでできるだけ早く回答してほしい	29	22%
		多少時間がかかってもよいので詳しく回答してほしい	19	14%
		その他	30	23%
		無回答	55	41%
		合計	133	100%
10	府政の重点課題や、現代の社会情勢に関連のあるテーマについて庁内Webで資料を紹介していますがご存知でしたか。  (例.「再生可能エネルギー関連資料リスト」「マーケティングリサーチ関連資料リスト」など)	知っていた	30	23%
		知らなかった	96	72%
		無回答	7	5%
		合計	133	100%
11	大阪府立図書館は政策立案に必要な資料がそろっていると思いますか。	充実している	46	35%
		不十分	14	11%
		わからない	67	50%
		無回答	6	4%
		合計	133	99%
12	政策立案にはどのような資料が必要と思われますか。			
13	どのようなサービスがあると便利ですか。			
14	情報検索などに役立つ知識や技術が習得できる講習があれば、参加してみたいですか。	参加してみたい	53	40%
		参加したくない	6	5%
		わからない	58	44%
		無回答	16	12%
		合計	133	100%
最後に政策立案支援サービス(P-support)に対するご意見・ご要望がありましたらご記入ください。				

## 大阪府立図書館《政策立案支援サービス(P-support)満足度調査のお願い》

お答えいただいた回答は調査の目的以外には一切使用いたしませんので、率直にお答えください。  
お忙しいところを恐れ入りますが、どうぞよろしくお願いいたします。

**回答期限：平成23年12月20日(火)**

### 1. 政策立案支援サービスを何でお知りになりましたか。(複数回答可)

1.  庁内 Web
2.  案内チラシ
3.  ロコミ
4.  その他 ( )

### 2. 利用された申し込み方法についてお聞かせください。(複数回答可)

1.  メール
2.  電話
3.  FAX
4.  来館

### 3. 利用されたサービスについてお聞かせください。(複数回答可)

1.  貸出
2.  複写
3.  レファレンス

### 4. 利用された内容はどのようなものでしたか。(複数回答可)

1.  判例・法令
2.  新聞記事
3.  統計調査
4.  論文検索
5.  議会関係
6.  住宅地図・ブルーマップ
7.  人物情報
8.  その他 ( )

### 5. 貸出サービスについてお聞かせください。

1.  大変役に立った
2.  役に立った
3.  あまり役に立たなかった
4.  役に立たなかった
5.  利用していない

### 6. 複写サービスについてお聞かせください。

1.  大変役に立った
2.  役に立った
3.  あまり役に立たなかった
4.  役に立たなかった
5.  利用していない

### 7. レファレンスサービスについてお聞かせください。

1.  大変役に立った
2.  役に立った
3.  あまり役に立たなかった
4.  役に立たなかった
5.  利用していない

### 8. 政策立案支援サービス全般についてお聞かせください。

1.  大変役に立った
2.  役に立った
3.  あまり役に立たなかった
4.  役に立たなかった

そう思われました理由をお聞かせください。

- 例) 情報収集にかけていた時間を施策立案に向けることができた  
例) 自分の知らない情報源を提供してもらった  
例) 図書館に向く必要なく情報をえることができた

9. レファレンスサービスの回答の詳しさについてお聞かせください。

1.  要点のみでよいのでできるだけ早く回答してほしい
2.  多少時間がかかってもよいので詳しく回答してほしい
3.  その他 ( )

10. 府政の重点課題や、現代の社会情勢に関連のあるテーマについて市内Webで資料を紹介していますがご存知でしたか。 (<http://www.lan.pref.osaka.jp/10282/service/ene.html> Cキューブ>Creation> 府立図書館政策立案支援サービス から入れます)

(例. 「再生可能エネルギー関連資料リスト」「マーケティングリサーチ関連資料リスト」など)

1.  知っていた
2.  知らなかった

11. 大阪府立図書館は政策立案に必要な資料がそろっていると思いますか。

1.  充実している
2.  不十分
3.  わからない

12. 政策立案にはどのような資料が必要と思われますか。

13. どのようなサービスがあると便利ですか。

例) 行政関連資料の新着図書案内

14. 情報検索などに役立つ知識や技術が習得できる講習があれば、参加してみたいですか。

1.  参加してみたい
2.  参加したくない
3.  わからない

最後に、政策立案支援サービス(P-support)に対するご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

あなたのプロフィールを教えてください。

部課名		年代	例) 40歳代
氏名			

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

問合せ先 教育委員会 中央図書館 調査相談課 政策立案支援サービス担当 高萩・南谷・木下  
電話 06-6745-9026(ダイヤルイン) FAX 06-6745-0262 メール [p-support@library.pref.osaka.jp](mailto:p-support@library.pref.osaka.jp)

## (館資料)「長田富作資料」目録 <文書の部>

編纂：垣口 弥生子（桃山学院大学兼任講師）(1)

本多 まつ（中之島図書館）

門上 光夫（中央図書館）

### 解題

- 一. 「長田資料」来歴..... 垣口弥生子
- 二. 「長田資料」から：内容紹介..... 門上光夫

### 「長田富作資料」目録

#### 凡例

- 1. 大阪府立図書館・大阪府関係
- 2. 大阪・近畿地方図書館関係
- 3. 日本図書館協会関係
- 4. 中央図書館長協会関係
- 5. その他

### 解題

- 一. 「長田資料」来歴..... 垣口弥生子

### はじめに

2004（平成16）年2月に『中之島百年：大阪府立図書館のあゆみ』(2)を大阪府立中之島図書館百周年記念事業の一環として刊行したが、その編集作業のさなか2001（平成13）年頃に風呂敷包みのひとかかえの資料が、編集担当者に持ち込まれた。これが今回、目録を上梓する「長田富作資料」である。もう12年前のことである。

その資料は、もともとは古くから中之島図書館事務棟の総務課に置かれていたらしいが、郷土資料課長であった多治比郁夫氏(3)が一見して、大阪府立図書館第2代館長（在

任 1933 年 9 月－1947 年 4 月) であった長田富作(4)関連の書簡が中心であったことから「長田書簡」と称されてきた。多治比氏は近世俳諧の研究を専門とし、古写本や手紙文もよく読解されるため業務の合間に点検整理しようと郷土資料課に引き取り、保管されていた。

ところがその後、多治比氏も退職され、時を経るとともに府立図書館の組織変更や館内の改装が重なり、いつしか「長田書簡」は、倉庫として使われていた図書館別館奥の細長い小部屋に移された「館資料」(5)の関連物として物品棚に収まっていたようである。それが“百年史をまとめるのなら、この際この資料にも目を通しては”ということで当時の資料整理課職員から編集委員会に持ち込まれたように記憶しているが、今となっては定かではない。

これは代々の郷土資料課職員に伝わっていた伝説の風呂敷包みが百周年を機にその姿を現したのである。百年を経た古い図書館で起こった小さな奇跡である。

#### 1. 「長田資料」の区分法

編集委員会では、大阪府立図書館の 100 年の歴史をとりあえず時代別に刻み、それぞれの時代ごとに執筆担当者を充てることを決めていた。それで、出現した風呂敷包みの資料(以下、「長田資料」)の中身をざっと調べ、次のように大きく分けて編集委員で点検作業を分担し、100 年史編集に利用できるかどうかの検討は、それぞれの時代ごとの執筆担当者に委ねることにした。

資料整理のための区分は次のとおりであった。

- ① 先ず大きなかたまりである「書簡」資料をひとまとまりにした。これは、多量の封書群と、葉書が少々であった。「書簡」資料を [a 群] とした。
- ② 次にそれ以外の文書資料群については、ばらばらのものと、件名を表書きにした袋入りのものがあつた。そのうちばらばらのものをざっと時代別により分けていって、明治・大正・昭和 1－9 年代の文書資料を [b 群]、昭和 10－20 年代の文書資料を [c 群] とした。
- ③ さらに、もともと複数点数の資料を袋入りにして、表書きの件名をつけてあつた資料群については、袋入りの原型を尊重し、時代別に分けることなくすべて [d 群] とした。
- ④ ばらばらの資料で、年代不明のものは、この時点で[雑]としておいた。

- ⑤ [e群] : E-1～E-10 については、垣口の当時のメモにはなく、その後の整理過程で分岐したものかもしれないが、現在のところ経緯は思い出せない。[e群]には、第32回全国図書館大会（昭和13年）資料、国史展覧会資料（昭和14～15年）、全国中央図書館長会議資料（昭和11年）などが含まれる。

資料：「100年誌・資料整理について（取り決め） 2001（平成13）年2月」より

仮名称	長田資料群の区分	整理担当者	執筆担当者	資料のタイトル	点数
a	書簡（個人・団体）	垣口弥生子		A-1～116	116点
b	明治/大正/昭和1-9年	小幡由美子	(⇒垣口)	B-1～21	47点
c	昭和10～20年代	門上光夫	(⇒門上)	C-1～277	277点
d	袋入り（件名別）	仙田ひろ子		D-1～25	184点
e	[昭和11-15年]	仙田ひろ子		E-1～10	31点
雑	その他				

カード記入法：

	(仮整理番号) a-1
	標題 ○ ○ ○
	1. 著者
	2. 発行年
	3. 注記

このような取り決めで分担して点検整理に当たったのである。

各担当者は日常の図書館業務をこなしつつ、休み時間を返上するなどして、よく分担責任を果たしてくれた。ほどなく2001（平成13）年度の早い時期に、a.b.c.d.e群の簡易整理データがほぼ出そろい、編集委員会での資料紹介・報告も行われた。その中から、100年誌編集に利用できる資料も発見された。ともかくも整理当初の目的は果たされたのである。「長田資料」は、仮整理番号のまま、また閲覧事務室の棚で仮眠に入った。

その後、垣口をはじめ編集委員の多くが退職し、若手だった門上も府立中央図書館に

異動した。混乱のなかで、事務室で仮眠中の「長田資料」が廃棄されると危ぶんだ門上  
が資料保存のため引き取り、府立中央図書館の自分の机に緊急保管したのだという。何  
とも強運な資料である。

なお、上記の仮整理時の a.b.c.d.e 群がそのまま今回整理した「長田富作資料目録」の資  
料記号の A.B.C.D.E に引き継がれていて、それぞれの群のなかで整理順に B-1、B-2 と番  
号をふったものである。

また、a 群の書簡類および d 群に含まれる書簡については、今回は未整理のまま残した  
が、今後継続して整理し、差出人リスト等の検索ツールを作成する予定である。

## 2. 文書整理の方法について

こうしてその後また数年経過してしまっただが、2011（平成 23）年 2 月頃、中之島図書  
館司書部長の本多から当時の 100 年史編集責任者である垣口、門上に残された「長田資料」  
整理作業の打診があり、3 人で協力して整理することを決めた。

垣口は、郷土資料課にいた時に多治比氏から近世文書の整理法を教わった経験があるも  
のの、近代文書資料の整理についてはほとんど未経験であった。そのため、この時点で、  
知己の「日本図書館文化史研究会」の小黒浩司氏（作新学院大学）らが進めておられた「清  
水正三資料」(6)整理の方法について教示を受けることにし、連絡をとったのだが、折りし  
も東北地方を中心とする東日本大震災が起こり、小黒氏の大学研究室も震度 6 強の被害で  
書棚が倒れ図書や資料類が散乱する混乱のさなかだった。それでも数日後には「清水正三  
資料」整理のための入力フォーマット等の資料を送付していただいた。そこでこの入力フ  
ォーマットを参考に、10 年前の b.c.d.e 群の簡易整理データと、現物資料を対照しながら  
入力作業を始めることにした。a 群の書簡は、読解には時間がかかりそうなので、第二次  
の整理として後回しにすることにしたのである。

こうして b.c.d.e 群の入力作業がほぼ終わりに近づいた 2012（平成 24）年 6 月に門上が  
東京での文科省研修を受けることになり、その機に日本図書館協会の「清水正三資料」整  
理担当者である西村彩枝子氏に面会し、資料整理の進捗状況や、他の図書館での近代文書  
整理の状況等について教示を受けた。その際に紹介された同志社大学図書館の「竹林熊彦  
文庫」(7)整理の方法について、さっそく見学のため 2012 年 9 月下旬に京都の同志社大学  
図書館へ本多、垣口、門上の 3 人で訪問した。

ここで「アーカイブ（文書）資料整理」として徹底されたという文庫整理法の実際を見せていただいた結果、長田資料目録を“どう分類するか”ではたと行き詰っていた3人が、“目からうろこ”の経験をすることになった。つまり、アーカイブ資料整理に“分類は不要”なのだ。アーカイブ資料の原型こそが重要なのであった。そこでこれまでの入力フォーマットは踏襲しつつ、整理記号の付与の仕方および配列法を180度転回、というか、単純にほぼ資料番号順に並べることにしたのである。

また、同志社大学図書館の「竹林熊彦文庫」は、それは丁寧な資料保存がなされており、とても公立図書館では真似ができないが、アーカイブ資料の原型を留めつつホルダーに入れる形だけは整えたいと、最低限の用意：ポリプロピレン製ホルダー（@8円×500枚）と蓋付き書類ケース（フェローズ・バンカーズBOX3箱 1,980円）を購入し、仮保管していた間に合せの封筒から入れ替えることにした。

アーカイブ資料整理の形式および保管形態の両方を、真似<sup>まな</sup>だのである。

### 3. 長田富作について

最後になったが、「長田富作資料」を残した当のご本人、第2代館長・長田富作について、現在私たちが把握している履歴事項を紹介しておこう。

参考にした文献は、次のとおりである。

- ① 『中之島百年：大阪府立図書館のあゆみ』（前出・註2）別冊年表
- ② 原登久雄「人物紹介 長田富作」（『桃山学院年史紀要』第25号所収）(8)

\*原登久雄氏は、筆者が就職したばかりの新米司書として書庫係にいた1980年当時、中之島図書館に来館されていたので、お名前を記憶しているが、ご職業などは存知あげず、むろん第2代館長・長田富作をご存じの方とは知る由もなかった。敗戦後、図書館長を勇退後の長田富作の足取りは、②の原登久雄氏の「人物紹介」により、追った。

- ③ 田島清『回想のなかの図書館：中之島から宿院へ』(9)

\*田島清氏は、1927（昭和2）年～1937（昭和12）年の10年余を大阪府立図書館に勤務し、のち堺市立図書館長に転じた。その府立図書館員時代は、長田富作とほぼ重なっている、その間の長田富作の姿を「老書誌学者」として描写している。

①②③から長田富作関連記事を拾って、年代順に履歴を記しておく。

図書館へ就職する以前の履歴がわかるのは、②からのみである。



<府立図書館就職以前>

- ・1880年（明治13）3.3 石川県に生まれる。
- ・1901年（明治34）3月 石川県立師範学校卒業
- ・1902年（明治35）9月 広島高等師範学校入学、1906年（明治39）3月 卒業
- ・1906年（明治39）4月 岡山県関西中学校教諭
- ・1907年（明治40）12月 佐賀県立唐津中学校教諭
- ・1911年（明治44）7月 熊本県飽託郡視学
- ・1913年（大正2）4月 宮崎県立高等女学校教諭
- ・1916年（大正5）11月 大阪府視学
- ・1919年（大正8）7月 大阪府立夕陽丘高等女学校校長
- ・1920年（大正9）6月 京城女子高等普通学校校長
- ・1925年（大正14）4月 全州公立高等普通学校校長
- ・1928年（昭和3）7.27 依願退職

<府立図書館時代>

- ・1928年（昭和3）

12.24 大阪府立図書館司書 このころ、府立図書館蔵の貴重書「正平版論語」の書誌学的研究で今井館長に助言

- ・1932年（昭和7）

12.10 大阪図書館協会第8回総会で、「正平版論語に就いて」の講演。このとき、間宮不二雄の「アメリカ図書館状況」の講演もあり

- ・1933年（昭和8）

9.30 今井貫一館長の勇退、そして長田富作第2代館長の就任

10.5 新旧館長の事務引継ぎが完了 11. 今井貫一編『正平版論語集解』（附：長田富作著『正平版論語源流考』）刊（大阪、同刊行会）

- ・1934年（昭和9）

長田富作著『正平版論語之研究』刊（大阪、同人会 非売品・限定200部）

- ・1935年（昭和10）

3.26-28 恭仁山荘善本展、内藤湖南遺書100点展示、4.24-26 特許発明に関する図書文献展、

5.12-14 橋本曇齋先生関係資料展、10.18-20 尾州大須真福寺善本展、11.5-7 勤王志士佐久良東雄遺墨文献展を、それぞれ3階南側大閲覧室で開催

・1936年(昭和11)

4.30 文部省より大阪府中央図書館に指定 6.12-14 富岡文庫善本展を2階南側特別閲覧室で開催

・1937年(昭和12)

3.12 大阪府巡回文庫協議会開催 6.18-20 孝経善本展観を南3階で開催 8.この月から『時局資料百選』を刊行 8.24 近衛内閣が「国民精神総動員運動実施要項」決定 10.13 国民精神総動員週間 本館玄関ドームで長田館長が戊申詔書を奉読

・1938年(昭和13)

1.10 長田館長、高等官3等に遇せられる 9. 文部省から国民精神総動員文庫施設費350円を交付される 10.16-19 郷土先儒遺著展観 10.22 「国民精神総動員文庫計画案」を提出 11.25-27 代用品資源ニ関スル外国特許文献展を3階北館で開催

・1939年(昭和14)

5.20-26 欧米工業雑誌カタログ展開催、東京・藤山工業図書館と共催

9.27-28 国民精神総動員文庫協議会開催(郡部・市部)、終了後ただちに活動を開始

・1940年(昭和15)

1.19-21 皇紀二千六百年記念国史善本展を3階で開催 3.18 今井貫一死去 9.27-29 新兵器工業外国特許文献展

・1941年(昭和16)

1.23 図書を写真に撮影して送付するサービスを本格実施 2.8 近畿六館協議会開催 12.8-27 太平洋戦争の開始により灯火管制で17:00閉館

・1942年(昭和17)

3.27-29 敵国人所有日本特許権文献展 10.9 近畿図書館協議会総会を開催 10.12-14 南方渡海古文献展 12.2 巡回文庫協議会開催

・1943年(昭和18)

1.19 第2回巡回文庫協議会 1.26 第3回巡回文庫協議会を開催 6.9 長田館長、日向司書、大阪市電気科学館での大阪文化施設協議会に出席 7.31 3階で館員全員、宮田司書の軍談を聴く 9.12-14 川崎巨泉画伯遺墨人魚洞文庫絵本展を南館3階で開催 11.5-7 航空発明文献展 11.22 閲覧禁止並に閲覧停止図書取扱内規を制定

・1944年（昭和19）

1.6 大阪府立図書館勤労報国隊を結成 4.24 貴重書疎開のための木材の特別配給の申請

9.25 貴重図書の疎開のための用材の特別配給について、木箱用と蓋用の用材を請求

・1945年（昭和20）

3.14-18 大阪大空襲で休館（大阪市立の育英、今宮、阿波座、御蔵跡の図書館が全焼） 3.27

貴重図書疎開のための貨物自動車を輸送課から配車する件につき願 3.29 泉南郡大上村

犬鳴山へ貴重図書木箱 600 箱を運搬、以後貴重図書の疎開が始まる 3. 大阪書林倶楽部

から大坂本屋仲間記録 194 冊寄託 8.15 終戦 8.24 疎開中の図書の運搬のための貨物

自動車の配車を申請 9. 文部省が「新日本建設の教育方針」を発表

・1946年（昭和21）

3.5 米国教育使節団来日 報告書「日本に対する統一ある図書館組織」発表 3月末より、

諸方に疎開していた図書の引き上げを行い、整理の結果、ほぼ旧態に戻る 5.28 当館宛て、

第1回宣伝出版物没収の通達（大阪府教育民政部長名）が出される 11. 図書月次展

第1回近世大坂出版物半百人一選

・1947年（昭和22）

1月末より、CIE 図書館が中之島図書館 2 階特別室で無料閲覧を開始 4.30 長田館長、

依願退職

<府立図書館退職後>

・1948年（昭和23）5.1 桃山中学校教諭（漢文を講ず）

・1955年（昭和30）3月 『柏原町史』編集に携わる

・1968年（昭和43）1月 『河南町誌』のための史料収集・調査に助言

・1970年（昭和45）2.6 脳栓塞のため羽曳野市誉田の自宅にて死去（享年91歳）

以上、長田富作の履歴をたどれば、戦争の真ただち中の大阪府立図書館を担い、戦後の時代変化とともに去った館長であった。今回、ともかくも残された文書資料をリスト化し「館資料」として保存する態勢を整えたことで、戦時下の大阪府立図書館を生きぬいた一館長の姿を蘇らせることができたと思う。「長田富作資料目録 <文書の部>」が今後の研究の糧になれば嬉しい。

（なお、今回の資料整理の過程で、なかには長田氏の私的な書類も見られたので、公開

に関してご遺族の許可を得ようと諸方に問い合わせしてみたが、残念ながらご遺族の消息についての手掛かりがえられなかった。)

## 二. 「長田資料」から：内容紹介..... 門上光夫

### 1. 庶務

「長田資料」で大阪府立図書館・大阪府に関係するもののうち「庶務」に分類したものには、大阪府立図書館の予算や夏期休暇予定表、当直勤務の心得など、主に大阪府立図書館の庶務に関する文書類を収められている。この中で、興味ある二つの資料をまず紹介したい。

一つは「**図書館概論**」(C-85)と題されたもので、大阪府立図書館用箋に記されたガリ版手書きの14頁にわたる資料である。この講習会の目的は「図書館の事務に習熟し図書を愛好する精神を涵養し以て優秀なる出納手を養成し将来の修養に資する」(同資料にある「大阪府立図書館出納手講習規程案」1938(昭和13)年5月2日より)とあり、講習後、優秀な者は助手に進級できるとある。

また、おそらく長田の手によるメモの部分には、当時の図書館観が記されているが、これは文言を見る限り、現在の図書館に対する見方とそう変わりがないようにも思える。

まず、図書館の目的については、図書記録類を収集・保存して公衆の閲覧に供し、その教養及学術研究に資すること、と改正図書館令第一条の条文を記しているが、「閲覧」の部分に「今ハ公衆閲覧ナクバ図書館トワ云ワズ」と但し書きしている。

そして、図書とは、一定の形式を以て思想(=精神)を表現したもので、「全精神ヲ傾注セルモノヲ大著大作ト云」い、これによって「其ノ人ノ人格ヲ知ルコト」と書き、代表的なものとして『大日本史』と本居宣長の『古事記伝』を挙げている。

図書館における訓練は、創造的・実践的なもので、学校においては教師によって、宗教においては神仏によって、そして図書館は図書によって「思想ニ接シタルヲ目的トス」と説いている。

次に「**戦時下国民生活ニ実効ヲ与ヘシ図書館活動ノ実際**」(E-3)と題された資料を紹介したい。作成されたのは推定だが1941(昭和16年)3月。ガリ版の6頁の綴りで最初の4頁が同一物となっていて、一部が欠損している。

この資料は1937(昭和12)年の日中戦争開戦後の大阪府立図書館の活動とその評価を

記したものである。例えば、『時局資料百選』については、日中戦争の勃発という時局に対応して「正シキ認識ヲ深メシメンコトヲ冀」う目的として刊行されたもので、「一般読者ノ関心ヲ喚起スルコト多大ナリキ」と評価している(10)。

青年層の読書普及のために1939(昭和14)年に「樹立」された国民精神総動員文庫については、評価としてこの文庫を利用した「青年読後の所感」を載せている。

例えば、井上孚磨の『御製を拝して』(11)を読んだ製粉業の人物は「今回文庫から『御製を拝して』といふ本を借りて拝読しました。今更ながら明治天皇の御徳の高い、御仁愛の厚い事をしみじみ感じました。身の為め世の為に大きく正しく進み行く道を御さとし下さったこの御製を日々拝誦したいと思ひます」と語る。

小原正忠という軍人の書いた『入営読本』(12)を読んだ農業青年は次のような所感を寄せている。

「入営迄には、あれもこれもと心掛けて、出発迄に何の心残りもない様に努力しても、結局萬歳の声に送られて出てしまはない中は、何となく心が落ちつかず不安があるものだ。とは聞かされてゐた。然しこの本を読んでからといふものは営内生活、軍人心得、入営心得、入営用意等細大もらさず知る事が出来て心が落ち着き、平然として出発の日を指折り待つ事が出来る様になった」。

この他、写真閲覧の利用の増加や「欧米工業雑誌ニ関シ近府県主要研究調査室等ヲ連合シテ合同目録ヲ作り大ニ之ガ利用方ノ拡充ヲ期セント目下企画中」であること、大阪市立清水谷図書館と協力して傷痍軍人文庫を開始したことが記されている(13)。

その他、「一挿話ニ過ギザルモ図書閲覧ノ好話ノ一例トシテ」、「戦地ニ出征中ノ将士ヨリ図書閲覧方等ノ希望アリ及チ之ニ応ジテ戦地ニ貸出」したことが報告されている。

1938(昭和13)年に中国大陸に出征中の某陸軍中尉に『日本及日本人の起源』という本が貸し出され、1940(昭和15)年、本人帰国により返却された事例や、1941(昭和16)年に同じく中国大陸に出征中の某陸軍雇員に『モルモットの飼方』という本を貸出し、読後に飛行便で同年3月に返却された事例が載せられている。

このように「庶務」には、戦時下における図書館の日常や館の考え方を知る資料も含まれている。

## 2. 貸出文庫・読書会

昭和初期の恐慌等によって日本社会は「不安定化」するが、その中で社会教育の強化が

目指され、図書館はその流れに乗って、自らの基盤強化を目指し、貸出文庫や読書会（読書指導）が重視される。大阪府立図書館においても巡回文庫の拡充や傷痍軍人文庫の設置などが実施されている。

「長田資料」には貸出文庫や読書会に関する資料があり、中でも「国民精神総動員文庫」に関する資料が比較的まとまっている。

「部長」名で出された手書き 11 枚の「**国民精神総動員文庫計画案**」(C-92) は、大阪府立図書館における国民精神総動員文庫に関する最初の計画案で、おそらく 1938 (昭和 13) 年の作成と思われる。

そこには、

- ①文部省指定図書全部で組織すること。
- ②大阪府立図書館は中央図書館として郡部を担当し、大阪市内は大阪市立清水谷図書館が担当。堺市・岸和田市は各市立図書館が、豊中市・布施市は各市役所が担当すること。
- ③運用・閲覧状況については、毎月府立図書館に閲覧状況を報告すること。
- ④文庫普及のために『中央図書館報』を発行すること (14)。

などが記されている。

この計画は翌年には「**国民精神総動員文庫実施要領**」(C-35) として結実している。

「国民精神総動員文庫施設設定ノ事情」では、「本文庫ハ曩ニ文部次官通牒ヲ以テ「現下国民精神総動員ノ深化徹底ヲ必要トスルトキ読書ヲ通シテ国民的自覚ト時局認識トヲ徹底セシムルコトハ時代ニ即応セル図書館ノ重大任務ナル」」であるとし、「本府中央図書館ニ対シ巡回用図書購入費ヲ交付セラレタル趣旨ニ基キ府民ノ中堅層タル興亜青年ノ為メニ特ニ設ケラレタル国民的読書ノ新施設ナリ」と国民精神総動員文庫の目的と趣旨が語られる。

そしてその対象が「総動員文庫ハ専ラ府民ノ中堅層タル男女青年」であり、「其ノ国民的自覚ト時局認識トヲ徹底セシメ国民タルノ資質向上ニ資スル」ことが使命であるとする。

交付先は青年学校で、国民精神総動員文庫を構成する図書は「文部省ヨリ指定セラレタル図書ヲ標準」とするが、「該図書ハ専ラ指導者級ノ読物ノミナレバ別ニ青年ノ一般読物ヲ相当数加フルノ要アリ」と配慮された。

実施に先駆けた、1939 (昭和 14) 年 9 月 27 日と 28 日に開催された協議会の資料となる「**国民精神総動員文庫協議会出席者名簿**」(C-36-2) には、参加した青年学校から「大衆勤労青年向ニナル様モ少シ図書内容ノ程度ヲ低下ノモノヲ望ム」、「英雄ノ伝記ナド多ク

セラレタシ」などの要望が寄せられていたことがわかる。

実際、文部省から交付された文庫施設費 350 円と大阪府が追加した 2235 円で文部省選定図書を加え、大阪府立図書館が選んだ 1600 冊で国民精神総動員文庫を設立している。

協議会后すぐにこの文庫は開始された。その後の実績については当該期の『大阪府立図書館年報』で追うことは可能である。しかしその成果については、先に紹介した「戦時下国民生活ニ実効ヲ与ヘシ図書館活動ノ実際」に記された「読後所感」程度しかわかっていない。

読書会については、「D-13」に「読書会」と記された一括資料がある。内容は以下のとおりである。

D-13	1	〔草稿〕大阪府主催巡回文庫協議会記録			手書き	
D-13	2	『読書録』	大阪府立図書館		印刷	17 頁
D-13	3-1	大阪府立図書館読書会協議会日程	大阪府立図書館	昭和 18 年 5 月 8 日	印刷	1 枚
D-13	3-2	〔山田村読書会概要〕	〔山田村設置会〕	〔昭和 18 年 5 月〕	印刷	1 枚

「〔山田村読書会概要〕」には、この読書会の設立経過・活動状況についての記述がある。

資料によれば、1940（昭和 15 年）度から巡回文庫の配本を受けていた山田村青年学校が、1942（昭和 17）年 12 月 2 日、翌年 1 月 19 日、26 日の三回開催された巡回文庫協議会の参加を経て、1943（昭和 18）年 2 月 22 日に読書会の発会式を開催したことが記されている。前記 3 回の巡回文庫協議会については、「〔草稿〕大阪府主催巡回文庫協議会記録」「大阪府立図書館読書会協議会日程」に記録されている。

山田村読書会はその結成目的を「読書ヲ通ジテ智能ヲ研鑽シ品性ヲ修練シ、日本文化ヲ理解シテ日本精神ノ高揚ヲ図リ、更ニ時局ヲ認識シテ皇国民トシテノ資質ヲ向上セシムル為、大阪府立図書館ノ指導ヲ受ケテ之ガ実践ニ進マントス」としており、これまでの 4 回にわたる読書会の概要を記している。

国民精神総動員文庫や読書会といった広く読書指導に関する研究は、中田邦造の明確な理論もあり数多くの論考がある。しかし、一次史料を使った読書会など実際の論考は、史料的な制約もあり、あまり進んでいるとは思えない (15)。「長田資料」は大阪における事例に光を当てるものと期待はしている。

なお、大阪府立図書館の中央図書館制度における読書会等での指導的役割に関する一次

史料は、「長田資料」においても見当たらない。大阪府立中之島図書館の「館資料」として保存されている『図書館日誌』という、府立図書館の成立時から 1943（昭和 18）年 9 月 30 日まで書き綴られた日誌には、府立図書館の司書が府内の巡回文庫の視察を行っている状況については記載しているの、指導をおこなっていた形跡はある。今後は、府内各地の文書等を調査していく必要があるだろう。地元の文書の発掘も行い、大阪府立図書館の読書指導の指導的役割を明らかにしていきたい。

### 3. 大阪文化施設協会

大阪文化施設協会は大阪市内外の図書館や博物館、動植物園、科学研究所等 26 の施設が参加した協会で、「大阪及ソノ近郊ニ於ケル文化施設相互ノ連絡ヲ図リ、相協力シテ新文化ノ建設トソノ普及向上ヲ促シ国策ニ挺身スル」ことを目的に設立された。1943（昭和 18）年 3 月 29 日に大阪市中央公会堂において発会式と記念講演会が催されている（16）。

この協会については、『大阪市史』や『大阪府教育百年史』にも記述がなく、詳細は不明であるが、長田資料には次の 10 点が残されている。

D-9	1	町会文庫 その行き方と経営法	大阪市役所	昭和 17 年 8 月 15 日	印刷	68 頁
D-9	2	〔草稿〕大阪市立図書館ノ町会文庫ニ関スル調査	〔大阪府立図書館〕		手書き	1 枚
D-9	3	大阪文化施設協会会則案			ガリ版	2 枚
D-9	4	大阪文化施設協会会則案			印刷	1 枚
D-9	5	大阪文化施設協会発会式出席			ガリ版	2 枚
D-9	6-1	大阪文化施設協会発会式次第	〔大阪文化施設協会〕	昭和 18 年 3 月 29 日	ガリ版	1 枚
D-9	6-2	文化指導機関協議会開催経過	〔大阪文化施設協会〕	〔昭和 18 年〕	ガリ版	1 枚
D-9	6-3	大阪文化施設協会結成記念文化講演会のおしらせ	〔大阪文化施設協会〕	〔昭和 18 年〕 3 月 29 日	印刷	1 頁
D-9	7	大阪	大阪市観光課	〔昭和 15 年〕	印刷	30 頁
D-9	8	図書館経営〔メモ〕	〔長田富作〕			1 枚

「大阪文化施設協会結成記念文化講演会のおしらせ」（D-9-6-3）には、同協会の設立の趣旨が次のように簡潔に述べられている。



戦争遂行上、生産現場に青年を送るために教育年限を短縮せざるを得ないが、そのために「必要なる基礎知識の低下を招来しては一大事である」。よって、学校教育の欠を補うために図書館、博物館、科学研究所等の既設文化施設を整備・拡充する必要がある。

会長は大阪市長で、四部会制が執られた。会員団体は以下のとおりである (17)。

#### 第一部 図書館、市民館、教養施設

大阪府立図書館・懐徳堂・宝塚文芸図書館・大阪市立北市民館・大阪市立清水谷図書館・大阪市立聖徳館

#### 第二部 博物館、美術館、国防館

富民協会農業博物館・大阪国防館・大阪市立美術館・大阪市立電気科学館・大阪城天守閣・大阪市立戦時生活館

#### 第三部 動植物園、水族館、昆虫館

堺市立水族館・宝塚動物園・宝塚昆虫館・六甲高山植物園・大阪市立動物園・大阪市立植物園

#### 第四部 科学研究所、産業指導所

産業科学研究所・厚生省大阪衛生試験所・商工省大阪工業試験所・商工省工芸指導所関西支所・大阪府立産業能率研究所・大阪府立工業奨励館・大阪市立生活科学研究所・大阪市立工業研究所

大阪文化施設協会については、『図書館日誌』を見ると、発会式以後も活動していたことが確認できる (18)。

発会式での「会長就任挨拶」において、大阪市長坂間棟治は「大阪市内外の諸施設が其の官立たると公私立たるとを問はず、又規模の大小に拘らず打つて一丸となり、全国に率先して本協会を結成し、相共に相携へ文化報国の途に邁進致しますことは誠に欣快に堪へないところであります」と述べており (19)、大阪において、位相こそ違え、MLA 連携の先駆けのような組織が生まれたことは大変興味深い (20)。

## 4. 中央図書館長協会

中央図書館長協会については、これまでまとまった論考は皆無とあってよく、日本図書館協会編『近代日本図書館の歩み』本編 (1993.3) でも 54 頁の下段のみの記述にとどまっている。これによると、成立は 1931 (昭和 6) 年 10 月で、日本図書館協会とは直接関係はなく、当時の理事長の松本喜一が「音頭をとって組織した」「理事長の行動を側面で支

えた団体である」とされる。

また、竹林熊彦の日本図書館協会で設立した部会制を裏切っているという批判を載せ、中央図書館長協会の規約と機関紙『中央図書館長会報』について紹介しているに過ぎない。

中央図書館長協会に関する資料を用いた研究でも(21)、『中央図書館長会報』や『道府県中央図書館貸出文庫ニ関スル調査概要』しか用いられていない。

「長田資料」には資料点数こそそれほど多くはないが、中央図書館長協会に関する文書が含まれており、1935(昭和10)年度の総会および第三回協議会、1936(昭和11年度)の総会、1937(昭和12)年度の総会および協議会、1938(昭和13)年度の総会、1940(昭和15)年度の総会に関する資料が収められている。

そこには、中央図書館長協会のメンバーの写真、名簿や予算のほか、1935(昭和10)年度の総会と協議会、および翌年度の総会の記録であるガリ版刷りの「中央図書館長協会会報」(C-138-4、C-130-4)もあり、『図書館雑誌』に掲載された記事よりも若干ではあるが詳しい記録が残されている。

中央図書館長協会の動向については、当該期の『図書館雑誌』の「図書館時事」でもある程度追うことは可能ではあるが、その内実についてはまだ解明していく余地は充分にあると思うので、「長田資料」が今後の研究の一助となる資料になるのではないかと考えている。

おわりに

「長田富作資料」にはこの他、大阪府立図書館が開館以来積極的に開催してきた展示会に関するもの、大阪図書館協会や近畿図書館協議会(倶楽部)に関するもの、また長田が理事を務めていた日本図書館協会に関するものが残されている。

最後に、これらの資料を公開する意義もしくは、公開の目指すところについて述べておきたいと思う。

1つは、戦時期の図書館活動の一端が、「長田資料」により明らかになることである。読書会や大阪文化施設協会といった大阪府立図書館の戦時期の日常はもちろん、長田が理事を務めていた日本図書館協会や中央図書館長協会に関する文書も存するので、その研究が深まってほしいと考えている。

また、奥泉和久は「図書館史研究をどう進めるか」で、「図書館史研究は、公刊された資料だけに頼っていた時期から、一次資料の使用、もしくはこれまでに明らかにされてい

い史料を探求する時期へと移ってきた」と述べている(22)が、この資料の公開を機に全国で、図書館活動に関する一次史料の発掘がすすむことを期待したい。

末尾になりましたが、今回の整理作業でお世話になった方々、日本図書館文化史研究会の小黒浩司さん、日本図書館協会の西村彩枝子さん、稲葉雅子さん、同志社大学附属図書館の柳澤恵美子さん、原健治さん、中島晴子さん、そして研究会で門上に助言をくださった関西文脈の会第17回勉強会に出席された皆さんにお礼を申し上げます。

#### [註]

- (1) 元・大阪府立中之島図書館(在職 1980 - 2006)。『中之島百年：大阪府立図書館のあゆみ』編集委員。現在、桃山学院大学、佛教大学等で非常勤講師(「図書館史」)。
- (2) 『中之島百年：大阪府立図書館のあゆみ』(大阪府立中之島図書館百周年記念事業実行委員会 2004.2)。
- (3) 多治比郁夫(1932 - , 在職 1960 - 1990) 郷土資料課長として長く郷土資料および古典籍資料の収集・保存に当たられた。主要著作：『京阪文藝史料 第1-5巻』(青裳堂書店, 2004 - 2007)、『新日本古典文学大系 97：当代江戸百化物・在津紀事・仮名世説』(岩波書店, 2000)、『近世活字版目録』(共編 青裳堂書店, 1990)。
- (4) 長田富作(1880 - 1970, 在職 1928 - 1947) 大阪府立図書館第2代館長。
- (5) 「館資料」とは、大阪府立中之島図書館の館業務に関わる資料を「館資料番号」を与えて整理・保管しているもので、館内生産物、展示図録、写真、業務日報などが含まれる。早く1970年代から収集が始められており、それを故・仲田憲弘氏が整理課長時代にきちんとリスト化し始めたものらしい。整然と年代順に並んでいるわけではないが、創立当初の資料も遡って収集整理されており、貴重な資料群である。なお、本多が今回調べたところ、「館資料」は当初、貴重書庫内に保管されていたが、その後は保管点数が増え続けたため1992(平成4)年に一般書庫に移され、その後、1995(平成7)年に書庫別館2階奥へ、2004(平成16)年に住友資料庫へと、保管場所が移された記録が残っている。
- (6) 「清水正三資料」は、『中小都市における公共図書館の運営』の報告など図書館運動で著名な故・清水正三氏(1918-99)が残された資料群が、2000(平成12)年に日本図書館協会に寄贈され、以後、奥泉和久氏、小黒浩司氏、西村彩枝子氏などが有志ボランティアとして分担整理を行っておられる。日本図書館文化史研究会「ニューズレター」No.115(2011.2)所収の「清水正三資料」中間報告会」記事に整理状況の報告があり、筆者はこれを見て小黒氏にお願いし、報告会での配布資料を送って

ただいた。特に長田資料の整理方法については、西村氏の報告「清水資料の整理・保存について」を参考にし、入力フォーマット形式はほぼそれを踏襲させていただいた。

- (7) 「竹林熊彦文庫」は、『近世日本文庫史』などの著述がある竹林熊彦(1888～1960)の旧蔵資料。1961年、ご遺族から同志社大学に寄贈された。そのうちアーカイブ資料約3,000点が未整理で残されていたのを、整理作業を業者に依頼して2003年から2カ年のプロジェクト事業として実施されたもの。詳しくは、井上真琴・小川千代子「アーカイブ資料整理へのひとつの試み」(『大学図書館研究』77(2006.8)所収)参照。
- (8) 原登久雄「人物紹介 長田富作」(『桃山学院年史紀要』第25号(桃山学院, 2006.3) p.12-19)。
- (9) 田島清『回想のなかの図書館：中之島から宿院へ』(広文堂, 1975.8)。
- (10) 『時局資料百選』については、前掲『中之島百年』150-151頁を参照のこと。
- (11) 時局国民精神読本第6輯『御製を拝して』(国民精神文化研究所 1937)と思われる。
- (12) 小原正忠『入営読本』(日本兵書出版 1940)と思われる。
- (13) 傷痍軍人文庫については、前掲書、147-148頁を参照のこと。
- (14) この『中央図書館報』が発行された形跡は今のところ見つかっていない。
- (15) 一次史料を使った読書会の実際については、山梨あや「戦時下における読書指導の理念と実践 読書会における指導を中心に」(『日本社会教育学会紀要』第43号(2007)がある。
- (16) 以上については、大阪市民局文化課『大阪文化施設協会発会式並ニ記念講演会記録』(1943)。
- (17) 長田資料にある「大阪文化施設協会会則案」(D-9-4)と前掲の『大阪文化施設協会発会式並ニ記念講演会記録』とで、会員団体に異動が見られる。ここに紹介した26の施設は『大阪文化施設協会発会式並ニ記念講演会記録』による。
- (18) 同年6月9日に大阪市立電気科学館において協議会。同16日には大阪府立図書館において第一部会。7月20日に大阪市立戦時生活館で理事会。同29日に常務理事会。8月4日に大阪府立図書館において第一部会がそれぞれ開催されている。
- (19) 前掲『大阪文化施設協会発会式並ニ記念講演会記録』8-9頁。
- (20) MLA連携の先駆けについては、関西文脈の会第17回勉強会(2012年12月16日)でのご教示による。
- (21) 柿沼隆志「戦時体制化の読書指導 公共図書館の教育機能についてのノート」(『図書館雑誌』第68号第3号(1974.3)。奥泉和久「戦時下における『読書指導』の展開」(『図書館界』第46巻第1号(1994.5)。高梨章「図書館と大衆 そのリテラシー問題(昭和戦前・戦時期)」(『図書館界』第62巻第3号(2010.9)。
- (22) 奥泉和久「図書館史研究をどう進めるか」(『現代の図書館』第48巻第2号(2010.6) 106頁。

## 長田富作資料目録〈文書の部〉（凡例）

“分類は不要”とはいっても、配列の意味は必要（＝欲しい）なので、長田富作資料リストには、次のような配列の順序がある。これは、はじめの資料区分記号 **a,b,c,d,e** が、ざっと時代別に分けたという本当に“仮の”付与であったので、やはりある程度は資料内容でひとくくりにしたいという、“司書根性”を引きずっているためとご了解いただきたい。

- (1) まず文書資料全体を、資料の制作者別に、1. 大阪府立図書館（大阪府関係）、2. 大阪・近畿地方図書館関係、3. 日本図書館協会関係、4. 中央図書館長協会関係、5. その他、の5類に分けた。
- (2) 各類のなかは必要に応じて小見出しを立てたところもある。1類は、大阪府立図書館の業務別に、1.1 庶務、1.2 展示会、1.3 貸出文庫・読書会、とした。小見出しの中の配列は、資料番号順（**B,C,D,E**の番号順）である。
- (3) 2類は、大阪・近畿地区の図書館関係団体別に、2.1 大阪図書館協会関係、2.2 近畿図書館協議会関係、2.3 大阪文化施設協会関係、とした。ここでも小見出しの中の配列は、資料番号順（**B,C,D,E**の番号順）である。
- (4) 3類の日本図書館協会関係は、文書点数が163点を数えるので、年次別または全国図書館大会の回次別に小見出しを立てることも検討したのだが、そうすると原資料のまとまりが複数の大会にまたがっている場合などジレンマに陥るので、あきらめて3類についてはそのまま資料番号順（**B,C,D,E**の番号順）に配列してある。
- (5) 4類の中央図書館長協会関係には、中央図書館長協会の構成員であった長田館長から発した協会運営関係文書もここに含めた。
- (6) 5類のその他には、文部省発の文書など文書点数の少ないもの、および制作者不明のものが含まれる。
- (7) 各資料群（**B,C,D,E**）における配列の際の基本原則は年代順であるが、ひとまとまりになっているものについては、その原型を優先した。したがって、厳密には年代順に並ばないところがある。
- (8) 書簡については〈書簡の部〉を別整理の予定であるが、**B,C,D,E**群の中で袋入りのまとまった資料群に入っている書簡については、そのまま今回の〈文書の部〉に含めてある。

長田富作資料目録 <文書の部>

計 480 点

- 1 大阪府立図書館・大阪府関係
  - 1.1 庶務 108 点
  - 1.2 展示会 31 点
  - 1.3 貸出文庫・読書会 33 点
- 2 大阪・近畿地方図書館関係
  - 2.1 大阪図書館協会関係 6 点
  - 2.2 近畿図書館協議会関係 52 点
  - 2.3 大阪文化施設協会関係 10 点
- 3 日本図書館協会関係 163 点
- 4 中央図書館長協会関係 54 点
- 5 その他 23 点

\*なお、b.c.d.e 群の各資料点数については、前述の 2001（平成 4）年当時の整理分担表の中に記しておいた。

## 長田富作資料目録

### 1 大阪府立図書館・大阪府関係

#### 1.1 庶務

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
B-3		府立図書館費増減調	[大阪府立図書館]		ガリ版	2 枚	9年度予算 と 10 年度予算。「○中央図書館指定二伴フ増 ◎特許部充実二伴フ増」
B-4		大阪朝日新聞主催全国中等学校野球大会 中ニ於ケル閲覧人員ノ概況	[大阪府立図書館]	[昭和 9 年]	手書き	1 枚	大阪府立図書館用箋。昭和 4 年から昭和 9 年の標題の調査表
B-6		昭和九年夏期休暇予定表／出納係夏期休 暇予定表	[大阪府立図書館]	昭和 9 年 7 月 8 月	手書き	各 1 枚	
B-8		大阪府立図書館職員□□(ママ)会規約案	[大阪府立図書館]	[昭和 4 年]	ガリ版	3 枚	同一 3 部あり。表紙：大阪府立図書館用箋に「慶弔規約」と墨書。ホッチキス留め。「原本」と書かれたそのうちの 1 部に書き込みあり
B-10		図書閲覧願 図書頭渡部信宛／閲覧に対す る礼状 鈴木事務官・橘井清五郎・宮良當壯 宛	大阪府立図書館司書 長 田富作(発)	昭和 7 年 10 月 13 日付	手書き	1 枚	2 通分の下書き。嘉暦古鈔本論語集解 10 帖、元亨釋書 31 帖(貞治 3 年刊)に対するもの
B-12		新聞閲覧状況	[大阪府立図書館]	[昭和 9 年]	手書き	25 枚	昭和 9 年 4～9 月の新聞紙名別・発行月別閲覧者数。毎月各 4 枚。昭和 9 年 4～9 月の閲覧総員、新聞雑誌閲覧者数と百分比を記載した集計が 1 枚
C-15		大阪府立図書館当直勤務心得	[大阪府立図書館]	[昭和 18 年]	ガリ版	1 枚	
C-16		大阪府立図書館宿直勤務心得	[大阪府立図書館]	[昭和 18 年]	ガリ版	1 枚	朱あり。C-15 の(案)
C-17		大阪府立図書館宿直規程	[大阪府立図書館]			1 枚	朱あり。C-18 の(案)
C-18		大阪府立図書館当直規程	[大阪府立図書館]	昭和 18 年 3 月 1 日	ガリ版	1 枚	
C-21		共済組合加入後ノ療養費手当金支給状況 昭和十六年二月至十月	[大阪府立図書館]	[昭和 16 年]	ガリ版	1 枚	
C-22		昭和十七年五月以降書籍購入予算		[昭和 17 年]	手書き	1 枚	大阪府立図書館用箋。坂田の印あり
C-23		傭人勤務規程	[大阪府立図書館]		手書き	12 枚	大阪府立図書館用箋。「傭人勤務時間及公休制」、「傭人勤務心得」、「巡視屋勤務表」、「巡視夜勤務表」、「小使勤務表」を含む(大きさは全て 26×35)

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
C-24		大阪府立図書館要覧 昭和二十七年四月	大阪府立図書館	昭和27年7月15日	印刷	50頁	帯あり
C-38		[メモ]			手書き	[22頁]	時局における中央図書館のあり方に関する文章の下書きと思われる。「図書館ハ社会教育ノ根幹ニシテ」から始まる。こより綴じ
C-40		閲覧者一日平均比較表	[大阪府立図書館]	[昭和17年]	手書き	1枚	大阪府立図書館用箋。昭和14・15・16年度の調べ
C-41		帯出閲覧調	[大阪府立図書館]	[昭和17年]	手書き	1枚	大阪府立図書館用箋。昭和14・15・16年度の調べ
C-42		写真閲覧調	[大阪府立図書館]	[昭和17年5月]	手書き	1枚	大阪府立図書館用箋。昭和14・15・16年度分を記載
C-43		[市町村立図書館二関スル調査〔昭和17年〕]					
C-43	1	市町村立図書館二関スル調査要項	[大阪府立図書館]	[昭和17年]	印刷	1枚	C-90-1に同じ
C-43	2	市町村立図書館二関スル調査	大阪府立図書館	[昭和17年]	印刷	1枚	C-90-2に同じ。ただし、朱あり。
C-63		昭和十三年度歳出予算表	大阪府立図書館	[昭和13年]		1枚	昭和十二年度歳出予算表に鉛筆で修正
C-73		大阪府立図書館規則および大阪府立図書館館外帯出規則	[大阪府立図書館]		印刷	1枚	両面使用
C-76		[中央図書館の運営及び「ユニオンカタログ」の件]			手書き	[11頁]	大阪府立図書館用箋。中央図書館と組合図書館の「コーペレーション」について1936年のイギリスの中央図書館のユニオンカタログ事例に触れる
C-77		注意			手書き	1枚	大阪府立図書館用箋。閲覧に注意すべき左派系の人物・政党名の一覧
C-78		推奨良書（十二期生）			ガリ版	1.5枚	「生野」と右肩に書き入れあり。「日本古典、現代文学、歌集、修養、その他」が1枚。「英文学（原書紹介）」が半枚
C-79		昭和十三年度図書購入費24,200円ノ各係割当予算表	[大阪府立図書館]	[昭和13年]6月18日	手書き	1枚	大阪府立図書館用箋。11・12年度の記載あり
C-80		昭和十三年度歳出予算表	大阪府立図書館	[昭和13年]	印刷	1枚	諸庸人の内訳数あり
C-84		図書館の心得の条々	[大阪府立図書館]	昭和13年8月8日	手書き	[4頁]	大阪府立図書館用箋。こより綴



C-85		図書館概論	[大阪府立図書館]	[昭和13年5月7日]	ガリ版/ 手書き	[14頁]	大阪府立図書館用箋。大阪府立図書館出納手講習用
C-86		外国特許研究会取扱写真複写受註先概様	外国特許研究会	[昭和16年]	手書き	6枚	「一ヶ年三十枚以上受註先」。109社あり
C-87		[外国特許研究会予算]					
C-87	1	昭和十五年ヨリ十六年十月ニ至ル出来高比較	[外国特許研究会]	[昭和17年]	手書き	1枚	外国特許研究会用箋
C-87	2	自昭和十七年十月一日至昭和十八年三月末日下半期収支予算	[外国特許研究会]	[昭和17年]	手書き	1枚	外国特許研究会用箋
C-87	3	自昭和十七年四月一日至昭和十七年九月末日上半期予算表	[外国特許研究会]	[昭和17年]	手書き	1枚	外国特許研究会用箋
C-87	4	自昭和十七年一月一日至昭和十七年三月末日収支予算表	[外国特許研究会]	[昭和17年]	手書き	1枚	外国特許研究会用箋
C-88		大阪府立図書館写真閲覧施設概要	[大阪府立図書館]	[昭和16年]	手書き	3枚	大阪府立図書館用箋
C-89		外国特許研究会会員延数 昭和十七年五月十三日調	[大阪府立図書館]	昭和17年5月13日	印刷	2枚	
C-90		[市町村立図書館ニ関スル調査〔昭和17年〕]					
C-90	1	市町村立図書館ニ関スル調査要項	[大阪府立図書館]	[昭和17年]	印刷	1枚	同一物6部
C-90	2	市町村立図書館ニ関スル調査	大阪府立図書館	[昭和17年]	印刷	1枚	同一物5部。C-90-1「要項」による本表。調査年は昭和16年度
C-111		社団法人発明文献研究会資産管理規程	[大阪府立図書館]		手書き	2枚	大阪府立図書館用箋
C-112		社団法人発明文献研究会事務規程	[大阪府立図書館]		手書き	10枚	大阪府立図書館用箋
C-114		昭和十八年十一月分行事予定表	[大阪府立図書館]	[昭和18年11月]	ガリ版	1枚	
C-115		昭和十八年十二月行事予定表	[大阪府立図書館]	[昭和18年12月]	ガリ版	1枚	
C-121		道府県人口一人当歳出等調	大阪府立図書館		印刷	1枚	同一物9部あり

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
C-122		本省ニ対スル希望意見	大阪府立図書館		印刷	1 枚	同一物 24 部。「高度国防国家ノ新体制ニ即シ富国強兵ノ大策ニ応スルヤウ速ニ図書館令並ニ関係法規ヲ改定セラレンコトヲ望ム」とある
C-127		写真	[大阪府立図書館]		写真	1 枚	壁に「外国特許総覧」のパネルあり。特許文献展関連のものと思われる
D-1		宮田氏意見	宮田〔孝二〕		手書き	8 枚	大阪府立図書館用箋。メモあり。・ 閲覧者の利便（入口混雑の防止、座席の増加、読書相談係の特設ほか） ・ 館内の清潔 ・ 収入の増加 ・ 経費の節約（四、石炭代用にコークスの使用研究 六、…製本助手に子供の使用） ・ 火災盗難の予防 ・ 事務能率の増進 ・ 靴穿き入館の可否（下駄穿き者は入館者の内三割五分一四割、靴穿きの不入館せしむる場合、利：閲覧者の便利なることほか 害：館の不潔甚し、騒音甚しほか）封筒に題
D-2		〔図書館週間関係書類〕					
D-2	1	文部省 日本図書館協会 大阪府立図書館 推薦良書百選 自昭和八年四月至昭和九年十月	[文部省 日本図書館協会 大阪府立図書館]	[昭和 9 年]	印刷	4 枚	ガリ版刷り 1 部、選定作業用リスト 10+ 4 枚（手書きあり）
D-2	2	大阪府立図書館巡回文庫良書百選自昭和八年四月至昭和九年十月	大阪府立図書館 吹田町立図書館	[昭和 9 年]	印刷	1 枚	
D-2	3	〔下書き 図書館週間良書百種紹介の件〕	長田富作	昭和 9 年 11 月 8 日	手書き	1 枚	大阪府立図書館用箋。日本図書館協会理事長 松本喜一〔宛〕
D-2	4	〔下書き 図書館週間良書百種紹介の件〕	長田富作	昭和 9 年 11 月 8 日	手書き	1 枚	前項の書肆、百貨店〔宛〕お礼状
D-2	5	社団法人日本図書館協会推薦図書自昭和九年十一月至昭和十年十月推薦	[日本図書館協会]		ガリ版	10 頁	
D-2	6	図書館週間統計	[大阪府立図書館]	[昭和 9 年] 11 月 6 日・7 日	手書き	1 枚	大阪府立図書館用箋
D-2	7	日本図書館協会推薦図書百種	[日本図書館協会]	[昭和 10 年 11 月]	印刷	1 枚	昭和十年自十一月一日至十一月七日。同一物 4 部
D-2	8	〔書簡〕長田富作宛	日本図書館協会理事長 松本喜一〔発〕	昭和 10 年 9 月 27 日	印刷	1 枚	図書館週間 PR ポスター注文書と図書館予算あり
D-2	9	〔下書き書簡〕松本喜一宛	長田富作〔発〕	昭和 10 年 9 月 28 日	手書き	1 枚	D2-8 の返信

D-2	10	〔書簡〕長田富作宛	林繁三〔発〕	昭和10年10月19日	手書き	1枚	日本図書館協会用箋
D-2	11	〔昭和九年度～昭和十一年度分野別選択数および担当者リスト〕	〔大阪府立図書館〕	〔昭和11年〕	手書き	4枚	大阪府立図書館用箋
D-2	12	〔月間『読書』の無料頒布について〕	大阪府立図書館		ガリ版	1枚	同一物26部
D-3		年報印刷目録関係〔昭和3年-10年〕					
D-3	1	〔和漢洋増加図書分類別統計昭和三年-昭和十年度〕	〔大阪府立図書館〕		手書き	18枚	大阪府立図書館用箋
D-3	2	〔昭和八年度洋書購入分類別統計〕	〔大阪府立図書館〕		手書き	7枚	大阪府立図書館用箋
D-3	3	〔休館日一覧〕	〔大阪府立図書館〕		手書き	1枚	大阪府立図書館用箋
D-3	4	〔昭和五～九年度毎の初校と最終校了月日一覧〕	〔大阪府立図書館〕		手書き	1枚	大阪府立図書館用箋
D-3	5	〔寄贈団体五十音順リスト〕	〔大阪府立図書館〕		印刷	22頁	大阪府立図書館用箋
D-3	6	〔寄贈団体追加リスト〕	〔大阪府立図書館〕		手書き	1枚	大阪府立図書館用箋
D-5		ペトロリウム					
D-5	1	〔帯出申込記録メモ〕	〔大阪府立図書館〕		手書き	1枚	大阪府立図書館用箋。第1回昭和16年12月22日申込昭和17年2月21日まで。第2回昭和17年2月24日申込昭和17年8月23日まで。第3回昭和17年8月23日申込昭和18年2月23日まで。帯出者 早川不止雄
D-5	2	〔返却メモ〕	〔大阪府立図書館〕	昭和18年2月15日	手書き	1枚	The Science of Petroleum 1-4
D-5	3	〔工業図書出版社 書籍リスト〕	〔大阪府立図書館〕		手書き	2枚	大阪府立図書館用箋
D-5	4	〔工業図書出版社 書籍リスト〕	〔大阪府立図書館〕		手書き	3枚	大阪府立図書館用箋
D-5	5	Catalogue	〔工業図書出版社〕		印刷	1枚	
D-5	6	〔工業図書出版社関連メモ〕	〔大阪府立図書館〕		手書き	2枚	大阪府立図書館用箋

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
D-5	7	〔早川不止雄図書貸出メモ〕			手書き	1枚	
D-5	8	〔工業図書出版社関連メモ〕			手書き	1枚	メモ用紙
D-7		貴重図書研究					
D-7	1-1	〔書簡〕長田富作宛	宮内省図書寮 飛鳥井雅信〔発〕	昭和18年1月27日	手書き	3枚	年月日は消印。宮内省用箋。封筒あり
D-7	1-2	〔書簡〕長田富作宛	江崎努〔発〕	〔11月19日〕	手書き	1枚	封筒入り
D-7	1-3	〔書簡〕吉田祥三郎宛	飛鳥井雅信〔発〕	昭和18年1月27日	印刷	1枚	
D-7	2	〔草稿〕吉田氏蔵十三経註疏ニ就キテ	〔長田富作〕		手書き	5枚	大阪府立図書館用箋。付：メモ（手書き 27×19 2枚）
D-7	3	〔貴重書メモ〕	〔長田富作〕		手書き	5枚	大阪府立図書館用箋
D-7	4	〔白紙〕				20枚	大阪府立図書館用箋
D-10		〔館記録 昭和17年 昭和18年〕					
D-10	1	〔図書館制度の全般的改革案並ニ趣意書〕と表書した包み紙					現物なし
D-10	2	大阪府立図書館一覧表 昭和十七年六月	〔大阪府立図書館〕	〔昭和17年6月〕	印刷	1枚	大阪府立図書館印行。同一物10部、うち1部に朱
D-10	3	昭和十七年度歳出予算表	大阪府立図書館	〔昭和17年〕	印刷	1枚	同一物3部
D-10	4	昭和十八年度歳出予算表	大阪府立図書館	〔昭和18年〕	印刷	1枚	同一物3部
D-10	5	第三号議案 昭和十八年度大阪府立図書館歳入歳出予算書	〔大阪府〕	昭和17年11月24日	印刷	〔10頁〕	付：昭和十八年度大阪府立図書館歳入予算説明 2枚 付：昭和十八年度大阪府立図書館歳出予算説明 2枚
D-10	6	市町村立図書館ニ関スル調査	大阪府立図書館	〔昭和17年〕	印刷	1枚	同一物2部。C-90-2に同じ
D-10	7-1	本年ノ特別行事予定	〔大阪府立図書館〕	〔昭和18年〕	ガリ版	1枚	

D-10	7-2	行事	〔大阪府立図書館〕	〔昭和18年〕	ガリ版	8枚	昭和18年1月-8月までの行事予定
D-10	8	〔昭和18年〕六～八月警備宿直表	〔大阪府立図書館〕		手書き	5枚	
D-16		〔昭和9年9月末会議ほか 袋なし〕					
D-16	1	〔昭和9年〕九月末会議	〔大阪府立図書館〕	〔昭和9年〕	手書き	3枚	大阪府立図書館用箋。記録メモ7枚
D-16	2	木曜会〔関連資料〕				18枚	大阪府立図書館用箋
D-16	3	日本図書館協会推薦図書百種	〔日本図書館協会〕	〔昭和11年〕	印刷	1枚	同一物6部
D-16	4	印刷カード図書目録	日本図書調査所	昭和11年5月	印刷	16頁	
D-16	5	夏期休暇予定表	〔大阪府立図書館〕		印刷	1枚	
D-16	6	図書館雑誌 選定図書カ	〔日本図書館協会〕				(219) - (222)
D-17		〔規程類 大正12年-〕					
D-17	1	大阪府立図書館商議委員会規程	大阪府立図書館		ガリ版	1枚	
D-17	2	大阪府立図書館図書撮影及証明規程	大阪府立図書館		印刷	1枚	
D-17	3	大阪府立図書館図書撮影及証明規程〔原案〕	大阪府立図書館		手書き	5枚	大阪府立図書館用箋
D-17	4	〔図書館外帯出〕證	大阪府立図書館		手書き	1枚	
D-17	5	中央図書館ニ関スル法規			手書き	5枚	大阪府立図書館用箋
D-17	6	〔中央図書館に関するメモ〕	〔長田富作〕		手書き	1枚	
D-17	7	公立図書館職員令ノ変遷	〔長田富作〕		手書き	1枚	
D-17	8	巡回文庫ノ閲覧状況〔稿〕			手書き	2枚	

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
E-3		戦時下国民生活ニ実効ヲ与ヘシ図書館活動ノ実際	[大阪府立図書館]	[昭和 16 年 3 月]	ガリ版	[6 頁]	最初の 4 頁が同一物
E-4		本省ニ対スル希望意見	大阪府立図書館		印刷	1 枚	同一物 3 部。C-122 に同じ
E-5		道府県人口一人当歳出等調	大阪府立図書館		印刷	1 枚	大阪府立図書館印行。C-121 に同じ
E-6		昭和十七年度公共団体金属特別回収ニ関スル件	石田・日向	昭和 17 年 5 月 31 日	手書き	1 枚	大阪府立図書館用箋。調査表：マル秘（B 4 判 1 枚）
E-8		[昭和 11 年度大阪府立図書館歳入予算/歳出予算説明]					
E-8	1	昭和十一年度大阪府立図書館歳入予算説明/同歳出予算説明	[大阪府立図書館]	[昭和 12 年 3 月]	印刷	4 枚	
E-8	2	[下書き]	[大阪府立図書館]	[昭和 12 年 3 月]	手書き	3 枚	昭和十一年度入館者・閲覧図書冊数調/昭和十年度・十一年度閲覧室座席数調/状況報告（管内大阪府下図書館設置状況）。大阪府立図書館用箋

## 1.2 展示会

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
B-7		(起案)近畿善本展覧会ニ関シ国宝搬出許可願ニ関スル件	館長 長田 主任 上松 (発) 文部大臣鳩山一郎(宛)	昭和 8 年 2 月 2 日 (起案)	手書き	2 枚	
C-1		左記之御蔵書本館展覧会ニ御出陳被成下正ニ御預申上候也（控ノ部（一））	大阪府立図書館長長田 富作 [発]	昭和 11 年 6 月 11 日	手書き	[8 頁]	大阪府立図書館用箋。富岡益太郎 [宛]。富岡文庫善本展覧会 6. 12-6. 14
C-4		左記之御蔵書本館展覧会ニ御出陳被成下正ニ御預申上候也	大阪府立図書館長長田 富作 [発]	昭和 10 年 10 月	手書き	[9 頁]	大阪府立図書館用箋。真福寺寶生院 [宛]。真福寺善本展覧 10. 18-10. 20
C-9		勤皇志士佐久良東雄遺墨文献展					
C-9	1	[依頼状]	大阪府立図書館長 長田 富作 [発]	昭和 10 年 10 月 8 日	ガリ版	1 枚	勤王志士佐久良東雄遺墨文献展への出品依頼状。C-9-2 と同じ
C-9	2	[依頼状]	大阪府立図書館長 長田 富作 [発]	昭和 10 年 10 月 8 日	ガリ版	1 枚	勤王志士佐久良東雄遺墨文献展への出品依頼状。C-9-1 と同じ
C-11		[特許発明文献展覧会出品についての依頼書]	大阪府立図書館	[昭和 10 年 3 月]	手書き	1 枚	大阪府立図書館用箋 特許発明ニ関スル文献展覧会 4. 24-26 に開催

C-64		[代用品資源ニ関スル発明文献展覧会要旨]	[大阪府立図書館]	[昭和13年11月24日]	ガリ版	2枚	
C-72		新刊良書展観目録 昭和11年10月-昭和12年2月	[大阪府立図書館]	[昭和12年]	印刷	1枚	全40冊(児童書10冊 一般書30冊)
D-15		[国史展覧会関係]					
D-15	1	[石山寺他資料所蔵者の住所録]	[大阪府立図書館]		手書き	7枚	大阪府立図書館用箋
D-15	2	[調査資料の引き写し]	[大阪府立図書館]		手書き	7枚	大阪府立図書館用箋
D-15	3	新設項目 皇居大内裏ノ内ニマトメルモノ	[大阪府立図書館]		手書き	1枚	大阪府立図書館用箋。裏にメモ書き
D-15	4	大橋図書館和漢図書分類案内(要目抄)	大橋図書館		印刷	16頁	折本
D-18		[展示関係資料 袋なし 昭和8年-10年]					
D-18	1	[鴻池男爵家秘蔵扇面書画特別展新聞記事切抜き]	[大阪府立図書館]	[昭和8年3月]		4枚	大阪府立図書館用箋
D-18	2	内藤湖南先生遺書展観目録[原稿]	[大阪府立図書館]	[昭和10年]	手書き	12枚	大阪府立図書館用箋
D-18	3	[特許発明文献展覧会出陳依頼原稿]	[大阪府立図書館]	昭和10年3月	手書き	2枚	大阪府立図書館用箋
D-18	4	勤王志士佐久良東雄遺墨文献展覧会出品者目録	[大阪府立図書館]	[昭和10年]	手書き	6枚	大阪府立図書館用箋
D-18	5	[書簡] 長田富作宛	森田龍僊	昭和19年6月30日・7月3日	手書き	2枚	
D-18	6	金沢文庫[と題した図書リストの草稿]	[大阪府立図書館]		手書き	5枚	大阪府立図書館用箋
E-2		[皇紀二千六百年記念国史展覧会関係資料]					
E-2	1	[図書借用願]	大阪府立図書館長 長田富作[発]	昭和14年5月5日	印刷	1枚	蓬左文庫[宛]
E-2	2	[図書借用及び撮影許可願書]	大阪府立図書館長	昭和14年	印刷	1枚	

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
E-2	3	皇紀二千六百年記念国史展覧会略目録	大阪府立図書館	昭和 15 年 1 月 19-21 日	印刷	1 枚	同一物 2 部あり
E-2	4	国宝搬出願	〔大阪府立図書館〕	昭和 14 年 12 月	印刷		石川県 白山比咩神社蔵『神皇正統記』
E-2	5-1	〔書簡 下書き〕九条家・猪熊氏宛	長田富作		手書き	1 枚	
E-2	5-2	〔書簡〕猪熊信男宛	九条	昭和 15 年 2 月 18 日	手書き	1 枚	
E-2	5-3	〔書簡〕長田富作宛	猪熊信男	昭和 15 年 2 月 20 日	手書き	1 枚	5-2 に同封

### 1.3 貸出文庫・読書会

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
C-25		時局資料百選 第七	大阪府立図書館	昭和 13 年 9 月	印刷	1 枚	新着特許抄報第四六号附録
C-26		時局資料百選 第六	大阪府立図書館	昭和 13 年 6 月	印刷	1 枚	新着特許抄報第四〇号附録
C-35		国民精神総動員文庫実施要領	大阪府立図書館	[昭和 14 年]	印刷	1 枚	
C-36		〔国民精神総動員文庫協議会〕					
C-36	1	国民精神総動員文庫協議会ノ件	大阪府学務部長〔発〕	昭和 14 年 9 月 5 日	印刷	1 枚	同一物 3 部あり
C-36	2	国民精神総動員文庫協議会出席者名簿		昭和 14 年 9 月	印刷	1 枚	同一物 2 部あり。それぞれに書き込みあり
C-37		国民精神総動員文庫協議会出席者名簿		昭和 14 年 9 月	印刷	1 枚	C-36 の校正前のものか
C-39		総動員文庫 [に関するメモ]			手書き	7 枚	大阪府立図書館用箋
C-44		国民精神総動員文庫施設費調			手書き	1 枚	大阪府立図書館用箋



C-45		[ (三) 総動員文庫ノ特異性]			手書き	1 枚	大阪府立図書館用箋
C-66		大阪府立図書館巡回文庫協議会案		昭和 12 年 2 月 19 日	手書き	[6 頁]	大阪府立図書館用箋。右上こより綴じ。書き込みあり
C-67		大阪府立図書館巡回文庫協議会			手書き	[6 頁]	大阪府立図書館用箋。右上こより綴じ。
C-68		大阪府巡回文庫協議会		昭和 12 年 3 月 12 日	印刷	1 枚	同一物 3 部あり。うち 2 部に各文庫からの発言と思われる書き込みあり。
C-69		巡回文庫回付先一覧		昭和 12 年 2 月末現在	印刷	1 枚	
C-70		新着案内	[大阪府立図書館]		印刷	1 枚	巡回文庫の新着案内ピラ
C-71		特別回付図書目録			印刷	[3 頁]	第 1 号～第 17 号文庫。各 30 冊前後。C-66 にある「配布すべき印刷物」の 1 つか
C-74		九月廿五日廿六日図書館協議会挨拶文案					
C-74	1	九月廿五日廿六日図書館協議会挨拶文案	[大阪府立図書館]	[昭和 14 年 9 月]	手書き	[8 頁]	大阪府立図書館用箋。大阪府国民精神総動員文庫協議会におけるもの。
C-74	2	[長官訓示]	[大阪府立図書館]	[昭和 14 年 9 月]	手書き	4 枚	大阪府立図書館用箋。C-74-1 の下書き
C-75		巡回文庫回付休止ノ件	大阪府立図書館	昭和 13 年 3 月 16 日	手書き	1 枚	大阪府立図書館用箋
C-83		大阪府立図書館更生文庫			手書き	2 枚	目的、編成、管理、施行細則。大阪府立図書館用箋。「巡回文庫ノ本ヲ以テ編成ス」とあり
C-92		国民精神総動員文庫計画案	部長	10 月 22 日	手書き	11 枚	大阪府立図書館用箋
C-93		大阪府立図書館国民精神総動員文庫規程	[大阪府立図書館]	[昭和 14 年]	手書き	2 枚	大阪府立図書館用箋
C-94		大阪府立図書館国民精神総動員文庫規程施行細則	[大阪府立図書館]	[昭和 14 年]	手書き	3 枚	大阪府立図書館用箋
C-95		国民精神総動員文庫実施ニ就テ			手書き	4 枚	大阪府立図書館用箋。書き込みあり
C-96		昭和十三年度国民精神総動員文庫設立予算書			手書き	3 枚	大阪府立図書館用箋

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
C-117		巡回文庫改善の私案	司書日向亮治〔発〕	[昭和13年]	手書き	4枚	三輪部長〔宛〕。大阪府立図書館巡回文庫封筒。原稿用紙
C-146		〔貸出文庫を中心とする読書指導〕					
C-146	1	貸出文庫ヲ中心トスル読書指導ニ関スル件	文部省社会教育局文化施設課長〔発〕	昭和17年5月21日	ガリ版	1枚	大阪府中央図書館長〔宛〕
C-146	2	巡回文庫運賃算出明細書			手書き	7枚	大阪府立図書館用箋
C-146	3	文庫編成法			手書き	4枚	大阪府立図書館用箋
C-146	4	運賃並取扱法改正ニ伴ヒ文庫回付方法ノ変更並ニ運賃計算			手書き	3枚	大阪府立図書館用箋。付：昭和17年4月末現在府下町村立青年学校数併ニ文庫回付計画（4枚）
D-13		読書会					
D-13	1	〔草稿〕大阪府主催巡回文庫協議会記録			手書き		序：昭和18年1月（3枚）、協議会記録：昭和17年12月2日（13枚）、巡回文庫協議会に於ける長官訓示案：12月2日（3枚）、第二回協議会：1月26日（7枚）
D-13	2	『読書録』	大阪府立図書館		印刷	17頁	
D-13	3-1	大阪府立図書館読書会協議会日程	大阪府立図書館	昭和18年5月8日	印刷	1枚	
D-13	3-2	〔山田村読書会概要〕	〔山田村読書会〕	〔昭和18年5月〕	印刷	1枚	名刺（田中忠雄・末廣哲夫）あり。メモ

## 2 大阪・近畿地方図書館関係

### 2.1 大阪図書館協会

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
B-13		〔大阪図書館協会第5回総会〕					

B-13	1	大阪図書館協会第五回総会次第並ニ役割	[大阪府立図書館]		手書き	1 枚	
B-13	2	大阪図書館協会第五回総会[案内]	大阪図書館協会理事長 今井貫一	昭和4年10月21日	印刷	1 枚	同一2部あり
B-13	3	草稿	[長田富作]	[昭和4年10月]	手書き	2 枚	「府立図書館/書庫増築並ニ巡回文庫開始…文部大臣ノ府立図書館指定…」等の記述あり。総会演説の草稿と思われる。
B-13	4	大阪図書館協会理事会	[大阪府立図書館]	[昭和4年10月]	手書き	1 枚	
B-13	5	大阪図書館協会第五回総会準備要領	[大阪府立図書館]		手書き	1 枚	
C-81		大阪図書館協会〔次第下書き〕	[長田富作]	昭和16年2月17日	手書き	3 枚	大阪府立図書館用箋

## 2.2 近畿図書館協議会

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
B-14		[近畿図書館協議会[大正13年6月]]					
B-14	1	[近畿図書館協議会委員会]報告並ニ照会ノ件	和歌山県立図書館	大正13年6月10日	ガリ版	1 枚	付:近畿図書館統計調査用紙(B4 1枚)に大阪府立図書館の状況を各項目タイプにて記入
B-14	2	近畿図書館統計表 大正十三年四月調	近畿図書館協議会編		ガリ版	[17 頁]	
B-14	3	近畿図書館統計表 大正十四年四月調	近畿図書館協議会編		ガリ版	[18 頁]	
B-18		近畿図書館協議会第23回例会					
B-18	1	近畿図書館協議会第23回例会参加者名簿附協議題	京都府立京都図書館	昭和7年10月9日	ガリ版	[10 頁]	議題の一つに「国民必読選定の必要なきか」として約150タイトルの書名リストあり
B-18	2	大森記念文庫重ナル図書ノ説明	大典記念京都植物園		ガリ版	[10 頁]	元知事大森鐘一男爵を記念して府立植物園内に建設された文庫、植物園芸に関する古今の図書を蒐集
C-148		[近畿図書館協議会〔昭和15年12月〕]					
C-148	1	[メモ]			手書き		大阪府立図書館用箋。「昭和十五年十二月九日 於京都府立図書館」とある

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
C-148	2	記			手書き	3 枚	大学図書館への呼びかけ
C-148	3	記			手書き		公共図書館への呼びかけ。近畿図書館協議会か
C-149		〔近畿図書館協議会 大正12年 - 昭和16年〕					
C-149	1	〔新村出氏への記念品料の件〕	第27回近畿図書館協議会当番幹事〔発〕	昭和12年1月14日付	ガリ版	1 枚	長田富作〔宛〕。C-149-2と同一封書に入っている
C-149	2	〔新村出氏への記念品の件〕	野村伝四〔発〕	昭和12年1月16日	手書き	1 枚	長田富作〔宛〕。C-149-1と同一封書に入っている
C-149	3	近畿図書館長打合会	〔大阪府立図書館〕	昭和13年11月2日	手書き	15 頁	コヨリ綴じ。大阪府立図書館用箋
C-149	4	近畿図書館長協議会	大阪府立図書館	昭和16年2月8日	手書き	2 枚	大阪府立図書館用箋
C-149	5	近畿図書館長協議会	大阪府立図書館	昭和16年2月8日	手書き	4 枚	大阪府立図書館用箋
C-149	6	第廿五回近畿図書館協議会出席者名簿		〔昭和10年5月〕	印刷	1 枚	
C-149	7	第五回大阪府下図書館関係者懇談会出席者	〔大阪府立図書館〕	大正13年12月10日	ガリ版	1 枚	
C-149	8	第二十六回近畿図書館協議会協議題		〔昭和11年6月〕	印刷	1 枚	
C-149	9	〔第二十五回近畿図書館協議会開催の件〕	〔大阪府立図書館〕	昭和10年4月20日	印刷	1 枚	大阪府立図書館は当番幹事
C-149	10	第二十五回近畿図書館協議会日程		〔昭和10年〕5月18日	印刷	1 枚	書き込み多数あり
C-149	11	協議題（第三十回近畿図書館協議会）		〔昭和16年5月〕	ガリ版	1 枚	書き込み多数あり
C-149	12	第三十回近畿図書館協議会出席者名簿		〔昭和16年5月〕	ガリ版	〔9 頁〕	
C-149	13	協議会順序 第十四回近畿図書館協議会出席者氏名		〔大正12年6月〕	ガリ版	〔4 頁〕	

C-149	14	[大阪図書館協会発会式への祝辞依頼]		[大正 14 年]	手書き	1 枚	大阪図書館協会用箋。今沢慈海宛。下書きか
C-149	15	[大阪図書館協会発会式出席感謝状]		年 3 月 2 日	手書き	1 枚	大阪図書館協会用箋。知事・市長・住友男爵・徳川総裁宛及び野田・高野宛。下書きか
C-149	16	[大阪図書館協会発会式挙行について]		年 2 月 20 日	手書き	1 枚	大阪府立図書館用箋。野田義夫・高野岩三郎宛講演依頼。知事・市長・住友男爵出席依頼。下書きか
C-149	17	[本会委員嘱託状 ひな型]		大正 14 年 2 月 9 日	手書き	1 枚	大阪図書館協会用箋
C-149	18	大阪図書館協会雑報 第四号（原稿）			手書き	3 枚	大阪府立図書館用箋。昭和 3 年の協会の雑報
D-4		昭和十八年二月十六日 第一回司書事務打合会					
D-4	1	第一回近畿図書館事務打合会		昭和 18 年 2 月 16 日	印刷	1 枚	同一物 3 部。於：大阪府立図書館 協議題あり
D-4	2-1	大阪府立図書館巡回文庫館内閲覧簿	[大阪府立図書館]		印刷	1 枚	
D-4	2-2	大阪府立図書館巡回文庫帯出閲覧簿	[大阪府立図書館]		印刷	1 枚	
D-4	2-3	第 号巡回文庫閲覧成績報告	[大阪府立図書館]		印刷	1 枚	
D-4	2-4	廻付希望図書申込票	[大阪府立図書館]		印刷	1 枚	
D-4	3	大阪府立図書館一覧表 昭和十七年六月	大阪府立図書館	[昭和 17 年 6 月]	印刷	1 枚	大阪府立図書館印行
D-4	4	昭和十八年度歳出予算表	大阪府立図書館	[昭和 18 年]	印刷	1 枚	
D-4	5	大阪府立図書館規則	大阪府立図書館		印刷	1 枚	
D-4	6	神戸市立図書館々則 昭和十四年三月一日改正	[神戸市立図書館]	[昭和 14 年]	印刷	1 枚	図書帯出願、児童図書帯出願挟み込み
D-4	7	[会議記録メモ]	[長田富作]	[昭和 18 年]	手書き	2 枚	大阪府立図書館用箋
D-11		近畿図書館					

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
D-11	1	近畿図書館倶楽部規約			ガリ版	2枚	大正二年および大正七年のもの。開催表（第1回—第31回）
D-11	2	昭和十八年度歳出予算表	大阪府立図書館	〔昭和18年〕	印刷	1枚	
D-11	3	昭和十八年度歳出予算表	和歌山県立図書館	〔昭和18年〕	ガリ版	1枚	書き込みあり
D-11	4	近畿図書館長協議会 昭和十八年一月十五日	〔長田富作〕	昭和18年1月15日	手書き	14枚	大阪府立図書館用箋。内容：予算打合、読書会、日配、近畿図書館協議会組織ノ件
D-11	5	〔協議会記録〕		昭和18年4月21日	手書き	4枚	神戸市立図書館参集
D-11	6	〔書簡〕長田富作宛	中野光之〔発〕	昭和18年5月1日	手書き	1枚	奈良県立奈良図書館用箋。封筒なし
D-11	7	〔書簡〕長田富作宛	中野光之〔発〕	昭和18年5月5日	手書き	1枚	奈良県立奈良図書館用箋
D-11	8	〔書簡〕長田富作宛	小野則秋〔発〕	昭和18年5月13日	手書き	1枚	同志社大学図書館用箋
D-11	9	断簡					
D-12		日配					
D-12	1	〔書簡〕長田富作宛	神戸市立図書館長寺澤智了 代橋元正一	昭和16年9月24日	手書き	2枚	神戸市立図書館用箋
D-12	2	〔添付書類〕大阪府立図書館ヨリノ調査依頼ノ件 昭和十六年九月十七日調査	〔神戸市立図書館〕	昭和16年9月17日	手書き	9枚	
D-12	3	最近図書供給ニ関スル所感	〔大阪府立図書館〕	〔昭和16年〕	手書き	6枚	大阪府立図書館用箋。別表：過去三ヶ年自四月至八月図書購入冊数・購入費調等、弘報ニヨル注文配本数調査表 10月25日現在調がある。
D-12	4	〔新刊購入状況調査〕	〔大阪府立図書館〕		ガリ版	9枚	京都府立図書館、神戸市立図書館、和歌山県立図書館、奈良県立図書館への集計メモ各3枚。手書き 27×19 大阪府立図書館用箋
D-12	5	出版文化協会	〔大阪府立図書館〕		手書き	8枚	大阪府立図書館用箋

## 2.3 大阪文化施設協会

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
D-9		大阪文化施設協会					
D-9	1	町会文庫 その行き方と経営法	大阪市役所	昭和17年8月15日	印刷	68頁	
D-9	2	〔草稿〕大阪市立図書館ノ町会文庫ニ関スル調査	〔大阪府立図書館〕		手書き	1枚	大阪府立図書館用箋
D-9	3	大阪文化施設協会会則案			ガリ版	2枚	書き込みあり
D-9	4	大阪文化施設協会会則案			印刷	1枚	
D-9	5	大阪文化施設協会発会式出席			ガリ版	2枚	
D-9	6-1	大阪文化施設協会発会式次第	〔大阪文化施設協会〕	昭和18年3月29日	ガリ版	1枚	
D-9	6-2	文化指導機関協議会開催経過	〔大阪文化施設協会〕	〔昭和18年〕	ガリ版	1枚	
D-9	6-3	大阪文化施設協会結成記念文化講演会のおしらせ	〔大阪文化施設協会〕	〔昭和18年〕3月29日	印刷	1枚	
D-9	7	大阪	大阪市観光課	〔昭和15年〕	印刷	30頁	『紀元二千六百年の大阪』 附録
D-9	8	図書館経営〔メモ〕	〔長田富作〕			1枚	

## 3 日本図書館協会関係

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
B-9		社団法人日本図書館協会推薦図書 自昭和八年十一月至昭和九年十月推薦	日本図書館協会		ガリ版	5枚	標題は赤ペンで「図書館週間中大書肆百貨店ニ於ケル陳列ノ推薦図書百種」と手書き
B-16		文部大臣諮問ニ対スル答申案	長田富作等調査委員9名	昭和9年5月12日付	印刷	1枚	巻頭に手書きで「公共図書館ノ利用増進ニ関シ最モ適切ナル方案如何」とあり。 付：答申案の手書きによる草稿あり。長田筆か 25×18（8枚）

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
B-19		〔日本図書館協会第28回全国図書館大会〕					
B-19	1	〔日本図書館協会評議員会開催通知〕	日本図書館協会	昭和9年4月18日	ガリ版	1枚	
B-19	2	社団法人日本図書館協会昭和八年度決算書	日本図書館協会	昭和9年5月	印刷	1枚	2部あり。うち1部に右上に貼付用紙：「昭和九年五月九日評議員会議案」。
B-19	3	〔日本図書館協会総会（昭和九年度）開催通知〕	日本図書館協会理事長 松本喜一	昭和9年4月11日	印刷	1枚	回答切り抜き済
B-19	4	日本図書館協会昭和九年度総会出席者名簿	〔日本図書館協会〕	昭和9年	印刷	1枚	
B-19	5	第二十八回全国図書館大会開催案内	日本図書館協会理事長 松本喜一	昭和9年4月	印刷	1枚	
B-19	6	第二十八回全国図書館大会諮問並二協議題	〔日本図書館協会〕	昭和9年5月3日	ガリ版	3.5枚	付：「大会前に“予め御送附申上候”」あり
B-19	7	第二十八回全国図書館大会日程	〔日本図書館協会〕	昭和9年	印刷	1枚	
B-19	8	第二十八回全国図書館大会日程	〔日本図書館協会〕	昭和9年	印刷	1枚	申し込み用紙なし、当日配付分
B-19	9	第二十八回全国図書館大会諮問並二協議題	〔日本図書館協会〕	〔昭和9年〕	印刷	1枚	メモ書きあり
B-19	10	第二十八回全国図書館大会出席者名簿	〔日本図書館協会〕	〔昭和9年〕	印刷	1枚	
B-19	11	図書館令施行細則			ガリ版	[8頁]	巻頭に手書きで「福岡県令」。
B-19	12	〔晩餐会の案内〕	日本図書館協会理事長 松本喜一	昭和9年4月17日	ガリ版	1枚	第二十八回全国図書館大会期間中の晩餐会の案内。公印あり
B-19	13	東京科学博物館観覧案内	文部省東京科学博物館		印刷	1枚	裏に団体観覧順路図あり
B-19	14	文部省東京科学博物館平面図	文部省東京科学博物館		印刷	1枚	



B-19	15	復興記念絵葉書	文部省東京科学博物館	昭和6年11月		12枚	
C-6		〔図書館用語調査案（閲覧事務・第二回）の修正増補あるいは削除等のお願い〕	図書館用語統一調査委員会委員長 今澤慈海〔発〕	昭和10年5月4日	印刷	1枚	井村穎一〔宛〕
C-12		第三十二回全国図書館大会日程	〔日本図書館協会〕	〔昭和13年5月〕	印刷	1枚	裏面に書き込みあり（読書力の向上など）。C-91と同一物
C-14		第三十二回全国図書館大会諮問事項並協議題	〔日本図書館協会〕	〔昭和13年5月〕	印刷	1枚	表裏に書き込みあり
C-27		〔総裁賞銓衡委員会委員委嘱の願い〕	日本図書館協会理事長 高柳賢三〔発〕	昭和16年11月11日	印刷	1枚	長田富作〔宛〕
C-28		役員会（第七回）会議録	〔日本図書館協会〕	12月24日	ガリ版	〔4頁〕	昭和16年か
C-29		社団法人日本図書館協会役員名簿	〔日本図書館協会〕	昭和16年8月7日	印刷	1枚	
C-30		〔委嘱決定の報告〕	日本図書館協会理事長 高柳賢三〔発〕	昭和16年8月8日	印刷	1枚	長田富作〔宛〕
C-31		〔日本図書館協会役員会（第3回）会議録〕					
C-31	1	役員会（第三回）会議録	〔日本図書館協会〕	8月24日	ガリ版	3枚	昭和16年か（定数改正/新刊図書優先配給実施について）
C-31	2	定数改正案に関する評議員の意見	〔日本図書館協会〕	8月22日	ガリ版	1枚	
C-32		日本図書館協定会数改正案					
C-32	1	社団法人日本図書館協定会数改正案	〔日本図書館協会〕	昭和17年7月	ガリ版	8頁	書き込みあり
C-32	2	会費規程	〔日本図書館協会〕		ガリ版	1枚	C-32-1に挟み込み
C-33		〔日本図書館協定会数改正草案の検討の願い〕	日本図書館協会理事長 高柳賢三〔発〕	昭和17年7月27日	ガリ版	1枚	C-32-1、C-32-2の送付状。長田富作〔宛〕
C-34		社団法人日本図書館協定会数改正案	日本図書館協会	昭和17年7月	印刷	5頁	『図書館雑誌』第36年第8号（昭和17年8月）の40-50頁抜き刷り
C-47		議題	〔日本図書館協会〕	〔昭和16年〕	印刷	1枚	総裁賞銓衡委員会・協会創立五十年記念会館建設計画委員会、とあり

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
C-48		〔書簡下書き〕 理事長高柳賢一宛	理事長長田富作		手書き	2枚	『図書館雑誌』8月号「大阪と第二の官立図書館」の掲載日。大阪府立図書館用箋
C-49		〔日本図書館協会理事長再任のあいさつ・役員会開催の通知〕	高柳賢三〔発〕	昭和16年8月26日	印刷	1枚	長田富作〔宛〕
C-50		委嘱状	日本図書館協会理事長高柳賢三〔発〕	昭和16年12月4日	印刷	1枚	長田富作〔宛〕
C-51		〔日本図書館協会総裁賞銓衡委員委嘱につき依頼〕	日本図書館協会理事長高柳賢三〔発〕	〔昭和16年〕	ガリ版	1枚	長田富作〔宛〕
C-52		総裁委嘱理事銓衡に関する件	日本図書館協会理事長高柳賢三〔発〕	昭和16年7月26日	ガリ版	2枚	長田富作〔宛〕。書き込みあり
C-53		〔日本図書館協会理事辞退〕	長田富作		ガリ版	1枚	
C-54		六月定例理事会開催ノ件	〔日本図書館協会〕	6月7日	印刷	1枚	
C-55		〔日本図書館協会理事辞退につき下書き〕	〔長田富作〕		手書き	1枚	C-53の草稿。大阪府立図書館用箋
C-56		〔書簡下書き〕 中田殿へ	〔長田富作〕		手書き	1枚	「図書館関係法規の研究」誌上発表の謝絶。大阪府立図書館用箋
C-57		〔書簡下書き〕 波多野殿へ	〔長田富作〕		手書き	1枚	C-53と関係あり
C-58		〔書簡下書き〕 秋岡殿へ	〔長田富作〕		手書き	1枚	大阪府立図書館用箋（高柳氏帝大図書館長退任の年）
C-82		新刊図書優先配給要綱	日本図書館協会		印刷	4頁	付：新刊図書優先配給加入申込書。理事長高柳賢三
C-91		第三十二回全国図書館大会日程	〔日本図書館協会〕	〔昭和13年5月〕	印刷	1枚	裏面に書き込みあり（大阪府立図書館の強化など）。C-12と同一物
C-97		〔日本図書館協会昭和十六年度総裁賞候補者銓衡委員会開催通知〕	日本図書館協会理事長高柳賢三〔発〕	昭和17年2月25日	ガリ版	5枚	候補者のリスト。推薦理由（4枚）。長田富作〔宛〕
C-98		〔日本図書館協会理事会開催通知〕	日本図書館協会理事長高柳賢三〔発〕	昭和17年2月11日	ガリ版	1枚	長田富作〔宛〕。3月20日理事会
C-99		社団法人日本図書館協会昭和十七年度予算案	〔日本図書館協会〕	〔昭和17年〕	ガリ版	9頁	

C-100		役員会（第八回）会議録	〔日本図書館協会〕	〔昭和17年2月21日〕	ガリ版	〔6頁〕	
C-101		社団法人日本図書館協会昭和十七年度予算案	〔日本図書館協会〕	〔昭和17年〕	ガリ版	2枚	C-99の予備稿
C-102		〔日本図書館協会理事会開催通知〕	日本図書館協会理事長 高柳賢三〔発〕	昭和17年2月10日	ガリ版	1枚	長田富作〔宛〕。2月11日理事会
C-103		〔物故先賢列伝の今井貫一氏略伝の原稿依頼〕	日本図書館協会理事長 高柳賢三〔発〕	1月10日	印刷	1枚	日本図書館協会用箋。長田富作〔宛〕
C-105		理事会（第一回）報告 役員会（第五回）会議録	〔日本図書館協会〕	昭和16年8月14日	ガリ版	〔4頁〕	
C-106		総裁賞銓衡委員会（昭和十六年度）議事摘要	〔日本図書館協会〕	昭和17年3月4日	ガリ版	8頁	
C-107		〔総裁賞候補者銓衡委員会賛否記入の願い〕	日本図書館協会理事長 高柳賢三〔発〕	昭和17年3月7日	ガリ版	2枚	長田富作〔宛〕
C-108		役員会（第六回）会議録	〔日本図書館協会〕	昭和16年9月13日	ガリ版	〔8頁〕	
C-109		総裁賞銓衡委員〔メモ〕	〔長田富作〕	〔昭和16年〕	手書き	1枚	大阪府立図書館用箋
C-110		総裁賞銓衡委員（案）	〔日本図書館協会〕	〔昭和16年〕	印刷	1枚	
C-113		〔皇軍慰問図書雑誌寄附募集〕					
C-113	1	〔皇軍将兵慰安のための図書雑誌寄附募集とりまとめの依頼〕	日本図書館協会理事長 松本喜一〔発〕	昭和12年10月	印刷	1枚	大阪府立図書館長 長田富作〔宛〕
C-113	2	皇軍慰問図書雑誌寄附募集	日本図書館協会	昭和12年10月20日	印刷	1枚	同一物2部
C-124		〔日本図書館協会昭和16年度総会及び創立50周年記念式〕					
C-124	1	〔日本図書館協会五十週年記念式典及び感謝状贈呈の出席案内〕	日本図書館協会理事長 高柳賢三〔発〕	昭和16年5月5日	ガリ版	1枚	長田富作〔宛〕
C-124	2	社団法人日本図書館協会昭和十六年度総会五十周年記念式典出席者名簿（追加）	〔日本図書館協会〕	〔昭和16年5月〕	印刷	1枚	
C-124	3	社団法人日本図書館協会昭和十六年度総会及創立五十周年記念式典出席者名簿	〔日本図書館協会〕	〔昭和16年5月〕	印刷	1枚	昭和16年5月16日・17日開催

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
C-124	4	社団法人日本図書館協会五十週年記念式通常総会（昭和十六年度）次第	〔日本図書館協会〕	〔昭和16年5月〕	印刷	1枚	昭和16年5月16日・17日開催
C-124	5	〔日本図書館協会昭和十六年度総会及創立五十周年記念式典開催通知〕	日本図書館協会理事長 高柳賢三	昭和16年4月22日	印刷	1枚	切り取りあり（出席回答済み）
C-124	6	社団法人日本図書館協会昭和十五年度決算書	〔日本図書館協会〕	〔昭和16年〕	ガリ版	〔10頁〕	
C-124	7	定款改正ノ件	〔日本図書館協会〕		ガリ版	1枚	
C-124	8	社団法人日本図書館協会昭和十六年度総会表決権委任者名簿	〔日本図書館協会〕	〔昭和16年〕	印刷	1枚	
C-124	9	社団法人日本図書館協会昭和十六年度総会表決権委任者名簿（追加）	〔日本図書館協会〕	〔昭和16年〕	印刷	1枚	
C-124	10	評議員選挙規則	〔日本図書館協会〕	〔昭和16年〕	印刷	1枚	
C-124	11	五十週年記念式通常総会（昭和十六年度）の葉	日本図書館協会	〔昭和16年5月〕	印刷	23頁	
C-125		〔日本図書館協会理事会〔昭和12年9月〕〕					
C-125	1	〔日本図書館協会理事会開催の件〕	日本図書館協会理事長 松本喜一〔発〕	昭和12年9月7日	手書き	1枚	理事 長田富作〔宛〕。日本図書館協会用箋
C-125	2	定款第二十三、四条ニ依リ委嘱ノコトニ決定セル役員	〔日本図書館協会〕	〔昭和12年9月15日〕	ガリ版	1枚	昭和12年9月15日に役員推薦方法を決議
C-125	3	理事会報	〔日本図書館協会〕	昭和12年9月15日	ガリ版	3枚	C-125-4を含む
C-125	4	図書館大会及総会部会決議並ニ希望事項					
C-125	5	時局資料百選 第二	大阪府立図書館	昭和12年9月	印刷	1枚	
C-125	6	〔メモ〕			手書き	1枚	陣中文庫。理事（東）松村広太郎など
C-125	7	〔メモ〕			手書き	1枚	文部省用箋。「図書館ノ規模ノ大小ヲ判別スル…」と続く

C-126		〔日本図書館協会第31回全国図書館大会〕					
C-126	1	〔日本図書館協会評議員会開催通知〕	日本図書館協会理事長 松本喜一〔発〕	昭和12年2月10日	印刷	1枚	評議員長田富作〔宛〕
C-126	2	昭和十二年度予算案	社団法人日本図書館協会	〔昭和12年〕	ガリ版	〔12頁〕	特別会計として「雑誌部予算案」と「良書普及事業部予算案」あり
C-131		〔日本図書館協会昭和十年度総会開催通知〕	社団法人日本図書館協会理事長 松本喜一〔発〕	昭和10年4月11日	印刷	1枚	会員各位〔宛〕。切り取りあり（出欠回答すみ）
C-132		社団法人日本図書館協会昭和九年度決算書	〔日本図書館協会〕	〔昭和10年〕	印刷	1枚	
C-133		日本図書館協会昭和十年度総会出席者名簿	〔日本図書館協会〕	昭和10年5月10日-11日	印刷	1枚	「田中吉太郎」「橋本耕之助」と書き込みあり
C-134		図書館国庫補助費金壱千八百萬圓捻出案	青年図書館員連盟書記長 間宮不二雄	昭和11年7月1日	印刷	16頁	年月日はあとがきより。昭和11年5月14日第30回全国図書館大会での提案
C-135		『図書館雑誌』第36年7号	日本図書館協会	昭和17年7月	印刷	70頁	表紙に書き込みあり
C-136		〔日本図書館協会第31回全国図書館大会〕					
C-136	1	日本図書館協会第三十一回全国図書館大会開催案内	社団法人日本図書館協会理事長 松本喜一〔発〕	昭和12年4月24日	印刷	1枚	
C-136	2	第三十一回全国図書館大会参加費用概算	〔日本図書館協会〕	〔昭和12年4月〕	印刷	1枚	
C-136	3	奉天発門司着承德・北平・天津視察旅行日程及旅費概算	〔日本図書館協会〕	〔昭和12年4月〕	印刷	1枚	
C-136	4	第五区昭和十二年度社団法人日本図書館協会評議員選挙投票（単記）	日本図書館協会	〔昭和12年〕	印刷	1枚	投票用紙封筒と返信用封筒
C-136	5	〔日本図書館協会総会並に部会開催通知〕	社団法人日本図書館協会理事長 松本喜一	昭和12年4月24日	印刷	1枚	
C-136	6	評議員選挙規則	〔日本図書館協会〕	〔昭和12年〕	印刷	1枚	
C-136	7	第三十一回全国図書館大会並視察日程	社団法人日本図書館協会	〔昭和12年〕	印刷	1枚	
C-136	8	第三十一回全国図書館大会旅行日程表	〔日本図書館協会〕	〔昭和12年4月〕	印刷	1枚	

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
C-136	9	第三十一回全国図書館大会参加申込要項	社団法人日本図書館協会	[昭和12年4月]	印刷	1枚	
C-139		[日本図書館協会昭和拾年度評議員当選承諾依頼書]	社団法人日本図書館協会理事長 松本喜一 [発]	昭和10年5月14日	ガリ版	1枚	長田富作 [宛]
C-140		評議員当選者氏名		昭和10年5月10日	ガリ版	1枚	
C-141		昭和十年度総会日程	[日本図書館協会]	[昭和10年5月]	印刷	1枚	
C-142		昭和八年一月三十一日以降入会者氏名		[昭和8年]	ガリ版	4枚	日本図書館協会の作成か
C-143		日本図書館協会評議委員会 [昭和10年]					
C-143	1	[日本図書館協会評議員会開催の件]	社団法人日本図書館協会理事長 松本喜一 [発]	昭和10年2月15日	印刷	1枚	評議員 長田富作 [宛]
C-143	2	昭和十年二月十五日現在役員氏名		[昭和10年]	ガリ版	1枚	
C-143	3	評議員会議題			ガリ版	2枚	第一及び第二. 別紙は「評議員選挙規則別表改正案参考 (ガリ版 28×40 1枚)
C-143	4	評議員会議題			印刷	1枚	
C-143	5	社団法人日本図書館協会昭和十年度予算案	[日本図書館協会]	[昭和10年]	ガリ版	[12頁]	
C-145		[新刊図書優先配布要綱]					
C-145	1	[新刊図書配給実施につき依頼]	社団法人日本図書館協会会長 高柳賢三 [発]	昭和18年5月8日	ガリ版	1枚	中央図書館長 [宛]
C-145	2	新刊図書優先配給要綱	日本図書館協会	[昭和18年3月]	印刷	4頁	C-82と同じ
C-145	3	秘 地区読書調査第一号	日本出版配給株式会社企画部	[昭和18年3月]	印刷	1枚	「註」に「六大都市ハ区別トスルコト」とあり。全14項目
C-145	4	新刊図書優先配給実施に関する件	社団法人日本図書館協会会長 高柳賢三 [発]	昭和18年3月			

C-147		〔日本図書館協会第30回全国大会〕					
C-147	1	第三十回全国図書館大会諮問並ニ協議題	〔日本図書館協会〕	〔昭和11年〕	印刷	1枚	公共図書館部会の協議題を含む。書き込み多数
C-147	2	協議題 其二（四月二十八日以降到着ノ分）	〔日本図書館協会〕	〔昭和11年〕	ガリ版	1枚	
C-147	3	協議題	〔日本図書館協会〕	〔昭和11年〕	印刷	1枚	
C-147	4	学校部会協議題	〔日本図書館協会〕	〔昭和11年〕	印刷	1枚	
C-147	5	〔総会開催につき出席依頼〕	社団法人日本図書館協会理事 松本喜一	昭和11年4月17日	印刷	1枚	同一物2部
C-147	6	〔第三十回全国図書館大会開催の件〕	社団法人日本図書館協会理事 松本喜一	昭和11年4月17日	印刷	1枚	
C-147	7	〔築地治作での晩餐の件〕	社団法人日本図書館協会理事 松本喜一 〔発〕	昭和11年5月11日	印刷	1枚	長田富作〔宛〕
C-147	8	注意			印刷	1枚	旅客運賃の割引に関する注意
C-147	9	社団法人日本図書館協会昭和十年度決算書	〔日本図書館協会〕	〔昭和11年〕	印刷	1枚	
C-147	10	〔公共図書館に対する社会認識およびその徹底に関する意見依頼〕	社団法人日本図書館協会理事 松本喜一 〔発〕	昭和11年4月28日	印刷	1枚	長田富作〔宛〕。第30回全国図書館大会における討議用。手書きで題目を指定
C-147	11	第三十回全国図書館大会日程	〔日本図書館協会〕	昭和11年5月5日	印刷	1枚	同一物2部。うち一部の申込箋は切り離されている
C-147	12	文部大臣諮問	〔文部省〕	〔昭和11年〕	印刷	1枚	
C-147	13	第三十回全国図書館大会日程	〔日本図書館協会〕	〔昭和11年〕	印刷	1枚	
C-147	14	協議題十二関スル委員会報告	委員長 山中樵他4人 〔発〕		印刷	1枚	
C-147	15	日本図書館協会協議題提出	〔日本図書館協会〕		印刷	1枚	同一物3部。内2部にメモあり。
C-147	16	文部大臣諮問答申案	答申案調査委員会 小野源蔵他8人	昭和11年5月14日	印刷	2枚	

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
C-147	17	追加協議題	[日本図書館協会]	[昭和11年]	印刷	1枚	提出者 市毛金太郎他4人
D-6		図書館協会					
D-6	1	社団法人日本図書館協会要覧(昭和十年八月)	日本図書館協会	[昭和10年8月]	印刷	1枚	
D-6	2	昭和十八年度通常総会並部会総合協議会開催通知	日本図書館協会会長 高柳賢三	昭和18年5月1日	印刷	1枚	出席表切り取り。付:委任状(印刷 19×22)
D-6	3	公共図書館部会組織運営要綱最終討議案			ガリ版	4枚	朱入り
D-6	4	[昭和18年5月]日程[メモ]			手書き		大阪府立図書館用箋
D-8		昭和十年二月 日本図書館協会規則等在中					
D-8	1	会員名簿 昭和八年一月三十一日現在	日本図書館協会	昭和8年4月15日	印刷	62頁	
D-8	2	会員名簿 昭和十二年一月三十一日現在	日本図書館協会	昭和12年4月28日	印刷	66頁	
D-8	3	社団法人日本図書館協会要覧(昭和八年九月)	日本図書館協会	[昭和8年9月]	印刷	1枚	同一物3部
D-8	4	社団法人日本図書館協会要覧(昭和十年八月)	日本図書館協会	[昭和10年8月]	印刷	1枚	同一物3部。内1部に朱
D-8	5	評議員選挙規則[昭和十年三月改正]	[日本図書館協会]	[昭和10年3月]	印刷	1枚	
D-8	6	[書簡]長田富作宛	日本図書館協会理事長 高柳賢三〔発〕	昭和17年3月11日	手書き	4枚	日本図書館協会用箋。封筒
D-8	7-1	社団法人日本図書館協会定款改正案			ガリ版	7頁	
D-8	7-2	[昭和十七年度第二回役員会開催通知]	日本図書館協会理事長 高柳賢三	昭和17年7月11日	ガリ版	1枚	理事長田富作〔宛〕
D-8	7-3	部会規則(改正案)			ガリ版	2枚	



D-14		図書館用語調査委員会 帝国図書館内					
D-14	1	図書館用語調査・閲覧事務・第1回 副	〔図書館用語調査委員会〕		ガリ版	12頁	採用印、抹消、修正意見あり
D-14	2	図書館用語調査・閲覧事務・第2回 正・副	〔図書館用語調査委員会〕		ガリ版	6頁	
E-1		〔第32回全国図書館大会関係資料〕					
E-1	1	〔第32回全国図書館大会案内はがき〕	日本図書館協会理事長 松本喜一〔発〕	昭和13年4月15日付	印刷	1枚	
E-1	2	第三十二回全国図書館大会日程	〔日本図書館協会〕	〔昭和13年4月〕	印刷	1枚	
E-1	3	図書館事業功労者芳名簿	日本図書館協会	昭和13年5月	印刷	18頁	
E-1	4	昭和十三年度総会開催通知	日本図書館協会理事長 松本喜一	昭和13年4月15日付	印刷	1枚	メモ書きあり
E-1	5	進言案	委員長 中田邦造, 委員 竹内善作ほか7名	昭和13年5月12日	印刷	4枚	図書館ノ立場ヨリスル国民教育革新案。第三十二回全国図書館大会議長 松本喜一〔宛〕
E-1	6	特殊図書館部会ヨリ一般協議会へ提出ノ協議題			印刷	1枚	
E-1	7	大会追加協議題	朝鮮総督府図書館 玉井 徳重〔発〕		印刷	1枚	
E-1	8	評議員会（五月九日）〔議題〕			印刷	1枚	メモ書きあり
E-001	9	皇軍慰問感謝電報案	全国図書館大会代表 帝国 図書館長 松本喜一名		印刷	1枚	
E-1	10	日本図書館協会昭和十三年度総会出席者 名簿	〔日本図書館協会〕	昭和13年5月9日	印刷	1枚	
E-1	11	第三十二回全国図書館大会出席者名簿	〔日本図書館協会〕	昭和13年5月10 - 12日	印刷	1枚	
E-1	12-1	〔昭和十二年度決算承認願〕	日本図書館協会理事長 松本喜一	昭和13年5月6日付	印刷	1枚	
E-1	12-2	社団法人日本図書館協会昭和十二年度決 算書	〔日本図書館協会〕		印刷	1枚	同一物2部あり。うち一部にメモ書きあり
E-1	12-3	〔五月九日評議員会への出欠回答依頼〕	日本図書館協会理事長 松本喜一	昭和13年5月6日付	印刷	1枚	

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
E-1	13-1	〔進言案 下書き〕	〔長田富作〕		手書き	5枚	大阪府立図書館用箋
E-1	13-2	〔進言案 下書き〕	〔長田富作〕		手書き	〔8頁〕	コヨリ綴じ。大阪府立図書館用箋
E-1	13-3	教育審議会ニ対シ教育革新ノ重要事項トシテ図書館教育ヲ刷新振興セラルハヤウ案ヲ具シテ進言スルノ件	〔長田富作〕		手書き	〔6頁〕	E-1-13-1、E-1-13-2の清書。大阪府立図書館用箋
E-1	14	〔大阪朝日新聞切抜き〕	〔大阪朝日新聞〕	〔昭和13年5月2日〕	印刷	1枚	
E-10		日本図書館協会評議会					
E-10	1	評議員会報	〔日本図書館協会〕	昭和12年5月28日	印刷	1枚	
E-10	2	社団法人日本図書館協会昭和十一年度決算書	〔日本図書館協会〕	〔昭和12年〕	印刷	1枚	
E-10	3	〔書簡〕長田富作宛	日本図書館協会理事長 松本喜一	〔昭和12年2月25日〕	印刷	1枚	はがき

#### 4 中央図書館長協会関係

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
C-104		〔昭和十五・六年度理事選挙結果当選通知〕	中央図書館長協会 松本喜一〔発〕	昭和16年2月1日	ガリ版	1枚	長田富作〔宛〕
C-116		〔中央図書館協会昭和15年度総会〕					
C-116	1	〔中央図書館長協会より調査の依頼〕	中央図書館長協会常務理事 松本喜一〔発〕	昭和16年1月11日	ガリ版	1枚	長田富作〔宛〕
C-116	2	〔昭和十五年度総会の承認の件〕	中央図書館長協会常務理事 松本喜一〔宛〕	昭和16年1月11日	ガリ版	1枚	
C-116	3	中央図書館長協会誌第三号刊行要項		年2月10日	ガリ版	1枚	
C-116	4	道府県図書館協会調査 昭和十六年一月一日現在		〔昭和16年〕	ガリ版	1枚	調査事項の列記。C-116-1と同じ

C-116	5	中央図書館長協会昭和十四年度決算書			ガリ版	1枚	C-116-2の別紙
C-116	6	中央図書館長協会昭和十五年度予算			ガリ版	1枚	C-116-2の別紙
C-120		中央図書館長協会第三回協議会記念写真		昭和10年5月8日	写真	1枚	名前(17×19 ガリ版 1枚)あり
C-123		[中央図書館長協会〔昭和11年5月〕]					
C-123	1	中央図書館協会昭和十一年度総会日程	[中央図書館長協会]	昭和11年5月15日	印刷	1枚	
C-123	2	中央図書館長協会昭和十一年度予算	[中央図書館長協会]	[昭和11年]	ガリ版	1枚	昭和十年度決算書(1枚)も付く
C-123	3	中央図書館長協会会員名簿	[中央図書館長協会]	[昭和11年]	印刷	1枚	手書きで「昭和11年5月中央図書館長会議」とあり
C-123	4	大阪府立図書館奏任司書に関する件	[大阪府立図書館]	[昭和11年]	手書き	1枚	
C-123	5	[昭和11年度分会費]領収書	中央図書館長協会常務理事 松本喜一〔発〕	昭和11年5月	手書き	1枚	長田富作〔宛〕。郵便はがきに記載
C-123	6	中央図書館長協会昭和十一年度総会記念撮影	[中央図書館長協会]	[昭和11年]	写真	1枚	毛利宮彦「図書館研究所の設立を要望す」のちらしの裏にメモ書きされたものが付く
C-130		[中央図書館長協会〔昭和12年11月〕]					
C-130	1	中央図書館長協会総会並びに協議会開催の件	中央図書館長協会常務理事 松本喜一〔発〕	昭和12年10月16日	印刷	[4頁]	長田富作〔宛〕
C-130	2	中央図書館長協会協議会開催の件	中央図書館長協会常務理事 松本喜一〔発〕	昭和12年10月19日	印刷		長田富作〔宛〕。別紙あり。「中央図書館長協議会ニ関スル件」につき大阪府学務部長に通知したことを知らせる
C-130	3	中央図書館長協会会議議題 大阪府立図書館提出	[大阪府立図書館]	[昭和12年]	手書き	1枚	大阪府立図書館用箋。公立図書館員の奏任官待遇の員数に制定するように決議する件
C-130	4	中央図書館長協会会報	[中央図書館長協会]		ガリ版	[10頁]	昭和十一年度総会記録
C-130	5	昭和十一年度中央図書館長協会総会協議議題	[中央図書館長協会]	[昭和11年]	ガリ版	2枚	同一物2部。各書き込みあり。
C-130	6	協議議題	[中央図書館長協会]		ガリ版	1枚	
C-130	7	中央図書館長協会協議会決議事項	[中央図書館長協会]			2枚	昭和7年度—10年度決議事項

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
C-130	8	[支那事变出征将兵の] 遺家族に対する 無料閲覧優待券交付のための証明書	大阪府立図書館長 [発]	昭和12年9月13 日	印刷	1枚	各市区町村〔宛〕
C-130	9	大阪府立図書館規則および大阪府立図書館 館外帯出規則	[大阪府立図書館]		印刷	1枚	両面使用。C-73と同一
C-130	10	第三号議案昭和十二年度大阪府立図書館 歳入歳出予算書		昭和11年11月24 日	印刷	5枚	「昭和十二年度大阪府立図書館歳入予算説明」と「昭和十二年度大阪 府立図書館歳出予算説明」あり
C-130	11	記			手書き	1枚	「欧州戦争後各国ニ於ケル傷病兵ニ対シテ執レル措置如何…他」
C-137		[中央図書館長協会〔昭和13年5月〕]					
C-137	1	中央図書館長協会昭和十三年度総会開催 の件	中央図書館長協会常務 理事 松本喜一〔発〕	昭和13年4月30 日	印刷	1枚	
C-137	2	中央図書館長協会会員名簿		昭和13年5月1日	印刷	1枚	
C-137	3	中央図書館長協会昭和十二年度決算書 中央図書館長協会昭和十三年度予算案		[昭和13年]	ガリ版	4頁	
C-138		[中央図書館長協会〔昭和11年5月〕]					
C-138	1	[第二回中央図書館長会議開催の件]	中央図書館長協会 常 務理事 松本喜一〔発〕	昭和11年10月26 日	印刷	1枚	長田富作〔宛〕
C-138	2	[中央図書館長協会会費納入の件]	中央図書館長協会常務 理事 松本喜一〔発〕	昭和11年12月	印刷	1枚	大阪府立図書館長 長田富作〔宛〕
C-138	3	中央図書館長協会昭和十一年度総会開催 の件	中央図書館長協会常務 理事 松本喜一〔発〕	昭和11年4月21 日	印刷	1枚	長田富作〔宛〕
C-138	4	中央図書館長協会会報		[昭和10年]	ガリ版	[8頁]	第3回協議会を含む
C-138	5	理事ノ事務執行ニ関スル件			ガリ版	1枚	
C-138	6	調査委員会規則		[昭和5年11月11 日]	ガリ版	1枚	日付は理事会における決定の日
C-138	7	議題			ガリ版	1枚	書き込み多数あり

C-144		中央図書館長協会〔昭和10年5月〕					
C-144	1	昭和十年度総会第三回協議会日程		[昭和10年]5月8日・5月9日	ガリ版	1枚	
C-144	2	協議会参考資料		[昭和10年]	ガリ版	4頁	
C-144	3	文部大臣祝辞	文部大臣松田源治	昭和10年5月8日	ガリ版	1枚	
C-144	4	答申案	委員長 貞松修蔵ほか6人〔発〕	昭和10年5月9日	ガリ版	1枚	中央図書館協議会議長 松本喜一〔宛〕
C-144	5	中央図書館長協会昭和九年度決算書 中央図書館長協会昭和十年度予算書	中央図書館長協会	[昭和10年]	ガリ版	[4頁]	
C-144	6	中央図書館長協会第三回協議会		昭和10年5月8・9日	ガリ版	[2頁]	書き込み多数あり
C-144	7	昭和十年度中央図書館長協会協議会文部大臣諮問答申案概要	青森県中央図書館長	[昭和10年]	ガリ版	1枚	
C-144	8	領収書	中央図書館長協会常務理事 松本喜一〔発〕	昭和10年5月8日	ガリ版	1枚	郵便はがき
C-144	9	図書館普及調への調査依頼 調査表	中央図書館協会会長常務理事 松本喜一	昭和10年4月9日	ガリ版	4頁	内、調査票(3頁分)は大阪府立図書館用箋の裏

## 5 その他

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
B-1		読書標 第27号	東京朝日新聞調査部	昭和4年1月	印刷	1枚	古本と写本(名倉聞一) 画題としての読書(仲田勝之助) 新刊分類(11月1日~12月末日までの寄贈分) 雑誌記事索引(11月11日~12月30日までの寄贈分)
袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
B-2		職業指導調査協議会答申	文部省社会教育局	昭和9年3月	印刷	40頁	協議事項「雇傭主団体、労働団体等ノ産業的諸団体、図書館、博物館等ノ社会教育施設又ハ市民館、感化院等ノ社会事業施設ノ協力ヲ求ムルコト」に対する答申
B-5		和英両用 高速式東洋タイプライター 万能型 文字配列表		昭和4年4月	印刷	1枚	
B-11		『自然科学と博物館』第拾九号	東京科学博物館	昭和6年7月1日	印刷	16頁	
B-17		『財海時雨』草稿又は抜書			手書き	[11頁]	田尻稲次郎『財海時雨』(大正2年および3年頃)のうち「英国ノ繁栄并ニ保護政策ノ無効」の部分。会計検査院用箋を用いた頁もあり。

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
B-21		明治廿三年五月三日府立大阪博物場ニ昭憲皇太后御真影下賜奉安式写真			写真	1枚	
C-2		職業指導調査協議会答申（中学校ニ於ケル職業指導施設要項）	文部省社会教育局	昭和11年3月	印刷	14頁	
C-3		昭憲皇太后行啓五十周年記念第参回郷土陶器展覧会出品目録	[府立大阪博物場]	[昭和15年]	印刷	1枚	昭和15年5月10日から16日。於：府立大阪博物場。同一物9部
C-5		[施設見学に対する礼状]	文部省科学局調査課長青戸精一 [発]	昭和19年6月27日	印刷	1枚	長田富作 [宛]。大日本帝国政府用箋
C-7		昭憲皇太后行啓五十周年記念第参回郷土陶器展覧会出品目録	[府立大阪博物場]	[昭和15年]	印刷	1枚	C-3と同じ。朱入り
C-8		不明					
C-10		昭憲皇太后行啓五十周年記念第参回郷土陶器展覧会出品目録	[府立大阪博物場]	[昭和15年]	印刷	1枚	C-3と同じ。同一物8部
C-13		臨川書店新収書目	臨川書店	昭和10年10月2日	ガリ版	16頁	
C-19		〔「勤皇護国ノ忠臣烈士先覚者顕彰運動」顕彰委員委嘱状〕	大政翼賛会大阪府支部支部長三辺長治 [発]	昭和18年2月9日	印刷	1枚	顕彰委員殿 [宛]。「18.2.10 三輪」の收受印あり
C-20		〔勤皇護国ノ忠臣烈士先覚者顕彰委員会小委員決定通知〕	大政翼賛会大阪府支部事務局長 藤岡長和 [発]	昭和18年3月1日	印刷	1枚	長田富作 [宛]。「18.3.2」の收受印あり
C-46		[大阪府立夕陽丘高等女学校落成式]					
C-46	1	落成式次第	大阪府立夕陽丘高等女学校	昭和10年5月10日	印刷	1枚	
C-46	2	改築落成記念図書習字展覧会目録	大阪府立夕陽丘高等女学校	昭和10年5月10・11・12日	印刷	1枚	
C-46	3	大阪府立夕陽丘高等女学校落成式会場略図	[大阪府立夕陽丘高等女学校]	[昭和10年5月10日]	印刷	1枚	
C-46	4	学校概覧	[大阪府立夕陽丘高等女学校]	[昭和10年5月]	印刷	52頁	
C-46	5	改築落成記念	大阪府立夕陽丘高等女学校	[昭和10年5月]	印刷	23頁	
C-61		紀元二千六百年奉祝国威宣揚展覧会	紀元節奉祝会	[昭和15年]	印刷	2枚	展覧会の趣旨

C-62		〔紀元二千六百年奉祝国威宣揚展覧会につき資料出品依頼〕	紀元前奉祝会長 半井清〔発〕	昭和15年1月18日	ガリ版	1枚	府立図書館長〔宛〕。『日本書紀』30巻12冊。慶長15年活版。紀元節奉祝会用箋
C-65		朝日新聞社懸賞募集代用品発明考案展覧会出品目録	朝日新聞社	〔昭和13年〕	印刷	34頁	昭和13年11月15日から27日。於：大阪朝日会館
C-118		感謝状	朝日新聞社会事業団理事 村山龍平〔発〕	昭和7年12月29日	印刷	1枚	大阪府立図書館〔宛〕
C-119		感謝状	朝日新聞社会事業団〔発〕	昭和5年12月14日	印刷	1枚	大阪府立図書館〔宛〕
C-128		中央図書館長会議		昭和9年5月	印刷	〔4頁〕	文部省第三会議室。文部大臣諮問に対する答申案（28×40 1枚）あり。
C-129		京都名勝	京都市観光課	昭和7年3月31日	印刷	75頁	
E-7		昭憲皇太后行啓五十周年記念 第三回郷土陶器展覧会出品目録 昭和15年5月自10日至16日	〔大阪府立博物場〕	〔昭和15年5月〕	手書き	1枚	封筒のみ
E-9		〔中央図書館長会議関係書類〕					
E-9	1	〔書簡〕長田富作宛	林繁三	〔昭和11年〕10月27日	手書き	2枚	封筒なし
E-9	2	〔書簡〕長田富作宛		〔昭和11年〕11月7日	手書き	1枚	付：大阪府立図書館奏任司書に関する件（手書き）。封筒なし
E-9	3-1	中央図書館長会議要項	〔中央図書館長会議〕	昭和11年11月13日・14日	印刷	4頁	
E-9	3-2	〔諮問事項答申案〕	岡山 武藤正治	〔昭和11年11月〕	手書き	6頁	岡山県立図書館用箋
E-9	3-3	〔協議題諮問事項同答申案〕	〔千葉県〕	〔昭和11年11月〕	手書き	4頁	千葉県立図書館用箋
E-9	3-4	協議題追加富山県提出	〔富山県〕	〔昭和11年11月〕	印刷		富山県告示第313号「図書館事業奨励規程」（25×18 印刷 4頁）。「富山県図書館状況 昭和10年4月1日現在」（28×49 印刷 1枚）あり。
E-9	3-5	参考資料	〔長野県〕	〔昭和11年11月〕	ガリ版	1枚	「長野県最近ノ予算」他
E-9	4	諮問事項答申案		〔昭和11年11月〕	印刷	2枚	句読点等書き込みあり。案の下書き（手書き）あり。大阪府立図書館用箋（2枚）、文部省用箋（16枚）、乙部泉三郎用箋（1枚）
E-9	5	昭和十一年十一月十三日全国中央図書館長会議ニ於ケル平生文部大臣訓示要領	〔文部省〕	〔昭和11年11月〕	印刷	8頁	付：「中央図書館長会議出席（昭和十一年）（印刷 2枚）」と「同訓示に対する謝辞原稿」（手書き 4枚）

# 翻刻『大坂御加番御徒目付役諸事勤方帳』

大阪府立中之島図書館

小笠原 弘之 八木 美恵

大阪府立中央図書館

北川 敬子 苗村 昌世 日置 将之

山田 瑞穂 佐藤 敏江

はじめに

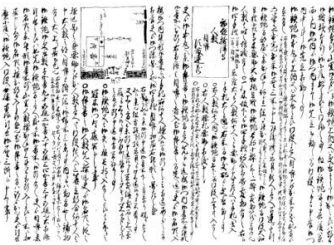
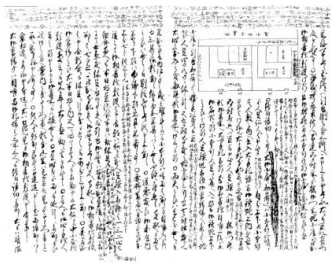
『大坂御加番御徒目付役諸事勤方帳』 須藤正峯著 四九八・一三六

嘉永五年二月〜翌年八月にかけて、大坂城山里丸御加番を勤めた鳥羽藩主稲垣撰津守長明の家臣須藤正峯（御徒目付）による事務控。

『大坂上町組御宿控』 文書二七〇

天保八年の大塩の乱により大坂三郷の五分の一が焼失した。本資料は、一年後の天保九年に、天保の乱で焼失した町に替り、御番衆のための宿を依頼された町名と、その対応のための手順を記したものである。

〈大坂御加番御徒目付役諸事勤方帳〉



〈大坂上町組御宿控〉



## 凡例

底本に忠実を旨としたが、通読の便を考慮し、句読点、帰り点等は適宜これを施した  
異体字は通行の字体に改めた

判読出来ない文字は□で、確定できない文字については（カ）を付して表示した  
書き間違いと思われる部分については（ママ）を付して表記した

訂正の部分は取り消し線を引き、加筆部分は青字で、欄外の書き込みは朱字で表示した



大坂御加番御徒目付役諸事勤方帳

嘉永五壬子年

大坂

御徒目付役諸事勤方帳

御加番

二月方 須藤正峯控

御役之覺

一御家老 稻垣九郎兵衛 右御同人病氣帰足に付代 稻垣六郎右衛門

一御用方 稻垣源右衛門 一御目付者頭兼 稻垣直左衛門

門野豊右衛門

一御米方 大須賀小左衛門 一御破損方 大川與左衛門

朝比奈十郎左衛門 下村右狩

一御鉄砲方 鈴木 央 一御納戸 山田 實

遠藤三左衛門 稻垣 東

一御用御取次 稻垣要人 一御供頭 稻垣要人

但大坂に而被<sub>レ</sub>仰付<sub>一</sub> 稻垣左門

左門帰足に付代

山本 栄

山本 栄

水野直三

○御逢之儀御在坂中に 一御左り 山本 栄  
五六度罷出候様被<sub>レ</sub>仰出<sub>一</sub>候 猶繁勤之御場所故老入 栄代 稻垣 信(カ)

先罷出候様御沙汰候事 一押 鈴木新兵衛 吉村吉之助

十一月五月卜両度兩人ツ、罷出候事 木村銀之助 植木豊作

○御家老へ御用伺一二ヶ月置に罷出候事 豊作 病氣 木村鎌二郎  
○町廻り度と罷出候事 帰足に付代話

一二月十日去二日 殿様大坂御加番被<sub>レ</sub>蒙<sub>レ</sub>仰候。御差込着

一同日夕、江戸表方御足輕兩人御奉書持参。道中九日切に而着有<sub>レ</sub>之。峠御門迄當方御足輕迎に罷出、御廣間給人中取次御席江被<sub>レ</sub>上候事。若夜に入候は、御門と開門提灯付候様者頭中

方夫と御門と江達有之候趣、右同役に而者構無之候得とも承分迄達候旨被仰聞候事  
一同十二日、前日惣触有之。去二日 御奉書當秋大坂御加番大久保佐渡守様御代被蒙仰  
候に付、四ツ時平服に而一統登 城御祝儀有之候事

一御發駕御書付に而左之通被仰出候事

當秋大坂御加番被蒙仰候付、来月十三日御發駕被遊御参府候事 閏二月十一日

一角熊文内、遠藤喜四郎、須藤連藏當秋大坂御加番之節御供詰被仰付候段、於二ノ丸一弥  
次右衛門殿被仰達候事。右に付両御支配宅御受到罷越候事

附り右御受は御月番計に而宜候処、少と行違也 右三月十日

一此節同役名順連藏、文内、喜四郎、嘉藏、鉄藏、吉之丞也。但吉之丞未江戸詰不致候共、  
此度之大坂詰は、江戸詰口に不拘名順に被仰付候事。尤弘化度も右之通に御座候事

一稲垣直左衛門殿同様被仰付、猶又者頭加人被仰付候旨同日達有之。右に付詰三人之  
者一緒に翌十一日祝儀且頼旁宅江参、面會之上申述候事

一御發駕前日御機嫌伺、後支配方達有之。御書院江御徒士格以上列座、御前出御御加番  
に付而之 御意并御供之九郎兵衛殿被仰渡有之。又御用部屋御條目續之畢而御留主居  
残之者へ 御意并頼母殿被仰渡有之。右御書付類者頭并大川与左衛門殿江被相渡、夫  
方御前入御一統溜とへ引取、其上に而溜とに而拝見仕候事。御受御席両支配宅江罷越ス。餘者  
日記に有之 ○右御事付類拝見仕候而已に而、追而は出不申候。依而御支配に借用致し  
被仰出帳江留置申候。尤御留守之方は不留候事 右三月十二日

一稲垣九郎兵衛殿大坂御加番御供詰被仰付候段達有之。併而銘と祝義罷越申候事

右三月九日

一御取扱向弘化度之通被下置候段、直左衛門殿被仰達候、右に付三人共両御支配宅へ  
御礼に罷越候事 右五月十一日

一御判金并二夕詰日に付先例之通耆兩ツ、拝借被仰付候様、右三人共一緒に嘉藏相頼願貫  
申候事。但何レも口上願也 右六月二日

一御判金願通被仰付候段達有之。両支配宅江御礼に罷越ス。且二度め詰拝借者別と達無  
之候事 右六月十日

一御小屋割被差出一候。且御組目付此度は耆人に付、各方先年与は御繰合に而相違致候間承  
分迄申達候旨被仰聞候事 右六月十日

一大坂御供詰に付、三人共神文被仰付候旨、弥次右衛門殿方達有之、御受御同人江申上  
即御同人宅に而仕候。相濟御礼両御支配宅江申上。但直左衛門殿月番成共大坂詰故、弥次右

衛門殿取計与相見申候事 右六月十二日

一三人之者桐油合羽注文書直左衛門殿江差出、猶又御貸人老人ツ、被<sub>レ</sub>仰付<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>カ<sub>レ</sub>下候様是又御同人江申上候事 右同月廿八日

一印形取之儀御納戸御小屋詰之節は不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>取、部屋に罷居候節計取可<sub>レ</sub>申。又左門義九郎兵衛殿与相宿に候<sub>レ</sub>共、取可<sub>レ</sub>申旨直左衛門殿方達有<sub>レ</sub>之

一御旅館方京橋口迄之御行列帳に、自分義箱提灯之印付有<sub>レ</sub>之候に付、勘右衛門に聞合候処、弓張提灯相用、箱提灯者三人共持参不<sub>レ</sub>仕候段、且御行列揃候に手提灯に無<sub>レ</sub>之而は不<sub>レ</sub>弁利に御座候旨申聞候間、右之趣直左衛門殿江申上候処、先年も左様候へは如何様手提灯に而可<sub>レ</sub>然旨被<sub>レ</sub>仰聞<sub>レ</sub>即弓張提灯計致<sub>レ</sub>持参<sub>レ</sub>候事 右二ヶ条六月廿八日

一九郎兵衛殿御不快に付御道中御供御免稻垣六郎右衛門殿立帰被<sub>レ</sub>仰付<sub>レ</sub>候。尤御全快次第御出坂可<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>之旨被<sub>レ</sub>仰達<sub>レ</sub>候事 右七月五日

一御武器廿二日立卜御書付に有<sub>レ</sub>之候処、右者書損に而廿三日立に候間、左様相心得候様直左衛門殿被<sub>レ</sub>仰聞<sub>レ</sub>候事 右 七 月 十 八 日

一御武器懸改に付、弘化度は勘右衛門不<sub>レ</sub>罷出<sub>レ</sub>候趣に候<sub>レ</sub>共、此度は拙者者頭心得に而参候間、自分にも罷出候様直左衛門殿被<sub>レ</sub>仰聞<sub>レ</sub>即御本城へ罷出、懸廻立會致候。委細は直左衛門殿被<sub>レ</sub>下候別帳に有<sub>レ</sub>之。右御武器廿二日御本城方下會所江下ヶ置候間、右方廿三日に被<sub>レ</sub>立<sub>レ</sub>候段被<sub>レ</sub>仰聞<sub>レ</sub>候。又人馬共自分義構無<sub>レ</sub>之、拂方木村八三郎并御賄下役北川元治取計申候事 右七月十九日

一詰三人之者江咄之義も有<sub>レ</sub>之候間、今夕拙宅へ被<sub>レ</sub>参候様直左衛門殿被<sub>レ</sub>仰聞<sub>レ</sub>即三人共罷越候。又小頭録蔵、御組目付八右衛門も参候。少と御咄之義有<sub>レ</sub>之。録蔵は被<sub>レ</sub>帰、三人与八右衛門へ酒被<sub>レ</sub>出候。五ツ過帰申候事 右七月十九日

一廿四日立之面とは六郎右衛門殿御引纏之訳に候間、右に被<sub>レ</sub>相心得<sub>レ</sub>、尤朝熊村に而御待合可<sub>レ</sub>申問合之向も有<sub>レ</sub>之候は、右に申通候様直左衛門殿被<sub>レ</sub>仰聞<sub>レ</sub>候事

一喜四郎儀、人数繰出之節目明相勤候様被<sub>レ</sub>仰出帳に有<sub>レ</sub>之候<sub>レ</sub>共、御供に而御城入致候<sub>レ</sub>は、未荷持取入に不<sub>レ</sub>相成<sub>レ</sub>、積間に合不<sub>レ</sub>申。依而難<sub>レ</sub>勤旨申上候処、最早御届に相成、只今繰替難<sub>レ</sub>出来<sub>レ</sub>候間、都合致相勤候様被<sub>レ</sub>仰聞<sub>レ</sub>、右者分合違之事成共外と之儀与は違<sub>レ</sub>候事故、立付供人に為<sub>レ</sub>持参<sub>レ</sub>相勤候様可<sub>レ</sub>致与申合候事

一其許喜四郎御殿(カ)小屋住居之处、山里丸印形取之儀に付、喜四郎繰上、文内同居に被<sub>レ</sub>仰付<sub>レ</sub>候。依而下小屋其許老人に相成候に付、泊之義者御用捨被<sub>レ</sub>仰付<sub>レ</sub>候段、直左衛門殿被<sub>レ</sub>仰聞<sub>レ</sub>候事 右七月廿二日

一銘と勤向被仰出帳に而承分仕、別段御受等不<sub>二</sub>申上<sub>一</sub>相勤候事

一御先荷并船荷持出触有<sub>レ</sub>之、銘と勝手次第差出候事

一火事羽織持参并陣笠手鷲持参心得之事

一為<sub>二</sub>御先用<sub>一</sub>御奉行朝比奈十郎郎左衛門殿御吟味役、御買物方兼館野与兵衛、御勘定方小宮山利八上京、市大夫七月五日出立之事

一七月廿二日、明日御武器被<sub>二</sub>差立<sub>一</sub>自分附添に而出立に付、夕方御用伺可<sub>レ</sub>参処、御寄合に而御退出遅く六ツ半時分御引有<sub>レ</sub>之。夫方一二軒参豊右衛門殿へ参候処、昨廿一日方今朝迄大風雨に付宮川支候趣に付、明日出立之向者御差留に相成候段、尤御馬役多為<sub>二</sub>水見<sub>一</sub>被<sub>二</sub>差遣<sub>一</sub>候趣被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候に付直様引取、直左衛門殿へ罷出伺候処、只今呼に遣候処也。明日之出立宮川支に付御差留に相成候。明朝否哉可<sub>レ</sub>達旨被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候事

但弘化度者 御在城に付、勘右衛門御武器附添に而出立、前夕御納戸迄御機嫌伺に罷出候処、御納戸範三殿暫御扣被<sub>レ</sub>下候様被<sub>二</sub>申聞<sub>一</sub>扣居候処、只今お前御入湯被<sub>レ</sub>遊候間 御逢<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>遊候。外に御用等も無<sub>二</sub>御座<sub>一</sub>候様範三殿被<sub>二</sub>申聞<sub>一</sub>候に付、引退候趣也。當年は江戸方御立に而御留守也

一同廿三日天キ、早朝に直左衛門殿方今朝辰ノ刻宮川明候趣に付、支度次第出立致候様被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候。然処五ツ時分方御寄合之趣に付、五ツ時過<sub>二</sub>之丸江罷出御年寄、御用人両御支配江御用伺申上引取、其方仕度致九ツ前出立、拂方木村八三郎、才領木村吉之助同道に而下會所へ参、右に而何<sub>レ</sub>方も引渡与申候事も無<sub>レ</sub>之、小頭録藏罷出居世話致申候即御長持持左之通

一御武器長持 式棹 一御鉄砲長持 三棹 一御幕箱 老棹 一貝太鼓 老棹

一御矢箱 式荷 一御旗棹 老包 一御長柄 四包 外に御納戸長持 老棹

右御長持鍵二本直左衛門殿方自分江御渡し有<sub>レ</sub>之。御着阪之上御同人江差上候事

○右迄人足持也

一御弓 式包 一桐油 老包 一合薬 老箱 〆右馬荷に而輕尻老疋也

但宮川支に而馬<sub>レ</sub>参 右も小俣村迄人足持出に相成申候事

一本町口御門開門大御門方罷出、自分義着流に而羽織着用に而出立。且供人老人召連候事  
○何<sub>レ</sub>にも今晚松坂宿迄参候様被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候事。但右人足并先触等自分構無<sub>レ</sub>之、八三郎并御賄下役北川元治取計申候。弘化度は人足入込七ツ時に付御門断、勘右衛門方御支配江申上候趣。此度者右等之義も都而元治取計候旨同人申聞候事

一自分本馬老疋被<sub>レ</sub>下、右代拂方八三郎方式貫七百十六文受取。尤荷物は御先荷へ差出、五昼食代上下式人分同人方受取供人之分は相渡す。又旅籠者自分上下共八三郎拂申候。伏見船

同断之事

一 門野豊右衛門殿四日市宿江御出迎に付今朝出立 ○小野沢卓之助御馬老疋率、是又今朝出立 ○御先荷も今日出立之処、馬不<sub>レ</sub>參候に付人足持出に相成、亥刻出立に相成候趣之事 ○大雨に而道筋誠に大荒也

一 宿と本陣泊之事、松坂江子刻着 ○廿四日天キ関泊 ○廿五日天キ石部泊 ○廿六日天キ伏見着、御用達部屋江參来旅籠に而亥刻時分乗船ス。五十石船老艘借切之事。御先荷も始終一緒に參候。併船は別に老艘借切申候事 ○草津宿問屋に而大津宿迄矢場瀬之船に乗具候様、尤諸家様共左様に候段申一札差出相頼候趣、八三郎申聞即船に乗申候。尤着坂之上何<sub>レ</sub>も不<sub>二</sub>申達<sub>一</sub>候。弘化度も右之通之趣勘右衛門

方傳達有<sub>レ</sub>之候。但人足賃錢并之通問屋拂申候。船は頼に依而乗候事故船賃者人足方出候様子、當方構無<sub>レ</sub>之候事

附り大津方伏見迄之間、藪下之立場宮様御門前に相成心得可<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>之事

一同廿七日天氣、六ツ半過大坂江着船ス。八軒屋江政田屋権次郎手代出居、久宝寺町迄下ヶ候様申聞即、右之処江船着何<sub>レ</sub>も上陸、自分儀着流に而羽折着用ス。御長持は政田屋手代世話致し、御武器宿追手町灘屋源藏方庭江運入候に付、弘化度は土藏借入鍵ヲロシ置候段勘右衛門に承候間、其段御吟味役与兵衛并政田屋手代共懸合候得共早速不<sub>二</sub>取極<sub>一</sub>候間、先自分義十郎左衛門殿下宿參、只今着坂致候段申述、且御武器置所之儀申達候処、早速土藏借入候様可<sub>二</sub>申付<sub>一</sub>旨被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候間、下宿割も出来に付自分義下宿へ引取罷在候。八三郎、吉之助も暫右に罷在候へ共程も不<sub>レ</sub>分候に付、是又下宿へ引取申候。然処暮とに十郎左衛門殿方何<sub>レ</sub>様に而も右に被<sub>二</sub>差置<sub>一</sub>候趣、尤先年は彼<sub>レ</sub>之処差支候に付、外土藏借受に相成候得共、此度は右之処へ差置可<sub>レ</sub>申、又番等も不<sub>レ</sub>付候間左様に致<sub>二</sub>承分<sub>一</sub>候様被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候。但合薬は火之元之処も有<sub>レ</sub>之に付政田屋土藏へ為<sub>二</sub>入置<sub>一</sub>申候事

一 御先荷持は銘と下宿ととへ政田屋人運入申候事

一 御本陣先達而借受有<sub>レ</sub>之。御吟味役与兵衛昼夜相詰罷在候。鴻池より先例之趣に而左之通差出候趣也

一 懸物 式幅 一刀掛 一長熨斗 一硯箱

弘化度は勘右衛門早ク着坂致し居候故欵 右御本陣受取之節、小左衛門殿差圖に而罷出申候趣也

一同廿八日天キ、御本陣鏑御長柄十筋、并御玄関御床鏑御弓五挺、御鉄砲五挺、自分罷出差出、御吟味役江相渡ス。其外六郎右衛門殿、左門殿方預之品と夫と江相渡申候事

附り 御弩俵之義被<sub>二</sub>仰出<sub>一</sub>には無<sub>レ</sub>之候へ共、御床もサムシク、且外様に者御矢箱、御玉箱等御差置之御家も有<sub>レ</sub>之候間、右御差出之方宜様高木要助申聞、又皆とも右有<sub>レ</sub>之方能相見江可<sub>レ</sub>然様申候に付、十郎左衛門殿へ其段自分方伺候処、如何様被<sub>二</sub>差置<sub>一</sub>而可<sub>レ</sub>然、若悪敷候は、直左衛門着之上直シ可<sub>レ</sub>申旨被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候間即飾置申候。且直左衛門殿着之上委細申上候処被<sub>二</sub>仰出<sub>一</sub>に無<sub>レ</sub>之候へは、夫は如何に候哉。先明日如何様共可<sub>二</sub>取計<sub>一</sub>旨被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候。然処始終其俣銚置有<sub>レ</sub>之候事

一今日方御本陣内外共御武器其外共御銚付に相成候事

一同廿九日天夜 印形取連藏喜四郎泊り喜四郎殿様昨日御着坂。御日積之処今切大風雨に而渡海無<sub>レ</sub>之。一日

御逗留に相成、今朝五ツ時過御機嫌能御着坂御本陣へ被<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>入候事

但文内御供喜四郎非番に而着之事。尤八軒屋御着船之節、御船場へ例之通路込着用に而喜四郎罷出其積に而着也 ○伏見方大坂迄の御乗船へ文内御供に而乗候趣、弘化度は御

供船江弘人殿同役式人、御組目付与乗組候由、左候へは此度も御船江不<sub>レ</sub>乘与宜御座候事

○木藤久左衛門閑宿迄御供立帰被<sub>二</sub>仰付<sub>一</sub>罷越候。猶又同所迄同役御供加人高森傳左衛門被<sub>二</sub>仰付<sub>一</sub>候事

一御着坂御祝儀六郎右衛門殿下宿へ一席老入ツ、罷越候事

但別段御支配方江者不<sub>二</sub>申達<sub>一</sub>候事

一御着坂之節、弘化度は御先用大須賀小左衛門殿差圖に而、勘右衛門八軒屋江罷出候趣、乍併是は出候に不<sub>レ</sub>及候。非番之同役罷出致<sub>二</sub>世話<sub>一</sub>候事也。依而如何可<sub>レ</sub>仕哉。十郎左衛門殿へ伺候処、被<sub>レ</sub>出候に及間敷旨被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候間、左様候は、御本陣へ罷出可<sub>レ</sub>申旨申上候処、右に而宜段被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候間御本陣へ罷出申候。十郎左衛門殿には礼服に而八軒屋へ被<sub>レ</sub>参候。又御先用に参被<sub>レ</sub>居候与兵衛、利八、市大夫何レも礼服に而御本陣へ罷出候に付承候処、御着之節 御目通江御出迎仕候段申聞候。自分義者左様之義は無<sub>レ</sub>之事故平服に而罷出居、夫と御道具等之差圖致し居無<sub>レ</sub>程下宿江引取申候事

附り 右八軒屋 先年は勘右衛門罷出候処、此度連藏義罷出不<sub>レ</sub>申。右は如何に候哉与直左衛門殿方文内江八月十九日御尋に付、前文之通文内申上候趣、左様成者宜候得共先年は出候事故、御年寄中方御尋に而も有<sub>レ</sub>之候節者如何与存相尋候趣被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候由、文内申聞候事

一今日方同役御本陣江昼老入ツ、相詰吟味役詰所に罷居、尤弘化度は昼交代致、七ツ時分引、又御引ケ時分方泊に出候趣成共、此度者五ツ時分方出、昼引取、又昼過より出、七ツ時分引申候。泊之義は弘化度同様之事。但御奉行詰所江寝ル也 ○日と同様相詰候事

一 御旅館中絹布木綿服取受相用。但羽織袴勤之事

一 御人数改として、印形取之儀今晚方相勤毎夜取之。右改方之義、分而御達無之に付、弘化度之以例伺候処、其通に而宜候段直左衛門殿被<sub>レ</sub>仰聞<sub>一</sub>即、左之通相勤御役人者勿論御米方、御破損方、御鉄砲方并御近習、御納戸者御本陣詰に而代合之節は御用方江被<sub>レ</sub>届候に付取形御用捨、御医師、御坊主は御本陣詰に而も取申候。其外<sub>□</sub>介方以下御足輕迄御本陣詰に而も取形取申候。尤小頭方代役御足輕者別帳に而御組目付に為<sub>レ</sub>取申候。右帳面差上候節者同役方一緒に差上申候。○此度者弘化度与は違、下宿と<sub>と</sub>殊の外遠方に隔居候に付、帳面三冊に致し同役式人に而相勤申度、又堅帳成共御旅館中は日数少に付、横帳に致可<sub>レ</sub>申旨直左衛門殿へ申上候処、右に而宜候段被<sub>レ</sub>仰聞<sub>一</sub>候。依而帳面致<sub>二</sub>式帳<sub>一</sub>東西与式人に而相勤即、六ツ過より御本陣へ罷出政田屋人老人ツ、案内に取、供人召連弓張提灯為<sub>レ</sub>持羽織袴に而相勤候。但し刻限之儀は不定之事。猶又印形無<sub>レ</sub>之者は其人方支配江届書判為<sub>レ</sub>認申候。且引込に而も何<sub>レ</sub>も當人面會之上取候事

○翌朝御年寄、大目付へ口上に而相届ル。然処直左衛門殿方右改帳拙者江可<sub>レ</sub>被<sub>二</sub>差出<sub>一</sub>、夫方御年寄中へ差上候様被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候間、勘右衛門、安太夫扣に左様之義無<sub>レ</sub>之旨申上候処、弘人扣には左様有<sub>レ</sub>之候旨被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候に付即直左衛門殿へ三帳今朝差上申候。尤御旅館中は日と被<sub>二</sub>差出<sub>一</sub>候義成共相替儀無<sub>レ</sub>之候は、夫には不<sub>レ</sub>及段被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候に付、日と御届不<sub>二</sub>申上<sub>一</sub>候事。○右帳面儀并蠟燭御吟味役方受取帳面認方左之通り

嘉永五年  
御旅館中  
改帳  
七月廿九日方

り通之左内

右名  
御組日付へ名前認直ス

右名前日附共同役に而認

右三冊拵内巻冊

御組日付へ名前認直ス

一 晦日 天 印形取文内喜四 郎泊り連藏 大久保様衆方御頼に而、御交代之節御小屋荒候義も有<sub>レ</sub>之候而は如何

に付、締旁其夜御足輕五人程大久保様御家来与成、夕刻方御城入為<sub>レ</sub>致御小屋内江差置候様相成候間、右承分迄申達候旨直左衛門殿被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候事

一 八月朔日雨 印形取連藏文内 泊り喜四郎 八朔御祝儀文内礼服に而、六郎右衛門殿下宿江以<sub>二</sub>手札<sub>一</sub>罷越候

○同役御本陣詰者平服之事

一 戸田淡路守様今朝御着坂有<sub>レ</sub>之候事

一 同日 天 印形取喜四郎連藏 泊り文内 今日仮御城入、明三日御交代御定日之処、御相番様方御道中御

逗留に而御着坂無<sup>レ</sup>之、依而相延申候事

一御城内御繰込翌日昼迄焼出可<sup>レ</sup>被<sup>レ</sup>下<sup>レ</sup>処、渡方も出来候付御繰込當日之昼迄焼出被<sup>レ</sup>下、其夕方銘々用意可<sup>レ</sup>致旨直左衛門殿被<sup>二</sup>仰聞<sup>一</sup>候事

一下宿江為<sup>二</sup>茶料<sup>一</sup>式朱被<sup>レ</sup>下候旨、御吟味役申聞相渡候。尤下宿へは銘々差遣候心得に而可<sup>レ</sup>遣趣也。且別段支配方達無<sup>レ</sup>之御札等不<sup>二</sup>申上<sup>一</sup>候事

一今日夜中大井大隅守様御着坂有<sup>レ</sup>之候事

一同三日<sup>天</sup> 印形取文内喜四郎  
泊り連藏 今夜中永井若狭守様御着坂有<sup>レ</sup>之候事

一同四日<sup>天</sup> 文内連藏  
喜四郎 明五日仮御城入之旨、直左衛門殿被<sup>二</sup>仰聞<sup>一</sup>候。猶又下宿々江右之

趣触込も有<sup>レ</sup>之候事

一明五日御仮御城入に付、御供頭稻垣要人殿方明朝六ツ時過御提灯引御供揃之旨、尤御館<sup>レ</sup>旅中之事故押付、只今触共不被<sup>レ</sup>差出<sup>一</sup>候間、其刻不<sup>レ</sup>遅様可<sup>レ</sup>被<sup>二</sup>罷出<sup>一</sup>候。猶又御中小姓御徒士江は申通候得共、其以下之処各方方夫々へ不<sup>レ</sup>遅様篤与申達可<sup>レ</sup>被<sup>二</sup>下旨被<sup>二</sup>申聞<sup>一</sup>即押へ其段委細申達置候事

一地廻り御供之竹之子笠、此度は未申達候へ共先年之例に而哉。御吟味 一 8  
役にて調置相渡申候即御仮御城入之節方相用候事

一銘々荷物之義政田屋引受、御交代済直様御城内へ繰入申候。右人足に上方腰札相渡り、又下宿々へ政田屋方印鑑相渡置、人足江も為<sup>レ</sup>持右引合数も引合宿方相渡候様政田屋手代申聞候。依而政田屋方荷物数承に参書取申候。又宿へも此方方荷物数書付遣置申候事

一同五日<sup>曇</sup> 曇後  
泊に  
天 今朝御仮御城入に付、御四手様當御本陣へ御揃に而、六ツ半時分御一緒に被<sup>レ</sup>遊<sup>二</sup>御出<sup>一</sup>候。四ツ半時分御下り、夫方両町御奉行御勤、九ツ時前御帰館被<sup>レ</sup>遊候事。右御供御先八人之内御人不足に付、同役兩人に被<sup>二</sup>仰付<sup>一</sup>、文内喜四郎相勤候様被<sup>二</sup>仰聞<sup>一</sup>即兩人相勤。但御先一統麻振子羽織着用申候。尤本股立也。○為<sup>二</sup>御案内<sup>一</sup>御先立老人有<sup>レ</sup>之。大手御門方御城入被<sup>レ</sup>遊候。右土橋石段前にて御先落。○旗(カ)頭願に而羽折供仕候事

附り 弘化度には御先右土橋石段少々上り、旗(カ)頭招き候而下り候趣、跡に而御供頭まで御断申上候趣也

一御武器之儀、御仮御城入御留守之内に御本陣御書院江鋸附置、御城入之節是方繰出可<sup>レ</sup>申候。右鋸付之節自分にも罷出候様、直左衛門殿被<sup>二</sup>仰聞<sup>一</sup>即罷出申候。小頭代役御足輕も出、且御長柄之穂一と紺糸に而留置、庭方御縁側之鴨居之上江穂先を入揃置、其外は御書院へ不<sup>レ</sup>残鋸置申候事

一印形取之儀、弘化度には今晚御用捨、尤席々へ御達は無<sup>レ</sup>之口傳也。此度者御達も無<sup>レ</sup>之に付、



右之通可<sub>レ</sub>致哉、直左衛門殿へ伺候処其通に而宜候段被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候。依而印形取不<sub>レ</sub>申候。尤席と御達は無<sub>レ</sub>之候。右帳面三冊今朝直左衛門殿へ差上、御届申上候。六郎右衛門殿江も口上に而御届申上候事

一御城入之節、若雨天に而も御武器類桐油者不<sub>二</sub>相用<sub>一</sub>候。御人数も先雨具用申間敷候間、右に相心得可<sub>レ</sub>申、尤京橋口迄は用而不<sub>レ</sub>苦候。問合之向も有<sub>レ</sub>之候は、右之趣申通候様直左衛門殿被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候事

附り 右雨天之節は一統桐油相用、頭立候者は笠、草り、下駄着用申候趣、政田屋手代来助与申者御城入後申聞候事

一右同断之節、自分義笠相用候而も不<sub>レ</sub>苦候哉、直左衛門殿へ相伺候処、用候而宜候段被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候事

一御小屋請取御行列、明曉子ノ刻揃惣御行列、同巳ノ刻揃之旨直左衛門殿被<sub>二</sub>仰達<sub>一</sub>候処、其後老統子ノ刻揃之旨又候被<sub>二</sub>仰達<sub>一</sub>候事

但し一統子刻揃之旨下宿と惣触有<sub>レ</sub>之候事

一御小屋受取御行列之内御番所受取之面と、御中小姓格迄裾細、其以下は立付之処、踏込御貸被<sub>レ</sub>成候間、立付之心得に而着用可<sub>レ</sub>致候。尤自身持参之者は、右相用候共勝手次第之旨、直左衛門殿被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候事

一御城入之節 殿様御供之儀者御中小姓格以上裾細、同役并御徒士者ヂンノハシヲリに而御供可<sub>レ</sub>仕旨直左衛門殿被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候事

一同断惣御人数之義は御中小姓格以上裾細、其以下御徒士格迄は立付に而も、又半天、股引、割羽折に而も勝手次第着用可<sub>レ</sub>致候。尤役付に而も同様、不<sub>レ</sub>苦候旨直左衛門殿被<sub>二</sub>仰達<sub>一</sub>候事  
一御繰込後、目明に罷出候節、立付之心得に而踏込相用候て不<sub>レ</sub>苦候旨、御同人より被<sub>二</sub>仰達<sub>一</sub>候事

一右之通、同役何<sub>レ</sub>も踏込着用候而不<sub>レ</sub>苦旨被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候に付、自分義も御繰込之節踏込着用仕度段、直左衛門殿へ申上候処、如何様吟味格之御勘定方までも御貸踏込致<sub>二</sub>着用<sub>一</sub>候様相成候得者、立付の心得にて被<sub>二</sub>相用<sub>一</sub>候而不<sub>レ</sub>苦候段被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候事

一御城入早速諸帳面入用に付、半紙御吟味役方受取、御旅館に而左之通拵置申候 ○改帳上下に而三冊 但し  
縦帳 ○御鑑札貸渡帳一冊 但し  
同断 ○小札貸渡帳一冊 但し  
同断 ○内御札場御鑑札書入帳一冊 但し  
横帳 ○外御札場帳一冊 但し  
同断 但し認方其所とに記置候事

一御旅館中同役見計、下宿と其外忍廻致申候事。又遠廻り見計両度計致申候。尤弘化度は老度之趣に候共、御逗留長相成候に付右之通相勤申候事

一御繰込之節 殿様御供其外御小屋受取并惣御人数共ヒキハダ相用申候。又草り着用申候事  
附り 格式以上之面と多分割羽織被<sub>二</sub>相用<sub>一</sub>申候事

一同六日<sup>キ</sup> 老統子ノ刻御本陣江罷出<sub>但子ノ刻御本陣方</sub> 無<sub>レ</sub>程御小屋受取之面と行列に而繰出、  
京橋迄罷越土橋向江揃置、文内与大和抱足輕小頭高木要助与兩人に而人数篤与調置、夫方要  
助外張御番所へ参ル。其後京橋口土橋江人数繰上扣居候処、御番所方人參、前後方人数算立、  
夫方繰込に相成候趣、右御門潜り方入候由、又高張御提灯者入不<sub>レ</sub>申様候処、外様も入候様要  
助申聞、其段豊右衛門殿へ申上即高張御提灯入申候而、東西両仕切御番所へ差置申候趣

○繰込直様被<sub>二</sub>仰出<sub>一</sub>候通、銘々御番所受取、御向番様衆与交代申候趣也 ○文内絹布羽織  
踏込<sub>但し自身之</sub>相用申候 着用供人老人召連申候事。其外傳左衛門、利八、専右衛門共御貸踏込着用申候  
趣之事

一御武器御本陣方差出、行列相揃丑ノ刻過時分繰出 殿様にも御引續御行列に而御出有<sub>レ</sub>之。  
谷町通追手筋方罷出京橋外へ御行列三行に立置、委細繪圖面に有<sub>レ</sub>之

御武器行列懸り三人に而能揃置  
○御鑓印弘化度に一枝紛失甚御不  
都合に付、此度は為<sub>レ</sub>用意<sub>一</sub>行列懸り三人并小頭共三枝ツ、懐中致申候事 ○町御同心二度計人数改  
に相廻、其節如何之人夫有<sub>レ</sub>之候へは召取候趣、政田屋手代に承申候 ○右七ツ半時分也。暫相待申候 殿様に者御乗輿之俣

圖之処に暫御扣、日之出頃御下乗、京橋土橋前圖之所へ御床机に被<sub>レ</sub>成<sub>二</sub>御座<sub>一</sub>、御馬印建<sub>レ</sub>之  
御附之面と御行列帳之通

罷在候。同役御供喜四郎相勤<sub>喜四郎服は帷子、麻振子羽折、脚半着、ズン／＼／＼シヨリに而御  
供仕。御徒土同断。御中小姓格以上は裾細着用ニ而御供之事 其餘は繰下御行列内へ</sub>

立置。尤御馬印は御繰込前に下御行列内へ入申候<sub>京橋口御門開門同土橋兩側大番  
所脇迄与力鉄砲切火繩に而固居 為<sub>レ</sub>暫大久保様御人数  
繰出に相成、畢而大久保様御城出 殿様江御挨拶有<sub>レ</sub>之<sub>勘右衛門留帳には御變受取渡御座候而、  
御交代に相成候様有<sub>レ</sub>之候共、右は如何哉 其後御</sub></sub>

使者有<sub>レ</sub>之御供頭取次 御前御直に御面會有<sub>レ</sub>之、夫方繰込候様御供頭江御沙汰有<sub>レ</sub>之。御供  
頭方喜四郎へ通達有<sub>レ</sub>之。喜四郎方老番之御旗奉行小左衛門殿并大目付直左衛門殿、御年寄右  
丈江申上、夫方圖之通御旗奉行方順と繰込申候。尤直左衛門殿、八右衛門、自分義御行列繰  
出候頭之所に居而、夫と致<sub>二</sub>差凶<sub>一</sub>銘と御行列之場所参候節這り 御城入致申候。御人数不<sub>レ</sub>  
殘御城入相済引續 殿様にも御城入、京橋大御番所江御上り御定番両御目付御出番有<sub>レ</sub>之間、  
右江御挨拶有<sub>レ</sub>之、夫方山里丸御小屋江被<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>入候事<sub>但し西仕切御門并山里  
冠木御門片扉開有<sub>レ</sub>之</sub> 自分義絹布羽織踏込着  
用供人老人召連候事。由自分義立付之心得<sub>レ</sub>而踏込用意無<sub>レ</sub>之候御吟味役<sub>レ</sub>而御賃踏込借用  
申候事―但自分紋弓張提灯相用申候事

一殿様に者無<sub>レ</sub>程御出有<sub>レ</sub>之。御城代、両御定番、両大御番頭、両御目付、御相番様江御廻勤被<sub>レ</sub>  
遊候。御供連被<sub>二</sub>仰出<sub>一</sub>候通也。御供喜四郎相勤候事。

但何レも服者御城入之節与同服之事

一自分義は御繰込後、内御札場へ罷出御勘定所共と御鑑札并小札等取調申候事。委細は鑑札

賃渡帳等に有之候事

一 御番所と兼而被<sup>二</sup>仰出<sup>一</sup>候通、追々代合有<sup>レ</sup>之申候事  
 一人足繰出引續荷物取入に付、目明兼而被<sup>二</sup>仰出<sup>一</sup>候通、京橋御門江左之通り、轉、實、喜四郎  
 罷出、初轉大番所へ断、夫方同人御門下へ出、喜四郎舛形御番所へ断、同所へ出、實外張御番所へ  
 断、同所へ出、尤銘と以<sup>二</sup>手札<sup>一</sup>相断、枳形御番所方敷物出呉候に付、喜四郎右に着座致居候趣、  
 人足繰出相済与直様荷物取入、右別段断無<sup>レ</sup>之、其内交代出、尤先に手札差出有<sup>レ</sup>之間、代合之  
 者手札無<sup>レ</sup>之口上に而、銘と其御番所ととへ断、各交代ス。又引取候者其御番所ととへ断、引取  
 申候。荷物取入相済与、其段政田屋手代方申聞、夫方外張へ出居候職人引取与枳形御門下与順  
 と一緒引取、其番所ととへ銘と断引申候事

手札

支配

こより

相渡ル

左之通

人数繰出	
荷持取入	目明兼帯
細垣探	津守内
御門下	小會根
外張	山田實
舛形	遠藤高四郎
	右代
	大須賀兎毛
	浮気儀人
	角熊文内

○文内引取御届三所へ申上候事

○文内喜四郎踏込着用にて相勤

供人老人ツゝ召連候事

但喜四郎義立付之心得にて踏込

用意無<sup>レ</sup>之候付御吟味役に而御

貸踏込借用致候事

一 荷持取入後御家中荷持渡之節、同役罷出候様被<sup>二</sup>仰出<sup>一</sup>には有<sup>レ</sup>之候へ共、世話敷候間不<sup>二</sup>罷  
 出<sup>一</sup>候。御組目付罷出、夫と江相渡申候事

一 今夕御城入御祝儀直左衛門殿江文内方申上候事

一部屋と渡物左之通、鍋 釜 水桶 同荷桶 米入桶 盥 生板 包丁 柄杓 杓子 行燈

其外都而一色上方相渡申候事

一 御届三所与記有<sup>レ</sup>之候は、御年寄御用方大目付之事也

一 勤順者何勤に不<sup>レ</sup>寄遠口之者方相勤候事。都而木綿服にて勤ル。絹布着用之廉も有<sup>レ</sup>之候は、

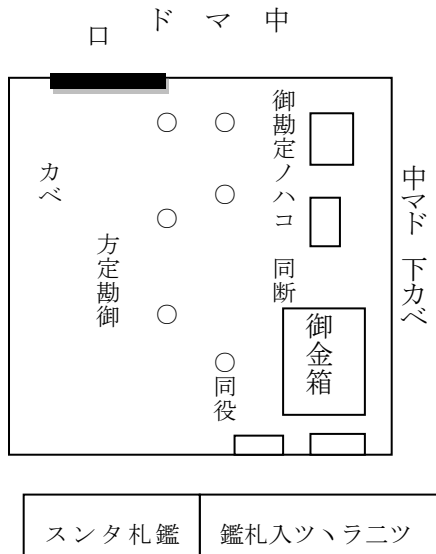
其所江記置申候事

一 供人召連候節は割場江申付候事

一 杖者何勤に出候とも、當方に而者為<sup>レ</sup>持不<sup>レ</sup>申候事

- 一 御小屋内夜分廻之儀心得可<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>之事
- 一 御小屋内薄羽織、平日勝手次第之事
- 一 内御札場与申は大目付御奉行中御勘定  
所同役詰所之所<sub>レ</sub>フ言。図左之通り
- 右に而同役御鑑札取扱候事

此席へ出候奉行大目付御勘  
定同役此口より出入致候事



- 一 雨天之節何<sub>レ</sub>之御門に而も通行之節は傘ツボメ  
出入致可<sub>レ</sub>申事

○同役御用等に而出候節も  
此席へ出候事

- 一 追手御門出入之節、鑑札御番所江為<sub>レ</sub>見候者家来に相當り候者は相成不<sub>レ</sub>申候。主人鑑札為<sub>レ</sub>見可<sub>レ</sub>申候。尤同道人に相當り候は<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>苦候事  
○御城代之曆<sub>レ</sub>方は若堂鑑札  
出申候 其外は不<sub>レ</sub>相成<sub>レ</sub>候事 ○鑑札見せ候者御門
- 先江出入可<sub>レ</sub>致候事 ○雨天之節傘指居鑑札見せ候而も不<sub>レ</sub>苦候事 ○片手袖之内へ入居候  
坎。又御番所前クリ石江上り候得者咎申候事 ○包物持参に而御門出入不<sub>レ</sub>苦候事  
○御中間町  
人下駄不<sub>レ</sub>相  
成<sub>レ</sub>候傘は  
不<sub>レ</sub>苦候事 ○上番之方へ鑑札見せ候事
- 一同役御城出公私共支配印鑑口上に而拝借、内札場に而鑑札与引替罷出候事 ○袴に而も

着流に而も不<sub>レ</sub>苦候事。但他席之人与は一緒に不<sub>レ</sub>参候事。同役に而は老人に而御城出不<sub>レ</sub>苦候へ共 外向に而は御用出者宜候得共、私用出は不<sub>レ</sub>相成<sub>レ</sub>、依而誰と一緒に参候旨、御支配へ印鑑  
拝借に参候節申込可<sub>レ</sub>申候事

一同役町方廻之儀見計月老両度計ツ<sub>レ</sub>罷出、袴に而も着流に而も不<sub>レ</sub>苦候。老人出候而も、又  
一番供に召連候共勝手次第之事。大目付御用出小札借受、内御札場に而鑑札与引替候事。前  
後共何<sub>レ</sub>へも別段届等不<sub>レ</sub>申上<sub>レ</sub>候事

但朝方罷出候節は、要脚御吟味役方受取申候。尤大目付に而も要脚被<sub>レ</sub>受取<sub>レ</sub>候間、同役  
に而も申合受取四十八文也。供人召連候は、是又同様四十八文受取申候。且何<sub>レ</sub>へも不<sub>レ</sub>  
申達<sub>レ</sub>受取候事

一 御年寄江御用何之儀隔月に罷出可<sub>レ</sub>申事  
一 御金箱封印、弘化度は大目付差合之節は、同役に而印形致候趣、又先に大目付  
之封印形有<sub>レ</sub>之節は、追而御同人江差返候趣之处當年は大目付印形無<sub>レ</sub>之奉行中計之封印印形  
に相成、依而同役構無<sub>レ</sub>之、右之段別段達も無<sub>レ</sub>之候事

一御小屋と壁江穴等明候儀 ○山里御門前之俗に姫門と言竹矢来御手前持には候へ共、右竹荒シ候儀 ○極楽橋其外御門と之銅釘拔落居候はゞ氣ヲ付取置、拙者迄可レ被レ遣候。左候へは内と取計方有レ之。右等之儀御破損奉行御廻之節、御目に當り候へは六ヶ敷趣、先役方申通有レ之候間、御役手に而は兼と御心得置被レ下候様大川与左衛門殿被レ申聞一候事 右八月八日一元日御礼御徒士格以上老統御書院江罷出 御通達 御目見仕候事。五節句は一席老人ツ、礼服に而御支配詰所へ罷出、銘と勝手次第見計候而御礼可レ申上一候事。但朔望御礼無レ之候事。○正月十五日、弘化度には同役并御勘定方一席老人之御礼申上候趣に付、當年も右之心得に而喜四郎礼服に而詰所へ罷出候処、御役人方四ツ時方之御出仕直左衛門殿詰所江被レ參、段と被レ取調一候処、文政度にも申上候段、御勘定方日記に有レ之候得共、何レ之席に而も、御礼無レ之に付、直左衛門殿御年寄へ被レ伺候処、御内證向に而も御礼無レ之候間、御徒目付杯に而御礼有レ之候而は差障に相成候。席も有レ之間先年は兎も角も、此度は御礼申上候に不レ及。出仕不レ致積に而引取候様被レ仰聞一候間、左様相心得可レ申旨被レ仰聞一候に付、喜四郎御礼不レ申上引取申候事

一御手前御持場者東仕切、外御門臺之石垣通方西仕切、外四五間計先僅之石橋有レ之処迄御持場也。依而御持場内御先立等仕候様記有レ之。勤向は右迄相勤候事

一改印形取之儀、六日夜方相勤初に付、翌七日朝直左衛門殿江上へ下夕共相届帳面差出、六郎右衛門殿江は口上に而相替儀無レ之段相届、尤以後は相替儀無レ之候はゞ日と御届不レ申上一候段、御年寄大目付両方へ申上置候 ○月と朔日とに上へ下夕共帳面直左衛門殿へ懸二御目一、夫方御年寄江差上申候 ○勤方は御仕切後平服に而弓張提灯持相勤ル ○御年寄御用方三役三月付之面とは改無レ之。□介方御足輕并御小間遣利叔迄改申候。但印形無レ之者は其人方支配江届書判認申候。引込に而も何も當人面會之上取候事 ○御納戸は當番之者は取に不レ及部やに居候者計取候様、直左衛門殿被レ仰聞一候右九月朔日達 ○須藤仁八御組目付成共御賄下役相勤勤向違候事故印形取申候 ○八右衛門差支之節は御先拂等専蔵江被レ仰付一候趣達有レ之候へ共、加人与申にも無レ之神文も不レ致候事故印形取申候 ○月と帳面新夕に致候事半紙縦帳や、右紙并蠟燭御吟味役より受取帳面認方左之通

○右帳面上書江御小屋と之肩書致候様直左衛門殿被レ仰聞一候。先年は無レ之処、御達に付肩書致申候事 右は八月七日達

嘉永五壬子年  
山里丸  
改帳  
八月

嘉永五壬子年  
下両御小屋  
改帳  
八月

中 佐 通

八月 名前  
六日〇七日〇

欄外

○京都神社江参詣相願参候者留主中は小書等も不<sub>レ</sub>致日附ヲ相除候計に候事

○御組目付吉兵衛、直次郎御賄下役被<sub>二</sub>仰付<sub>一</sub>罷越候へ共、奉行中へ引渡にも不<sub>二</sub>相成<sub>一</sub>候間、改印形取候に不<sub>レ</sub>及段、伺候処直左衛門殿被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候。依而印形取不<sub>レ</sub>申候事

○八月朔日夜迄印形取、二日夜は御用捨之事

右御沙汰無<sub>レ</sub>之に付、先例申上中伺候処其通に而宜候段被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候事

○七月中方八月朔日迄、改帳巻冊に而二日朝例之通差上申候事

○老人半枚に而一ヶ月分に致候。右同役に而相認、日と日附下へ印形可<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>致候。泊番に而も取、併御小屋違泊之節は不<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>取候間、日附下へ何<sub>レ</sub>之泊番与認、又其御小屋内之者印形取可<sub>レ</sub>申事 ○山里は文内、喜四郎取下、両御小屋者自分老人に而相勤候事 ○山里の方、初は御足軽立帰等有<sub>レ</sub>之。人数多に付、小頭御足軽別帳に致し候。其段直左衛門殿へ御承分迄申上置、帰是有<sub>レ</sub>之後尙統老帳に致候事 ○右帳面追而相下り申候。左候へは同役貫置候事

○御旅館中改帳<sup>八月</sup><sub>七月</sub> 直左衛門殿方被<sub>二</sub>下<sub>一</sub>ケ、右先年是如何相成候哉、御尋有<sub>レ</sub>之。右者私ともへ被<sub>レ</sub>下候に付其段申上候處、如何様左様に有<sub>レ</sub>之候旨被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候即貫置申候事 ○九郎兵衛殿御不快に而御引込御用之儀不<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>承候に付、右帳面御用方へ差上申候事。委細日記に有<sub>レ</sub>之  
○御中間改御組目付相勤候事

一殿様御城内御出之儀、前日惣触有<sub>レ</sub>之。當日押付触并只今触共有<sub>レ</sub>之。木綿服に而股立取<sub>レ</sub>之、暑中タリ共麻振子羽織着用也。御徒士同断 ○御玄関前へ相揃、御供揃下供之義押方申聞、夫方例之通御供頭江達ス。御供之面と被<sub>二</sub>仰出<sub>一</sub>之通也 ○雨具持晴天には無<sub>レ</sub>之、曇天に而は出ル。式人也。尤風呂敷包に而持。但し部屋と江集に参候。又御城代様江御出之節は下座敷晴雨共為<sub>レ</sub>持候。持人老人也。依而晴雨共被<sub>二</sub>仰出<sub>一</sub>方者老人ツ、増候事。御供之竹之子笠、并下座敷上方相渡申候 ○御供頭方何<sub>レ</sub>へ御出候趣、且御相番様御一緒に御出之節は御月番様方へ御揃に而夫方御出有<sub>レ</sub>之候間、其段申聞有<sub>レ</sub>之。左候へは御徒士押御組目付へ申達候事

○御組目付御持場内御先拂有<sub>レ</sub>之 ○御持場内御出入共同役御先立仕候事。譬御相番様方御

同道に而も同様相勤候事 ○始終 殿様之御跡方御供仕候事

御供立方 御御供頭 御中小姓 御徒目付 御鑓スソホ 御挟箱 押 雨天之節は  
御左り 御中小姓 御徒士 御草り取 御長柄笠 御挟箱 押 雨具持二人

左之通 御中小性 御徒士 御草り取 御長柄笠 御挟箱 押 □下座敷持一人

御相番様方其外様共御同道之節は、御供之面々向様江前後共平伏可仕事 ○何レに而も御

門前に而も同役方以下御供落候事。御本丸御出之節は、桜御門土橋前に而も同様御供落ス。尤雨

天之節は、御長柄傘并雨具持式人入候様被仰出に有之 ○外御門者勿論、御持場内御門

に而も闔方御通行被遊候事 仕切御門々々材木御引入に付片扉開有之。右大門ヲ殿様御通り有之候節は、御供方下供迄右御門通候而宜候旨御供頭方達し有之。但し此間中を通り申候事 右巳十一月 十二日達。右之通有間氏留

雨天之節何レ之御門に而も御供方一統笠取候事 何レ之御門に而も御供頭驅被レ勤候事 但し御持場之外 ○御供持之節

地御役人様方迄御通之節は、御供下座可致事 ○御城代様へ御出御供待之節者、御鑓之穂先

ヲ御城代様御屋敷之方へ向、御本丸之方跡に致し可申候。外々是に順候事 ○御帰九ツ時過

候は、要脚出、御供頭方受取押渡ス。一統四十八文ツ、也 御城代様為二年賀御出有之。右為御挨拶御出候節四ツ時之御出触に而、九ツ時過只今触に而御出有之。無程御掃り。右之節刻限

過に相成候趣に而も要脚出申候 要脚之義御供頭へ承候処、四ツ半之御出触故早昼に而も出候而宜候間、要脚は不被下候段要人殿被申候事 ○出入共御届等無之直に引取申候事 ○御相番様御揃に而も御出之節は、是迄御月番

様御小屋へ御通り御待合に而、御揃之上御出有之候処、以後は御月番様御門前に而も御揃に相

成候様御申合に相成候間、御承分迄申置候様御供頭左門殿方被申聞候事 右九月五日

○九月十八日御城代様江御出有之 御供自分 雨天に付雨具持式人出、合羽籠一荷何レ方之差圖坎

持出候に付、左門殿右は不<sub>二</sub>相成<sub>一</sub>候段被<sub>二</sub>申聞<sub>一</sub>候。併御相番様方には合羽籠為<sub>二</sub>御持<sub>一</sub>に相

成候間、御手前に而も為<sub>二</sub>御持<sub>一</sub>に相成候而は如何御座候哉。与左門殿へ申達候処、御城内

中合羽籠は不<sub>二</sub>相成<sub>一</sub>候間、風呂敷包に而為<sub>レ</sub>持候様被<sub>二</sub>申聞<sub>一</sub>、其段申付候処、桐油下座敷

式人に而は難<sub>レ</sub>持旨申聞候間、其段左門殿へ申達候処、下座敷持別に老人差出、都合三人出

候様被<sub>二</sub>申聞<sub>一</sub>候に付、其段割場へ申付候処即三人出申候。右老人増候に付御吟味役江其次

第申 御城代様江以来御出之節は晴天に而も下座敷持老人、又雨天之節は三人差出候様懸

合置申候事。且後々は式人に而も右両様共持候義も有<sub>レ</sub>之

○外様へ御出之節晴天に而、一統之草り持出候に付 九月廿一日御出之節 自分御供に罷出 左門殿に承候処、右は

老人も無<sub>レ</sub>之段被<sub>二</sub>申聞<sub>一</sub>候に付、其段押へ篤与申達置候事 ○御組目付差支之節は御先拂

不<sub>レ</sub>被<sub>二</sub>差出<sub>一</sub>候間、其心得に而も御先立致候様直左衛門殿被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候事 右正月廿三日

一御月番者八月御手前九月二加番様与御名順に御勤之事

一御相番様方へ御口に御出有<sup>レ</sup>之。御供帰之節御迎刻限御供頭より達し有<sup>レ</sup>之。左候は、其刻何レも御玄関前へ相揃、夫方罷越候事

欄外

雨具為<sup>二</sup>御持<sup>一</sup>に相成候節は、外様御開も有<sup>レ</sup>之候間、以後は合羽籠<sup>二</sup>忝荷<sup>一</sup>為<sup>二</sup>御持<sup>一</sup>相成候。尤下座敷右へ這り候は、入申持人に忝人為<sup>レ</sup>出候而宜候段要人殿文内へ被<sup>二</sup>申聞<sup>一</sup>候。但晴天之節下座敷是迄之通風呂敷包に而為<sup>二</sup>御持<sup>一</sup>候事 右四月十五日

一殿様天王寺、建国寺、千念寺へ為<sup>二</sup>御参詣<sup>一</sup>御城出之節は、前日御城外へ御出之旨相触ル。當日只今触等例之通同役御供兩人也。忝人は殿様御供、忝人は御先出御人数引圓(マ)居出、御番所御断相勤、御徒士同役共木綿服<sup>暑寒共羽織袴股立也</sup>何レも御玄関前へ相揃、御供頭方御番所御断之手札四枚被<sup>二</sup>相渡<sup>一</sup>左之通り

雨天之節は

○御供頭方誰様御同道に而何レへ御参詣

十五人

之旨達有<sup>レ</sup>之 ○御先出御人数相揃

二十二

は、同役引圓(マ)居御先参其段御供頭

与相成申候

へ申達ス

拾四人先達差出候

右人数割先達而御供頭方差出被<sup>レ</sup>置候

拾四人先達差出候

左之通

稲垣撰津守供  
三十七人  
内 拾三人召連罷出候  
拾四人先達差出候

三寺御参之節御供 右は天王寺 建国寺 千念寺 之事也

御城内方被<sup>二</sup>召連<sup>一</sup>候分

御供頭 忝人 御左り 忝人 御中小姓忝人 御徒目付 忝人

御徒士 忝人 押 忝人 御鑓持 忝人 御挟箱持 忝人

御長柄笠持 忝人 御草り取 忝人 十三人

雨天之節は外に雨具持 忝人増 十五人に成

御先出之方

御中小姓忝人 御徒目付 忝人 御徒士 三人 押 忝人

御鑓持 忝人 御蓑箱持 忝人 御草履取 忝人

手代忝人 手代忝人

御供両掛忝荷忝人 合羽籠五荷五人

御供頭 御左り

供草り取忝人



手代老人

手代式人

式拾四人 雨天之節は雨具持式人御城内方

御召連之方へ相廻御先出之分式人減 式拾式人に成

外に 御馬口付式人 杓籠持老人 御鞍持老人

四人 此分別札出

御陸尺七人 御城外迄呼寄置

御駕籠者御先出之明手御手廻 御城外迄昇出候事

右之通 九月七日

以後とも右之通之御供立に御座候間別段御達

不申候旨御供頭左門殿方被申聞候事

○右御駕籠昇出候。明年御年廻是迄

大小差候俣昇出候処、御城代公用人方

御懸合可有<sub>レ</sub>之处、内々に而尼ヶ崎

又右衛門ヲ以被<sub>二</sub>仰越<sub>一</sub>候間、以後は

刀不<sub>レ</sub>差一刀に而昇出候様心得可<sub>レ</sub>申

旨直左衛門殿方達有<sub>レ</sub>之

右五月十九日喜四郎承

欄外

御歩行の節は、殿様方御届被<sub>レ</sub>遊、御供頭御先立有<sub>レ</sub>之。又御先三人ツ、罷立。右御供頭より達有<sub>レ</sub>之。立方左之

通

大番頭 御徒士 同 御徒目付

右之外

御手前 御徒士 同 御徒目付

何<sub>レ</sub>も御跡

御相番 御徒士 同 御徒目付

方参候事

○西仕切御門闔御駕籠通り不<sub>レ</sub>申候に付、片扉開候義以来御番所へ定断に相成候段、要人殿方承分迄被<sub>二</sub>申聞<sub>一</sub>候事 丑正月十日

○東西仕切御門闔は御駕籠通り不<sub>レ</sub>申候外御門何<sub>レ</sub>に而も闔方御駕籠通り申候事

○御先出御人数追手御多門裏溜りへ為<sub>レ</sub>扣置篤与人数相改、夫方同役大御番所江以<sub>二</sub>手札<sub>一</sub>御断に罷越持計ッボリ、着物は落し候俣に而參ル ○御同僚様之御人数待合に不<sub>レ</sub>及参次第直に御 別繪圖に委細記有<sub>レ</sub>之。口

上左之通、稻垣撰津守様御間建国寺、御宮へ為<sub>二</sub>参詣<sub>一</sub>御城出仕候、供連三十七之内式拾四人私引圓ママ居、御城出仕候間御断申上候旨申述、右相濟何<sub>レ</sub>も一行に出、老番御鍵十文字御道具番御徒士付

其次御駕籠、夫方御中小姓御ミ御徒士下供与順に出、御番所に而人数算へ候様子也 尤同役は御人数方先へ参、御門下枳形外張御番所江大御番所同様以<sub>二</sub>手札<sub>一</sub>相断供人に供草り取之者召連候事枳

形外張は足輕取次に罷出、右へ手札相渡口上申述置候事。其方何<sub>レ</sub>も追手腰懸に扣居候

○殿様には御同道の大御番頭様へ御出之上御城出也大番頭御断御供頭相勤是又一行に出

○土橋先方御乗輿御先も右方御供仕。尤御先二行立三段也 ○老番大御番頭其次御名順

也。但當方に而は御率馬ヲ下而、組頭之上へ御名順に附、又組頭者次へ御供挟箱合羽籠ヲ御名順に附ル。依而御駕籠之方は御簀箱押供草り取迄附而已也。○御途中御供立同役落

而見るに不レ及候事。○御城外御途中に而御役人様方御行違之節は、御徒士呼上仕御會釈

有レ之候事御城代者御扣下座也。御定番者其儀に不レ及。○御帰には土橋前に而御先落御下乗也。

夫方殿様方御城入。其後御人数御城入、老番大番頭其跡御名順也。御番所御断出之節通、

同役相勤外張舛形御門下大番所共手札無レ之口上断也。左之通稻垣摂津守様供連之内二十四

人、私引圓(ママ)居御城入仕候間、御断申上候旨申述候事。依而人数失念無レ之タメ書付置候

方宜。○御帰有レ之御供一統、御玄関前へ相揃、御人数引圓(ママ)居候。同役御供頭へ相替

候義無レ之段申達候事。夫方引取且何レへも御届等無レ之候事

○建国寺初之門前に而御道具下供落。御宮外木戸前に而御先落御下乗也

○天王寺石之鳥居前に而御道具下供落、門前に而御先落御下乗也

○千念寺門前に而御先落御下乗也。○谷村治兵衛、大御番頭先へ御案内立候事。

一御城外へ都而御出之節は、同役御供兩人也。老人者御供也。老人は御先出

御人数引圓(ママ)居参御番所御断相勤可レ申事

一御巡見御出之節も都而右之通也。併人数増減有レ之候間、其所に委細記置申候事

一御破損御奉行御小屋廻之節者、前日支配方達有レ之後には御破損方より直に通達有レ之。右に而相勤候事。刻限并何方御出哉。

御破損方に承合候事多分五ツ過也。供人老人召連候御先立之節者跡へ下ケ候事。見歩使御足輕出ル。○其刻罷出、

東西之内御番所江上り相待居候而宜候事。御門外御持場方御先拂、御組目付兩人看板着後には御足輕

に相成候。次江同役老人東西何レに而も、御門内方御門内迄御先立仕。但羽織袴撮股立也。御破

損方老人同役、次江御先立有レ之御門外御持場方被勤候事。御出先は御破損方に承り相勤、上へ下タ共御小

屋内御廻也。只一通り御廻而已也。御殿江御通之義も有レ之候へ共多被二仰置一候事

○雨天之節は無レ之。○出前御届無レ之。○相濟御届三所江申上候事。○立固御足輕

看板着、黒門喰違并下御小屋入口二ヶ所江出。○御相番様御破損方も被レ参候。○前日

御組目付御破損奉行御廻之旨、御小屋とと相触候事。○右同役御先立之義、弘化度は御

仕切外御持場方仕候処、此度御破損方大川与左衛門殿外様御振合も有レ之候間、右には及間

敷段被二仰聞一、其段御年寄衆へも被二申上二、前文之通東西御門内御門迄同役御先立仕候様、

与左衛門殿被二仰聞一候事

但、御鉄砲御奉行御出之節も、右に而可レ然段御同人被二仰聞一候事。右八月廿一日

一御鉄砲御奉行市正曲輪御三手様御小屋之処ヲ言、右裏土手通に大筒有レ之。右御見分之由也。御鉄砲御見分夫方東西御仕切御通行に

付、御先拂御足輕式人看板着。次江同役老人羽織袴着撮股立に而御先立仕供人老人召連御先立之節は跡へ下候事。次

江御鉄砲方老人御先立有<sup>レ</sup>之候。但何<sup>レ</sup>も御仕切外御持場方御持場迄之事。○六ツ半時出宅也。且刻限并御出先之儀御鉄砲方に承合候事。○前日支配方達有<sup>レ</sup>之。○出前御届無<sup>レ</sup>之相濟、御届三所江申上候事。右八月廿二日

○右同役御先立御人不足に付、加人高森傳左衛門へ被<sup>二</sup>仰付<sup>一</sup>候に付、与左衛門殿被<sup>二</sup>仰聞<sup>一</sup>候通、御門内中計御先立に而宜候段通達致置候処、御鉄砲方遠藤三左衛門殿御破損方に而は兎も角も、御鉄砲奉行御先立は先例之通、御門外御持場より致候様被<sup>二</sup>仰聞<sup>一</sup>、依而御門外御持場方御持場迄御先立相勤候段、高森傳左衛門申聞候事

一其後<sup>九月四日</sup>御破損奉行月次御小屋廻之節、御先立自分罷出<sup>八月廿二日御破損奉行御廻に付、御先立喜四郎罷出候処、与左衛門殿御門外御持場方御先立被<sup>レ</sup>致候に付、喜四郎も同様御門外方御先立致候趣、同人申聞候事</sup>与左衛門殿へ御鉄砲方之次第、并先日喜四郎相勤候義、相咄二色に相

成候而は如何御座候哉与申候処、拙者共并御先拂は御門外方相勤候へ共、貴様方は先達而御席へも申上取極り候事故、御門内中計御先立に而宜、且御鉄砲方は左様に候共、御奉行も違候へは、夫には不<sup>レ</sup>構与宜候段被<sup>二</sup>仰聞<sup>一</sup>候に付即、東西御門内中御先立相勤候事

一御鉄砲奉行山里御多門江御鉄砲上納又は受取として御出之節は、都而御破損奉行御小屋廻之節と同様之事。但御鉄砲方も、其後は東西之内、御門内方御門内まで於先立被<sup>レ</sup>致候間、同役に而も申合御門内中計御先立相勤候事

一御鉄砲御本丸方上納又は受取之節、同役老人目明罷出、前夕支配方方達有<sup>レ</sup>之<sup>右達夜分にも及候義有<sup>レ</sup>之。繰合難渋にも有<sup>レ</sup>之。且弘化度も御鉄砲方方直に同役江懸合にて相勤候趣に付、其段直左衛門殿へ申上候処、以後は御鉄砲方方懸合に而可<sup>レ</sup>被<sup>二</sup>相勤<sup>一</sup>。別段達不<sup>レ</sup>申段九月廿四日被<sup>二</sup>仰聞<sup>一</sup>候事</sup>六ツ半過出宅也。出前御届三所江申上、羽織袴着用、供人老人召連ル。其刻御鉄砲方部屋へ参出候趣申。何<sup>レ</sup>も一緒に罷出<sup>又直ぐに雁木坂下迄別に参候而も直敷候</sup>

御鉄砲方同役大和足軽小頭高木要助、大和抱足軽、御鉄砲長持十棹、外に一棹敷物籠<sup>ツ</sup>也。人数者其時<sup>と</sup>増減有<sup>レ</sup>之。○雁木坂下に而御四手様待合相揃敷物有<sup>レ</sup>之。右江御四手

<sup>一方に御鉄砲方一方に目明</sup>着座、右に而人数何十人之旨要助方申聞、左候へは手札へ書入

手札右之通也。右前方御支配方受取置候事

○右人数何十人内に御鉄砲方上下并同役上下共入有<sup>レ</sup>之

○右人数腰札要助相渡申候

<sup>右手札支配方受取候処、度々に而手数も懸り候間、御用部や方直に受取可<sup>レ</sup>申候旨、直左衛門殿へ申上候処、其通に而宜候段被<sup>二</sup>仰聞<sup>一</sup>、依而御用部やへ懸合直に受取申候事</sup>

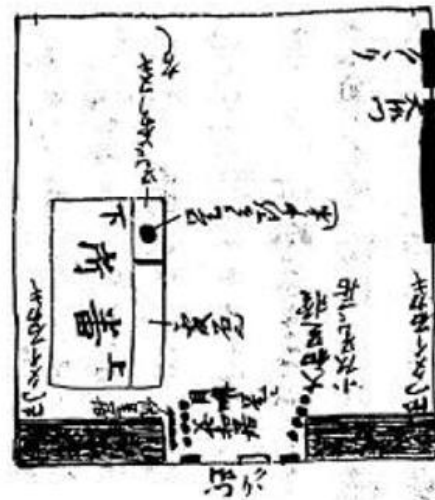
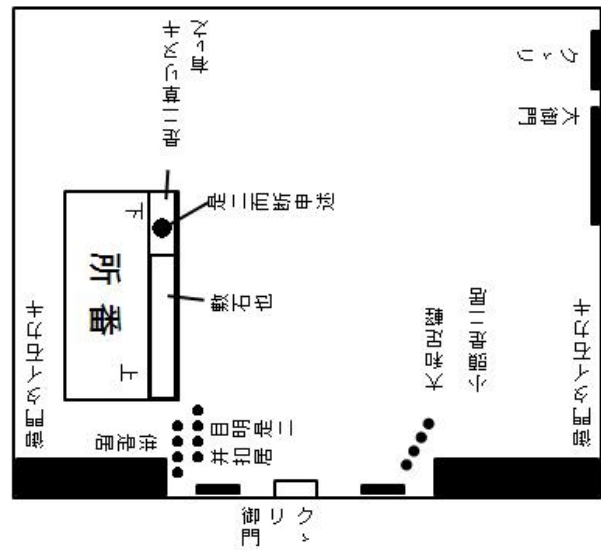
### 稲垣撰津守

人数

目明

夫方御本丸へ参御御月番之御鉄砲方老人先江被<sup>レ</sup>這、桜御門内御番所并舛形御番所へ被<sup>レ</sup>断、右相濟与目明之者入。尤御月番之方先へ這ル。夫方御名順に入、桜御門内舛形御番所江以<sup>二</sup>手札<sup>一</sup>、右何十人繰入候間、御断申候旨相述承分之旨相答、夫方御門際圖之所へ御四手様目

明扣居、右舛形之圖左之通



(原図)

右圖印之處江參御斷申述、御番所下之方草り脱キ有レ之處江參也。但雪駄又は下駄着用に而口上述候而も不レ苦候事。又上之方へ參斷申述候而も宜敷、併敷石之上へ草履に而上り候事不レ相成一候。咎申候。又ギテ可レ上多分下之方断申述候方宜御座候事

○御鉄砲又者御矢之根長持に入有レ之節者、外卜之冠木御門片扉開申候事

○御月番之御人数先へ繰込、夫方御名順に段々繰込圖之通要助罷出、人数壹人ツ、同役供人迄算立都合何十人と申。右人数之跡へ目明も附一緒に御場所迄參候事、内に而は勤方無レ之鋪物有レ之。右へ上り居而已也。  
右敷物并雁木坂下 ○右に而タバコ吸事不レ相成一候併辻番所有レ之。  
 敷物共御月番方出 右ウラへ廻りタバコ吸、又は小用等達可レ申事 御鉄砲

御受取数壹加番九十五挺、二加番六十五挺、三四加番三十五挺也。右相済引取之節は、如レ先御鉄砲方壹人式々所御番所へ御断有レ之。夫方目明之者御名順に參、舛形御番所へ断山里人数繰出候趣、口上計に而相断入候節之所に扣居申候即、御名順に繰出都而入候節通也。

尤御月番之方は跡方出也。夫方引取磨小屋へ御鉄砲入、同役無レ構直様引取御届三所江申上候事

○月六際に有レ之。但雨天之節は相述候事 ○刻限に不レ拘要脚上八分下參拾貳文、先兼屋八兵衛方差出、晦日とこに致二持參一候。且供人之方も是方相渡ス。然処三役江段と取締被二仰付一候趣、夫故坎、御鉄砲方鈴木殿方以来要脚相止候。尤刻限に相成候へは可二差出一旨、十月十四日被二申聞一候  
○中小屋様類役方文内江供人相止、供人之昼喰代ヲ取候様可レ致。尤先年も右之通致候趣に而、此度も御四手様申合、右に致度旨被二申聞一候に付、文内程よく申居候趣同人申聞候。右申合候へ共供人相止候義は如何にも有レ之。又他之聞も如何に付彼是差支之義も可レ有レ之間、此方に而は是迄之通召連可レ申、外々様は兎も角も可レ被レ致、無レ何与レ能様可レ申置与咄合申候。其後御三手様目明之面、供人連不レ申候事

一御矢之根御本丸方上納受取之節、目明同役壹人出都而御鉄砲と同様之事 ○長持壹棹

也。月式度有<sub>レ</sub>之。但し雨天之節者無<sub>レ</sub>之候事タバコ吸所無<sub>レ</sub>之。但し舛形御番所前ウラ  
ニ茶番罷出候間、右へ參吸候与不<sub>レ</sub>苦候事

一御相番様之内病死人有<sub>レ</sub>之。御持場内通之節東西御仕切へ同役耆人ツ、罷出候。尤支配方  
方達有<sub>レ</sub>之。左候は、御門内江其刻罷出居候而已也。羽織袴着用供人耆人召連候事。但し御  
門清々等之義者先方に而致候。相濟御届三所江申上出前御届無<sub>レ</sub>之候事

一御賄下役帰足之節、追手御門送出御断相勤候様支配方達有<sub>レ</sub>之。自分相勤出前御届無<sub>レ</sub>之  
○羽織袴着供人召連其刻罷出同道致し、舛形裏溜へ為<sub>二</sub>扣置<sub>一</sub>、夫方大御番所へ參御断申述  
委細別圖に記 ○前方御城代様江以<sub>二</sub>御使者<sub>一</sub>御届有<sub>レ</sub>之。右写支配方被<sub>二</sub>差出<sub>一</sub>左之通り  
私家来須藤様仁八、岩田善兵衛、中村武市与申者共用事申付在所江差遣申候 依<sub>レ</sub>之以<sub>二</sub>送  
札<sub>一</sub>今日御城外へ差出申度奉<sub>レ</sub>存候。追手御門無<sub>二</sub>相違<sub>一</sub>被<sub>二</sub>相通<sub>一</sub>候様御番所へ被<sub>二</sub>仰付<sub>一</sub>可<sub>レ</sub>  
被<sub>レ</sub>下候 以上

嘉永五年九月廿四日

御名御印

○右鑑札送札出入札共内札場に而  
自身口上断に而借受參り申候事

土屋采女正様

手札は無<sub>レ</sub>之

御断口上左之通稻垣撰津守様御両口先刻以<sub>二</sub>御使者<sub>一</sub>御断申上候。家来三人在所表へ差遣候間、  
御門出御断申上候旨申述、夫方三御番所三人送札自分上下出入札に而相通ル。然処舛形御  
番所に而先刻御断有<sub>レ</sub>之候。送人に候は、一應御断被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候様申聞候間、稻垣撰津守様先  
刻御断申上候。家来御門出御断申上候与、荒増申述候処承分之旨相答申候。依而外張御番  
所へも同断申述候。相濟引取御届三所へ申上候事

○掃りは自分上下出入札に而入也 ○荷持は札廻に而  
出候事。弘化度は三御番所は送札之而已に而、口上断無  
之旨勤右衛門留記に有<sub>レ</sub>之候間、右に心得候処本文之通申聞候に付口上申述候。尤送札に人数有<sub>レ</sub>之候間、荒増に申述候事 ○右之通  
に而は別段送札に不<sub>レ</sub>及訳、与存直左衛門殿へ委細申上候候処、御用方に被<sub>二</sub>承候<sub>一</sub>御破損方様に而も、右之通に而送札口上共入候様被<sub>二</sub>  
仰聞<sub>一</sub>候趣、直左衛  
門殿被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候事

一御勝手向御差支に者候得共、御加番に付三分通り御用捨被<sub>二</sub>仰付<sub>一</sub>候段、直左衛門殿被<sub>二</sub>  
仰聞<sub>一</sub>候事 右八月十九日

但一統江も無<sub>二</sub>下置<sub>一</sub>候 ○右當暮可被<sub>二</sub>下処御領分不作に付、御勝手向御差支に付来春渡に被<sub>二</sub>  
仰出<sub>一</sub>候段、十月廿三日達有<sub>レ</sub>之 ○二月八日於<sub>二</sub>鳥羽表<sub>一</sub>老儀三斗代老両十夕六分七厘相渡申候

一御金受取有<sub>レ</sub>之御席へ被<sub>二</sub>差置<sub>一</sub>候に付、同役泊番被<sub>二</sub>仰付<sub>一</sub>。左候へは御用部や

詰所へ泊、翌朝御用方御出仕之上引可<sub>レ</sub>申候へ共、御用部屋出仕有<sub>レ</sub>之候得者引申候事。但右泊  
之内は詰所泊之方御用捨に相成候事

一御小屋部屋ととに而謡之義伺候処、不<sub>レ</sub>苦候旨直左衛門殿被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候事 右九月二日

一出火町方に有<sub>レ</sub>之節、承次第御年寄、大目付へ早速御届可<sub>二</sub>申上<sub>一</sub>。又大目付一緒に 御前江  
も可<sub>二</sub>申上<sub>一</sub>候。尤鎮火之義は不<sub>二</sub>申上<sub>一</sub>与宜、乍<sub>レ</sub>併其火事之様子に寄可<sub>二</sub>申上<sub>一</sub>候。猶又亥刻  
も過候は、明朝可<sub>二</sub>申上<sub>一</sub>候。乍<sub>レ</sub>去近火に而火先杯見江候程之義に御座候は、早速可<sub>二</sub>申上<sub>一</sub>

候事。右之通之心得に而可然段、直左衛門殿被<sub>レ</sub>仰聞<sub>一</sub>候事 右十月二日

一御破損方兩人共今晚山里被<sub>レ</sub>泊御用方与御用談有<sub>レ</sub>之に付、東西御仕切御門鍵預、猶又御仕切之節御門<sub>レ</sub>立會、自分被<sub>レ</sub>仰付<sub>一</sub>候段達有<sub>レ</sub>之。兩仕切大御門鍵式本御破損方方受取、又六ツ打罷出、兩仕切共番士立會<sub>一</sub>闡為<sub>レ</sub>、右鍵式本受取、都合四本自分預申候。明朝御門明は六ツ時過大和足輕取に參、右<sub>一</sub>闡之鍵兩仕切共差遣ス。翌朝大御門鍵式本御破損方<sub>一</sub>持參致し相渡申候。御届等不<sub>レ</sub>致候事。 但御破損方并自分外御小屋住居之事

一下御小屋夜廻之義御人数少に付、大和足輕四人差加り候間、廻り方等氣ヲ付可<sub>レ</sub>申旨達有<sub>レ</sub>之候事 右二ヶ条十月廿一日直左衛門殿方被<sub>レ</sub>仰達<sub>一</sub>候事

欄外

○御破損方初メは御四手様共被<sub>レ</sub>出候<sub>一</sub>共、後<sub>レ</sub>は代合老<sub>一</sub>人ツ、被<sub>レ</sub>出御場所<sub>一</sub>詰被<sub>レ</sub>居申候事

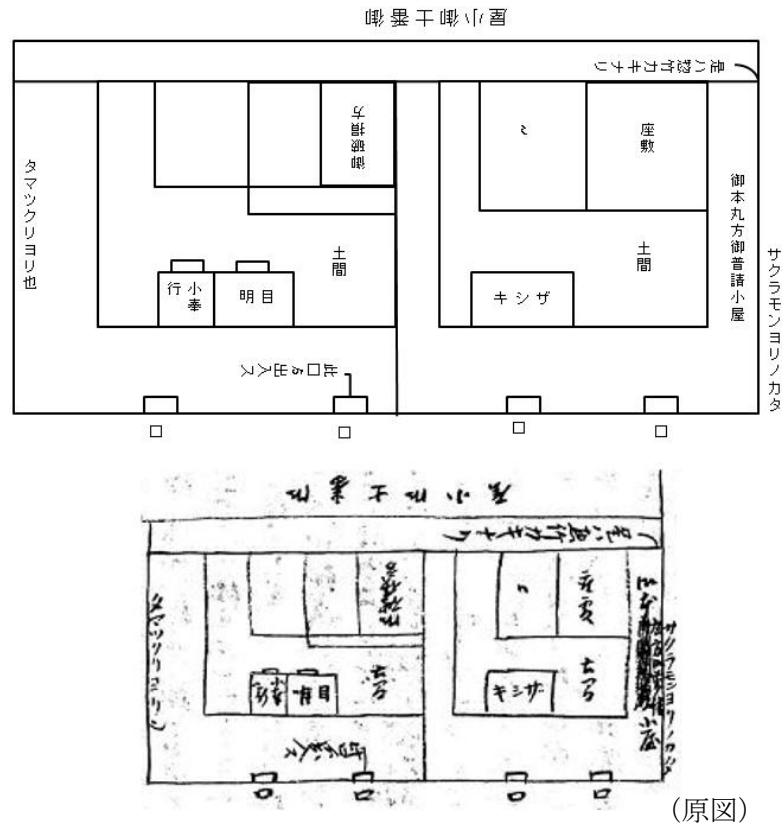
○小奉行も御四手様共初は終日出候<sub>一</sub>共、後<sub>レ</sub>は朝計出代合老<sub>一</sub>人ツ、に而相勤申候。但し人足繰込後は桜御門外に扣居、人足出入為<sub>レ</sub>致候事

一船場内子刻頃方出火翌巳刻過鎮火、右に付御城代様、御定番様、兩大御番頭様、御加番様方御揃に而御參上有<sub>レ</sub>之。尤殿様方御火事羽織御着用、御供方何しも火事羽折着<sub>一</sub>今日御宿鐘に而御城有<sub>レ</sub>之。直様御參上有<sub>レ</sub>之。尤御火事羽折御箱入參、御城代に而御召替有<sub>レ</sub>之。御供方着替參候様御供頭被<sub>レ</sub>申聞、代<sub>一</sub>御小室迄火事羽折着用に罷越、同役御供自分也。半天、ツボリ股引<sub>一</sub>而火事羽折着用<sub>一</sub>。御三手様には御供方火事羽折も為<sub>レ</sub>御持<sub>一</sub>相成、御供待之場に而着替致し申。巳中刻頃御參上、御城代様計御馬印為<sub>レ</sub>御持<sub>一</sub>也。○御天主臺へ御上り御覽有<sub>レ</sub>之候趣也。

都而平常御參上之通也。午刻過御退出 ○御番所<sub>一</sub>と火事具面番之事 ○御手前に而は御用方、御医師、御用部屋御吟味役、并御馬印御茶并當被<sub>レ</sub>差出<sub>一</sub>、御城代御屋敷前迄參候得共、外様方は不<sub>レ</sub>參候に付、御用方豊右衛門殿江其段申上候処、先其邊江為<sub>レ</sub>扣置<sub>一</sub>候様被<sub>レ</sub>仰聞<sub>一</sub>候。御馬印附添同役喜四郎罷越候右何しも火事羽折着用也其内御參上に相成、御馬印御茶并當は直様山里江引取、御用方其外は御跡方被<sub>レ</sub>參候。外様には右様之人無<sub>レ</sub>之候。引取之上并當握飯五ツ、先御供方其外迄出ル ○東西御仕切へ直左衛門殿、十郎左衛門殿火事具に而被<sub>レ</sub>詰候 御馬屋口へも同様御徒士罷出、何しも御帰後引取 ○御帰午刻過候に付、要脚之義御供頭へ申達候処、御箱に無<sub>レ</sub>之間、跡方相渡候段被<sub>レ</sub>申聞<sub>一</sub>候処、并當老統へ被<sub>レ</sub>下候に付、要脚不<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>下候段被<sub>レ</sub>申聞<sub>一</sub>候事 右十一月廿日

一御本丸御普請に付人足目明罷出候段、支配方<sub>一</sub>達有<sub>レ</sub>之<sub>一</sub>以後は御破損方懸合次第罷出可<sub>レ</sub>申、別段達不<sub>レ</sub>申旨被<sub>レ</sub>仰聞<sub>一</sub>候 御届之義初日には出前御用方与御支配江申上引取、三所江申上日とは相替儀も無<sub>レ</sub>之候は、御年寄御用方へは前後共不<sub>レ</sub>申上<sub>一</sub>御支配計へ

前後可ニ申上<sup>一</sup>候。尤終には引取例之通、三所へ可ニ申上<sup>一</sup>旨申上候処、右に而宜段直左衛門殿被<sup>二</sup>仰聞<sup>一</sup>候。○羽織袴着用供人召連、五ツ時前方桜御門前地小屋へ罷出、御相番様類役同断且御破損方并小奉行同断、御小屋之圖荒増左之通



(原図)

右図之通御小屋ニツ有<sup>レ</sup>之。桜御門寄之方は御本丸方御普請小屋也。其次玉造寄之方へ、御破損方并目明小奉行入足等這ル也。○初日には昼代合候得共、二日メより老人に而持切相勤申候。又初日は御破損方ト一緒に参候へ共、二日メ方同役勝手に参申候。○昼支度帰り致し要脚に而受取可<sup>レ</sup>申与、御相番様類役申聞候に付其通り致申候事

○終日詰切之事。右御小屋に扣居候へは小奉行<sup>御足輕方相勤</sup>入足何人与申聞<sup>日雇世話方申聞候義も有<sup>レ</sup>之</sup>。自分上下并小奉行共。人数之内へ書入、右手札認方御鉄砲上納受取之節と同様也。右手札支配方<sup>後には支配へ申達御用部屋へ懸合直と受取</sup>受取。五ツ時打候へは宜旨申聞入足繰入<sup>御破損方に構無<sup>レ</sup>之</sup>。桜御門舛形御番所へ右以<sup>二</sup>手札<sup>一</sup>相断。尤御相番様目明一緒に参御名順に断、小奉行入足ヲ算へ入ル。都而御鉄砲上下之節と同断。入足繰込相濟御普請場へ参候共、地小屋江引取扣居候共勝手次第に而宜<sup>右地小屋へ引取候共、又御場所へ参候共勝手に出入</sup>ス。只舛形御番所へ會尺致而已に而宜候事。外へ御番所へは何茂不入候事。入足四ツ八ツに休に引、又九ツ時両度に地小屋迄引取、七ツ時仕舞也。右時と出入之度毎舛形御番所へ口上に而断

欄外

○山里御門舛形御普請有<sub>レ</sub>之。人足右御門出入致候付、人足參候節右御門前箱番所へ、目明之者断可<sub>レ</sub>申趣也  
帰之節は断に不<sub>レ</sub>及由。○右箱番所、大番頭同出番也。右下に一ヶ所御番所有<sub>レ</sub>之。右は同寄キ番之由

○初日は断申候趣之処、中小屋様目明之人日之事故人足世話方、又は棟梁断に而は相濟間敷哉。世話方  
之者へ相咄候処、同人御番所へ承候処、右に而宜段被<sub>二</sub>申聞<sub>一</sub>候趣に而、以後日と世話方之者断に而相濟目明  
断に參不<sub>レ</sub>申候段、雁木様目明方通達有<sub>レ</sub>之。右山里御門へ參候節は、誰に而も供人連候事不<sub>二</sub>相成<sub>一</sub>、箱番所前  
方に為<sub>二</sub>扣置<sub>一</sub>可<sub>レ</sub>申事也。右四月廿日

○御普請出来、御破損奉行為<sub>二</sub>御見分<sub>一</sub>御出有<sub>レ</sub>之。御四手様御破損方も片側出有<sub>レ</sub>之候に付目明之者も申合  
四人共相詰居申に五ツ半過御出四ツ過相濟御帰也。無<sub>レ</sub>程。人足も出拂候付、桜御門御番所へ相濟出切に相  
成候段申述何<sub>レ</sub>も昼前引取申候事。○御破損方方相濟候段臺内有<sub>レ</sub>之候間三所へ御届申上候事

○雨天之節は多分無<sub>レ</sub>之に付不<sub>レ</sub>出。乍<sub>レ</sub>去内仕事之儀も難<sub>レ</sub>計候間、小奉行は晴雨共出候間目  
明入候節は為<sub>レ</sub>知呉候様頼置候。依而為<sub>レ</sub>知不<sub>レ</sub>呉候は、無<sub>レ</sub>之心得に罷在候。支配へも雨天之  
節は無<sub>レ</sub>之に付、別段不<sub>二</sub>申上<sub>一</sub>候段申上置候。○道悪敷節御本丸内草り、下駄は勿論、下駄  
着用不<sub>レ</sub>苦候事。○要脚兼屋八兵衛方差出上分七分供三分也。前方支配并御破損方へ申達置候処、何<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>被<sub>二</sub>候間、左様に承分致候様被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候。後と者御相番様類役与申合、朝は何<sub>レ</sub>も出人足繰入相濟与一二三二

但晴雨に不<sub>レ</sub>拘日持に致し順番に相勤候事。是は當方同役之勤順也

尤表立候義に而は無<sub>レ</sub>之、只申合にて無<sub>二</sub>急度<sub>一</sub>休足取候事、夫故引取御届は、譬朝出昼後之休  
但朝夕与隔日に相勤候事。是は御相番様類役与之勤順也

足に相成候共、七ツ過に罷出支配方へ御届申上候。猶又支配へも御相番様類役与申合、頼合に而  
休足に引候義も有<sub>レ</sub>之旨、承分迄申上置候。○春に相成御普請之節、右半日持之内、又一ト時  
ツ、老人に而相勤申候。右何レモ中小屋様類役發言に而、先年も右之通致候由被<sub>二</sub>申聞<sub>一</sub>候  
○老人に而御四手様人足之断申候而も、御番所に而は構無<sub>レ</sub>之候。○昼時分方雨に而延引に  
相成候節、次口之方へ案内之義其御門番へ頼置、山里は遠方故、是方其御門番迄承に遣候様申  
合候事。○供人者朝出候候節計召連返シ申候。尤雨降出候は、傘持迎に參候様申付け返ス。  
右は口傳也。是も御相番様類役申合候事。右御普請中は目明両御札場与三所三人に而、終日  
詰切に相成候。右に而は難渋

仕候間、内札場外席へ被<sub>二</sub>仰付<sub>一</sub>被<sub>二</sub>下候様、直左衛門殿江申上候処即内御札場御免に相成、御  
吟味役御勘定方へ被<sub>二</sub>仰付<sub>一</sub>候事。○五月廿五日方人足八ツ休初<sub>レ</sub>。勤順日記に有<sub>レ</sub>之  
○御本丸御金藏内敷石致候節、勤方末に記下に○印

一極楽橋仮橋出来に付、御城代様御序御見分有<sub>レ</sub>之即勤書出別に扣置、昼時分西仕切之方方



御出御橋御見分、右相濟与直に東仕切之方より御帰也。御持場内御破損方并同役喜四郎羽織袴撮股立に而御先立仕。尤仮橋前迄御先立、橋上者御先立不仕候事。右相濟御届三所江申上候事。右十一月廿七日

一上町出火有之。五ツ時過御相番様御揃御城代へ御出、夫方御参上有之。無程御帰、又々大火之趣に而、七ツ時前同断。右兩度共御小屋方御上初御供方一統火事具に而罷出候事

○何レも御番所火事具面番也。此度者御用人其外共出無之、平生御出之通に而火事具に相成候而已。外相替事無之。右十二月六日昨夜亥刻過方出火、今申中刻過鎮火也

一右出火に付同役江火元見被仰付。尤案内旁大和足輕老人召連候様被仰聞。即、喜四郎火事具着用、供人并大和足輕老人召連五ツ時過御城出仕。夫々見分致し無程引取申候。御年寄、大目付江御届申上候事。右同日

一同役詰三人之者、鳥羽表に而被下候暮定式御取扱金、此度は不被下候。尤鳥羽表に而被下候。□と於當方被下候は御趣意違に付、弘化度者被下候へ共是は間違に而、此度改江戸詰之振に被下候趣被仰聞。候に付、差當甚難渋に付段と相願候処、都而鳥羽表に而御治定に相成候間、被相願。候は、鳥羽表に而以同役可被相願。尤拙者方も弥次右衛門方へ委細可申遣旨、直左衛門殿被仰聞。候に付、鳥羽同役江相頼、再應相願呉候様に左之通申遣。文政度暮御取扱式分ツ、是は茶料旁御差合に而被下之、三分に銀式匁ツ、是は御国表に而半年も相勤、爰元出精相勤候に付被下之。弘化度は式分ツ、茶料、尤爰元計壹分増壹分式朱ツ、出張多式分ツ、不正懸に付勘右衛門、元右衛門へ被下之。右之通先年方被下置候。依而茶料出張多、又不正懸に付連蔵、文内江被下置候様、又御趣意合違候へは、文政度之□に御達に而何分被下置候様委細申遣候処、鳥羽表に而再三被願呉候趣之処、何分相濟不申段申越候事

○外御札場弘化度与は御人減、同役三人に而持切相勤候に付、式分ツ、被下置候。尤御差含有之候趣也。○茶料として壹分ツ、被下候。是は増々壹分ト相見申候。此後外席願も有候趣に付、同役に而も相願候へ共、不相濟委細日記に有之候事

○弘化度御取扱委細未記置候事

一同役弓張提灯損し候に付、張替之義支配方へ申達、カワヲ吟味役へ差出銘と追々張替申候事  
一紀伊様御逝去に付、左之通相触候様、酉刻過御門鐘に而直左衛門殿方被仰達候事。22

欄外

○翌七月□寿院様御中陰有<sub>レ</sub>之。委細日記有<sub>レ</sub>之

紀伊一位様去月廿日御逝去被<sub>レ</sub>成候、依<sub>レ</sub>之普請者今日一日、鳴物は来十一日迄御停止被<sub>二</sub>仰出<sub>一</sub>候。二月五日。右之趣可<sub>レ</sub>被<sub>二</sub>相触<sub>一</sub>候。

下両御小屋并東西両御仕切へ自分相触。但し夜分に而供人割場江申付候儀難<sub>二</sub>出来<sub>一</sub>、依而小番召連弓張提灯為<sub>レ</sub>持相触、山里は文内泊に付喜四郎一人に而相触。但し大御番所江も相触相濟御届。御前御用方御支配へ申上候趣自分義も翌朝御用方御支配へ申上候。但九郎兵衛殿御引込御用不<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>承候に付、御触之旨申上御

届は不<sub>レ</sub>申上、依而御用方へ御届申上候事。○昼夜老度ツ、相廻候様被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候。尤御組目付同断に付申合、四ツ八ツ与隔番に相廻、夜は宵与夜中と相廻是又同断。昼は老人に而上下夕共相廻、夜分は御仕切有<sub>レ</sub>之に付、下小屋自分老人に而両度は難洪之旨申上候处、見計に而宜旨被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候に付老度ツ、相廻、御届初計御年寄代に御用方并御支配江申上、又十二日御中陰済に右御同人江申上ル。但申上置候事。○先年は昼廻着流に而、杖持参に而相廻候趣成共、此度は羽織袴に而可<sub>二</sub>相廻一段申上候处、右に而可<sub>レ</sub>然旨被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>即羽織袴に而供人召連相廻候事。夜分は着流に而提灯持参に而相廻、蠟燭吟味役方受取。○御書付出左之通り。

御中陰中、御家中之面と御城出之義御差留に候。尤病用は其次第により可<sub>レ</sub>被<sub>二</sub>差出<sub>一</sub>候。且又無<sub>レ</sub>據用事に而使差出候共、可<sub>二</sub>相成丈見合<sub>一</sub>可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>申候。

右之通被<sub>二</sub>仰出<sub>一</sub>候へ共、川水汲等は不<sub>レ</sub>苦候間、問合之向も有<sub>レ</sub>之候は、右に被<sub>レ</sub>答候様、直左衛門殿方達有<sub>レ</sub>之。依而札廻し御足輕平常之通出申候。○夜廻有<sub>レ</sub>之に付、弘化度は泊御用捨に相成候得共、此度者御沙汰無<sub>レ</sub>之候。是よりも不<sub>二</sub>申上<sub>一</sub>泊相勤申候事。右二月五日

欄外

○御番所前引戸者戸ヲ女引置密成<sub>レ</sub>バ窓之簾ヲ上置可<sub>レ</sub>申候事

○送出引取之節大番所へ口上申述候様、丑六月御中間送出之節申聞有<sub>レ</sub>之。委細末に記。下に△印

一九郎兵衛殿病氣に付被<sub>二</sub>相願<sub>一</sub>帰足之節、駕籠に而山里方御城出に相成。猶又左門殿看病願濟に而被<sub>レ</sub>参、右送り被<sub>二</sub>仰付<sub>一</sub>自分相勤、羽織袴着供人召連出前御届、御用方大目付へ申上ル。○御届書写支配方被<sub>二</sub>差出<sub>一</sub>左之通

私家来稻垣九郎兵衛与申者、病氣に付在所江差遣申候。依<sub>レ</sub>之上下拾五人以<sub>二</sub>送札<sub>一</sub>明朝御城外へ差出申度候。右之者步行難<sub>二</sub>相成<sub>一</sub>候付、御城内駕籠に而差出申度奉<sub>レ</sub>存候。追手御門、北仕切御門無<sub>二</sub>相違<sub>一</sub>被<sub>二</sub>相通<sub>一</sub>候様、御番所へ被<sub>二</sub>仰付<sub>一</sub>可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>下候。以上

嘉永六癸丑年二月七日

御名御印

土屋采女正殿

私家来稻垣左門与申者、用事申付在所へ差遣候、依<sub>レ</sub>之上下四人以<sub>二</sub>送札<sub>一</sub>、明朝御城外へ差出申度奉<sub>レ</sub>存候。追手御門無<sub>二</sub>相違<sub>一</sub>被<sub>二</sub>相通<sub>一</sub>候様、御番所へ被<sub>二</sub>仰付<sub>一</sub>可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>下候。以上

### 前同断

山里大御番所、御門下枅形、西仕切御番所へ御断申候

長旗に而被<sub>レ</sub>参候に付、西仕切御門間は通不<sub>レ</sub>申候に付、極内に而片扉開候間承分迄内へ申達置候段、直左衛門殿被<sub>二</sub>

仰聞候。右は御城代御用人江内へ問合有<sub>レ</sub>之、差含に而極内取計に相成候趣也。倍臣に而は片扉開候義不<sub>二</sub>相成<sub>一</sub>候由

京橋大御番所見通に相成候に付、御断罷越上番之横

手へ<sub>レ</sub>参 取次出候趣之処今日は不<sub>レ</sub>出。夫方被<sub>レ</sub>仰聞候様被<sub>二</sub>申聞<sub>一</sub>候に付、右に而相述へ申

口上左之通 何<sub>レ</sub>も手札無

稻垣撰津守昨日以<sub>二</sub>使者<sub>一</sub>御断申上候。家来老人病氣に付在所へ差遣候。尤駕籠に而御城外へ差

出申候御見通に相成候間、御断申上候旨申承分致し候段相答、夫方北仕切御番所江御断申参処、并口上京橋同断 但し見通し与申事無<sub>レ</sub>之 番士敷居際迄出ル ○追手大番所御断例之通也。口上左之

通り。稻垣撰津守様方昨日以<sub>二</sub>御使者<sub>一</sub> 御断申上候。家来稻垣九郎兵衛与申者病氣に付、

在所表江差遣候。尤駕籠に而御城外へ差出申候。猶又稻垣左門与申者在所江差遣申候。都合上下拾九人御城出御断申上候旨申述、夫方三御番所江十九人送礼、自分上下出入札差出荒増口上添ル。右に而相济引取、自分上下出入札に而御城入致し、御届御用方大目付へ申達候事。

荷物方持等者礼廻に而出候事 右二月八日

一殿様、京橋御定番米倉様御下鳴野之御屋敷江、久貝様、中小屋様御同道に而御出有<sub>レ</sub>之。但御馬に而被<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>入候。御馬脇御供頭御左り、御近習、御納戸、御中小姓右老入ツ、都合五人御先同役共五人押、三人御供箱并合羽籠は天氣宜候に付、為<sub>二</sub>御持<sub>一</sub>に不<sub>二</sub>相成<sub>一</sub>、若雨天に相成候わ<sub>レ</sub>跡方別札に而参候旨御供頭被<sub>二</sub>申聞<sub>一</sub>、外例之通御鑓モ式本御箱モ三ツ也。惣御人数都合廿四人也。内御供十三人、御先出十一人御供自分加人専右衛門相勤、御先出御人数断、例

之通自分相勤 ○御馬脇五人押老入御草り取供草りべ八人居残。又御鑓、御箱、御馬相残申候。跡十六人御供帰、右御城入之節、又為<sub>二</sub>御迎<sub>一</sub>御城出之節共、鑑札に而追手御門出入可<sub>レ</sub>致。右鑑札自分取計候様、御供頭被<sub>二</sub>申聞<sub>一</sub>即内御礼場に而自分口上断に而鑑札借受 但書付に而も貴度言、内礼場に而申聞

候は、自身之書付可<sub>レ</sub>違事

右に而平常之通出入致申候。尤自分鑑札取扱申候 但何<sub>レ</sub>モカマツボリ候ママ出入ス

御下屋敷御門前に而

御先落、右に而御下馬也 ○御用人御医師被<sub>レ</sub>参別札出也

○御迎七ツ時参着、尤御迎触有<sub>レ</sub>之様御納戸中へ被<sub>レ</sub>申候様、御供頭被<sub>二</sub>申聞<sub>一</sub>引取之上、其段御納戸中へ申。尤外与<sub>レ</sub>之義に候間八ツ半前に触御差出被<sub>レ</sub>下候様申達置、其刻触有<sub>レ</sub>之。例之通相揃、夫方御城出致候。但御草り取老入昼後より代合に罷出、先之者は不<sub>二</sub>引取<sub>一</sub>直様居候段申

聞候。依而十五人之出に相成申候。○御供頭江御迎參着致候旨申達置候。○御帰り七ツ半過御城入、御番所御断例之通也。右三月七日

一道明寺天神江御巡見。前日御供頭方野服之旨通達有<sub>レ</sub>之。并御出触例之通御駕籠脇御先半天、股引、割羽織着<sub>何レも草り着也。外様御供方は何レも草鞋之事</sub>。六ツ時御供揃にて御出、久貝様、中小屋様御手前御

同道也。久貝様へ御揃之上御城出御人数例之通。之外御茶弁當持人式人、御坊主老人、御用人鑓持老人へ四人増、都合四拾老人也。内十三人御供式十八人御先出、同役御番所断例之通相勤。○御用人老人、御医師一人御供に候へ共右は別札也。御馬も同断、御馬役御中小姓内へ加ル。○御供喜四郎、自分相勤。○追手御門外方御駕籠被<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>召、御道筋荒増左之通り

一玉造奈良道通り

一いかいの村御勝山 御小休御野立也。是方御馬に被<sub>レ</sub>召。御供廻り平野迄御先江參ル

一平野 古河様御領分御馳走御役人出有<sub>レ</sub>之。右入口方河端迄惣御供

一河鍋 御小弁當所 中小屋様御持 下宿有<sub>レ</sub>之御小弁當老統へ被<sub>レ</sub>下

是方御乗切御供方何<sub>レ</sub>も御先へ參。○御鑓者式本共參御箱は二ノ方為<sub>二</sub>御持<sub>一</sub>、一三并御茶、弁當惣下供は御昼平野迄帰、右同役老人引圓(ママ)居參候様御供頭方達有<sub>レ</sub>之。自分御坊主押老人相殘其餘者御供也。○平野入口迄帰り右に而御供待、夫より御弁當所迄惣御供也。曇天に付合羽籠は押老人附川鍋江残置、若降出候は、早と御

迎に參候様申付置、何<sub>レ</sub>も御三手様御同様也

一道明寺天神 一菅田八幡宮 一藤井寺

一河鍋 一平野 お弁當所 古手屋 御手前持也

御供下宿二ヶ所有<sub>レ</sub>之。右に而老統江御弁當被<sub>レ</sub>下。○御先番、御近習、御納戸是方御駕籠に而惣御供也。○御奉行吟味役御料理人

一河堀 コボレ 若松屋 御小休 杜若 ご覽有<sub>レ</sub>之 天王寺之ワキ也  
一上本町通 御城入 七ツ時 凡五里ヨ有<sub>レ</sub>之趣也

御馬式疋也。老疋は御用人被<sub>レ</sub>乗候事 久貝様御供方日笠冠候に付、御手前に而も一統相用候。都而外御出と同様之事。○御弁當、御小弁當共御礼不<sub>二</sub>申上<sub>一</sub>候。去冬御巡見之節御弁當少分之趣に付、其段御供頭江申置候処即、此度相増申候代に而老人前老分増之由

○弘化度は、御初尾其外御宿料等前方御吟味役方附紙に而同役受取、片箱江入為<sub>レ</sub>持參御供頭江承、先方に而夫と取計受取書取候趣之処。御掃之上御割合に相成候趣也 當年は右一切無<sub>レ</sub>之、都而谷村治兵衛為<sub>二</sub>御任<sub>一</sub>相成候段、御供頭被<sub>二</sub>申聞<sub>一</sub>候。依而同役取計一切無<sub>レ</sub>之候事。右四月十九日

一安治川邊御巡見前方御徒士中与申合、先日道明寺御巡見之節、外様御供方麻羽織着用有<sub>レ</sub>

之。尤暑サ強其後日と増<sup>二</sup>暑氣<sup>一</sup>に相成候間、時節違には候へ共、麻割羽織用度段御供頭江申達候処、宜旨被<sup>二</sup>申聞<sup>一</sup>候。御供頭方草鞋可<sup>レ</sup>用旨被<sup>二</sup>申聞<sup>一</sup>候に付、御徒土中申合、先日は道法も有<sup>レ</sup>之候共、此度は里数も無<sup>レ</sup>相成候間、草りに而可<sup>レ</sup>參旨被<sup>二</sup>申聞<sup>一</sup>候。御先之処草り用度候へ共、御駕籠脇草鞋に而は如何に候哉。御供頭江承候処如何様右に而は送候様に

二申聞<sup>一</sup>統草り着用致候事 前日御供頭方野服之旨達有<sup>レ</sup>之。又御納戸中方六ツ時御出に付、只今触不<sup>二</sup>差出<sup>一</sup>、又上御小屋者押付触出候得共、下御小屋者御仕切有<sup>レ</sup>之に付不<sup>二</sup>差出<sup>一</sup>候間、其御心得に而可<sup>レ</sup>被<sup>レ</sup>成<sup>二</sup>御出<sup>一</sup>旨被<sup>二</sup>申聞<sup>一</sup>。○御出触例之通有<sup>レ</sup>之。○御弁當、御小弁

當共永楽屋に而被<sup>レ</sup>下候旨御供頭方被<sup>二</sup>申聞<sup>一</sup>。○六ツ時御トモ御揃に而加納様、雁木様、御手前御同道に而御出、御供文内、自分相勤即御駕籠脇御先共一統半天、股引、麻割羽折着用ス。○御道筋左之通。右書付御供頭方被<sup>二</sup>差出<sup>一</sup>候

#### 安治川邊

一平野町通 一ぢいば 一九条村 池山新兵衛 ○御小休是より御馬に被<sup>レ</sup>召

一安治川通 一天保山 御弁當所 永楽屋源之助 ○御昼御手前持也 ○御先番先日之通也

○御小弁當同所雁木様御持也 尤御出直様御小弁當。夫方大筒丁打御覽、其後御昼也

○御供下宿ニケ所有<sup>レ</sup>之。両度御弁當一統被<sup>レ</sup>下。○御帰り右方御駕籠

一安治川通 一ぢいば ○阿弥陀ヶ池開帳江御立寄。夫より

御馬に被<sup>レ</sup>為<sup>レ</sup>召長堀江戸屋御立寄。夫方御駕籠心齋橋筋方

一本町通 御城入 ○七ツ時過也 ○御途中日傘相用申候

御先出御人数 殿様御供計同役に而御番所断申候。以後共右之通之旨御供頭被<sup>二</sup>申聞<sup>一</sup>候。

依而例之通之御人数之外、御茶弁當持人式人、御坊主老入<sup>レ</sup>三人増、都合四十人之内式十七人御先出に相成、御用人、御医師御供有<sup>レ</sup>之候へ共、上下不<sup>レ</sup>殘別札出之事。○御牽馬老正而已也。○御宿料等同役取計無<sup>レ</sup>之右之外都而例之通事。右四月廿八日

一道明寺御巡見之節、旗頭方御供頭江御陸尺七人之処、外様八人にも有<sup>レ</sup>之。且者御上も重

ク御座候へは、八人に被<sup>二</sup>成下<sup>一</sup>候様相願候処不<sup>二</sup>相濟<sup>一</sup>候趣、附而は陸尺自分雇にて老入増、無地看板着せ差出、其段同役江申聞候間、御供頭江申達候処、其後御供頭方如何之趣篤与

相尋候様、又先日御供頭へ直に相願候義も筋違に而、都而各方へ申出各方方拙者共承義に候間、右之処も被<sup>二</sup>仰置<sup>一</sup>候様被<sup>二</sup>申聞<sup>一</sup>候間、政田屋手代江其段申達置候。増人之儀は七人

に而は甚難渋之趣に候間、八人に被<sup>二</sup>成下<sup>一</sup>候様申聞候間、右之趣申上候処今度御巡見に付段と内願も有<sup>レ</sup>之。依而御用方へ申達候へ共不<sup>二</sup>相濟<sup>一</sup>候間、自分雇にて差出候義は大目に見

置可<sup>レ</sup>申段、要人殿被<sup>二</sup>申聞<sup>一</sup>候。然処此度も自分雇にて而老入差出候間、内と御含被<sup>レ</sup>下候様

旗頭方申聞候間、御先江不<sup>二</sup>出サ<sup>一</sup>御跡を昇せ候様申置、右之段御供頭江申達候処、承分之旨被<sup>二</sup>申聞<sup>一</sup>候事

一安治川御巡見之節、阿弥陀ヶ池御立寄之砌、御率馬御同伴之御番士之鏝勿倒鞆カケ、右鏝持糊に而ツケ間に合せ候へ共、押下供杯に而右之噂取と申候間、右之段御供頭へ内と相咄候処、御用方へ談可<sup>レ</sup>申旨被<sup>ニ</sup>申聞<sup>一</sup>候処、御用方々谷村江被<sup>レ</sup>談候趣、御供頭方被<sup>ニ</sup>申聞<sup>一</sup>候事

一御本丸御金藏廻江此度新規に敷石出来に付、日と人足入目明例之通罷出、右御構外に而石拵致し置候事 ○右敷石致候節、御四手様に而目明式人ツ、罷出候様御破損方方申聞有<sup>レ</sup>之

○御破損奉行御金奉行老人ツ、御金藏御番所江終日御詰有<sup>レ</sup>之。又御破損方式人ツ、并目明式人ツ、罷出、御金藏御構御門内江終日詰居申候。右御門明ヶに參候御番人江、目明之者

名前申述 手札差出候方宜候へ共差懸ク用意無<sup>レ</sup>之に付口上に而申候尤御破損方被<sup>ニ</sup>申聞<sup>一</sup>候、始終何<sup>レ</sup>も口上に而申候事 小奉行も式人ツ、出、老人者例之通桜御門

外に扣居、老人は右御門に而人足算申候 ○初メは御破損方并目明共式人ツ、右御門内

へ詰居候へ共後とは老人詰居、一人は右御門外へ出休足致代合申候。尤發物地小屋方差出見計發せ右に着座ス。但御破損方も右同様共同断也 ○伴人右御門外へ残置申候。御破損奉行通も同断也

○目明之者朝与昼後与代合相勤候事 ○右出来上之節御破損奉行、

御金奉行御見分有<sup>レ</sup>之。又御四手様御破損方并目明四人共罷出ル。四ツ時前相濟、桜御門御番所へ人足出拂申候段相述引取 ○御破損方より右に而相濟候段、被<sup>ニ</sup>申聞<sup>一</sup>引取御届三

所江

申上候事 右五月

一御中間幸助病氣に付帰足致候節、步行難<sup>ニ</sup>相成<sup>一</sup>候に付御城内方駕籠に而罷出候。右之趣御城代江御届に相成候処、駕籠之義は不<sup>ニ</sup>相成<sup>一</sup>候由<sup>口</sup>に而差出候様御沙汰之趣に而、又候御届直しに相成候。先年は駕籠之御届に而相濟候へ共、此度は右之通御沙汰之趣に御座候即、御届出之写支配方被<sup>ニ</sup>差出<sup>一</sup>、左之通

私召仕中間老人就<sup>ニ</sup>病氣<sup>一</sup>在所江差戻申候処、步行難<sup>ニ</sup>相成<sup>一</sup>候に付<sup>口</sup>に而介抱人老人差添、右式人今日以<sup>ニ</sup>送札<sup>一</sup>從<sup>ニ</sup>追手御門<sup>一</sup>御城外へ差出申度奉<sup>レ</sup>存候。追手御門、北仕切御門無<sup>ニ</sup>相違<sup>一</sup>被<sup>ニ</sup>相通<sup>一</sup>候様、御番所江被<sup>ニ</sup>仰付<sup>一</sup>可<sup>レ</sup>被<sup>レ</sup>下候。以上

嘉永六癸丑年六月一六日 御名御印

土屋采女正殿

右に付追手御門送出相勤候様被<sup>ニ</sup>仰聞<sup>一</sup>、自分罷出出前御届御用方大目付へ申上、御持場四ヶ所之御番所江御断申。猶又京橋御番所へも御断に罷越 取次罷出當番姓名中自分名前承申候 北仕切、追手大番所

并三番所同断。病人、介抱人、送札駕籠昇候者三人、御中間等に付出入札也。相濟引取自分上下出入札に而御城入、外三人者札廻しに而御城入に相成、引取御届三所へ申上外例之

通り也

△御手御門下御番所御番人方相濟、御引取之節送出候段、大番所へ被<sub>二</sub>仰上<sub>一</sub>候様申聞候間、是迄引取之節申上候義無<sub>レ</sub>之段相答候処、大番所方御沙汰有<sub>レ</sub>之候間、一應被<sub>二</sub>仰上<sub>一</sub>候様申聞候間、即相濟引取之節、例之通大番所江参口上、先刻御断申上候病人無<sub>二</sub>別条<sub>一</sub>送出候間、此段申上候旨相述候処、取次番頭へ被<sub>二</sub>申聞<sub>一</sub>承分之段申来候。夫方引取申候。依而以後共右之通可<sub>レ</sub>致候事 右六月十六日

一公方様薨御に付、申之中刻頃即刻御出触に而御相番様御揃、御城代様江御出有<sub>レ</sub>之。御供自分相勤御帰西之中刻時分也。御太鞍打延に而何<sub>レ</sub>之御門も開有<sub>レ</sub>之。夜中故御帰御提灯入即御先江箱御提灯弐ツ、押手提灯壹ツ相用イ申候。右御供頭要人殿差圖に候事

○外様も御同様也 右七月廿六日

一八月二日朝方御小屋内御中小姓格以上裾細、其以下着流、但何<sub>レ</sub>も引ハダ懸居候事。猶又半天、股引着之人も有<sub>レ</sub>之候事

一同日御仮御城入に付御城代江御出、猶又昼後御城代両御定番へ御出之節、御供服、御中小姓者裾細、御徒士同役者ヂンく端折脚絆着麻振子羽織引ハダ用候事

一御城出之節同役踏込着用は可<sub>レ</sub>被<sub>二</sub>見合<sub>一</sub>候。立付成り共半天、股引成とも勝手次第被<sub>レ</sub>用候様被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候事 ○猶又若雨天之節は、御中小姓格

以上は手傘、板打草り相用候而不<sub>レ</sub>苦候一躰は諸士以上之趣也 其以下は桐油可<sub>二</sub>相用<sub>一</sub>旨伺候処、直左衛

門殿被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候間、自分義御行列相揃候に、桐油に而は御行列帳見候事難<sub>二</sub>出来<sub>一</sub>、甚難渋之義に御座候段申上候処、左候は、相揃候内手傘被<sub>二</sub>相用<sub>一</sub>、御城出之節者桐油被<sub>レ</sub>用候様被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候に付、段々誤合申上候得共、直左衛門殿彼是與被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>候事

一人足繰入荷物繰出之節、目明罷出候節者踏込着用不<sub>レ</sub>苦候旨、被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>即踏込着用申候事一荷物追手御門方繰出に付、目明御門下辻請人、舛形大須賀兔毛外張角熊文内諸事御繰込之節之通也。但御番所方敷物出有<sub>レ</sub>之。右江着座ス。御門下は大御門之処、舛形者冠木御門與御番所之間、外張同断也。舛形与外張江出候者式人、札持参御番所へ見せ候事。尤持参不<sub>レ</sub>致候処、御門下御番所に而持参致候様申聞候趣也。相濟引取御届例之通

一文内、与兵衛二日夕刻鮎宇迄御先江罷出、文内今朝三所へ御用伺参。但御城出は御届に相成送出、喜四郎相勤候事

一政田屋方日雇御雇、右呼入に相成候処、御足輕以下百五十人呼入之御届之趣に而、追手御門断相勤候様被<sub>二</sub>仰聞<sub>一</sub>即、喜四郎迎札を以呼入相勤候事

一明三日御交代に付暮六ツ打延、追手御門其外迄御門と開有<sub>レ</sub>之。山里御家来通用ス。五ツ

頃打切御門と停止候事

一 明三日御供揃、丑之刻揃之旨惣触有<sup>レ</sup>之候事

一 八月三日<sup>天</sup>御出押付触有<sup>レ</sup>之。右に而何<sup>レ</sup>も御小屋江罷出、無<sup>レ</sup>程御武器繰出、京橋御定番御長屋下江三行に相揃候事

但懸り三人に而夫と致<sup>二</sup>差圖<sup>一</sup>候事 ○御行列に御提灯者無<sup>レ</sup>之候事 ○自分儀絹

布羽織立付着用、供人召連候事。尤自分紋弓張提灯相用申候事 ○外席は多分割羽織

着用之事

一 殿様にも無<sup>レ</sup>程御出、京橋御定番御屋敷角御行列之上江御床机に被<sup>レ</sup>成<sup>二</sup>御座<sup>一</sup>候御供廻り御行列帳之通

右御供御城方アミチマ迄御徒士同役共、デンく端折麻振子羽折着用、御供喜四郎相勤申候事

一 卯之刻前頃大久保様衆御小屋受取繰込に相成申候。高張提灯山里丸内江持込候事

一日之出頃御使者有<sup>レ</sup>之。殿様御直に御受、夫方御行列御繰出に相成申候。京橋大御番所江

御定番并御目付御出席、其外都而御城入之節与同断也。御行列出拂候而方 殿様御番所江

御出、夫方御城出被<sup>レ</sup>遊候事。京橋口土橋外大久保様江御挨拶被<sup>レ</sup>遊、夫方御乗輿に而御行

列帳之通御供立に相成候。尤御供御先出之方筋鉄御門方御堀の方へ扣セ置、右上京市大夫

同役心得、御武器締に而御先江出候に付、御先出御供之分残居候様差圖致候事 ○京橋

口外方網島迄、同役御供加人傳左衛門デンく 端折に而御供仕候事

一 御交代之節京橋口両御門共開門并、西仕切、山里冠木御門片扉開有<sup>レ</sup>之候事 ○山里冠

木御門二日夜者開切也

一 殿様五ツ過頃鮒卯御發駕被<sup>レ</sup>遊候事。附り右鮒宇江銀子方并御出入町人共御暇乞に先例罷

出候処、御中陰に付御断に相成不<sup>二</sup>罷出<sup>一</sup>候事

一直左衛門殿、文内、自分、録藏御足輕共鮒宇に而御武器取仕廻、昼過頃同所裏方船割之

通乗船致候。但御用に而鮒宇居残之者へは支度被<sup>レ</sup>下に相成、右之面とも同所に而支度致同

様に候事、外には弁當或要脚渡候事 ○船割前方十郎左衛門殿方左之通廻状来

乗船組合

一 具足 一 葛籠二 一 稲垣直左衛門 上下四人

一 葛籠 二 一新井弥六郎 上下式人 一 葛籠 二 須藤連藏

一 葛籠 二 角熊文内 青木録藏 中野幸治

一 上下拾式人○内二人 識申候

具足 老荷葛籠 八 惣式拾式人前

右 三拾石老艘

○寅刻時分伏見江着船致候



一同月七日<sup>天</sup>直左衛門殿、文内、自分、其外同船之面と道中無<sup>レ</sup>滞小俣村止宿に而、今昼過  
歸着致候事

直様直左衛門殿、文内、自分同道に而御年寄衆江御届に罷越。夫方文内、自分、御用人并弥次  
右衛門殿へ御届に参ル。何レも被<sup>レ</sup>會申候。夫方帰宅ス。且同役御吟味役江廻状差出、同役  
江今日は参不<sup>レ</sup>申候事

但喜四郎、其外帰足之面と何レも今日着有<sup>レ</sup>之

一翌八日、六郎右衛門殿、豊右衛門殿へ三人一緒に参申候。六郎右衛門殿念に入候義別段  
面會不<sup>レ</sup>致候趣、被<sup>レ</sup>仰聞「被<sup>レ</sup>會不<sup>レ</sup>申候へ共、其後参不<sup>レ</sup>申候、豊右衛門殿被<sup>レ</sup>會申候。又  
十郎左衛門殿へ挨拶旁参申候事

一翌と九日直左衛門殿へ三人一緒に挨拶旁罷越申候事

一喜四郎閑宿迄御供、連藏、文内義者鮎宇に而御暇被<sup>レ</sup>下置候段被<sup>レ</sup>仰達候事

大坂三町人

大工大棟梁 山村与助

大御番頭

尼崎又右衛門

御道御案内役

瓦方 寺嶋藤右衛門 瓦屋卜言

谷村治兵衛

兼屋庄次郎

御交代順并定日

御米中次

多田屋徳右衛門

八月三日

尅加番

竹川彦太郎店<sup>ツケ</sup>

と 四日

三加番

手代 覚助

と 五日

弍加番

御破損方懸り

兼屋庄次郎

と 六日

四加番

兼屋八兵衛

と 七日

大御番頭

御鉄砲方懸り

兼屋忠助

右翌日方

大御番頭

外御札場借宅

天満屋弥左衛門

右畢日方

大御番頭

諸道具損料貸屋

河内屋太兵衛

御取扱之覚

弘化度

- 一金壹匁ツゝ 并拝借
- 一と壹匁ツゝ 江戸詰相勤二度目大坂詰に付先例に付拝借
- 一と三兩貳分ツゝ 大坂詰に付御取扱當方に而半高後残大坂に而暮渡
- 一と貳匁ツゝ 御人少繁勤に付御取扱渡方前同断
- 一と壹匁ツゝ 世話敷相勤候に付御取扱暮渡
- 一と壹分貳朱ツゝ 難船出張に付御取扱いと
- 一と貳分ツゝ 不正懸りに付勘右衛門元右衛門へ御取扱暮渡
- 一と壹分ツゝ 茶料暮渡り
- 一と壹分ツゝ 同断當所計貳分に被<sub>二</sub>成下<sub>一</sub>三月追渡
- 一と壹分二朱ツゝ 御供世話敷相勤候に付御取扱三月渡
- 一と壹分ツゝ 昨年来出精相勤候に付為<sub>二</sub>御褒美<sub>一</sub>被<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>之
- 一と壹匁ツゝ 諸色高直に付難渋願濟拝借被<sub>二</sub>仰付<sub>一</sub>  
暮御切米に而上納七月渡

弘化度御取扱直左衛門殿方御尋に付、右ヲ書取差上申候事 右六月五日

嘉永五壬子年

- 一金壹匁ツゝ 五月十二日渡 并拝借
- 一と三兩貳分ツゝ 大坂詰に付御取扱半高六月九日に渡残半高大坂に而暮渡
- 一と貳兩ツゝ 同 御人少繁多に付御取扱半高六月九日に渡残前に同
- 一と壹匁ツゝ 六月九日渡 詰式度目に付拝借 但し添拝借也
- 一と五兩ツゝ 七月六日渡 御判金
- 一と壹匁ツゝ 十二月廿六日達  
と廿八日渡 繁勤之処出精相勤候に付被<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>之
- 一と壹分ツゝ 右 同断 町方廻りも有<sub>レ</sub>之に付茶料被<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>之
- 一と貳分ツゝ 右 同断 外御札場出役此度は老人相減世話敷相勤候に付被<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>之  
但暮定式御取扱不<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>候に付御差含有<sub>レ</sub>之趣也
- 一と壹分貳朱ツゝ 三月三日達渡 定式暮被<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>金 但不正懸御取扱は不<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>委細日記有<sub>レ</sub>之
- 一と壹分ツゝ 右 同断 昨年来出精相勤候に付被<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>之
- 一と壹分貳朱ツゝ 五月四日達渡 昨年来御出繁之処出精相勤候付為<sub>二</sub>御取扱<sub>一</sub>被<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>之
- 茶料百疋増被<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>之義此度者不<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>委細五月之日記に有<sub>レ</sub>之
- 一と壹兩ツゝ 七月廿七日渡 大坂出立前難渋願に而拝借

但當暮上納之積に而拝借候処、諸席延願有<sub>レ</sub>之に付、同様相願候処、相濟寅春秋兩度に上

納致候事

御番衆上町組御宿ヶ所南組郷丁数控

天保九戌年五月

御番衆上町組御宿ヶ所南組郷丁数控

上町組宿割支配丁

嶋町筋三丁

南久太郎町三丁目	南久宝寺町一丁目
同 四丁目	同 二丁目
同 五丁目	同 三丁目
同 六丁目	同 四丁目
北久宝寺町一丁目	同 五丁目
同 二丁目	いはらき丁
同 三丁目	博労町
同 四丁目	上難波町
同 五丁目	順慶町 一丁目
源左衛門町	同 二丁目
金沢町	同 三丁目
金田町	同 四丁目
初瀬町	同 五丁目
北勘四郎町	浄国寺町
塩町 一丁目	安堂寺町 一丁目
同 二丁目	同 弐丁目上半
同 三丁目	同 下半
同 四丁目	同 三丁目
車町	同 四丁目
南勘四郎町	同 五丁目
長堀橋本町	長堀 十丁目
同 治郎兵衛丁	小西町
同 心齋町	九之助(カ)町 一丁目
同 茂左衛門丁	同 二丁目

南米屋町  
木挽北之丁  
ノ五十丁

天保九戌年五月  
御宿町名附

舟場御宿割方  
高麗橋三町

南本町一丁目上半	唐物町 一丁目
同 下半	同 式丁目上半
同 二丁目	同 下半
同 三丁目	同 三丁目上半
同 四丁目	同 下半
同 五丁目	同 四丁目
北久太郎町一丁目	ひなや町
同 二丁目	南久太郎町一丁目
同 三丁目	同 二丁目
同 四丁目	
同 五丁目	

ノ二十丁 右丁ヶ所に而御宿廿軒被<sub>二</sub>仰付<sub>一</sub>候

天保九戌年五月

大番衆様方御宿勤方粗方  
高麗橋三町

御殿様居間	八畳 以上
御用人様御間	六畳 以上
御侍仲間御間	八畳 以上
御鎧櫃老荷御乗物馬荷式駄位小付有	

御道具

右御荷物置場所入用

座鋪銚付左に

床之間掛物見合 目出度圖よろし

生花

料紙文箱硯箱半紙墨

御刀掛掾(カ)敷手ぬぐる掛  
湯殿廻り  
下之分同

上廁 随分寄麗也

夜分座鋪行燈手燭用意

高臺茶吞茶碗壺對田葉粉盆宜敷

方高槻菓子盆 卷のし付銚熨斗三方也

御殿様御膳大木具椀黒縁金

焼物菓子椀等木具にてひく御酒之節、硯蓋鉢類都而木具哉

御殿様絹夜具 御家来之分木綿夜具

次之間座鋪行桁御鑓掛

侍衆仲間之間 式棹入用

侍衆仲間衆黒本膳也御酒之節御通り之心得

但御用人都而御家来衆給仕候手代勤ニ袴着ニ  
勿論御上は亭主上下着  
始り

御宿支配丁方廻章相廻り候節左之通御認御差出し可レ被レ成候

覚

何丁

一 御宿 亭主 何屋 誰

但 何町通何丁何江入何側

右之通御座候已上

戌八月 何町印

御宿支配町

座鋪廻り其外家内勝手廻り惣絵圖 美濃紙認一緒に御差出し可レ被レ成候

八月二日比、御宿割御兩殿様町之宿と御見分被レ遊候間、前日支配町方廻章相廻り候間、

其積りに而前廣に掃除繕ひ等為<sub>二</sub>行届<sub>一</sub>置、不都合無<sub>レ</sub>之様可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>成候

同三四日比、再掃除御見分在<sub>レ</sub>之。是も支配町方前日に廻章相廻り候。併可<sub>二</sub>相成<sub>一</sub>は、前之二日比宿見分之節に諸事為<sub>二</sub>行届<sub>一</sub>置寄麗にいたし置度事。掛物を掛、花を入、鋳物都而かさり立置度事に候

宿見分相濟候は、御性名書、宿札御渡被<sub>レ</sub>成候間、板に張門口に掛置べく事

右御見分相濟候上御諸証文被<sub>二</sub>仰付<sub>一</sub>候間、実印支配丁江持参之事

御番衆様方先川跡川之模様而、支配町方廻状差出し候付、亭主方御迎可<sub>二</sub>罷出<sub>一</sub>事

但八軒家濱宿式軒つゝ申合組合に而船便宜

亭主名代袴羽織人足箱提灯持ツ、外に人足老人、都而宿老軒に右之通三人つゝ、右之内老人之人足は御宿船之時宿江知らせ走ル

亭主麻上下に而宿之門口江御出迎平伏ス

御殿様座敷江御直り被<sub>レ</sub>成候は、直様亭主三宝鋳のし持出御前に差置、亭主名前申上、

御機嫌よく御宿着之趣恐悦可<sub>二</sub>申上<sub>一</sub>事。

次に田葉粉盆、御茶、御菓子差出し候事

勿論御殿様御給仕亭主可<sub>レ</sub>致事

御番衆様方八月五日方八日迄に追々御宿有<sub>レ</sub>之。

御宿時刻朝暮夕曉不<sub>二</sub>相分<sub>一</sub>故、御着之之(ママ)節御膳は平日之御膳部可<sub>二</sub>差上<sub>一</sub>、其上御用人与御窺之上、昼飯に御祝義之御膳酒差出し可<sub>レ</sub>申 三ヶ盃花月臺

御出立御祝義之御膳等御酒共御調之上、宵晩に差上申 料理向は先例在<sub>レ</sub>之、御城入之節夜九ツ時分平日料理之御膳差出、七ツ時分に宿御出被<sub>レ</sub>成候。人足老人ばんば江御荷物番に可<sub>レ</sub>遣。猶亦、前日に人足方印鑑宿江持参可<sub>レ</sub>致。請取置御出立之節御荷物運び人足、

右印鑑持参引替に荷物可<sub>二</sub>相渡<sub>一</sub>事、右宵晩に御窺申上、翌日御城内に而昼之弁當何れ御入用に付、其積り致置べく事

塗弁當□紛等如何に付とり□

御人数に應ス 飯箱につめる事も在<sub>レ</sub>之、御上者 小倉埜之かり箱に、中下は同まん

中三十入之かり箱、右遣イ切也

御出立之時亭主門口に而見送候事

御逗留中御殿様御他行又御帰り節とも亭主門口に而平伏ス

但御帰り之節は案内之宿へト足先江御帰り宿江知らせべく事

御大切之御宿に付、随分奉<sub>二</sub>恐入<sub>一</sub>不敬無<sub>レ</sub>之様丁寧に相勤べく事

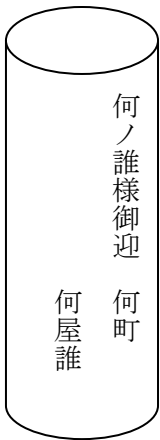
御宿門口江夜分なんと左に

夜分箱丁ちん

何之誰様 御宿

何ノ誰様御迎 何町

何屋誰



八軒家御迎之節左に

紙に而張置

何之誰様御迎 何町宿主  
何屋誰

八軒家濱江御迎之節は支配町方廻状次第刻限無<sub>二</sub>遅滞<sub>一</sub>可<sub>二</sub>罷出<sub>一</sub>事

御殿様方八軒家江船着之時支配丁丁代方御挨拶申上、宿と亭主方御迎罷出居候趣支配町方申上、御船は方格宿近辺に相成方江着ケさせ申候

右御あかり場方宿主御案内可<sub>二</sub>申上<sub>一</sub>候

右之外相洩候分は其時に可<sub>二</sub>申上<sub>一</sub>事

御料理左之通

御宿御出立御膳 鱈三種 汁平

御上之分 菓子椀 焼物 鯛大鉢

見事成方

右同断 御膳 鱈三種 汁平

御中下之分 焼物 鯛中之分

平日御膳部 汁平 焼物

御上中下 但 御殿様斗猪口煮物

時と見合付ル

御宿御出立 御肴 硯ふた 五種

吸物

濱焼

但 御殿様により御酒 作り身

又は茶御好きものも したし物

在<sub>レ</sub>之右は其時この  
もやうにより御取  
斗可<sub>レ</sub>致

右之通りに御座候へ共、表向料理は一汁一菜之外馳走ケ間鋪義決而不<sub>二</sub>相成<sub>一</sub>被<sub>二</sub>仰渡<sub>一</sub>御座候。併先規方如<sub>レ</sub>斯仕来在<sub>レ</sub>之。何分御大切之御役に御越之御方と様ゆへ、難<sub>レ</sub>有奉<sub>レ</sub>存少<sub>レ</sub>之饗應は亭主之存寄に而取斗も可<sub>レ</sub>致歟

七月七日

残暑強御座候処、益々御精勤被<sub>レ</sub>成<sub>二</sub>御座<sub>一</sub>珍重之御儀に奉<sub>レ</sub>賀候。然は當年 御番衆様御宿御丁とに而御勤被<sub>レ</sub>下、右に付御宿勤向其余巨細に銘と共方御丁別と御示談申度候へ共、何分数丁之義候へは追々日数も相廻り候儀に付、節前には候へ共、一應御御寄合申上度奉<sub>レ</sub>存候。乍<sub>二</sub>御吉分<sub>一</sub>明後九日八ツ時より、北久宝寺町福屋宅御同役中御出席被<sub>レ</sub>下候。右御案内申上度如<sub>レ</sub>斯御座候。已上

但 乍<sub>二</sub>自由<sub>一</sub>其時分御案内は別段不<sub>レ</sub>仕候間、右刻限に被<sub>二</sub>仰合<sub>一</sub>御衆、御用向御繰合無<sub>二</sub>御不参<sub>一</sub>御出席可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>下御(ママ)不<sub>二</sub>御座<sub>一</sub>候而は、御相談之儀等御定不<sub>レ</sub>仕候間、呉と御出席之義奉<sub>二</sub>待入<sub>一</sub>候。且又先日御宿絵圖いまた御差出無<sub>レ</sub>之御丁とは、早と無<sub>二</sub>間違<sub>一</sub>御差出可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>下候。已上

戊

嶋町一丁目 作蔵

七月七日

同 二丁目 可助

内両替町 専蔵

七月十日

覚

一大御番衆様御宿當年御方格に而御勤被<sub>レ</sub>下候に付而者、昨年北組に而御宿相勤候町と熟談之趣左之通

一 例年御登御番衆様之内、上町に而五十騎様御宿仕候儀に有<sub>レ</sub>之候。右人数之内年と少と宛御登増減有<sub>レ</sub>之。則昨年は四十五頭様御登有<sub>レ</sub>之。尤町数は六十式町へ御宿被<sub>二</sub>仰付<sub>一</sub>候處、御登り高者四十五頭様故四十五町に而相濟。依<sub>レ</sub>之御宿不用に相成候町と方、相勤候町と江為<sub>二</sub>余内<sub>一</sub>不用町壹丁と三百目宛致<sub>二</sub>余内<sub>一</sub>。右割符之義者、御組頭、御宿三御奉行、御宿、御宿割御宿、其余平御宿へも夫と甲乙を以余内銀配當に相成。且又御登り御人数増



減之義は、御宿割様御着之上ならては相分り不<sub>レ</sub>申候

一御宿割様御着之上惣御宿御見分相濟候上、御登り御人数相定り御船場へ御宿町と御迎に罷出候節、右御人数之内俄に御差支出来又者、御病氣等に而御跡登に成候殿様方も有<sub>レ</sub>之。右之分は御宿へ御入無<sub>レ</sub>之。左候は、御宿不用に相成候得共、此分は最早御宿割様御見分も相濟、勿論御宿札御渡被<sub>レ</sub>遊御迎え迄罷出候上之御延着故、御宿不用とは乍<sub>レ</sub>申、諸雜費等相掛り有<sub>レ</sub>之儀に付、外不用宿同様之余内銀者難<sub>二</sub>差出<sub>一</sub>。乍<sub>レ</sub>併御延着宿之義に付、右余内銀之半減差出、配當之儀者前同様之取計に相成候事

一但御延着之有無は俄之御差支故、前廣には相知不<sub>レ</sub>申事

右余内銀等之儀は當年御勤町と之思召に而支配町方御相談之廉に者決而無<sub>レ</sub>之。是は昨年右方格に而熟談相調候儀銘と共承りおよび候に付、乍<sub>レ</sub>序御披露申上置候。右余内銀

一条之儀は御方格銀に而可<sub>レ</sub>然御相談御取極可<sub>レ</sub>被<sub>二</sub>成下<sub>一</sub>候

一當年御宿御勤被<sub>レ</sub>下候に付而者、支配町并に差添町兩人御方格之内、御宿割様御宿之手近に而借屋かり請出張御用向相勤候得共、御方格之義者銘と共召連候人足は不案内之儀故、御見分御案内其外借人足衆兩人御方格之内方御差出被<sub>レ</sub>下、銘と共出張候支配所へ御用中詰切候様、仕度尤人足衆支度等之義者獨弁之積御相談之上早と御取極被<sub>レ</sub>下度候

但人足衆は當八月朔日比方入用に御座候。此段御承知之上早と御極置可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>下候。

一尤此儀昨年も同様之事

一御宿割様御用中支配町差添町銘と共、御方格支配所へ出張中召連候人足之もの迄も支度、其外諸雜費者上町に而相賄ひ可<sub>レ</sub>申候得共、御宿割様御逗留中支配所へ出張候儀は、都而御相組殿様方之御用向を、右支配所に而相勤候に付而は、右等之諸入用は御宿町と江乍<sub>レ</sub>可<sub>二</sub>相掛<sub>一</sub>候訳を以、則昨年は御相組殿様方之御用向一件丈ケ之入用者、右方格へ相掛ケ取集候得共、當年之儀は右一件入用其余出張中諸雜費支配所入用に至迄、不<sub>レ</sub>残上町に而相賄御方格江は御宿割方一件諸入用相掛ケ不<sub>レ</sub>申間此段、御承知置可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>下候。乍<sub>レ</sub>併舟場組とは違ひ上町組之分は御宿町と不<sub>レ</sub>残及<sub>二</sub>焼失<sub>一</sub>、例年御宿割御案内仕来り支配町も、御方格へ出張御用向相勤候に付而は、餘時に諸雜費等も相掛り可<sub>レ</sub>申。船場組は御宿町と之内類焼致候不足丈ケ相増に相成、支配町も是迄通り高麗橋筋に而御宿割様御宿相勤候。左候は、振合等も替り不<sub>レ</sub>申候得共、何分上町之儀は不<sub>レ</sub>残出宿に相成、支配町も出張候義に付、船場組とは少と振合も相替り可<sub>レ</sub>申候。此儀は御心得迄に申上置候。宜御承知置可<sub>レ</sub>被<sub>二</sub>成下<sub>一</sub>候。以上

一 戊七月

一 上町御宿割支配町

嶋町老丁目

作蔵

同 式丁目

可助

内両替町

専蔵

# 翻刻『癸丑詠草 丙辰詠艸』

大阪府立中央図書館 佐藤 敏江

はじめに

底本は大阪府立中之島図書館蔵（甲和一三二七）、加納諸平自筆 一冊（三五・五×二五・五cm）表紙表裏各一、本文三二丁（内白紙一丁）

本書は江戸時代の歌人、国学者として知られる加納諸平の自筆本。書名に「癸丑詠草 丙辰詠艸」とある様に、嘉永六年（癸丑）と安政三年（丙辰）の詠草を記したもので、この内八十五首、一題、四詞がきが、「柿園詠草拾遺」（明治十八年刊行）に収載されている。

加納諸平（文化三〜安政四）、通称は小太郎、兵部、杏仙、号は柿園。夏目甕磨の長男、文政六年藩医加納伊竹の養子となる。句読を中山美石に、国学を本居大平に学ぶ。安政三年紀州藩国学所総裁となり、石川依平、近藤芳樹と共に「二平一樹」と称せられた。柿園派を率い、門下には伴林光平、飯田年平、海上胤平等がいる。著作物には、「類題鯨玉集」（編集）、「秋風集」「柿園集」「別本柿園集」「柿園詠草」「諸平翁詠草」等の歌集の他、「柿園考説」、「柿の落葉」等がある。

凡例

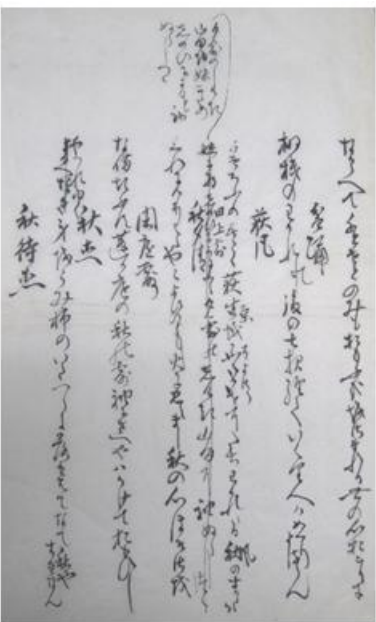
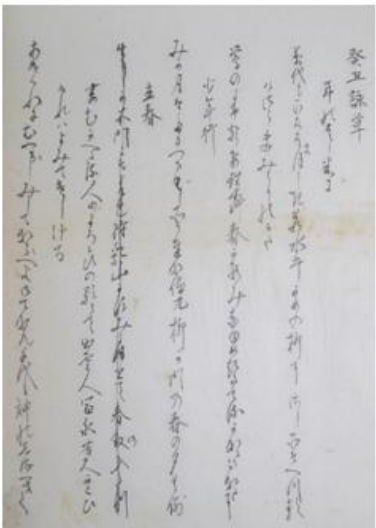
底本に忠実を旨とし旧漢字はそのまま表示した。

異体字は通行の字体に改めた

判読出来ない文字は□で、確定できない文字については（カ）を付して表示した

訂正の部分は取り消し線を引き、加筆部分は青字で表示した

柿園詠草拾遺に収載されている和歌は★印を付して表示した



癸丑詠草

年のはじめに

萬代もむすはまはほしき若水午かめの柳にさしそそへつる

けさとふみうりのかた

鶯のよふ聲すなり春かすみなまめきたてるかなたこなたに

少年行

みか月はたかつまくしそなたなびく柳か門の春の夕くれ

立春

の

生もしか木門上そよけれ待乳山かすみにはひて春そ入たや

妻むかへたる人のよるこひの歌とて 出雲人富永芳久かこひければ よみて遣しける

あけくれにむつまじみしてなからへよさてなん千代も神のしるへく

世をのかれ給ひて注①★にしの濱殿におはしましける

大殿の君かくれさせ給ひぬれば門さしてこもり侍りつつ

かしこけれど、こし方の事とおもひ出られてかなしひ侍りける中に、今は十とせの

をちつかた西山主ことりて、國の名所などを、さとひたる事ともとりましへて書

つへく仰こと有ける。郷(カ)に那智のたきのかたはいかさまにかうつすらむ。はやう

みつから繪かけるもあるを、しかくなど御もと人に仰せられけることゝもいひつた

ふせ

へられければ、おもほし給ふらんまゝにといそしみ侍りけるを、しばし病にまもれる

ほど、いかなるよしにか有けん。その書つくることとたえて、かの翁も去年みまから

れしかば、さしもおもほしけん御心もいたずらになり侍らんことゝかへすく世のあ

ちきなきことをなけき侍りて

★年月もいとゞ雲井にへたゞれるたきのひゞきよいつかきかまし

初子のまつ引てよへる

の

引残す野邊のこまつは妹とわか中のねのひに手すさひにせん

旅宿

し傳て

注②★太刀の緒を、しかの角にとりしたて、より寝やせまし萩原のさと

★濱木綿屋にて例の円位上人の影前會すとて歌すゝめける まうけ題 餘寒

かすみても見えましものをみよし野のあらしの奥に雪そうもれる  
下もえむわか菜つみにとさそひてもかた瀬に野邊のふゝきをそおもふ  
野を寒み若菜摘み袖にたに立もとまりぬ春かすみかな

梅かゝもとすれは消てものおもふ閨のひまもるはるのあらしに  
聞もるゝ梅かゝ寒みつま琴の春のしらへそかへり聲なる

★袖すくもちのかへしに梅かゝもおのか垣ねのやつれをやとふ

膝かくるみとりのいともとたへして柳につらき夕かせそふく  
人けなまわか山科の袖くらめまりとてはるそかせなあらしそ

またしらぬあらしもうたて春されは霞になびく人のこゝちを

花遠き嵐の窗の篠すたれさらになや春をへたてはつらん

さえかへるはるの夜床のひとり寝に花まつはかり久しきはなし

春寒み空ゆくたづの朝影も雲にみたれてあわ雪そ降

(欄外 板本鷹も) 注③★ゆくともみしきのふの鷹の立かへりおつる田面に沫ゆきそふる

啼てたつかりの涙やこほるらんはるの日かけもうす雪のそら

うくひすのたよりの竹のかきほともしらで音なふ春のあらしか

今さらに吹なすよりそ春のかせ花なき里となれもこそあれ

花をとふ心もしらで鹿杖の瓢にふるゝ山おろしかな

みよし野の山した風にさとかへり雪もふりにし跡をこそとへ

二月十五日の夕つかた、一門にそゝのかされて、河北なる梅下の齋殿にものして二日

三日こもりあてよめるうたの中に

月はまた春ともしらず火たき屋のけふりをはらふ梅のあらしに  
たきさしてむかふ外山の松の葉にまた影さむき月そかゝれる

有明の月影寒き手枕にわかれし鴈のこころ乎そ思ふ

★あけゆきは枕わかるゝ浪のおとにうみへの宿そ朝いせらるゝ  
明ぬとてきゝすはなけと礧山のまつにねふれる浪の音かな

内口口ゆきゝすの聲におもひ寝の夢路の花はのこしやりけり

御室つく山彦ならしやひゝてのおとにこたふる朝鳥のこゑ

この歌はしなへといふともをの聲をきゝてよめる

とりか音をまかきにしめて花まてば霞さへこそ立とまりけれ  
風たちて野辺のきゝすの聲もせず春のありかやいつこなるらむ  
身をなけくいのりと人にいひなして神かきこもり花はま□まし

音かな

注④★春の夜のあくらの海人の袖よりもまどほになれる浪のひゝきか  
里の子かむすひ捨たる若艸の末野のきゝすありかしらるれ

竹

一むらのけふりそふかく成にけり春のあらしや吹たゆみけめ

ゆけば数こそそふれ

更てこそ数をそへけれうちよする波のつゝみはときもわかね抒

★ねさめすは有明かたのうす雲を外山のまつにかけて見ましや

十八日の夕つかた注⑤★かへりけるに、江戸におはしまして観如院ときこえし君うせ給

の御

ひぬとて、御なきからむむかへに人と出たつよしきゝて

★かりそめのおもひの家もすてかねてかへれは出る人そかなしき

難波ちかき玉造人佐々木春夫か父二月の十日はかりみまかりぬときゝて、彼岸桜を一

ふさおしたる紙にかくかきて遣しける

かの岸の花もにほへるきさらきとおもひなしてもをしき別か

難波人兼田鶴雄か七十賀に安氏の橋百顆をおくるとて

は

またきより ゆ おもふ を

百歳に三十たらしと本けくらむかすはかくこそみてまほしけれ

水郷春望 二月兼題

月

すみた川のほる夜湖のたゆたひに花の香かなら風そしゝめる

さ波よるよし野の岸の朽柳こゝろつよくもはるかぜそふく

注⑥若菜あらし木の川よその竹いかたいかにかさねし春のみとりそ

湖上雲 当座

人もしか駒はとめしを見るめなき浦とや雲の立かへすらむ

山姥や雲のはてにてつゝむらむ笛根のちみにしづく由玉

若林徳一ものまなひにとて、都へのほるに二月の末つかた  
都こそ花はにほど来不みゝんのひとそ心をあたにちらすな

野遊

かへらめやかたしく袖の下艸にすみれもましる野邊のうたゝね

木蓮華

夕月もかゝる梢のはなはちす水なきそらにたれか植けむ

故郷

遠江人

長坂秋名か六十賀に家の名を万年青園といへは  
しけりそふ園のおもとにむすふ実のあかぬ色をやよろつ世に見む

出し

の宗祇庵

連歌師宗祇か三百年忌に對竹憶昔といふ題をおかせ下、正(カ)置安緒か田邊より  
まひにて哥會すとて善水かもとよりこひおこせければ

呉竹のもとくたちたるあとなからさすかにかなしす忍のしら雪

二月廿六日の夕つかた遠江人池谷某をいさなひて、西田三子とゝもに名艸山の花見に

まかりてよめる

おなしくは花のもとにとさそひ来て春日のかげりかたりくらしつ  
山さくら夕はえたにと見にこしをいほりしつゝそ人はまちける

此歌は千手谷にわらふきの庵つくるを見てよめるなり

★夕かけの花の雫はそはめとも寺井のひさことる人もなし

廿九日美孝富義こ門の三人とゝもに三葛里より山つたひしてふたゝび名艸山の花を見

し時よめる歌とも

うちむれてこゝろはゆかし名艸山あたなるかたに花もこそ見れ

あともなき臂遠(を)り口の草とれば花そ中々たゝに見えける

かた岡のくぬ木のかれ葉かきつめてこの芽煮つゝそ花は見てまし

わたつみの夕日もかをる花の香を塩くむ袖にひとりしめゝや

末地にかりしめまして花見れば浪の千里も色香なりけり

青雲のしらせし花の山さくらさくらはさけと人はすさめず

★かせさそふ尾上の雲も花ならしふもとの杓にうす雪そふる

★一枝はおりてかさゝん鶯のとかむる聲をはなにきくへく

鳥なかぬ御山のよひに咲出てはらるゝ花やわびしかあらむ

注⑦★坂こえていつおとつれし山風にさくらかもとの雪のうはふき

★花さらをすゝくかけひのみなかみや鷺の高嶺にとくるしら雪

嵐 まけ

注⑧★うつりゆく花のしゝまはとゝまらて霞にきえし鐘のおとかな

花の枝に我□あり□□□ま弓弦絶□つ□□の盛ならねば

よふことりよへは人来と鶯のいとふ山路ははなも見はてす

なれ

呼子鳥いつの春よりすみぢめて音つれそめし苔の下水

花ふゝくあらしの底にあしたつのきのふか立しわかか浦見ゆ

時つ風なくさの山に咲花の鐘なりけり春のうなはら

いとまあらばうち出て見よあまをとめ花の盛に浪風はなし

おぼしまのもとあらの桜咲しより沖ゆく船もこのまにそよる

箱崎に風はをさめよ名艸山尾上のはなのひも解にけり

ゆく水に花こそ見えすあらし山あらしなかくるはるの夕しほ

名艸山都を遠みいたつらにさけばや花のまたき散らむ

人ならばこん世の春は咲花をあくまでみつの船きほひせん

一ときの酔そわか世のみつの船うき世は花の名瀬にへたてゝ

はるしらぬ我身をつみて菜艸山立わつらへる花の下影

名草山おもへは神のしとゆふにゆふへの鐘に花なしらしそ

★なくさ姫おりけん花の白妙をいつすみそめの袖にやつしゝ

黒流の袖にもなびく菜艸姫あたる花の種はまきけむ

り来

山さくらぬさとみられし春を経て神の縣もうつろひにけり

★なくさ山ふもとの里もおほふまで咲けむ花のかけそ恋しき

そかなしき

注⑨★おほひけん蔭ともしらで里人のたきゝになせる花もありてふ

まはらなるかけかなしき山寺の花もかさしはのかれはてなで

わたの原見わたすかきり花ならば浪の穂わけて世はのかれまし

はるゝとかすみをわたあいつ千船まほになよめに見えかくれけり



沖かけて花の香かすむ夕波にうかへる色は桜鯛かも

注⑩★咲花の雲あにかすむ大船はうならす風をたよりともなし  
風よほふ雲のみたれか<sup>カ</sup>さく花の梢のそらにたてるしら浪  
さく花にかさねてしろき八重浪も沖にへたゝる夕霞かな  
咲散て花より花にくらふれは沖のしら帆は数なかりけり

★かねうてばこほるゝ花を山鳩のよそけにあさるふる寺の庭

苔の上

春とりのついはむ種は墻もせに風のまきたるさくらなりけり

庭

花さかり雨にならしに山ぼとのかすみのおくによしこもるとも

(付箋) 花の木はみとりさしそふ春雨に植てや菊の秋をまたまし

注⑩★しら雲のなゝ重の並枝七かへり生かはるともはなはふりせし

ゆくへなき雲と見つゝもなからへてそのきさらきを花にくらしつ

水きよきは

ひきとる袖ちすの上の夕しめり後のよかけて花を見しかな

夕霞かさなる あまてわけのぼらまし月夜なりせば

□□な□□くれ□□花の雲間よりみそかに用のもれなましかば

山寺は夕くれおそしとふ人の坂路にかゝる花のしら雪

★しおりせん人やまつらん市女笠つほめる花のかげにかくれて

★雪もまたふる郷出し旅人の袖なぬらしそはなのゆふ露

卑の手かはなふみにけしうらなしのはかなきあとに夕風そふく

蔭ふるき花にやとらむわたつみの浪もかへらぬはるのゆふくれ

あすはまたたかへる雲に棹さして見はてぬ岸の花をわけまし

かへあまに、美孝にいまなはれて岩崎某かもとをとふらひけるに、をりしもひよ本の

たなかりすむを見す

さく花の雲あに見えし宿とへばあらはつかしき袖の香そすむ

八重桜

★なこりなくさけばみたれて飛蝶の袖にかさなる八重桜かな

鶯聲和琴

まとおおもしろ

此殿のゝたけはたえしことかみにはつ音もとみて鶯のなく

春雨

青柳の梢の雨とおもひしに露のたまぬくゆくひすもなし

山里のつかひやまたむ春雨に植てや菊に秋を契らむ

花とみしやよひの雲の末くれてあやなき袖に雨そかゝれる

★桜戸や花ちる雨のかをらすはおとつれ絶しゆきの玉水

★はれやらぬ露とみしを東屋のまやの雫の音たつるまで

わきてよも花には雨の音たてじをしむ涙やみたれあらそふ

注⑫ ★海鼠の口といひなとかめそもしほ艸かきもあつめぬうらみなりとも

山濤識量

★のほりたち山もとをくうち渡すけしきにゝたるすかたとそ見る

毛玠公方

★いにしへのおもかけにこそなひきけれ人なみならでなひく玉藻の

遠盗卻生

★むやひ船とかすはやましよしやそのいかりの綱は身にまとふとも

衛瑾撫状

★玉の床をしめはをしのおすまもてあらしよりけにへたてられつゝ

千公高門

注⑬ ★やよ翁門のかきりを高くせよ馬も車も引いれぬへく

曹参趣装

★とくしりて雲あはるかにたち出る心の駒や月もなりけん

庶女振風

鄙行降霜

★土さけて日はてりなからうちとけぬこそその霜ともむすふうらみか

范再生塵

★こしきには塵のみつみていひしらぬ名こそうき世に立まよひけれ

晏嬰脱粟

★しらみゆくよはのけしきやいとふらむきねかつゝみの数そすくなき

詰汾興魏

★ことならはしなぬ葉もとりかけよ天つをとめの袖ならばそて

鼈令王蜀

★かれはてし入江のあやめねをつきて国もせにこそかをりみちけれ  
不疑誣金

★しひ柴にさかする花よ後瀬山のちこそしらめ実なしことゝは  
卍和泣玉

★神無月わか誠よりしくれつゝもみちにそめる袖のしら玉  
檀郷沐猴

★うはへなき酔のすさひの舞をしも鼻かき猿はものとかめせり  
謝尚鳩鴿

★聲そへて又たちならふ人もなきとりの舞こそ花と見えけれ  
太初日月

★處せき山ふところは出なから月日のかけの猶くもりつゝ  
季野陽秋

め

注⑭★それとなくうつれはかはる一とせをこゝろの色にしけてけるかな

欄外

藤裏葉 廿六才

紫の雲にまかへる菊の花にこりなきよの星かとそ見る

河海に草雲寿星ノ心也 寿星は徳星トモイフ師功王代明時嘉瑞坎

荀陳徳星

注⑮★いひしらぬ玉のむら菊空かけてかおるか星の数そかさなる

李郭仙舟

注⑯★玉まきの真かいは人のしらねともかへる舟路に光さしつゝ

王忙綉被

★吹すさふ風にたくひて人しれぬめくみをかへす錦なるらん

張氏銅鈎

注⑰福州とひはりはもたで家鳩の翅にかけしかきわらひかな

丁公遽麩

★まめならぬ心としらてゆるしつるなさは臣のあたにこそあれ  
雍齒先侯

注⑱★をりとりむ花とおほへる袖にこそ人のこころもうちなひきけれ  
陳雷膠漆

は

★もろともにうれはうるしつやよりもまして似かひす心なりきや  
范張雞黍

注⑲★まち酒のかへはさたかにしられねと誠のあとそ今もくまるゝ

注⑳周猿山嶷

は  
ふ

★天そゝり目にたち山し高ければつなははふともよすへくもなし  
會稽霞舉

★さしのほる朝日の影のうらくと霞わたれる天のはしたて

季布一諾

つ郁子

注㉑★君かもるうへの実ひとつ得ましかはもゝのこかねもをしまさらまし

注㉒阮瞻三結

★幽ことはよそにへたてゝうつし世をひとりかためし三の関守

郭文遊山

★さわらひのをりならねとも岩そゝくたるみの上に心すましつ

袁宏泊渚

注㉓★月よりもさやけき聲をしられすを高き扇の風はあふかめや

黄琬對日

★日のあまり月のはしめのたとへこそ老もかくるゝはえには有けれ

秦宓論夫

★大空に氏も有てふものさため神は朝日のゑみてきくらし

孟軻養素

こそ

★ひこはえも花はさかめもとあらの萩のふる根に水そゝかまし

注㉔楊雄草去

★底深き池のこゝろはくみも見てはけしく人のいひはなつめる

向秀聞笛

★をりしもあれ垣よりもるる笛の音にへたてぬ中のむかしをそおもふ

伯牙絶絃

★わたり川まさりて人のかへりこは緒たえの琴をつきはしにせむ

郭槐自屈

★心せむたかきすもゝのこのもにかうふりたゝす人もこそあれ

南康猶憐

注⑳★吹たちしあらしも露にうちしめるすもゝの花は庭にちらさし

魯恭馴雉

★さのつとりなれぬる里とおもひしにこもふさはしき桑のもとな

宋均去獸

★おしよりも人のこころしあゆかねば虎は兎のあなたへそゆく

廣客蛇影

つき

れて ㄨ

注㉑★たおやめの心うこかす影ならばさこそ急ましゝもまはとらまし

殷師牛口

よは

注㉒★有しゝのこたへまうしのあらそひやわか耳さへにさやきのみして

元禮模楷

★うらめしき風たえしよりやつふさの梅のひとひら香こそみちけれ

季彦領袖

★二葉よりなほく見ゆるを何にしかこのてかしはとおもひくたしゝ

魯褒錢神

注㉓★さはれしもいはほとなさはなしつへしたゝあやしきは瀬にこそ有けれ

崔烈銅臭

注㉔★まひしつゝしひてをもへる花なればよにそたかきほつ枝ともなし

梁竦廟食

★みまからばいずへのおものそなふへくますらたけをの功たてはや

趙温雄飛

★さゝきとる心はもたではやふさのはくゝみたてし人やいく人

枚乖蒲輪

注③★老ぬれは蒲生のわか葉やはらかにつゝむ車のわれをめすとか  
遠江人高す― ふしの山の中つに雲龍のほれり

―― マミ(カ)入へシ

ふしのねの雪のしら玉まきとほりかけるか龍の雲もてるまで

鯉のかた

おもひたつ門もしばしはたゆたひてなびく玉藻に心よすらむ

七賢木のかた

竹の葉の露ふく風のそよさゝにみたりかはしき世をはしのはし

長歌に次――

藤

山里は藤の盛に成にけり松よりまつ波のうきはし

そのはつ尾にとりまけて見はやおもふ

山鳥の尾ひのまつはかゝらすばなかゝらましや藤の花ふさ

のかゝみにもみつして見はやし

かけてや見まし

乞巧奠

天川浪やよすらむをとめこかねかひの原に有風そふく

盆躍のうた

をすゝきのまねくとあれど女郎花なひくかほのかけにほひて

□りく共いふものうた

も

みとりこの心ひくらむ高砂の松のちとせの春のすきびに

めのわらは文箱さし出たる

朝かほの心もとなき露よりも夕かけいそく待つむしの聲

此歌朝ほらけの霧立たるにはひんの少しふへたみたれは鴈帽子おし入たるさまもし

とけなく見ゆるか朝顔の露おちぬさきに文かゝむと花の影も心もとなき麻生の下艸

なとくちすさひて我かたへゆくにと見えたるを品定のおのかしゝまち顔ち(カ)らん  
夕くれなどのこそ見所はあらめ

といへる詞などにおもひよせたる也

七月十六夜一門と木川原にこもしきて酒のむ

さやかなる月の光にたちか緒のむすほゝれたる心とけにき

八月十四夜熊野の神司たちの旅やとりにて月を見てかへるさ 田布の道にうかれ出る  
にたり穂の露いとしずけく井堰の水音さやかに聞えければ

あらう穂の露の光しあまればや水のひゝきの月にすむらん

いと更わたるまゝに雲むらたちて雨ふる

おろかなる心のおくの雲なれや見はてぬ月に雨そゝくなり

十五日、頭家の正二位の君のかゝせ給へる懐紙の表補なれるを、壁にとりかけて濱木  
のあろし

綿屋にて茶すゝめつゝその御世のあはれなりし事ともかたらひをりはやう南おもての  
笹生にはなちたる鈴むし秋毎に聲さはやかなるをよよひの月と聞せはや佐保川のかは  
つならねとかへしてはくちをしかりなむとはし近くともなふに月も出ぬ塵はかりの  
くまなく年比いとめずらかなる光なりければたゝにしもえあらで人まねにひねり出た  
るうた

の上にななくこほるゝ

てる月の色玉笹の露しけみまやかにゆらくむしの聲かな

むら雲もをさまれる夜の月ながら安詰野の露に影やつすらむ

雨

★更ぬめり月もしたゝる桐の葉の露にとたえし窓の秋かせ

深夜初鴈

みたやもりきゝつやいかに神なびの山こす鴈のさ夜の初聲

注⑩加納清雄とゝもに今の家の遠祖のゆかりある加納村にものすへく契おきけるを七

月の末つかた 身まかりければその日墓にまうてゝ

★くれぬまのけふしもひとりなけかめやあすの契をたかへさりせば

擣衣

琴の浦の 名もかよへとや 海人衣 つまゝつ風に ひとりうつらん

よこもりに出くる月のしる妙をかさねてうつもあさましの身や

あはれよそうみ麻のはてと人やきく賤はた衣うちたゆまゝし  
夢まよふ身をこそかこてから衣うちあかすらん秋の長夜に

将門か石井堂の古瓦を硯にして人の歌こひければ

これをたに硯となしてなりかふらいまもたゝしき筆はたてまし

将門記などに神籤にあたりてうせし事見たれはかくよめるなり

十月廿六日、鳴瀧のみみち見にとて一門一胤のそゝのかしければ、久道三子弘白とゝ

もに正昭をもいさなひて、道すから歌かたりつゝゆく。寺にて酒かたむるほどに和夫

おひ来たれり

みなれ棹なれし筏を吹よせてよこさまにのみすさふあらしか

まれやこの襲つ集コ弔いコしコのまコとコ杣木の風コにコたコわコめコあ

雲まよふ小岫のあらし吹たちてしくれをまねくむらすゝきかな

もみちてる山里とへはふるおホ（カ）きコの日コなたホほコりコのホひコちコ枕コせリ

雲うすき外山のたな田年をなみくたつ夕日のかけさへにうき

此歌は古しの夏てりつゝきて山田などはたのみすくなかりければよめる

もみち葉の蔭なる川のいさり水あさくは秋にこゝろよせめや

木にはかく色そかなしきさをしかの聲の秋にそきのふくれしか

もみち葉もあはれとおもへ大かたのうつろふ世にはそめぬ心を

丙辰詠艸

立春

春

くる味に咲もあふかな玉椿いつの初日の影にそめけん

天のしたなびく霞のはるくコとコかコきコりコなコきコ世コをコかコけコてコこコそコたコて

鶯

鶯のはつ聲ならし朝日影にほふ木間に玉ゆらく也

春かすみへたつとすれと鶯のなくなる山のちかくも有かな

鶯の来つゝなれてもくもしけはうかへる雲になりぬ也けり

述懐

おもひ入道になつみてけふも又三度むかしをかへり見しかな

梅

な



さりにくき枝と併見えそ梅花はひかくれたる窗にさくとも

梅初開

もかをりて

かけまゝ見え下 咲に

南吹野川の氷たえくにとくもかた枝の梅かをあなり

正月はかり人をわかる

き

廣瀬川梅さくかけのうちはしはとりやはなたん君とまるへく

学士迎春

辰

卯

ひそみけん龍は空ゆく春にしもこそこの毛の筆をこそとれ

梢に

南さす窗の十枝けふよりの春越えしへく梅は咲止けり

劔

神まつる御代のしつめの劔太刀つみはも八重にうちきらひつゝ

春興

川のほり小鮎やつらん桜人うたふかたにや水棹とらまし

述懐

窗こもりとるかとするは□ひゝく火筒の音も耳になれにけり

待鶯

余寒

も

鶯の来つゝしなな(カ)はさとかへる雪菜や窗のこさめならまし

殿の命の御位すゝませ給へる御よろこひに

○寄松祝といふ題にて人ととゝもに

君か為よもきか島に子日して玉松か枝をさゝけてしかな

山家月

うつほ木の苔のすたれのひまことに月もしめりてましらなく也

淵明把菊のうた

庵さすかた山風の音さすは手にとる菊はかをらさらまし

孟宗筍をほるかた雪いと深くして竹たわめり

生たゝは末おもからんくれ竹のものとねさしを雪に見るかな

わらはへ雪まろかしたる

笹舟はすさましけなる此ころの心にのりて雪あそひせり

義家朝臣のうた

旋雲に

菊の花みたるゝ鴈の聲す也あたやこもれる小野のふし原

高野山寶珠院の母の八十八の賀に 桃

なかゝれとねかふこのみのゆく末も母のまもれる花咲にけり

さゝれ石

数しらぬほしとも見ゆるさゝれ石天の川原にたかひろひけん

枝珊瑚枝

わたつみの神のをとめかたをり来て君にさゝけし玉の枝かも

家に初會しける時、人のもとより梅花をおこせけるを、菅原大神やめで給ひけん。い

ひしらすめてたきをとめの天くたれるを見て

梅かゝにさそはれてこしたをやめのゑみもうかへるよはの杯

礬若菜

ぬま(カ)よ

汐みたぬほとこそつまめはなれ礬に生るから奈はくき立にけり

梅雨客

咲ぬとて立よる人をかへしては若木の梅の名たてならまし

香はとめつ今はとおもへとから衣たつははしたの梅の夕風

春日さす岩ねの水のうはこほりとけてかたら<sup>タラ</sup>へ梅も咲たり

無量光寺の本間寺をゆつりて後父の五十年忌に藤屋の墓詣すとて故郷に尾張國にとて

出たつ時歌こひければ

苔のうへに衣の袖をうちかさね肩もへたてぬ手向ならまし

野外董

□□ほと□

車心さぬ野中の松のふる根にもわりなくさけるつほすみれ哉  
引わけしすみれもあはれ里の子か牛かふ野邊のもりの木陰に

かすりなき野邊の葦もわか袖にあまるさかりはつましとそおもふ  
花

春されは花にしめゆふ山守のいとまなき身そうらやまれける  
忌火鑽も神につかへぬ世なりせは春さく花もたきゝならまし  
文机のかめにはさゝし桜花わかおこたりの塵やかゝらん

にけり たゝ春

あし引の遠山桜咲しよりたゝはのるはのとけからなん

関路帰鴈

こゑかてに

かけてこしふみなき鴈の聲す也けふも関路やかへりかねたるする

嘉納尚寛か母の病いえたるよろこひに廣田社に繪馬奉るとて哥こひければ  
神かけて千代もといのる人の子のこゝろの駒も引たてにけり

田家水

かい まて

かへりこし野川の牛のあとゆきはまたすみはてぬ夕川の水

杜柏

柏梁殿をつくる工かあふき見しもりのこたちはしめはへてけり

か

源氏若菜巻 御裳着の事かへ殿の西おもて子御木丁よりはしめてこゝの木やしきをは  
ませさせ給はす云々 柏口殿者皇后御在所也見九条右丞相曆記云々

此もりにかへの油の種まきて高野の雪をたかてらすらん  
高野の寺々の煙すへて柏の油を用ゐるなり

岡春月

岡への松の上葉にかけ見えし月はよるこそ霞はてけれ

おほろなる月夜かなかへる家路をよきてをらまし

岡崎の花辻家路のをちなれとをりてかへらん用おほる也

山路春月

春風のかすみ吹とく立田路は月もつゝしのひほひ也けり

もとより

秋田晴かをし小子たゝよふもあはれ阿波戸の綱手船はやひたのまん和歌の浦邊に

とよみておこせける かへし

友か嶋はるかなる戸もへたてなくむやひの綱の絶しとそおもふ

二月十日夜月いとさやかなりければ

秋よりも清き月夜に数たらぬかりのゆくへを見そめつるかな

二月の空おほらなる月かけを門の柳にかすめてそ見る

コナルニセ

十一日名艸山寺より三葛の濱邊を見わたして

まち

濱ひろきなくさのあまの湖くみて花まかてら花ちらす也

海上眺望

ゆく

五百重浪千重にかすめるわたつみの沖の船の帆影かなしも

岡早蕨

きさらきはやゝたけにけりこかくれの岡邊のわらひもゆとせしまに

おほろ月に白花にたてり

それとみる袖もおほろの月影に袖か香ならぬ香をやとむらん

岡田諸岳か五十賀に

千歳山わかさきたちてしるへせん杖にもかなととれる筆也

し

知足院こそ越國よりかへりましにことし江戸へゆく前に

こしの雪あつまの花もつれなしやふたとせ君をわかるとおもへは

二月廿一日安田長穂か身まかりけるをりかたはらにありて

真白髪長穂のを遅は山ならば熊野の御山海ならば南の海の五百重浪千重なみしきに瑞山と

いくし

しみさひたちて常葉なす有経てましをことゝへと答もせねは靈床に靈をきせむと申たて

ゆふとりしてゝ家ゆすりをきのまにゝ真白髪の影に見えつゝわれもよはゝく白ゆふは真

白髪なせり萬代にいつけ家人とれはかれはに

山家橋

み山木の横たはれたるまゝなからわかかたそはの橋となりనికి

書

とひかへり心空なるかり鳥のまことのあとはいかゝこめまし

二月廿八日小桜廂につとひて糸桜をめてゝ

花の香にむすほゝれたる聲す也こや鶯のたきの白糸  
柳

根こめにもさそはれぬへき柳かな今さらつよき春のあらしや

浦春月 玉津島會

月かすむわかの浦路の夕ありきあまか袖さへ花の香そする

中村良清か七年 靈祭に春懷舊

三栗の中山路を杖突も不突もゆれて我兄子と哥おもひせし春花の時にはあれと霞かもたち

てし

ぬえ子

やへたつゝも花かも散や埋めし我兄子かあとゝめかねて我心島うらふれにけり。七年の昔なりせは引鳥のひけゆかましを花見てましを

野若艸

華山のかけ野の艸のうすみとりさのみや駒にまかせはつへき

保田能登守の家に

若浦末神社で哥よみける時花

をりかへす浪のみたれにたくふまで礪山さくら風たちにけり

遠村花

花

★國見すとのほれは寒き山風にけふりをもるゝ家はたか門

山家恋

かた

おもひいる道ならなくに越しになく山にも恋の道こそありけれ

寄関恋

うはへよく祠の関はすゑなから人のこゝろの横はしりして

行路雨

不破山は關もある

雨すくるならの大路のたか門にむかしをこひて袖しほらまし

有馬某日別荘にて紅白の牡丹を

老しらぬ月日のかけとおのつから花のまかきにみちたらひつゝ

おちこち見わたして

かと

あら駒を霞にならひ野邊かけてまかきの花の小けにこそ見れ

春夜玉津島にて

わかの浦の松のけふりにそこはかとむすほゝれたる月の影かな

房生神主のもとにやとりける夜雨ふり

朝露の色なつかしき花そ見むこさめは夢にさはらさりけり

朝とく起出て

又

十や見む玉津島根にやとりせし夢の内外の花の朝雲

玉津しまこきのひとのさふしもとてうたする

岡董

此岡かそれかわか菜の跡とはんはつせをとめかすみれつむ也

ふる

茂岡のおのゝかけし木むければあさみとりにもさくすみれ哉哉

水上落花

さやかなる底の影たに見るへきを雨の後瀬に花そ散とく

雲外落花

岩こえて雲うちはらふ袖をしもとめてちりくる山さくらかな

あともなくちりゆく花に山かせのはらへはのほる雲のまきれに

枕

寄梅恋

今さらにまたしとおもへとこまくらの塵はつかしき梅かゝそする

蚊遣火

空たきにおもひよそへて賤のめか人まつよひのかやりなるらん

瀧邊蟬

つせ 小札

青山もこかるゝ真日に瀧の音は絶てもとよむ蟬の声哉

葵

たくひよき艸にも有かな二見かた浪にねさせる巖ならねと

巖頭苔

音

なかれては岩ねの苔に埋<sup>うも</sup>らんかたゝよりなる水の帯かな

ね

心からいほほの小道方入て苔の雫に袖やくたまむ

たゝふかき苔のいは屋のとことはに松の葉すきて人やすむらん

池萍

かきやらは池のかゝみもすまゝしをものうき艸のしけりのみして

池水よるへもしらぬうき艸やましまぬなはゝ人もこそかれ

里卯花

里の子かさしてをしへし卯花のうきねは月のすみかなりけり

山家卯花

山里の桜かもとのうつき垣うしや雪のみ夏も消せて

濱五月雨

吹上の松ふく風はさみたれにしめれと寒きよはの袖哉

田上蛩

とれとなほこすかる蛩の玉筥(葛)はかけは千町にわかれてそとふ

市郭公

ほとゝきす何にかふとは市人のあたへもしらぬ聲<sup>こゑ</sup>はたへらん

池菖蒲

す

は

見ゆる也けり

たかねにもなひくあやめ止池水の心あさゝをしられぬるかな

梯本大神之像贊

言靈の佐吉幡布国に人さはにまてはありて人皆の哥おもふ毎に大御像いつきまつれる梯本の大神御魂玉ちはひちはひたまはれ鳥角の高き神語とこなめのよし埜の川のいやとこしへに

氷室

おもふこととゝこほりつゝすくるかな氷室はあくる時也有けり

雨後蟬

夕立の雲のかへしやししくるらんかた止松の蟬のむら聲

名所蚩 玉津島會

なら人のかへる袖にもつゝめとや玉津島根に蚩とふらむ

夕顔

★垣こしの葉山の雪の一なびきふる雨しろし夕顔の花

★あし垣は夕かほしろしかはほりの翅よりこそけふもくれしか

夏鳥

わか竹はおやよりたかくなりぬめり子もちからすの又きさる見ん

納涼

海雲 東

ほすあみのめにもさはらぬ秋風をまたきにやとすあまか袖かな

を

春憶故人といふことを題にて八木美穂かをととし身まかれむをしぬふ歌

神風の伊勢を過真熊野の熊野をこえて海原のゆたけき見つゝ古の言おもひすと我兄子か訪  
来しものををとゝしと道ぬる年の六月の空ゆく雲にかへりけん魂かなしもはろくくに分来  
し道の藤白の御坂にたては春去は霞きらへと名艸山山邊に在れば春去は花はさけとも我心

文とり

なくさめかねて荒玉の年月かへにおこせたる書を見れば見る毎に涙くましも萬代の像見に  
せむと遺しけむ書等を見れば見る毎にましてかなしも夢のねのななき春日につらくくに見  
つゝおもへは久堅の虚津御魂は書毎にありかよはめと目にし見えなく

祈雨の日安田能登守のもとにて

神かけて雨まつ田ゐの水車ふみとゝろかす音きこゆ也

こと人をおもふ

よるとせし糸のみたれやことかたに引たかへゆくはしめなりけむ

よひのま

此

殿声

かへしてはふしまち月も何せむにまた宵ながら團はさゝまし

老人

年ふれは霜をむすへるもとゆひのもとかし我身消はてねたゝ

とまらす

め



小笹原そゞや初雪とはかりにあともとましぬたそかれの空  
残暑

穂に出ぬわさ田もあらしむろの江の入江のすゞみいつ迄かせん

源夜月

寝てあかす門やたゞかんふくるよの雨雲わけて月は出にけり

納涼

★川水をへたてゞむかふ高とのゞ燈はかりすゞしきはなし

若月

川水に髪すます子かなかしけん楡形したる夕月夜哉

あらし山に雪つもれるかた

松もみな花こそさけれ嵐山しつけき御世に雪のふれゞは

あまた たるかたへに

染貝を 糸にぬきて松の折枝あり

一ノ目（カ）は松もためたるすみの江に色と貝のまじる春哉

閑庭虫

露わけてきかんとそせしむしの音はおのつからにもすめる庵哉

虫

むしの音のきこゆるからにすむものは人のこゝろと月と也けり

盛花

心

あはれ此花の盛し久しくは郷も神代のまゝの命ならまし

晚秋山

や

もみち葉にあらし吹しく遠山をあすさへ秋の色と見ましを

黄菊のかた

大王の御代にきはしき長月ときくもこかねの花咲にけり

連峰霧

注◎★五百重山霧ふかゞらし菅笠の雫におつる有明の月

長田鶴夫霊祭に秋雨といふ題にて

天雲の雷寺に露霜の奥津城こもり年久に成ぬる君願かけに吾恋る君かへりにし時来むかひ

て長月の鐘禮の句に初鴈の来なくをきけは道ゆきに歎そ吾する古に今も有せはしくれの雨  
しくく

や数に雁か音の聞ゆることにうるはしき文見てましをめつらしき文見てましを  
時雨ふり雁はなけともあはれ文なし

しくれの雨まなくふりくも古の秋ならばよろしまなくふりくも

寄月末

水の上に見ゆるも空の月なれと手にしとりては袖やぬれなん

川水鳥

も

川上は雲こそさわけあちむらのいさとしくれやさそひ来にけん

幸遇泰平世

なからへて千とせとの(カ)みもおもふ哉をさまれる世の心おこりに

盆踊

て

棚機のをかれし後の七夜経ていく里人かめくりよるらん

萩風

原 そよさら

風

かけるふのすたく萩生をふく小世にたちわかれたる秋のすかたか

田上露

(欄外) 夕露のしけき山田を妹かためしのひにかると袖ぬらしつゝ

妹か為しのひにかると夕露のしけき山田に袖ぬらしつゝ

秋夕清

くれにけりはたやこよひのともし火に見えまし秋の心ほそさを

閑庭露

なびきふす蓬か庭の秋の露袖にさへやはかけておもひし

秋恋

やつれゆく

よる小なまき身をうみ柿のいたつらに落もはてなて秋やすきなん

秋待恋

吾門の松のしけみをもる月のかけはかりたに見えはこそあらめ

秋雨

風もまち雨もまたしをわかやとの萩の下葉のぬれてさへちる

月前時雨

のこ

一むらの雲の御中に有と見し月をもゆして降しくれ哉

網代ゆ

もりあかす身をこそかこてあしろ木のならへるかけを月にかそへて

もみち葉にみたれあらそふいとひをのゆくへやいつら宇治の川風

あしろもる夜床のあらし吹絶て今そみけしはおほひますらん

江寒菫

も

あしの穂の雲ふきなかれ月早みふる江のま浪はなになりつゝ

顕恋

ゆかりの色と

本かま

せななたつおもひも空になかめてき(カ)有明かたの空の一むら

繪工廣隆かこへる古鈴の歌

手すさひの鈴のゆらきにとふ人も世になり出ん時機こそまで

里神楽

里みたるふゝきの中にうちそゝく御湯は吾世のあられ也けり

寒山月

注③★落かゝるみか月同し浪の穂のはての高山み雪はれけん

あくみあて見はいかならん雪の上のつるきの山に月更にけり

筆

束をたにさかみにかみてもものからんわかとる筆の鹿毛は禿たり

布

妹かおるあしろの布は薄けれといさよふ浪にいかゝぬらさむ

氷魚によす

風たてはいさゝにましるいと氷魚のせんかたなみによられんとして

古寺鐘

こえ

おとなしの川そひ寺をわかとへは名作のみきよし鐘ひくも

吉野川は  
おとなし

永山寺の前をなかるゝほと音なし川といふ

暮山雪

山ゆくはたかつまならん笠松の夕づくかけに雪はらふなり  
くらはしに月もかゝりぬふる雪の夕山こえはたとらさらまし

競馬のかた

あやめ引けふのためしの馬なればよゝをかけてもくらふへき哉

鹿島重正四十賀すとて弟たちの歌こふに

春祝

花笠にまたかへすへき老ならしかぬ色香はさけにうけなん  
さく花にまとふ心し老せすはよそちも老のはしめならめや

露

うつ蟬のからをとゝめしかきねよりいやはかなにもおつる露哉

雨中落花

山姫のかりの花にそゝくらし粉川のよとせ雨かをる也

廣沢の月のかた

廣沢の池のこゝろをふかしとは影見る毎に月もしるらん

かきつはら(カ)にかけるふすわれり

葉かくれし色こそ見ゆれかけろふのやすらふまにや花は咲けん

依花待春

わかやとの一本さくらたか為にいそく春ともしらすや有らん

島雪

かゝやくとけふりなててそ豊年のトはまさしきゆきの島人

家の

歳暮會納に風のこゝちにてくるしかりしかは

香をたにもさそはぬ風を身にしめてはなを(カ)くや春はまつへき

卜恋

それとなくとふもかた木の灰占に一夜こかれておきゐつるかな

梅の花をりておこせける人のもとへ備中國矢掛郷にて製したる柚醬をおくるとて  
ものゝふのえひらやいつゝ梅かゝにやかけの里は春めきにけり

蜜

道

七わゝの玉をつらぬくいとすちもたゝ一かたの道みちにこそよれ

椿

妹とわか植木の椿たくひよく咲もよそふる玉あへるらし

月

前つ戸の殿戸のきかひ何せんにあくるまでこそ月はさしけれ

春興

梅かゝはこほるゝ水にかすたれて柳のまゆのふりすも有かな

十二月の半はかり

佐々木春夫かもとへつくゝしをおくるとてよみてそへける

かきはらふまかきの霜に一筆のかきまくれたるつくゝしかな

丹後守為忠朝臣の百首に九月十三夜さきまくりいま二夜をはみてずしてくまなきもの  
はなな月の影濱松中納言物語さかし心のきは高くさいまくれたるやうなる清少納言か  
さいまるといへるもともにいままた其界にゆきたらすしてはやりかにうちすゝみもの  
する事をいへり

廿一番 同

左持 菅賢 柿園門古屋菅賢

人こゝろいつしかあかしのうちとけんみは鈴舟のなるかひもなし

右 在恒

逢事は枯野の布ねのなましひにくちのこりたる身をいかにせむ

左鈴舟の寄くる波に驚きてつまの上野のきゝすなくなりと見えて明石に詠る例は見えねと  
此すゝ舟と言は駄鈴なりといへれはいつくの浦にも詠へき也一首をかしく聞えし右枯のふ  
ねまたをかし二の句かくても宜けれと枯のゝ舟木といはゝ調へよかるへき坎そはは作者心  
のまにゝなり

鈴舟枯野名たゝる相模の交双たる如くたやすく強弱いひかたし

わたの原まかちぬきおろしゆく船のよそめゆたけき恋もするかな

注記

① 西の濱殿におはしましける大殿のかくれさせ給ひぬれは門さしてこもりつゝこしかたの事とおもひいてられてかなしひける中に今は十年のをちつかた西山某こととりて國の名所などをさとひたる事ともとりましへて記すへく仰ことありける序に那智の滝にかたはいかさまにかうつすらんはたうみつからゑにかけるもあるをしかくゝなど御もと人に仰せられける事ともいひつたへられければおもほし給ふらんまゝにといそしみけるをしはし病にふせるほといかなるよしにかありけんそのふみつくることとたえてかの人もこそまかりしかはさしもおもほしけむ御心もいたつらになりはへらんとゝかへすゝ世のあちきなき事をなけきて

- ② 太刀か緒ををしかの角にとりしてゝ旅寝やせまし萩原の里(拾遺十六丁)
- ③ ゆくと見しきのふの鴈も立かへりおつる田つらにあわ雪そふる(拾遺五丁)
- ④ 春の夜のあくらのあまの袖よりもまとほになれる浪のおとかな(拾遺五丁)
- ⑤ 物へまかりて二日三日ありてかへりけるに江戸におはしまして観如院ときこえし君うせ給ひぬとてなきからの御むかへに人と出たつよしきゝて
- ⑥ 朝菜あらふ木の川よとの竹いかたいたかいたゝめる春のみとりそ
- ⑦ 坂こえていつおとつれし山風そさくらかもとのゆきのうはふき(拾遺六丁)
- ⑧ うつりゆく花のしゝまはとゝまらて嵐にまけし鐘の音哉(拾遺六丁)
- ⑨ おほひけんかけともしらで里人のたきゝになしゝはなそかなしき(拾遺六丁)
- ⑩ さく花の木のまをわたる大船はかならず風をたよりともなし(拾遺六丁)
- ⑪ しら雲の七重のなみ木七かへりおひかはるともはなはふりせし(拾遺六丁)
- ⑫ 海鼠の口といひなとかめそもし本草かきもかへさぬうらみなりとも(拾遺三十五丁)
- ⑬ やよおきな門のかきりを高くせよ馬もくるまも引いれぬべし(拾遺三十六丁)
- ⑭ それとなくうつれはかはる一とせをこゝろのいろにしめてけるかな(拾遺三十七丁)
- ⑮ いひしらぬ玉のむら菊空かけてかおるかほしの数のかさなる(拾遺三十七丁)
- ⑯ 玉まきの真かいは人のとらねともかへる舟路にひかりさしつゝ(拾遺三十七丁)
- ⑰ とみ草とひはりもたて家鳩の翅にかけしかきわらひかな(拾遺三十七丁)

- ⑱ をりとらむ花をおほへる袖にこそ人のこころもうちなひきけれ (拾遺三十七丁)
- ⑲ まち酒のあへはさたかにしられねと誠のあとそ今もくまるゝ (拾遺三十七丁)
- ⑳ 周公山疑 (拾遺三十七丁)
- ㉑ 君かもつ郁子の実ひとつ得ましかは百のこかねもをしまさらまし (拾遺三十八丁)
- ㉒ 阮瞻三語 (拾遺三十八丁)
- ㉓ 月よりもさやけき聲をしられすは高き扇の風はふかめや (拾遺三十八丁)
- ㉔ 楊雄草玄 (拾遺三十八丁)
- ㉕ ふきたちし嵐も露とうちしめる李のはなにはにちらさし (拾遺三十九丁)
- ㉖ たおやめの心うこかす影ならばさこそ多ましく月はとらまし (拾遺三十九丁)
- ㉗ ありし世は答へまうしの争やわか耳さへにさやきのみして (拾遺三十九丁)
- ㉘ さゝれしもいはほとなして片ふちのかたりやすきを上つせにせん
- ㉙ まひしつゝしひてをりつる花なればよにそ高きほつえともなし
- ㉚ 老ぬれは蒲生の若葉やはらかにまとふ車のわれをめすとか
- ㉛ 加納清雄とゝもに遠祖のゆかりある加納村にものすへくちきりおきけるをほともあらて身まかりければそのとふへかりし日のころほひ墓にまうてゝ (拾遺二十丁)
- ㉜ 五百重やまさりふかゝらし菅笠のしつুকもおつる有明の月 (拾遺十四丁)
- ㉝ おちかゝる三日月きよし浪の穂のはての高山みゆきはれけむ)

参考資料

- 柿園詠草拾遺 加納諸平著 吉川半七発売 明治十八年刊 二二四、五―二七四
- 加納諸平の研究 山本嘉将著 初音書房 昭和三六年刊 二二四―三八〇三
- 校註国家大系 十九卷 近代諸歌集 講談社 昭和五年刊 九二一、一―一六五
- 江戸期紀行文学全集 一卷 津本信博著 新典社 平成十九年刊 九一五、五―一二二N
- 続日本歌学全書 第七編 近世名家歌集 上巻 佐々木信綱著 博文館 明治三十一年刊
- 一二二四―三九
- 國学者夏目麿と歌人加納諸平 平石基次編刊 昭和五十二年 二二四―一七〇一

— 乾一の部 —

小林 孔

(大阪城南女子短期大学教授)

岸本 悠子

(立命館大学大学院博士課程後期)

本稿は前稿の坤の部四冊に続く乾の部一冊を、以下の凡例にしたがい目録稿としたものである。前稿とあわせてご覧いただきたい。

〔凡例〕

- 一、本稿は、大阪府立中之島図書館所蔵『萬色一瞶』全七冊(朝日新聞文庫 226・311)のうち、乾の部一分冊目に含まれる俳諧一枚摺を収録したものである。
- 一、配列は、原本の順にしたがい小番号を記し、該当する年次を冒頭に▼を付して明示した。
- 一、記載項目は、前記の小番号、分類、判型、主催者、画者、画題、彩色、画の配置、筆耕、入集者、段組の順でこれを示し、必要事項を備考に※を付して加えた。
- 一、分類は、歳旦、春興、夏興、秋興、冬興、歳暮、追善、慶賀、その他とし、その他に分類したものはその内容を備考に記した。

一、判型は、大半が全紙大であるが、半裁以下のものについては前稿の凡例にしたがった。

一、主催者は詞書などで判明する場合を除きおおむね最終行の人名を採録した。

一、作品に画が含まれる場合、画者、画題、彩色、画の配置を記したが、画が含まれない場合は、画者に×を付し、残りの画についての情報はすべて―を記した。

一、彩色は、多色摺の場合は○を付し、単色摺の場合は「単」と記した上で( )内に色を示した。

一、画の配置は、一枚摺を四分割した場合の右上をア、右下をイ、左上をウ、左下をエとし、画像が含まれている箇所を記号を用いて示した。

【例】

ウ	ア
エ	イ

一、画者の情報がない場合は「画者不明」と記し、現時点で判読できない印記がある場合は「画者未詳」とした上で画像を付した。

一、入集者は、一枚摺に含まれる作者名をすべて採録した。また、



肩書がある場合は人名の前に（ ）で示した。連句、漢詩、和歌等の作者は□で囲むこととした。なお、段移りがわかるように、段末の作者に「印をいれた。「斑竹」、「班竹」等、入集者の表記が二種類確認できる場合は一方に統一した。同一人物とおぼしき番号に表記のゆれのある場合は、「ゆきを」、「ミき雄」、「多代女」、「きく雄」、「起久守」のように統一を加えたものがある。「己有」、「己有」、「己有」は同一人物かと思われるが、判読上、文字通りに活字化した。

一、句数は、半裁以下のものについてのみ採録したが、全紙の一段組のものは原則として句数を数え、連句などが含まれる場合はその旨別に明記した。なお、前項の入集者に関連して、連句の場合、同一連衆でくり返されるものは、たとえば、五吟半歌仙などとした。

一、行数は、同様に半裁以下のものを対象とし、年記、人名、画中詞および画にまつわる記載を除いた本文とした。

一、備考には、年記がある場合は原本の通りこれを採録し、その他については前記の内容を含め、必要に応じて適宜記載を加えた。

一、表記は可能な限り原文どおりとした。なお、経年の擦れで判読できなかった文字および想定される文字が表記できなかったものに関しては□で、推定できる文字に関しては「」で示した。

## 乾一

「萬色一瞞／松蔭」



▼嘉永六年

1 慶賀 全紙 四山 雲梯 草庵図 ○イ×

(一各改孤圓齋) 一鏡・(京) 有節・芹舎・梅通・(ナニハ) 素屋・  
鼎左・林曹・(アフミ) 砺山・(トサ) 雲外・(オリ) 黄山・月底・  
(ヒゴ) 十席・(ムツ) 一止・舎用・多代女・(上毛) 南々・寄三・  
(イヨ) 鶯宿・(ムサシ) 溪齋・(越中) 慶里・(アハ) 鳳棲・(ムサシ)  
竹山・(キイ) 閑那・(カヒ) 雲里・(スルガ) 漣山・(イセ) 雀叟・(カヅ)

大夢・(下サ) 跡老・(越ゴ) 雨静・(サツマ) 馬翁・鉄冠・(雲水)  
碩水・(出ハ) 唸風・(ハリマ) 可丈・(ヒタチ) 李郷・(日向) 駝岳・  
(上毛) 竹烟・(ヒゼン) 悠々・逸渕・西馬・為山・松什・詠人・  
丁知・卓老・得蕪・古山・梅笠・梧青・月ふる・乙雄・遅流・  
天由・鶴翁・祖郷・氷壺・念々・見外・蛟翁・山外・惟草・  
月村・一具・由誓・泰山・一器・一狐・一得・一雅・真青・  
箕山・四山 二段組

※ 継号祝／冒頭「略記」として東都幻住庵四山の文(芭蕉の「幻  
住庵の記」を踏む)を載せる

2 春興 全紙 杉露 季英 近江八景図 ○ イエ ×

(江戸) 一具・(江戸) 由誓・(江戸) 為山・(江戸) 得蕪・(江戸)  
祖郷・(江戸) 冬守・(江戸) 閑那・(大坂) 素屋・(大坂) 鼎左・  
(大坂) 松隣・(大坂) 潮水・杉露・快々・柯童・鼠仙・水齋・  
石雄・一峯・春陰・竹居 二段組

※ 「丑のはる」

3 歳旦 全紙 思楽 南岱 鶴亀舞図 ○ イ 葦斎

(洛) 素隆・素隆・(洛) 一斧・一斧・(浪華) 杜鴻・杜鴻・素屋・  
岸工・辰斎・寫谷・舎笠・素質・貞露・大年・大年・天来・  
鶯宿・龍渕・(江戸) 都龍・春光女・花瓢女・呉由・芝角・南岱・

玉松・瓦山・米山・卓郎・一具・□□・□音・弘運・囊瓶・  
玉女・橘平・半丈・素交・見外・(思楽男) 三郎・思楽 二段組

※ 「嘉永癸丑初春」

4 春興 全紙 太年 素真 萬歳具図 ○ アイ ×

(京) 梅通・芹舎・拾椎・有節・淡節・(チニハ) 鼎左・松隣・  
素屋・(ヒゼン) 悠々・(アハ) 鳳棲・万像・(トサ) 古鳳・雲外・  
婦牛・(イヨ) 菊圃女・鶯居・(タンバ) 九華・(アフミ) 砺山・  
(イガ) 養瓜・(イセ) 雀叟・五鈴・蕙雨・(ヲハリ) 黄山・醉雨・  
玄至・春松・應知・(ミカハ) 蓬宇・(遠江) 杜水・(スルガ) 漣山・  
(サガミ) 立宇・木鷄・竹山・布丈・由岐雄・(上サ) 未成・柳塘・  
(下サ) 交水・□□・□□・黍丘・(ヒタチ) 一兆・よしか・(上毛)  
関市・梅雄・希得・(ムツ) 多代女・英泉・米花・如雲・梅月・  
禾月・湖立・愛山・清民・一止・舍用・(デハ) 御風・唸風・  
素山・(カミ) 大夢・晴江・(エツ中) 恕兮・慶里・(エチゴ) 乙良・  
茶山・友耕・ちから・(ムサシ) 五渡・鎮流・曙山・無角・溪齋・  
一具・由誓・松什・得蕪・祖郷・抱儀・逸渕・漣々・五雀・  
青柿・芦友・古山・魯心・波□□□□□□□□□□可簫・  
百丈・山方・豊川・松堂・四端・曆明・泰山・みもと・普陽・  
きく雄・江雨・鉄兔・鳥吟・瓦村・永機・冬映・冬守・字門・  
草宇・一権・完有・西馬・閑那・萬古・遅流・為山・太年

二段組

慶賀 全紙 布丈 雲將 女房・正月餅図 ○ アイ 鷗波

**源童**・**菊城**・(豊前八十八) 木父・楨舎・(ヒゼン七十八) 悠々・  
 禾堂・(日向) 双鳥・(イヨ) 菊圃・(土サ) 元史・婦午・(アハ)  
 万像・思風・茶雷・(ハリマ) 可大・(イタミ) 太乙・(大坂) 素屋・  
 鼎左・松隣・杜鴻・(在大坂) 弄化・松室・(京) 梅通・芹舎・  
 淡節・有節・百古・(ヤマト) 可樵・(丹后) 双・(イガ) 養瓜・  
 (イセ) 雀叟・五鈴・(ヲハリ) 而后・黄山・玄至・春松・李曠・  
 (七十五) 月底・(三河) 蓬宇・(遠江) 杜水・鳥谷・(スルガ) 漣山・  
 (カヒ) ときは・竹良・(越后) 乙良・(七十五) ちから・(サド)  
 三省・(越中) 恕兮・慶里・(カヅ) 柳壺・晴江・文器・大夢・  
 丹嶺・(出八) 御風・唵風・素山・(七十六) 二丘・(ムツ) 舍用・  
 如雲・禾月・宗古・米花・英泉・梅月・(七十八) 多代女・  
 (ツガル) 冬松・童岐・(松前) 小鯉・(ヒタチ) よし香・一非・  
 (上毛) 関市・梅雄・亀松・希得・(下総) 黍丘・交水・崑年・  
 湛水・(上サ七十五) 霞雪・未成・(安八) 文雄・(ムサシ) 五渡・  
 溪斎・(七十三) 一具・蓬交・祖郷・念々・萬古・きく雄・鳥吟・  
 北松・泰山・逸瀨・西馬・俗中・五雀・里椿・四端・山外・漣々・  
 月村・等栽・荷少・尋香・魯心・見外・卜早・苜丸・知外・  
 惟草・卓郎・未足・波鷗・祐之・氷壺・不染・抱儀・松什・  
 崑来・得蕪・樹石・瓦村・由誓・子鶴子・(在府) 閑那・普陽・  
 百丈・可簫・太年・青柿・松塘・大英・千さめ・たけめ・  
 不及尼・泰我・栗蒸・松堂・芦友・冬守・みもと・波静・山方・  
 山子・(七十五) 遅流・(八十二) 妙立・**布丈**・白羽・為山・山方・

## 6

**山子**・波静・遅流・冬守・(小田ハラ) 素外・(シホロ) 八椿・

(大山) 丁々・(七十八) 樗一・簾水・山霸・五雪・宣頂・(ミノ) 毛  
 丹堂・白冷・(ヤナ川) 凡和・(十日市) 觀堂・東門・□堂・(□□)  
 泰嶺・(トヨタ) 三暁・天均・圭甫・(ハナ水) 梅明・(トダ) 焉車・  
 (イケハタ) 燕桂・三芳女・(アツギ) 薰岱・三扇・(エチ) 吳丁・  
 蘭砂・(川入) 桃兆・(チムツ) 少廣・(タシロ) 牛将・文十・(イノ山)  
 米斎・(ハセ) 素一・(イセハラ) 木比・井蛙・如翠・(トツカ) 桜堂・  
 留栽・可合・(ホドガヤ) 扶水・尺苦・(川上) 為不可・(トミヲカ)  
 友廣・(ラジサワ) 植不流・如々・(ウラガ) 木鷄・ゆきを・  
 (在サガミ) 月不留・立宇・千歳・五紫・袖女・完山・赤松・  
 白羽・為山・為山・布丈・布丈

三段組

※ 「癸丑春」／布丈還曆

歳旦 全紙 尋香 圭岳 旭日図 ○ イ 半嶺

芹舎・梅通・有節・淡節・鼎左・松隣・素屋・九華・雀叟・砺  
 山・黄山・而后・梅裡・蓬宇・三岳・澄霞・聽雨・杜水・鳥谷・  
 碧山・岱充・立宇・万像・平蕪・清暇・茶雷・双鳥・悠々・  
 菊圃・葛古・松影・乙良・雨静・茶山・ちから・交水・崑年・  
 霞雪・未成・柳塘・士明・黍丘・友甫・吐月・鶴榮・よし香・  
 護民・亀成・溪斎・五渡・米室・嵐斎・雪堂・文窓・関市・  
 龜松・希得・松月・鹿城・其翼・芦帆・布山・菊也・丁酉・  
 東里・多代女・愛山・壮山・春斎・清民・大費・守三・西美・

分字・梅月・朝好・八鶴・桃花・太明・大橋・崑山・一伴・  
 也明・遜阿・江三・禾月・禾山・みちる・巾二・一興・五葉・  
 露葉・白水・素雪・五雲・甫月・宗古・心阿・塘水・一止・  
 如雲・舍用」・璪山・朶峯・一艸・朝可・二丘・水竹・二兆・  
 緑峯・峯朗・一羽・丘雨・御風・素山・撫泉・可慎・落城・  
 雲涯・唸風・一甫・和好・陽山・頼芝・鳳齋・己有・由誓・  
 瓦村・拙誠・波鷗・禾丈・為山・山子・山方・古峯・波靜・  
 可簫・鳥吟・冬守・ミもと・閑那・遲流・逸洌・音好・故厓・  
 西馬・見外・松什・得蕪・幻外・山外・惟草・魯心・古山・  
 不染・丁知・萬古・抱儀・勇賀・眉岳・東籬・(少年)松佳・  
 (少年)梅坡・よし尾女・庭裡女・松宣・好甫・担々」・虚心・  
 祖郷・卜間・かつら・梅峨・山海・きく雄・白起・太年・水壺・  
 念々・卓郎・苜丸・等葉・荷少・等栽・ミつる・節之・在尔・  
 鶴外・千代女・蓬交・探鳳・擇布・芦月・居山・太珉・夷則・  
 北松・蓬宿・東水・梅雅・起律・水車・月晴・香風・梅明・  
 以簫・吸月・雪心・一具・尋香

三段組

※ 「癸丑春」

7 春興 全紙 茶山 周岱 福寿草図 ○ イ 龍溪

有節・梅通・鼎左・素屋・多代女・雪幸・野中・梅子・逸洌・  
 西馬・為山・万古・一具・乙良・鷺眠・西晴・晴楓・梅逸・  
 李年・清水・千布・月昇・甫山・麻三・尤儀・蓬亭・二龍・

器山・龜年・梅曉・竹亭・寸松・季箏・市猿・よしちか・井轄・  
 伊薦・歌孝・孔披・塘雨・磐谷・雄仙・雲峰・熊子・志扇・  
 雲山・茶來・閑得・吏川・大栗・秀和・竹宇・春雨・眠蝶・  
 吾蝶・雨靜・梅仙・蕉丘・和竹・庭芝・砥行・千牛・蒼洲・  
 応久・竹庭・嶋古・左右・逸舟・東雲・宜風・石亭・緑溪・  
 一靜・崑山・白圭・水柳・琢翠・柳眠・尾靜・白夜・孤柳・  
 柳涯」・宇成・孫儀・蓬栖・三亭・蓬室・蒼鳩・北溟・德音・  
 環山・遊外・乙洋・可伸・醉茶・石庭・司庭・石橋・雪潮・  
 三貫・宜靜・淡水・北嶺・柳外・杉竹・岱鵬・澄秋・飭悅・  
 竹陽・鶯里・鳳宇・雲浪・花月・花曉・買止・雲鳳・春香・  
 茶交・小正・長翠・竹岐・桐為・滴水・逸交・雲濤・茶山

二段組

※ 「嘉永六年癸丑孟春」

8 歳旦 三裁 呉城 画者不明 蓬・紅白餅図 ○ イエ 楽園

(京)有節・(京)芹舎・(京)禾明・(大坂)素屋・(大坂)鼎左・  
 (ヒゼン)悠々・(イヨ)鶯居・(アハ)鳳棲・(キイ)閑那・(カヅ)  
 柳壺・(越中)怒兮・(越中)盧夫・(越ゴ)乙良・(上毛)飯俗・  
 (上毛)丹頂・(下毛)其翼・(ムツ)舍用・(ムツ)一止・(ムツ)  
 江三・(アハ)御風・(サガミ)貞齋・(サガミ)簾水・(ムサシ)  
 溪齋・逸洌・惟草・西馬・得蕪・潮堂・遲流・未足・萬古・  
 墨芳・見外・為山・繡鶴・翠山・株木・崑來・龜遊・巴雪・

桃里・吳梅・榮昇・吳城 44 2 3

9 春興 三裁 落橙舎 耕雲 筆立・餅花図 ○ イエ ×

花屋庵・松陰・此花菴・(美作)佳年・十始・益雄・其外・九臯・  
(備前)楚狂・杏塢・(播磨)如清・素柳・文雅・二桎・(サカイ)  
柳吾・香山・圓中・涼松・月人・(大和)子剛・月江・富秀・  
稻秋・柳糸・一千・左好・(少年)鶴焦・春女・春鹿・可梁・  
桃里・落橙菴 32 3 1

※ 「癸丑春」

10 歳旦 三裁 可兆 耕雲 梅・轡図 ○ イエ ×

松隣・挙一・(美作)無案・松聲・彭城・(好更)凸山・(大和)  
富洲・(備前)几麗・文岱・竹友・松一・季水・其流・月桂・  
二楽・佳水・米山・稻子・富隣・羅光・佳弟・亀昇・花笠・  
蘭好・葛利・梅圃・有静・田窓・笛道・栖香女・可兆

※ 「癸丑春」

31 2 0

11 春興 全紙 鼎左 蝶睡 貝尽・蝶図 ○ イウエ ×

雨外・買山・草居・月人・清機・春女・楓可・菊採・松塘・  
亀月・正一・松吟・貴松・秋亭・里柳・節一・香山・崑曉・

美崎・吾柳・圓中・涼松・了然・文賀・文景・井竹女・笑楽・

万須・移石・梅弟・月桂・孤松・桃霞・桃后・兎雪・花曉・  
井岳・秋唄・北梅・杜鴻・稻處・梅榮・玉枝・香雪・鼎湖・  
梅圃・草斎・鶯宿・素屋・松隣・光林・可兆・其山・卦龍・  
起雪・挙一・(かふち)不二門・龍川・桃水・月洲・左栗・(左海)  
此方・此松・麦雨・柳吾・鹿野女・其芳・未升・(新田)岐山・  
(冠山)花嘯・禾秋・龜齡・露香・梅嶺・(南都)菊人・素鴉・  
(内山)幹蔭・(南山)石雄・(若山)寿抱・虚心・(池田)可春・  
(茨木)茨童・柳月・(赤穂)鼎跡・(姫路)如一・悟一・(備中)  
猿笑・(備後)紅顔・晋陽・琴絲女・(上ノ関)玉壺・(いよ)菊圃・  
(土佐)梅十・(阿波)茶雷・(津山)松人・愛蔵・愛竹・藤園・  
光曜・一双・遊楽・雨水・梅友・東明・鼎左 二段組

12 慶賀 全紙 鼎跡 秋亭 刷毛・水指図 ○ イエ ×

(明遠楼)嘯月・鼎跡・鼎左・草居・雨外・月人・買山・清機・  
春女・井竹・隣草・芝耕・鶯宿・光林・可兆・梅圃・松隣・  
唄唄・松塘・卦龍・梅弟・崑曉・香山・涼松・春郊・右左・  
萬可・百尺・十竹・仙羽・一簣・起雪・挙一・了然・素屋・  
芦郷・(京八十四)梅室・芹舎・有節・祭魚・淡節・文海・  
(大坂七十三)草斎・鶯宿・素屋・松隣・光林・其山・可兆・  
挙一・雨外・買山・草居・月人・清機・春女・恭女・荒女・  
庄女・井竹女・楓可・隣草・芝耕・梅弟・秋唄・(イセ)五齡・  
(ヲハリ)吳風・(石見)一桃・(加古川)平山・(ウサギキ)尺西・

## 13

(ウサギキ) 如年・(上郡) 龜仙・(上郡) 右左・(塩屋八十二) 琴吹・  
 (塩屋) 金花・(カリヤ) 吟雪・(カリヤ) 桃雨・(カリヤ) 百可・  
 (カリヤ) 鴉雛・(カリヤ) 一箕・(ヲザキ) 仙羽・(シンハマ) 帰楽・  
 (シンハマ) 涛々・(春郊) 百尺・萬可・(甥) 十竹・(孫) 花兄・(娘)  
 良女・(男) 鼎跡・鼎左 二段組

※ 「嘉永六年癸丑歳」／嘯月六十賀摺／13と一對

春興(慶賀) 全紙 鼎跡 長水 海浜茅屋図 ○ ウ ×

(江戸) 一具・由誓・逸洩・卓郎・為山・西馬・見外・祖郷・  
 得蕪・可簫・瓦村・荷少・松什・抱儀・丁知・等哉・溪斎・(京)  
 公成・石外・月坡・文翠・也然・辰丸・石堂・硯水・梅通・  
 (大坂) 井左・井資・不角・松室・卦龍・可庭・蘭操・松塘・  
 龜月・香山・了然・崑曉・北梅・美崎・移石・杜鴻・涼松・  
 理筆・芦郷・茂雄・文賀・稻処・李曉・吾柳・圓中・秋亭・  
 文景・月桂・起雪・梅榮・枝雀・香雪・鼎湖・藍洩・梅圃・  
 里柳・蘭芽・(河内) 不二門・古栗・桃水・月洲・龍川・一表・  
 (サカヒ) 麦雨・鹿野女・其芳・未升・柳吾・此方・此松・(伊丹)  
 太乙・曲阜・(イケ田) 可春・(仙ダイ) 舍用・如雲・宗古・(すか川)  
 多代女・(米沢) 礪山・(秋田) 国彦・其友・御風・(越后) 乙良・(カ)  
 固来・(カ) 柳壺・(カ) 卓丈・(ヲハリ) 黄山・(ヲハリ) 而后・  
 (近江) 礪山・(近江) 九起・(行脚) 玄子・(フシミ) 岳鳳・(郡山)  
 花嘯・禾秋・(ナラ) 菊人・(ナラ) 龜友・(十日市) 寿翠・(内山)

## 14

幹陰・(若山) 虚心・(若山) 寿抱・(高野山) 閑那・(高野山) 石雄・  
 (高野山) 水斎・(高野山) 山鹿・(尾張) 春領・(イセ) 惠雨・  
 (タンバ) 湧瀧・(アハチ) 鷗池・(アハ) 茶雷・(アハ) 樗風・(アハ)  
 筭路・(アハ) 龜年・(土佐) 梅十・(土佐) 壺通・(イヨ) 鶯居・  
 (イヨ) 菊圃女・(チクゼン) 与加る・(チクゼン) 由太・(ヒゼン) 悠々・  
 (日向) 双鳥・(長サキ) 祖融・(イツモ) 完臺・(石見) 青池・(石見)  
 一池・(石見) 霞松・(石見) 如一・(石見) 一桃・(福山) 紅顔・  
 (福山) 露井・(福山) 可咲・(津山) 愛蔵・(津山) 松人・(津山)  
 東明・(津山) 愛竹・(野村) 耕雨・(勝ヤ) 龜由・(備中) 猿笑・  
 (姫子) 悟一・(姫子) 如一・(平福) 竹賀・(林田) 雨琴・(加古川)  
 可大・(加古川) 蒼山・鼎左・鼎跡 三段組

※ 12と一對

慶賀 全紙 左一 柳仙 松ケ根・龜図 ○ アイエ ×

(洛) 芹舎・梅通・禾明・淡節・有節・(フシミ) 岳鳳・雨喬・  
 (浪花) 鼎左・林曹・白鳳・素屋・桃室・井竹女・春宥・井資・  
 一景・其山・(左海) 此方・此松・(淡海) 礪山・(イセ) 東宇・  
 蕙雨・逸洩・西馬・詠久・音好・奇三・南々・素明・吳風・  
 (イヨ) 鶯居・菊圃女・圓室・(サヌキ) 木長・流藻・(トサ) 嵐夕・  
 古鳳・習竹・元史・婦牛・(アハチ) 希鱗・蔣池・(アハ) 鳳棲・  
 思風・越工・順美・蘿彦・楚宮・羽長・樗風・宇均・龜年・  
 万像・松丈・茶雷・山月・木龜・夢堂・夷岳・筭路・物外・

南底・桑陽・應吏・太举・頻甫・大夢・騏郷・湖堂・蘿村・  
 旦水・佳篤・南岱・雪山・北翠・閑石・季風・(少年)一圭・  
 化雄・應可・應宇・默史・不染・撫泉・一到・茂松・一帰・  
 露節・似石・紫淵・扇和・秋化・帰朴・其調・其梅・其山・  
 (トサ)己志」・素外・呉竹・史雄・花律・甫六・蘭史・龜浮・  
 二吏・可楽・宣大・東花・里調・龜卜・美笑・佳有・可大・  
 晴呼・如毛・其樟・李曠・(トサ)昇山・可全・柳俊・一懐・  
 石年・市外・風調・鯉丈・芦風・月下・富雪・龜石・里石・  
 馬槿・漁積・梅史・波友・左一

三段組

夏興 全紙 松隣 岸讓 滝図 ○ ウエ ×

一具・為山・西馬・遅流・由誓・瓦村・松什・山子・南枝・  
 呉城・等栽・蓬交・泰山・荷少・波静・冬守・半湖・好甫・  
 丁知・抱儀・祖郷・可簫・魯心・鳥吟・氷壺・見外・万古・  
 みもと・四端・布丈・太年・故厓・杜水・聴雨・雲里・可轉・  
 道等・葛古・米室・巽堂・関市・無名・柳塘・崑年・交水・  
 □□・一兆・立宇・南々・天由・得蕪・逸測」・芹舎・瓢齋・  
 淡節・月坡・霞川・禾明・拾椎・有節・公成・多代・清民・  
 舎用・如雲・江三・御風・撫泉・唸風・素英・雲涯・素山・  
 二葉・璣山・朶峰・玄子・乙良・茶山・ちから・涼岱・雨静・  
 慶里・柳壺・卓丈・大夢・應叟・悠平・蕙雨・五鈴・可推・  
 濡瀧・□□・梅嶺・岳鳳・黄山・應知・烏降・一清・李曠・  
 而后」・素屋・素屋・可兆・杜鴻・不角・藜々・一三・稻處・

鶯宿・松室・蟻兄・二柩・鶯居・鳳棲・万像・茶雷・筭路・  
 羽長・思風・夷岳・龜年・雲外・梅十・古鳳・嵐夕・半谷・  
 鷗池・素鯁・菊圃・梅思・甘□・□□・□□・□□・石雄・  
 霞仙・閑那・曲阜・太乙・寒水・此山・柳井・一東・鼎左・  
 鼎左・松隣・松隣・松隣

三段組

慶賀 全紙 いみ夫 臥春 芭蕉句入糸瓜図 ○ アウエ 鷗波

(洛)有節・梅通・芹舎・公成・淡節・拾椎・桃五・祭魚・岳鳳・  
 (ナニハ)鼎左・素屋・松隣・白鷗・其山・松室・蟻兄・林曹・  
 (サガ)石外・文翠・(イタミ)曲阜・太乙・(アフミ)砺山・  
 (ヲハリ)月底・鳥律・黄山・呂川・梅裡・蓬宇・而后・(イセ)  
 雀叟・五鈴・(ミカハ)塞馬・(アハ)鳳棲・思風・茶雷・龜年・  
 万像・(トサ)元史・涼哉・婦牛・嵐夕・(イヨ)鶯居・菊圃・  
 (ハリマ)可大・(イナバ)杜陵・(タンバ)九華・(出雲)百年・  
 (ビゼン)布國・悠々」・(備中)香雨・(日向)双鳥・駝岳・  
 (サツマ)馬翁・(遠江)鳥谷・(スルガ)漣山・(サガミ)宜頂・  
 布丈・立宇・(ムサシ)溪斎・五渡・南々・寄三・天由・柏水・  
 富哉・竹山・桃郷・扶水・雪朗・勇賀・とく女・鬼吉・千歳・  
 吟松・松林・(ア房)あや雄・椿山・(上サ)霞雪・(下サ)崑年・  
 朝霞・(上毛)心足・□□・笥言・碧堂・未白・無名・吞吹・  
 心星・葛洞・盛晁・石鳴・龜松・松月・関市・梅雄・(下毛)  
 圃涼・和南・一峯・桃仙・真笑・希得・茂精・(ヒタチ)義香・  
 一兆・如々・聴松・松塙・友松・(ヒタチ)ゑつ女・麦翠・(カド)

柳壺・(シナノ)ノ左・桃谷・(サド)谷守」・(オク)多代女・清民・  
 遜阿・梅月・如薰・一止・舍用・(デハ)御風・素山・二葉・  
 河曉・雲涯・薰曉・撫泉・璵山・幽雅・雪琴・唸風・清井・  
 (エチゴ)乙良・鷺眠・清水・素明・雨静・ちから・月鴻・茶山・  
 (エツ中)怒弓・逸淵・卓郎・抱儀・西馬・未足・氷壺・閑那・  
 得蕪・由之・不染・魯心・□□・惟草・古山・叩月・羽雪・漣々・  
 月村・仙鳧・普陽・波鷗・聞賀・珪琳・苴丸・かつら・卜早・  
 泰我・栗熊・籠古・五律・芳所・素皎・雪簫・青柿・荷少・  
 等紫・米山・宝艸・風郎・探響・吳城・美交・少太・巢晁・  
 菊雄」・祖郷・德隣・瓦村・枯之・一夢・木鶯・五雀・泰山・  
 四端・髯仙・芹内・友甫・獅毛・荳明・秀女・以簫・無外・  
 遊笑・白起・拙城・素良・半湖・洒雄・春拳・白亥・草仙・  
 里椿・宗羽・完鷗・香以・遲流・未精・一瓢・美由・□□(山子)・  
 波静・□方・可簫・□□・□□・□□・□□・□□・由誓・  
 為山・等栽・(雲水)幻外・見外・鳥吟・萬古・一具・いミ夫

※ 「癸丑秋」／改号祝

四段組

17 秋興 全紙 鼎左 秋亭 小菊・露草図 ○ イエ ×

倚松・節一・香山・崑曉・みさき・吾柳・圓中・涼松・蘭操・  
 松塘・理蒿・龜月・龜好・了然・移石・笑樂・梅圃・雨外・  
 黄山・草居・月人・清機・春女・井竹女・楓可・北梅・梅弟・

霞洲・草洲・其松・杜鴻・其雪・兔雪・春雄・香隣・井岳・  
 秋岬・里柳・文賀・文景・松吟・万頃・秋亭・(かふち)不二門・  
 龍川・左栗・桃水・月洲・其乙・一表・(池田)可春・(灘住吉)  
 南景・(さかひ)柳吾・鹿野女・其芳・米升・梅友・梅曉・緑池・  
 (新田)岐山・(郡山)花嘯・禾秋・百里・崑柳・(若山)寿抱・  
 (南山)石雄・(いせ)五鈴・(赤穂)鼎跡・(姫路)悟一・(津山)  
 松人・愛竹・藤園・嘯月・愛蔵・東明・梅友・遊樂・(備前)  
 一島・(備后)紅顔・琴糸女・松茂・(廣嶋)左夕・(米子)鶴棲・  
 (出雲)吐屑・(石見)一池・青池」・芹舎・硯水・公成・卦龍・  
 此松・鶯宿・素屋・可兆・光林・起雪・挙一・鼎左 二段組

※ 裏に摺物所「三津本工」の印

18 慶賀 全紙 松月 玉鳳 松月図 ○ アイ ×

天来・井左・其山・眉山・光林・寿扇・青山・花蟲・荷村・  
 米中・不角・白賀・梅蒼・鶯室・艸雨・臥堂・芹汀・桃兮・  
 可兆・万利・松隣・水月・艸斎・(洛)芹舎」・鼎左・大年・素屋・  
 井資・鶯宿・蟻兄・其涛・春雅・鷄室・馬禿・楓良・(洛)松朗・  
 可庭・(鞆社)桃月・竹水・一雪・松郷・鼎史・松彦・金鱗・  
 艸逸・瓢六・(万齡庵)松月 二段組

※ 裏に摺物所「三津本工」の印



公成・梅通・芹舎・有節・淡節・黙池・月坡・丈翠・石外・  
 芳英・瓢斎・太老・拾樵・玄子・可樵・九華・砺山・月峯・  
 柴人・山蔭・林曹・白鷗・鼎左・松隣・其山・蟻兄・稻所・  
 杜鴻・素屋・太乙・曲阜・可大・希鯨・鷗池・蔣池・鳳棲・  
 茶雷・万像・習竹・雲外・鶯居・菊圃女・駝岳・双鳥・悠々・  
 雀叟・五鈴・雅琴・蕙雨・黄山・而后・一清・鳥律・梅裡・  
 栖霞・櫓水・玄堂・応知・春湖・思文・李曠・月底・塞馬・  
 蓬宇・杜水・烏谷・漣山・道等・均外・ノ左・乙良・清水・  
 千布・孤舟・茶山・巴陵・ちから・桐古・怒兮・慶里・旭芝・  
 大夢・柳壺・卓丈・丹嶺・鳳兮・御風・唵風・舍用・如雲・  
 清民・多代女・義香・一兆・閑市・和南・士明・南厓・交水・  
 崑年・霞雪・あや雄・ゆきを・丁々・白羽・布丈・□□・天由・  
 五渡・溪斎・由誓・得蕪・瓦村・丁知・抱儀・未足・不染・  
 叩月・由之・雲岨・德隣・美交・羽雪・花亭・素良・芦明・  
 波鷗・卓郎・卓堂・氷壺・龜得・見外・吳由・惟草・菝丸・  
 梅笠・仙覺・月村・孚門・漣々・曆外・曆明・草宇・古山・  
 巴雪・香以・故厓・音好・俗中・里椿・五雀・詠久・四端・  
 西馬・逸渕・四山子・□□・萬古・等栽・荷少・祖郷・卜早・  
 尋香・蓬交・以肅・北松・夷則・実門・菊雄・いさ吉・鳥吟・  
 百丈・太年・青柿・可簫・波静・泰我・栗熊・厚路・松頂・  
 普陽・弄化・山方・山子・少太・松雨・芦友・冬守・躬解・  
 春峯・為山・六監・扉達・嵐岱・胤仙・春陰・石雄・逸中・

※ 「丑初冬」

20 冬興 全紙 湧瀧 櫻杉庵 浜千鳥図 ○ イエ ×

芭蕉翁・(出羽)御風・(出羽)吟風・(出羽)素山・(ミチノク)北隣・  
 (ミチノク)多代尼・(エド)一具・(エド)為山・(ナニノ)素屋・(京)  
 淡節・(田ナベ)寶翠・(田ナベ)花仙・(水上)真澄・(水上)羽人・  
 (水上)一如・(水上)正翠・(水上)浦涼・(水上)里仁・(水上)  
 陽齊・(水上)瓢逸・(サ、山)湖舟・(寺ムラ)愚佛・(ホウキ)一簣・  
 (ホウキ)九一・(大カヒ)瓢堂・(中ムラ)龜樂・(中ムラ)卜笑・  
 (ツチダ)臥雲・(ホヅ)龍眼・(ホヅ)魯雄・鑒水・朗雪・梅處・  
 對石・光月・其玉・古蛙・王二丸・一藤・梅溪・一掘・草樂・  
 湧瀧

43 48

※ 「嘉永六丑冬」

▼安政元年

21 歳旦 全紙 巴雪 是真 手毬図 ○ アイウエ 鷗波

(ヒゼン)悠々・(京)芹舎・公成・(大坂)鼎左・素屋・松室・  
 (ヤマト)可樵・(ヒウガ)双鳥・駝岳・(アハ)鳳棲・茶雷・  
 (アハチ)鷗池・(イヨ)鶯居・(トサ)嵐夕・元史・婦牛・(キイ)

閑那・(ヲハリ) 黄山・春松・(遠江) 杜水・(ミカハ) 蓬宇・(オク) 舍用・如雲・梅月・清民・多代女・(デハ) 御風・如松・(エツ中) 怒兮・(エチゴ) 乙良・茶山・(シナノ) 蘆川・(上ツケ) 心足・琴堂・半湖・米室・(下ツケ) 桃仙・(ヒタチ) 李郷女・(安房) 椿山・(上サ) 由儀・(ムサシ) 南々・奇三・柏水・天由・梧青・桂花女・由誓・得蕪・氷壺・未足・等栽・見外・尋香・古山・為山・祖郷・抱儀・梅笠・冬□・紀逸・守一・石黒・逸瀨・西馬・遅流・一夢・一枝・四端・萬古・鳥吟・五休・俗中・里椿・五雀・いさ吉・保然・五笑・雪簫・陣良・□□・洒雄・均外・白亥・卜早・秀鳥・湖堂・子徳・静波・蔦拙・鬼柳・黙牛・不麦・得子・琢志・幻考・季春・三羊・高せつ・知節・かつら女・風子女・花光女・千代女・巨柳・雪樹・雪路・花舟・巴雪 二段組

※ 「甲寅春」

歳旦 全紙 如雲 是真 正月籠飾図 ○ アイ 鷗波  
(エド) 由誓・為山・遅流・未足・抱儀・等栽・萬古・氷壺・  
太年・尋香・瓦村・四端・芦明・祖郷・□□・巴雪・閑那・  
きく雄・鳥吟・芦月・以肅・青柿・いさ吉・山子・鶴翁・好甫・  
少太・北松・ミもと・洒雄・臥春・五雀・里椿・均外・白亥・  
半湖・見外・逸瀨・(京) 梅通・有節・公成・淡節・芹舎・(大坂)  
鼎左・松隣・素屋・其山・(ヤマト) 可撫・(イガ) 養瓜・(ヒゼン)

悠々・(日向) 駝岳・双鳥・(アキ) 梅思・(トサ) 嵐夕・子鳩・  
(アハ) 鳳棲・思風・萬像・樗風・茶雷・(ヲハリ) 黄山・春松・  
烏谷・嵐牛・(ミカハ) 三岳・蓬宇・(ムサシ) 溪斎・天由・南々・  
柏水・潮月・(上毛) 米室・関市・心足・琴堂・(下毛) 其翼・  
(安ハ) 椿山・(カヅサ) 由儀・(ヒタチ) 李郷女・友甫・(エチゴ)  
ちから・茶山・(デハ) 御風・唵風・河曉・璵山・峯丸・(白川)  
由人・(ヌカ川) 多代女・(スキタ) 英泉・(桑折) 遜阿・也明・  
(タカコ) 梅月・(モリオカ) 卓堂・南江・(モリヲカ) 南溪・李輔・  
(大ガハラ) 江三・(石ヅ) 醉夢・静外・巴燕・俗一・米花・  
(金ナリ) 霞調・(若柳) 白知・盧坡・(吉ヲカ) 葭岡・芽陽・  
(水サハ) 虬山・(ツルシ) 海民・蛙一・禾月・宗古・心阿・東谷・  
美春・南成・好々・豊李・三春・蔦山・由己・五雲・文人・  
智幽・長洋・泉淇・柏葉・禾山・三恵女・湖立・杉芽・塘水・  
一止・西馬・舍用・雨竹・如雲 三段組

※ 「甲寅春」

歳旦 全紙 月杵 三拙 猿候迎春図 ○ イ 鷗波  
西馬・月杵・逸瀨・洒雄・鳥吟・音好・萬古・里雨丸・(京)  
梅通・公成・芹舎・(大坂) 鼎左・素屋・松室・(近江) 砺山・  
(ヒゼン) 悠々・(サツマ) 馬翁・(日向) 桃幾・双鳥・駝岳・(アハ)  
鳳棲・思風・龜年・彩霞・茶雷・(アハチ) 鷗池・(トサ) 嵐夕・  
雲外・元史・婦牛・習竹・梅十・(キイ) 閑那・(ヲハリ) 黄山・

歳旦 全紙 花朝女 雪儼 女官図 ○ イ 竹窓尚友

(京) 雨翠・有節・芹舎・公成・月坡・烏谷・梅通・黙池・(浪花)  
杜鴻・素屋・大年・鼎左・其山・(伊丹) 曲阜・(ハリマ) 可大・

玄玉・□□・(イセ) 五鈴・(三河) 蓬宇・完伍・(遠江) 杜水・  
(サガミ) 雪頂・布丈・薰岱・枝長・(シナノ) 芦川・巖・(エチゴ)  
乙良・茶山・雪潮・素明・(サド) 谷守・(越中) 怒兮・(デハ)  
御風・唵風・如松・璵山・(オク) 舍用・一止・如雲・梅月・  
半翫・壮山・清民・多代女・(松前) 己節・榻雪・旭・(ヒタチ)  
李郷・(上サ) 由儀・(安ハ) 椿山・(下毛) 桃仙・(下サ) 得老・  
仁里・仙客・雅麦・越卯・兔什・(上毛) 心足・琴堂・一朗・  
笱言・鶴水・素城・如儼・吞吹・心星・米室・半湖・(ムサシ)  
南々・寄三・□□・天由・溪齋・(雲水) 竹烟・陳良・少哉・  
ミもと・新甫・巴龍・雪簫・故厓・由誓・遅流・為山・卓郎・  
祖郷・氷壺・抱儀・得蕪・見外・未足・等栽・月村・尋香・  
古山・一夢・四端・菊雄・祐之・瓦村・美交・萬年・木葉・  
里遊・波鷗・拙誠・山子・佳谷・以肅・不染・梅笠・梧青・  
德隣・羽雪・龜遊・一瓢・萬古・鳥吟・いさ吉・春拳・渡江・  
詠久・巴雪・英鳥・五休・正甫・青柿・月窓・北魚・蒼池・  
一蝶・少太・花明・得水・里雨丸・俗中・五雀・均外・白亥・  
洒雄・音好・逸渕・西馬・(里椿更) 月杵 三段組

※ 「甲寅春」／里椿更月杵／歳旦の一枚摺で改号を披露する

(阿波) 思風・万像・(土佐) 梅十・習竹・(讃岐) 木長・(伊豫)  
菊圃女・北洋・(豊后) 梅可・(長崎) 文旨・(日向) 双鳥・(イツモ)  
百年・(ビンゴ) 逸齋・(美作) 耕雨・(近江) 月拳・(イセ) 五鈴・  
(オハリ) 而后・李曠・梅裡・(雲水) 春湖・(三河) 完伍・蓬宇・  
(遠江) 杜水・(甲斐) 道等・(駿河) 岱完・(信濃) 左波・□□・  
□□・菊雅・(木曾) 未暁・(越中) 怒兮・休齋・慶里・(加賀)  
如流・鳩蘆・柳壺・(越后) 乙良・大栗・市猿・(佐渡) 梅園・  
(雲水) 桐古・(能登) 竹外・花溪・(出羽) 御風・吟風・淡遊・  
桂儼・蓼塢・自厚・(陸奥) 舍用・たよ・(松前) 旭・嚮齋・  
(下毛) 其翼・(常陸) 一兆・(下総) 吟松・以兄・梅宿・文哉・  
交水・十條・(上総) 一澄・睡鷗・(安房) 静里・(相模) 旭松・  
三扇・立宇・薰岱・(上毛) 蕭田・飯倍・嗽石・ミつ雄・(武蔵)  
勇賀・とく女・(閑都) 良女・逸渕・卓郎・由誓・四端・遅流・  
等栽・得蕪・卜早・美交・德隣・珪琳・叩月・鳥吟・氷壺・  
尋香・□□・□□・□□・等□・祖□・苜丸・五休・西馬・  
為山・完鷗・羽雪・不染・吳由・一雅・霞嶠・一好・百寿・  
不外・其外・花谷・いさ吉・ミき女・一嘯・思樂・とし守・  
宜稻・草笠・奚疑・師山・東松・梅香・桃花・燕凌・茂と女・  
素皎・一瓢・鳳丘・見外・花朝女 二段組

※ 「嘉永甲寅」

25 慶賀 全紙 茶山 葉園(閑華) 文箱図 ○ イエ 龍溪逸史

有節・芹舎・淡節・梅通・鼎左・素屋・多代女・御風・ミちよ・  
雪幸・萬花・梅子・野中・右水・子光・逸瀨・西馬・萬古・  
見外・為山・乙良・鷺眠・晴楓・西疇・梅逸・李年・清水・  
春成・千布・芳雨・すみを・甫山・蘭也・柳崖・茶烟・自省・  
鶯求・蓬亭・(器山更)有底・龜年・市猿・司山・雨靜・四專・  
越仁・雲月・吾蝶・里英・大栗・古棠・閑得・鶴洲・龍鱗・  
雲山・梅仙・竹庭・潮井・古菊・里溪・里石・烏古・逸舟・  
孤柳・曉山・芳青・柳眠・安兔・古山・尾靜・虛由・宜風・  
大輕・志扇・孫保・千正・一虹・逸思・璫山・霞外・北溟・  
泰安・一湖・貴弘・乙洋・鶯聲・右橘・玉成・德音・春枝・  
三亭・蓬意・樵路・石庭・雪洋・松翠・硯山・雪潮」・宜靜・  
淡水・柳外・碎圭・松年・杉竹・岱鵬・澄秋・花月・克明・  
雲浪・小正・鳳梧・雲鳳・竹陽・花曉・春香・三完・大梅・  
一慶・若郷・秋月・鶯里・帰定・長翠・饒悅・閑止・水月・  
梅交・貫古・相為・逸交・蒼黛・(八十二)三貫母・柳涯・千牛・  
宇成・三貫・北嶺・雲滄・茶山 二段組

※ 「嘉永七年甲寅孟春」／松叟茶山還曆賀

26 歳旦 全紙 梅流 呂魚 懸想文壳図 ○ イエ 左風

(京)梅通・石外・丈翠・芹舎・默池・有節・(浪花)其山・素屋・  
鼎左・(尾張)黄山・一清・應知・梅裡・而后・旭嶂・烏律・

月底・籟一・李曠・(遠江)烏谷・聽雨・杜水・貞山・筌露・  
嵐牛・(スルガ)碧山・青雀・(シナノ)圭布・(江戸)西馬・由誓・

一具・惟草・抱儀・為山・松什・得蕪・逸瀨・丁知・氷壺・  
山外・(三河)蚊丈・飛雪・三岳・蓬宇・蘇雲・青可・完伍・  
塞馬・茶岡・稻居」・(三河)守鷗・竹甫・宇雅・燕語・是武・  
之玄・一丁・東石・梅谷・樹石・桃居・德鳧・惟一・青峨・  
倚泉・星月・梢霞・素竹・貞哉・默露・蕪仙・波文・梅流・  
梅流 二段組

※ 「嘉永六丑春」／この一点のみ嘉永六年

27 歳旦 半裁 月人 九霞画長水良写 七福神図 ○ イエ ×

花屋庵・此花庵・松蔭・自在庵・辰一葦・雨外・買山・草居・  
清機・春女・井竹女・梅栄・蘭芽・枝雀・隣草・芝料・素流・  
(赤穂)鼎跡・(冠山)花嘯・月人・月人・月人 22 23

※ 「甲寅初春」／「片岡梓」の印

28 春興 半裁 月古 葭亭 饒駕籠図 ○ イエ ×

(京)芹舎・梅通・公成・淡節・也然・硯水・有節・(大坂)鼎左・  
松隣・松室・光林・白鷗・素屋・(江戸)逸瀨・西馬・祖郷・  
見外・山子・いさ吉・白亥・為山・(ムサシ)南々・(上毛)米室・  
(ムツ)舍用・如雲・(デハ)御風・唵風・素山・(シナノ)葛古・

(エチゴ) 乙良・(カヅ) 大夢・(イセ) 雀叟・五鈴・(ヒゼン) 悠々・  
 (アハチ) 蔣池・鷗池・(イヨ) 菊圃女・(トサ) 元史・雲外・婦牛・  
 (アハ) 葉陽・左一・思風・天馬・夷岳・樗風・筭路・平蕪・  
 騏郷・大夢・梅道・青枝女・草尺・蘿丈・蒼朗・樞雨・たゝ女・  
 雨蓼・思村・順美・逸松・石居・東阡・羅邨・龜年・木鳥・  
 楚宮・茶雷・蘿谷・月古

70 39

※ 「甲寅春」

29

慶賀 全紙 鶯宿 華榮 春山霞居図 ○ アイウ ×  
 艸齋・天来・鼎左・井左・瓢六・水月・大年・井資・松隣・  
 其山・素屋・万利・貞蘿・貞眠・春林・眉山・光林・眉年・  
 寿扇・芦汀・可兆・青山・臥堂・荷村・米中・艸雨・鶯室・  
 不角・梅蒼・松室・白賀・還夢・梅岳・林曹・蟻兄・白鷗・  
 可庭・桃兮・潮水・水明・其涛・春雅・鷄室・松月・節一・  
 千花・興々・宗林・登世女・左琴・文洒・東江・群鷺・芦旭・  
 梳柳・炉翠・蕉林・翠江・向鷹・炉重・舟左・蜘蛛・一考・  
 千齡・杜鴻・松柳・不二門・笠洲・春門・蟻洞・蘭窓・倚松・  
 楓良・洗揚・堂祢女・渡子女・米老・桃鯉・梅臺・梅宿・露菊・  
 梅暁・梅雅・鶯宿

三段組

※ 嘉永七年春善哉庵継号記念／裏に刷物所「三津本工」の印

30

春興 全紙 羅邨 葭亭 穂麦・菜花図 ○ アイエ ×  
 (京) 有節・梅通・碩水・淡節・公成・向月・禾明・也然・文翠・  
 芹舎・(フシミ) 岳鳳・(大坂) 鼎左・松隣・其山・松室・藜々・  
 白鷗・素屋・(江戸) 逸洩・西馬・祖郷・遅流・見外・いさ吉・  
 鳥吟・四端・里椿・山子・五休・春拳・白亥・半湖・萬古・  
 梅笠・為山・(ムサシ) 溪齋・天由・奇三(ヒタチ) 李郷女・(上毛)  
 琴堂・米室・(ムツ) 多代女・一止・如雲・清民・舍用・(デハ)  
 御風・素山・唵風・璫山・(シナノ) 葛古・(エチゴ) 乙良・茶山・  
 (カヅ) 大夢・柳壺・(イハミ) 一池・(トフトウミ) 鳥谷・杜水・  
 (ミカハ) 蓬宇(ヲハリ) 而后・一清・李曠・黄山・(イセ) 雀叟・  
 五鈴・蕙雨・(イガ) 養瓜・(キイ) 閑那・(ヒゼン) 悠々・(ヒウガ)  
 駝岳・(アキ) 梅思・(ハリマ) 蒼山・鼎跡・(アハチ) 其秀・鷗池・  
 希鱗・蔣池・(サヌキ) 木長・(イヨ) 鶯居・菊圃女・(トサ) 嵐夕・  
 小鳩・元史・(アハ) 鳳棲・松丈・思風・楚宮・樗風・左一・  
 蘿谷・龜年・佳長・大夢・思村・蘿丈・松雄・有隣・月古・  
 (少年) 倚邨・東阡・不居・旗郷・平蕪・夷岳・木鳥・葉陽・  
 茶雷・羅邨

三段組

※ 「甲寅春」

31

春興 全紙 鼎左(俳諧餘暇) 鼎左 飛花・女官図 ○ アイエ ×  
 蘭操・崑暁・香山・美崎・梅圃・松塘・了然・節一・吾柳・  
 理菊・文賀・秋亭・移石・正一・其実・圓中・松吟・天圓・

栖霞女・井竹女・万頂・涼松・里柳・梅弟・兔雪・素梅・菴女・  
鼎湖・流霞・連水・不二門・杜鴻・爐翠・岩雄・霞洲・蕉林・  
雪橋・周馬・玉川・孤松・月桂・蘭月・雨外・買山・草居・  
月人・清機・春女・梅菓・枝雀・隣草・楓可・秋僽」・西馬・  
瓦村・荷少・白亥・為山・(秋田) 国彦・(米沢) 璫山・(加賀)  
固来・(京) 有節・文海・委水・蒼雪・(左海) 麦雨・此松・(河内)  
龍川・左栗・桃水・月洲・岳久良・一表・(池田) 可春・(伊丹)  
曲阜・菊雅・古樵・(茨木) 鼎居・(灘) 草筑・(郡山) 花嘯・禾秋・  
月耕・岳柳・(高野山) 閑那・石雄・(若山) 寿抱・(播磨) 鼎跡・  
淡香・悟一・(一鷗更) 桃古・梅古・(津山) 松人・藤固・嘯月・  
遊樂・光暉・東明・(備前) 鼎所・草隣・三積・竹操・言水・  
石羊・三双・(備后) 紅顔・桜鱗・(石見) 青池・一池・梅日・  
一桃・(安藝) 蘭陵・桑山・甘古・(筑前) 由太・(日向) 双鳥・  
(淡路) 鷗池・(伊豫) 菊圃女・(土佐) 梅十・(阿波) 茶雷・鶯宿・  
素屋・光林・可兆・不角・公眠・蓬陽・挙一・鼎左 二段組

※ 「弥生十一日花市會」  
裏に摺物所「三津本工」の印

追善 全紙 如竹 画者未詳 月竹図 ○ ウエ ×

吕国佛・鷺舟・松静・蟻水・脩竹・春光・庵女・其道・烏白・  
竹舍・寒水・樂山・素孝・梅雄・枕石」・梅静・竹人・竹児・青  
峨・琴洲・至梅・霞村・芝岡・菊珠・其室・花鳥・米山・蓼々・

其水・鼎左・花蟲・素屋・可兆・肖年・墨河・如竹 二段組

※ 吕国一周忌追善／裏に摺物所「三津本工」の印

追善 全紙 宗古 然明 龜・夾竹桃図 ○ アイ ×

月下庵梅露佛・舍用・一止・江三・杉芽・心阿・禾月・為山・  
祖郷・溪斎・遲流・見外・萬古・瓦村・音好・冬守・碑山・  
春挙・菊圃・布丈・山子・等栽・西馬・有節・梅通・公成・  
芹舍・鼎左・其山・素屋・松隣・黄山・一清・而后・塞馬・  
蓬宇・多代女・清民・遜阿・柴山・南鶴・愛三・松橋・素山・  
唵風・柳枝・月山・月窓・緑峯・璫山・朶峯・才好・鶯珍・  
野泉・笋芽・峯丸・芦葉・稻州・鷺眠・水竹・乙良・御風・  
米花・万雪・巴煎・青風・山水・知毘・一秀・嘉肴・静外・  
南峰・倍一・石芝・楚流・夷祝・東樹・玉樹・米麻呂・白知・  
羅月・卯啼・東椿・雪鷺・藜月・巢鶴」・(秋田) 河曉・有柳・  
(水サハ) 虬山・秋水・圭枝・一扇・(七北) 冠仙・双蟻・(ワロヤ)  
昆音・(ケセヌメ) 棟園・(新町) 松間・(トイマ) □□・祖母・蛙丁・  
柳哉・堂里・之桃・魯因・可有・(吉ラカ) 五葉・芽陽・葭岡・  
一興・詠柳・二扇・左圭・宅三・松兮・惟雲・(ヒロフチ) 柏里・  
柳仙・伯林・緑園・古孫・柳枝・松亭・(女) 千代美・苔洞・  
如柏・山夫・三省・(中新田) 嵐子・安眠・如酒・永仙・民山・  
曲枝・如雲・長洋・文人・白水・五雲・金波・智幽・南成・



柏葉・魚遊・梅窓・素久・洞月・柳美・巾二・泉溪」・釣龜・  
 那蟲・古樵・市曉・一知・柳水・太年・甫山・如風・雨江・  
 住阿・湖産・芳水・圓角・杏月・一仙・如扇・如笑・樗影・  
 禾山・菟女・豊女・三恵女・千賀女・いつミ・文林・湖立・  
 一義・一哉・敬義・風聲・水哉・山水・一丸・馬蓼・ミよ女・  
 (女) 革艶・(会ツ) 峯女・香逸・巨山・翠遊・宗辞・雲淡・素雲・  
 南浦・兆々・龜兄・(少年) 龜孫・宗古 三段組

※ 「嘉永寅の夏」／月下庵梅露法蕊／肉筆画

その他 全紙 尋香 圭岳 萬歳図 ○ イ 以肅

由誓・乙良・壯山・西馬・普水・清水・等裁・鼎左・可撫・朝  
 可・雨竹・閑雅・淡節・完鷗・以肅・完羽・李曠・五雲・愛山・  
 潤布・五葉・鳳丘・龜尋・遅流・新甫・文起・和南・二丘・  
 雀叟・丁酉・不染・波鷗・素屋・漁藻・泰山・露葉・江三・  
 文窓・己有・柳岱・朶峯・□□・拙誠・璵山・一宣・よし尾女・  
 松宣・東籬・慶里・如雲・琴賀・山子・鳥律・鳥吟・未足・  
 きく雄・西美・松露・関市・萬古・多代女・溪斎・竹山・月杵・  
 吳溪・茶瓢・桐鳴・伴夢・白亥・茂精・未精・一興・其翼・  
 逸瀾・梅月・陳良・露菴・一止・少太・緑峰・叩月・芳洲・  
 美交・閑那」・為山・苜丸・龜成・霞雪・祖郷・春峯・禾月・  
 黍丘・芹舎・竹醉・為春・俗中・雙鳥・一瓢・茶雷・蘆月・  
 公成・菊圃女・□□・可簫・崑年・早良・卜早・抱儀・好甫・

川丈・四端・米室・祐之・雨静・瓦村・友甫・丘雨・大費・  
 康我・いさ吉・梅通・一羽・ミつる・卓郎・五休・太素・  
 もとか・梅雅・悠々・遜阿・栗熊・唸風・氷壺・かつら・夷則・  
 未成・清民・得蕪・布山・松佳・露舟・梅明・樗風・北松」・  
 □□・□□・□□・□□・崑山・春斎・徳隣・白水・山方・  
 玉のや・粗年・香雲・旭・等祭・護民・松郭・雲崖・見外・  
 鶴巢・荷少・冬守・百杯・太年・素山・如繡・羽雪・響斎・  
 巾二・青池・禾山・烏谷・庭裡女・大齡・水竹・布丈・蓬宇・  
 一夢・愛山・尋香・尋香 三段組

※ 「甲寅夏」／四季発句

夏興 全紙 大夢 南涯 萬歳図 ○ アイ ×

(京) 有節・梅通・石外・公成・碩水・淡節・月坡・黙池・禾明・  
 文翠・烏谷・向月・也然・文海・芹舎・(フシミ) 岳鳳・(大坂)  
 鼎左・白鷗・松隣・挙一・蓊々・松室・公眠・鶯宿・素屋・  
 (アフミ) 砺山・蕪逸・月峯・(イガ) 養瓜・(イセ) 雀叟・五鈴・  
 蕪雨・只青・(ヲハリ) 而后・一清・梅裡・鳥律・李曠・黄山・  
 (ミカハ) 蓬宇・(トフツウミ) 杜水・(江戸) 由誓・為山・西馬・  
 祖郷・得蕪・遅流・氷壺・いさ吉・鳥吟・萬古・四端・山子・  
 里椿・尋香・抱儀・古山・白亥・春挙・龜尋・巴専・梅笠・  
 音好・見外・逸瀾・(ムサシ) 溪斎・天由・寄三・南々」・(上毛)  
 竹烟・関市・栞堂・米室・半湖・(ヒタチ) 李郷女・(ムツ)

多代女・一止・如雲・禾月・清民・舍用・(テハ)御風・素山・  
 唼風・河曉・雲涯・璫山・(シナヌ)葛古・一之・(エチゴ)乙良・  
 茶山・(カヅ)柳壺・丹嶺・大夢・(イハミ)青池・(ヒゼン)悠々・  
 (ヒウガ)駝岳・双鳥・(サツマ)馬翁・(アキ)甘古・梅思・(キイ)  
 閑那・(ハリマ)蒼山・鼎跡・(アハヂ)其秀・鷗池・希鯨・曉梅・  
 園水・玉梅・蔣池・(イヨ)鶯居・菊圃女・(トサ)嵐夕・婦牛・  
 雲外・古鳳・元史・(雲水)蒼仙・(アハ)鳳棲・文笠・思風・  
 夷岳・月馬・樗風・左一・龜年・月古・騏鄉・石居・推雨・  
 林叡・東阡・蘿丈・佳長・思村・一到・野風・應可・平蕪・  
 羅邨・筭路・涼枝・万像・木鳥・楚宮・松丈・素陽・茶雷・  
 大夢

三段組

※ 「甲寅夏」

夏興 全紙 一得 和翁 旅人・時鳥図 ○ イ ×  
 梅通・有節・芹舎・鼎左・素屋・悠々・而后・黄山・五鈴・  
 立宇・烏谷・秋湖・南々・塙麦・其樂・如臍・升臍・文撫・  
 其廣・素月・都梁・丁和・たくみ・卜儂・寶亭・春頼・樂玉・  
 徐水・麴仙・松親・柳二・牡英・不草・可昇・傘雨・柳哉・  
 幻史・林鳥・龜遊・竹夫・仕候・素竹・山翠・于兄・青香・  
 其屋・其跡・(少年)柳枝・林梢・青山・里麦・月窓・李井・  
 四方寺・似月・逸瀝・卓郎・西馬・抱儀・萬古・丁知・為山・  
 得蕪・遲流・由誓」

一得・呉雪・五渡・雲裳女・迎祥・桃枝・

水溪・泉和・春里・嬌雨・保元・完車・茶交・伯兮・孝鳥・  
 某柳・市月・布川・呼友・貞松・歌窈・青藩・楚江・其友・  
 松阿・東雨・露仙・北亭・分水・桃臯・由貨・古鼎・素儂・  
 暉雄・溪齋・筆・ちから・備碩・逸登・李雄・光月・楚雀・  
 穴蟹・一得

二段組

※ 「寅臯月」

追善 全紙 遊阿 圭岳・臥春 精靈飾図 ○ アイウ 鷗波  
 一具佛・遊阿・良禮・分字・大費・西美・梅通・芹舎・公成・  
 有節・石外・鼎左・素屋・林曹・砺山・閑那・悠々・鳳棲・  
 清暇・烏谷・雀叟・而后・黄山・塞馬・蓬宇・漣山・立宇・  
 大夢・(エチゴ)乙良・茶山・鷺眠・(下毛)其翼・(ヒタチ)友甫・  
 鶴巢・(セウ内)雄僊・(秋巴)御風・(モガミ)二丘・綠峯・荈葉・  
 鼠堂・稻洲・雲山・清田・二兆・豊丘・水竹・(米沢)朶峯・  
 鳳兮・一艸・月山・可有・星播・もとか・子温・宗丘・鶯珞・  
 璫山・(岩城)木之・黙釣・荈帆・魯翁・左乙・肅之・省左・  
 巨龍・柴鳳・宝居・其詠・兔月・かしく女・竹馬・臥薜・如月・  
 (相馬)鬼風・(アヒツ)耕川・阜雄・(三春)柴山・夢庵・(雲水)  
 均外・玄子」・由誓・祖郷・等栽・松宜・庭理女・蓬交・萬古・  
 抱儀・逸瀝・氷壺・未足・為山・山子・得蕪・見外・荈月・  
 居山・卓郎・西馬・在爾・節之・普水・呉淇・瓦村・龜成・  
 探響・泰山・好甫・尋香・夷則・北松・臥春・太眠・(仙ダイ)



如雲・智幽・白水・宗古・塘水・一止・舍用・心阿・金波・  
 太灵・拳堂・風聲・三惠女・彫蟲・泉湛・樗頼・公木・五雲・  
 素雪・禾月・(シホガマ)任阿・具扉・魯由・竹圍・露滿・一松・  
 素江・仲月・楚石・樂女・甫月・吟路・江月・菊路・(雲水)  
 長山・(松シマ)由道・(石津)袋一・(吉岡)五葉・(大ガハラ)江三・  
 (ツキノキ)詠柳・(白石)加菊・李冠・雄節・呉陵・(ヤナ川)  
 八鶴・(ホハラ)有我」・(ホハラ)慎水・(山トダ)其堂・(タカゴ)  
 梅月・(コヨリ陣)楠斎・(スカ川)多代女・清民・春斎・愛山・  
 壯山・文起・一宜・(ニ木松)英泉・東里・夷菊・丁酉・(小バマ)  
 斗翫・于喬・柳依・草風・(川又)如扇・六槐・大洞・(タカユ)  
 洋々・(フクシマ)桑湖・真揃・可外・桑五・関口・守三・(セノ上)  
 朝好・(高ナシ)其牛・石羊・(サバコ)琴斎・歴山・貴文・瓦松・  
 太孿・春汀・且水・(ハン田)二瓢・無患・(フジ田)抱村・英天・  
 良黄・蓬阿・律太・季白・雨播・崑山・留女・菊女・巨龍・  
 杏因・一保・蘭水・菊泉・桃居・也明・仲二・負葉・田暁・  
 石丸・涼布・可孝・是阿・(大園主)良體・西美・分字・左吾・  
 大貫・遊阿

三段組

※ 「嘉永甲寅初秋」／一具追善

38

春興 半裁 岳鳳 画者未詳 春山図 ○ アウ ×  
 (東都)為山・詠久・(出羽)御風・(津軽)汎乎・(浪花)鼎左・  
 松隣・素屋・(洛)芹舎・祭魚・杜蓼・文海・梅通・露樵・秋香

39

女・(丹)湧灌・(江)松月・鶴雄・其玉・(河)梅塵・蝸室・(南都)  
 月染・(笠置)狐峰・其瓢・湖南・梅雫・梅崑・岳鳳 27 27

※ 「甲寅秋」

秋興 半裁 龜年 南涯 案山子図 ○ イエ ×

(京)芹舎・梅通・淡節・霞川・丈翠・月坡・有節・(大坂)鼎左・  
 松隣・白鷗・公眠・素屋・(江戸)逸渕・為山・得蕪・祖郷・  
 丁知・梅笠・月杵・尋香・卓郎・遅流・西馬・(サガミ)布丈・  
 (ムサシ)溪斎・天由・南々・(上毛)関市・(ムツ)多代女・清民・  
 如雲・舍用・(テハ)御風・吟風・璵山・(シナノ)葛古・(エチゴ)  
 乙良・茶山・(カヅ)柳壺・大夢・(イハミ)青池・(ヒゼン)悠々・  
 (イセ)五鈴・(アハヂ)其秀・白魴・(イヨ)菊圃女・棹舟・(トサ)  
 婦牛・(アハ)葉陽・文笠・大夢・羅邨・思村・蘿丈・草尺・  
 青枝女・梅道・順美・東阡・笋路・楚宮・天馬・木鳥・夷岳・  
 思遠・平蕪・石居・月古・雨蓼・逸松・たゞ女・崎邨・有隣・  
 蘿谷・騏郷・茶雷・宇雀・龜年 78 44

※ 「甲寅秋」

40

秋興 全紙 鼎左 秋亭 帰雁秋草図 ○ アイウ ×  
 蘭操・梅圃・倚松・節一・崑暁・香山・美崎・吾柳・理蘭・  
 子然・移石・秋亭・崑長・如竹・正一・半花・万頂・井竹女・



圓中・涼松・雨外・買山・春女・草居・月人・清機・芝耕・  
 楓可・秋岬・梅弟・兔雪・梅季・松月・花兄・紫光・其松・  
 北梅・杜鴻・梅榮・枝雀・庵女・橘子・流霞・松彦・岩雄・  
 蕉林・蘭月・月桂・草洲・里柳・松吟・文景・眉屋・木斎・  
 文賀・(秋田) 国彦・(オク) 多代女・(江ド) 先雪・等栽・得蕪・  
 (かふち) 不二門・(かふち) 左栗・(かふち) 龍川・(かふち) 桃水・  
 (かふち) 月洲・(かふち) 其乙・(かふち) 一表・(かふち) 松眉・  
 (さかひ) 此松・麥雨・鹿野女・其芳・米升・呂泉・(池田) 可春・  
 (伊丹) 菊雅・露竹・(茨木) 鼎居・(郡山) 花嘯・(郡山) 禾秋・  
 (郡山) 月耕・崑柳・(南都) 求鵝・洗我・(高野) 石雄・梅茶・  
 為栖・(紀州) 四勿・寿抱・(津山) 松人・東明・梅友・鶴寿・  
 花丈・鶯竹・臥梅・遊樂・(ハリマ) 淡香・悟一・鼎跡・(備前)  
 鼎処・石年・(小豆島) 香雨・(小豆島少年) 節水・(備后) 紅顔・  
 霞嶠・菊圍女・(廣島) 左夕・(石見) 青池・一池・梅日・雀洲・  
 一桃・鶯宿・白鷗・素屋・井資・眉山・可兆・梅蒼・梅雅・  
 挙一・鼎左

二段組

追善 全紙 弦山 画者不明 紅葉散らし図 ○アイウエ×

(故) 虚白・九鼎・弦山・梅通・瓢齋・公成・淡節・鳥谷・孤柳・  
 魚方・霞洲・黙池・雨翠・哥平・岳鳳・月坡・有節・笠界・  
 芹舎・風阿・昇々・雀叟・養瓜・古鏡・万像・友撫・且来・  
 砂月・乙介・化友・李曠・而后・素屋・蟻兄・鼎左・砺山・  
 一嘯・玉映・素口・月挙・米友・鳳尾・樹石・松眠・等友・

梅旭・蘭秀・九逸・李友・芹斎・龜笑・子珪・双鳧・虚栗・(僧)  
 霞谷・囿雪・幽泉・九岱・米南・楓山人・九梁・負薪・九鼎・  
 弦山

二段組

※ 虚白追善

冬興 全紙 薰堂 竹香 雪中閑居図 ○アイエ×

鼎左・瓢六・井資・可兆・眉年・荷村・不角・公眠・井龜・  
 梅左・辰斎・梅雅・梅蒼・鶯室・桃兮・眉山・素屋・鶯宿・  
 見齋・石叟・松室・挙一・蘭操・月人・梅圃・吾柳・崑長・  
 寄勝・涼松・香山・崑曉・舟左・乙祇・笠海・春智・草洲・  
 其十・常磐・桃門・万鳳・(イケダ) 可春・騎鶴・柳士・梅雪・  
 瓢窓・竹香・(イヨ) 奇仙・(アマ) 寝月・一三・苜盛・芦船・  
 稻處・豊水・古槐・梧岳・小窓・文昇・花笠・(在京) 老雲・  
 貞尼・寿女・三辰・淡水・橘丸・松彦・(石遊更) 洪石・羅光・  
 梅笑・杜鴻・五音・鶴歩・知風・蟻兄・(在坂) 月坡・黙池・  
 (雲水) 弘湖・蓬陽・一澄・眉鳳・素梅・草花・梅雄・赤至・舟々・  
 林居・可濟・湖松・一松・眉葉・眉園・眉屋・春陵・草弘・  
 桜園・龜涛・梅屋・荷水・梅花・荷竹・荷少・荷実・梅英・  
 梅朝・賀柳・一香・文亭・恕堂・(少年) 熊雄・岱齡・如笑・  
 珂雪・梅鳳・梅梢・苜好・一彦・洲吏・千代女・素袍女・潮水・  
 薰道

二段組

※ 「甲寅冬」

43 冬興 全紙 湧瀧 雙石 鷄・雪達磨図 ○ アイ×

芭蕉翁・寛隆・勢以子・松塙・(エド)為山・(エド)尋香・(デハ) 唼風・(イワミ) 青池・(京) 百可・(ナニハ) 素屋・(ナニハ) 杜鴻・  
(ナニハ) 松隣・(ツチタ) 臥雲・(ナヒカ) 吐六・(ナヒカ) 吞齋・  
(ナヒカ) 玉水・(中ムラ) 龜樂・(タナベ) 静柳・(タナベ) 花仙・  
(タナベ) 梅月・(タナベ) 宝翠・(タナベ) 明玉・(タナベ) 神樂・  
(ホロンシ) 養泉・(ホロンシ) 一琴・(ホツ) 龍眼・(ホツ) 魯雄・  
(ホロキ) 九一・(ヒカミ) 一如・(ヒカミ) 旭山・(ヒカミ) 柳風・  
鑿水・百工・光月・對石・其玉・梅處・王二丸・一藤・梅溪・  
一掘・草樂・霞仙・花溪・湧瀧・湧瀧 二段組

※ 「甲寅冬」

▼安政二年

44 歳旦 全紙 梅叟 峰斎華卿 萬歳図 ○ イ 山形藩以立堂

(京) 有節・淡節・公成・(大坂) 鼎左・松隣・素屋・(江戸) 為山・  
尋香・見外・水壺・梅笠・西馬・祖郷・(山形連) 金英・五瓢・  
五友・潮水・静山・流水・孝輔・梅窓・金紅・梅霞・旅風・  
雲山・(スカ川) 清民・(桑折) 遜阿・(仙ダイ) 禾月・舍用・湖立・  
一止・宗古・(ツキノ木) 民三・詠柳・(舟岡連) 寿喜・保義・東柳・  
玉詠・眉仙・私省・如柳・素蝶・柳斎・逸舟・(ワタリ) 左竹・  
(大ガハラ) 梅柳・水由・兼女・白水・里人・(角田連八十一翁)

武川・左圭・二翁・文好・左右・平寿・東潮・春里・蕾山・  
東英・古量・梅家・樸寿・松圃・風斎・梅月・蕉窓・松丘・  
和泉・宝三・湖隣・東可・南桂・江三・梅叟 二段組

※ 「乙卯孟春」

45 歳旦 全紙 白雪 素真 春雪水辺図 ○ アイウエ 鷗波

(ヒゼン) 悠々・(ヒウガ) 双鳥・(イヨ) 鶯居・(大坂) 鼎左・素屋・  
(京) 公成・有節・(ヲハリ) 而后・(ミカハ) 蓬宇・(サガミ) 薰岱・  
(オク) 舍用・如雲・清民・多代女・大素・(エチゴ) 鶯眠・茶山・  
(サド) 月洪・(上毛) 心足・米室・心星・半湖・(ムサシ) 南々・  
天由・得蕪・抱儀・氷壺・等栽・梅笠・竹烟・魯心・太年・  
□□・為山・冬映・紀逸・守一・六造・不黒・一夢・遅流・  
四端・萬古・貫乎・物外・呂兆・五雀・月杵・花明・雲斤・  
星林・鬼丸・素雄・少哉・孤南・ミもと・音好・雪簫・洒雄・  
白亥・ミき雄・均外・逸洵・西馬・(鞆園) 東圃・卜早・集雨・  
湖堂・静波・鷹伍・子徳・双鶴・鶯拙・兔柳・鯉角・直枝・  
黙牛・笠松・志知米・暢逸・三羊・季春・高せつ・欣之・吳綾・  
知節・かつら・風子・秀女・花乙・柳女・寿賀女・花船・千頭・  
千代女・仙寓・香以・仙庵・霞外・楓橋・巨柳・花童・勝之助・  
雪樹・雪路・花舟・白雪 二段組

※ 「安政乙卯春」

歳旦 全紙 禾月 圭岳 鞠・羽子板図 ○ イエ 以肅

(京) 公成・梅通・淡節・有節・(イセ) 水成・(ヲハリ) 而后・  
 (ナニハ) 素屋・松室・鼎左・(ビンゴ) 泰山・(エド) 由誓・為山・  
 西馬・祖郷・等栽・萬古・尋香・瓦村・山子・以肅・梅雅・  
 月杵・伴夢・露苔・美交・ミキ雄・みもと・北松・臥春・太眠・  
 (武引又) 亀成・鶴榮・(越ゴ) 乙良・鷺眠・清水・世挙・市猿・  
 有底・(下毛) 茂精・文窓・友松・(上毛) 潤布・桐鳴・景三・  
 (スカ川) 多代女・雨石・愛山・壯山・一宣・文起・清民・(杉田)  
 英泉・謹養・(二本マツ) 東里・(ラクシマ) 大費・分字・(高子)  
 梅月・(コヨリ) 遊阿・(ミハル) 紫山・旭山・井田・芳村・(アイツ)  
 布山・湖山・一得・琶岬・美山・(モガミ) 二丘・鼠堂・綠峰・  
 雅清・可保・窓古・蘆葉・豊丘・水竹・(秋田) 御風・唸風・  
 幽年・(半ザハ) 璪山・月山・朶峰・鳳兮・峯丸・舍用・心阿・  
 宗古・一止・杉芽・如雲・五雲・文人・素好・大灵・金波・  
 白兮・撫策・膽齋・泉溪・風聲・文雄・崑村・長洋・以幽・  
 二有・松可・柳美・芳水・崑吟・(雲水) 俗一・白亥・石芝・  
 萬雪・宗几・在夜・(渡波) 一府・(ヤモト) 柳江・(シホガマ) 菊路・  
 唸路・楚石・素江・松聲・湖月・甫月・(ヨシヲカ) 五葉・松我・  
 (今イキ) 松江・楓芽・(ツキタテ) 仙菜・(ワカヤナギ) 簾坡・  
 (サヌマ) 蘿月・卵啼・(水サハ) 一扇・虬山・桃洲・(ライノカハラ)  
 之桃・素蘭・(ヒガシヤマ) 蛙丁・(ケセン) 田成・楚流・(大ガハラ)  
 江三・(ツキヌキ) 路柳・(ナマダ) 松花・芽塙・(ツルシ) 梅成・  
 風止・素洲・梅隣・吳洋・梅香・楓館・湖立・等人・桑蝶・

巴水・梅弟・如笑・兆々・龜兄・梅仙・素年・曾丈・湖産・  
 圓角・春水・里松・雪水・山和・五哉・梧郎・梅窓・一龜・  
 如扇・布三・玉水・禾洋・漁邨・菊二・青木・市曉・吳陵・  
 いつミ・成風・甫三・通仙・彫霞・樗影・巾二・白水・道子・  
 琴女・汰手女・(モガミ) 周女・すま女・至清・三恵女・永女・  
 千賀女・禾山・禾月  
 三段組

※ 「乙卯孟春」

慶賀 全紙 文起 圭岳 正月往来図 ○ イエ 以肅

逸洌・為山・西馬・等栽・祖郷・梅笠・氷壺・少哉・ミもと・  
 四端・半湖・均外・萬古・山子・鳥吟・松亘・好甫・芽洲・  
 可簫・苜丸・吸月・完鷗・美交・不染・月杵・泰山・伴夢・  
 以肅・白亥・尋香・龜成・南々・寄三・竹山・桃郷・嵐牛・  
 而后・我竟・梅裡・醉雨・一清・應知・静嘉・櫓水・玄堂・  
 鳥律・李曠・雀叟・五鈴・砺山・芹舍・黙池・有節・公成・  
 月坡・淡節・玄子・霞川・梅通・素屋・松隣・稻處・松室・  
 鼎左・太乙・閑那・鷗池・万像・龜年・思遠・羅邨・大夢・  
 茶雷・(女) 菊圃・(齡八十) 悠々・霞梢・禾堂・絮泥・文旨・  
 大夢・慶里・崑年・桐鳴・景三・茂精・関市・其翼・友甫・  
 鶴巢・乙良・茶山・鷺眠・市猿・清水・御風・唸風・其仙・  
 撫泉・二丘・綠峯・水竹・朶峰・峯丸・新甫・璪山・舍用・(尼)  
 禾月・杉芽・宗古・如雲・(女) 禾山・一止・江山・遊阿・梅月・

大費・分字・六槐・児川・丁酉・菊也・英泉・里水・みね女・  
美山・布山・芳節・梅溪・佛孫・鳳毛・(齡八十) 多代女・雨石・  
静交・庚華・清甫・梅節・清倭・清舎・清宇・(十才) 清知・  
陽篤・清芝・春斎・愛山・一宣・清民・文起 二段組

※ 「安政二年龍集乙卯孟春」／文起五十五の慶賀

48 歳旦 全紙 芳草 是真 松葉・椀凶 ○ アイウエ 尚友

由誓・瓦村・為山・山子・宜稻・抱儀・卓郎・听抱・泰我・  
逸淵・西馬・波鷗・椿園・菊雄・氷壺・ちさ女・不染・得蕪・  
之啓・可簫・太年・梅笠・正遊・登路女・洗舟・眠蝶・菊丸・  
尋香・月杵・□□・二水・孤登・由之・平路・美交・祖郷・  
禾精・亘秀・袖丸・丈雨・ミもと・有静・梨黒・哥侍和・樹石・  
苜丸・護岳・貫采・芦水・孤堂・閑窓・岱水・卜早・柳雨・  
硯寿・欣志・千竹女・素訣・見外・等栽・盛洲・遅流・鳥吟・  
萬古・有節・梅通・芹舎・淡節・公成・(大坂) 林曹・□□・  
鼎左・素屋・(兵庫) 可大・(近江) 砺山・(フシミ) 岳鳳・(ヒゼン)  
悠々・(ヲハリ) 而后・醉雨・李曠・(キイ) 閑那・(トサ) 嵐夕・  
(日向) 双鳥・(カヅ) 大夢・(エチゴ) 乙良・茶山・(スルガ) 漣山・  
(三河) 蓬宇・(在甲府) 其則・(イヨ) 菊圃・(奥) 多代女・清民・  
樗影・梅月・如雲・一止・舎用・(出羽) 御風・吟風・(サガミ)  
榎堂・立守・(下毛) 和南・(下サ) 崑呼・十條・(ムサシ) 溪斎・  
花外・五渡・麦露・宗普・芳洲・魯心・靖路・十鷲・宗普・

真武・魯心・芳草・十鷲・靖路・真武・宗普・芳草・魯心・  
靖路・十鷲・真武・真武・圭顥・青松・呉雪・清泉・(少年)  
鞠史・直之・泰布・暁鷄・平礎・十鷲・靖路・宗普・魯心・  
芳草 三段組

※ 「乙卯春陽」／桜色刷毛目霞料紙

49 歳旦 全紙 太素 素真 貼扇面凶 ○ イウ 鷗波

公成・芹舎・有節・梅通・鼎左・素屋・松室・春松・醉雨・  
蓬宇・完伍・悠々・茶雷・龜年・羅邨・愛三・元史・婦牛・  
嵐夕・心足・半湖・心星・米室・竹山・寄三・天由・由誓・  
遅流・得蕪・抱儀・氷壺・祖郷・萬古・鳥吟・きく雄・等栽・  
見外・為山・梅笠・一夢・四端・月杵・巴雪・五雀・青柿・  
五休・花明・晚成・貫乎・洒雄・ミき雄・均外・西馬・逸淵・  
少哉・ミもと・白亥・謝葉・音好・尺齋・峰丸・鼠堂・如松・  
舎用・如雲・五雲・文人・ミ多女・樗影・江三・清民・多代女・  
愛山・壯山・斗翫・柳依・風草・左文・無庵・守三・大費・洋々・  
西美・山甫・其堂・六槐・萊史・六明・遊阿・有我・隅南・  
三柳・寛女・好文・三巴・梅鄰・梅尽・月村・松年・紫綱・  
千基・風待・愛山・慎水・枝道・梅月・太素 二段組

※ 「卯のとし」

歳旦 全紙 心足 是真 椿揃図 ○ イエ 鷗波

(京) 公成・梅通・有節・淡節・芹舎・(大坂) 鼎左・素屋・松室・  
 (ヒゼン) 悠々・少哉・(アハ) 鳳棲・穎甫・茶雷・(トサ) 嵐夕・  
 元史・(アフミ) 砺山・東逸・(ヲハリ) 醉雨・一清・(エチゴ) 乙良・  
 (ミカハ) 蓬宇・(エチゴ) ちから・茶山・驚眠・(シナノ) 葛古・  
 (オク) 舍用・如雲・樗影・大素・清民・多代女・(デハ) 御風・  
 唼風・(ヒタチ) 李郷女・(カヅサ) 由儀・(アハ) 椿山・(下ツケ)  
 其翼・桃仙・(エサシ) 南々・寄三・竹山・天由・遅流・為山・  
 萬古・抱儀・尋香・卓郎・きく雄・此園・鳥吟・氷壺・祖郷・  
 得蕪・潮堂・等栽・美城・由誓・一夢・四端・竹煙・巴雪・  
 貫乎・五休・音好・均外・慶寿・洒雄・月杵・白亥・木鳴・  
 弘湖・萱草・ミキ雄・五雀・梅笠・分尾・米室・心星・素城・  
 琴堂・一呂・一朗・可考・箝言・貞考・良斗・一志・柳下・  
 半湖」如儻・牧雄・玉渕・呑吹・雲和・一葦・入我・与茂崑・  
 龍甫・逸芙・兆水・鷄水・田居・晚人・東水・朴人・漁洲・  
 忠幸・祇水・和川・かつ良・月江・長水・祐石・篤山・知蔭・  
 無物・巴静・素雲・山介・東山・鳥外・崑玉・雨柳・小篔・  
 松琴・鳩居・(竹浪更) 古存・如柳・虛交・嘉雨・勇車・杏風・  
 松窓・壺産・松雨・竹貫・松風・松涛・風也・兔来・一貫・  
 一寿・一考・東嶺・正水・松室・巴光・泉女・鳥曉・福柳・  
 雲山・蛙水・松居・梅霏・有聲・指月・巴玉・斐渕・五清・  
 落水・井蛙・松翠・かね人・吟耕・白雨・竹雄・真芝・林遊・  
 松路・燕二・月遊・翠居・梅丸・木芝・五寅」逸渕・西馬・

心足

※ 「安政乙卯の春」

51

春興 全紙 逸渕 翠岳 雀餌付図 ○ アイウ 得斎

桂花女・遅流・又々・呉由・四端・渡江・五雀・(在江戸) 鶯居・  
 (ラク) 淡節・(ナニハ) 素屋・松室・(アハ) 鳳棲・思風・羅邨・  
 蘿彦・文笠・(トサ) 雲外・習竹・(イヨ) 菊圃女・(ヒゼン) 悠々・  
 (ハリマ) 月彦・(セツ) 一徳・(イセ) 東作・(カヒ) 竹底・  
 (サガミ) 薰岱・(エツ中) 慶里・(エチゴ) 乙良・(オク) 一止・  
 太素・清民・(ヒタチ) 李郷女・(下毛) 桃儻・(上毛) 分尾・一朗・  
 心足・可考・箝言・真葛・漁友・蛙城・一痴・栞堂・如儻・  
 米室・搬柴・半湖・(ムサシ) 南々・寄三・竹山」竹烟・為山・  
 得蕪・呉城・木鷲・木鳴・晚成・乙雄・星林・五休・一窓・  
 如柳・香以・稻彦・得水・無名・雪簫・鶯室・はんも・鳳菊・  
 桃人・魚道・白布・北生・慶寿・月杵・鬼丸・詠久・風子女・  
 南玉・英鳥・帆風・貫乎・ミキ雄・弘湖・萱草・洒雄・音好・  
 西馬・梅笠・逸渕

二段組

※ 「安政卯仲春」

52

春興 全紙 龜成 圭岳 羽根搔図 ○ アイ 鷗波

公成・有節・梅通・芹舎・鳥谷・黙池・淡節・鼎左・素屋・

可大・閑那・多代・遊阿・禾月・禾山・舍用・清民・愛山・  
 壯山・如雲・護民・松朗・□□・よし香・交水・霞雪・水竹・  
 羽人・竹烟・五渡・心足・抱舛・花外・完鷗・己有・乙良・  
 天由・左乙・完伍・花溪・柳壺・一立・竹月・茶雷・旭松・  
 一澄・静里・木之・友甫・由誓・逸洩・西馬・為山・祖郷・  
 卓郎・抱儀・見外・氷壺・萬古・等栽・梅笠・得蕪・魯心・  
 鳥吟・遲流・夷則・尋香・臥春・北松・不染・美由・苜月・  
 泰山・好甫・瓦村・□□・〔荷少〕・〔下早〕・かつら・山子・  
 一瓢・以簫・ミつる・蓮々・いろは・月杵・雛守女・ひさ守・  
 勇賀・一賀・水亭・夢中・柳波・房丸・松窓・一樹・半草・  
 石遊・米廳・文充・三橋・静雅・菊随・静月・雅月・清修・  
 梅霞・萬年・一琴女・雙龜・豆二・菊守・好酒・好民・俄遊・  
 有水・一井・竹堂・梅榮・柴藤・□□・□□・□原・陽眠・  
 遊鶯・其風・治郷・雪消・花眠・松光・松花・蝶真・崑悦・  
 梅枝女・龜明・蝶勢・寛崑・志英・瀧泉・千吟・律吹・青隣・  
 福龜・寿海・松山・耕月・瓢眠・正風・文涛・閑柳・無詮・  
 光哉・南甫・春道・菊丸・雨考・一心・生徳・心月・風月・  
 山祐・遊里・龜成

三段組

※ 「安政乙卯弥生」

春興 全紙 蘿丈 貫古 松下白馬図 ○ アイ ×

(京) 有節・梅通・淡節・公成・鳥谷・向月・霞川・月坡・也然・

碩水・芹舎・(大坂) 鼎左・松隣・公眠・松室・秦々・拳一・  
 素屋・(イセ) 雀叟・(ヲハリ) 而后・李曠・一清・醉雨・梅裡・  
 (ミカハ) 蓬宇・完伍・(トウツウミ) 杜水・(サガミ) 布丈・(江戸)  
 逸洩・西馬・祖郷・尋香・月杵・萬古・鳥吟・四端・山子・  
 五休・均外・竹煙・音好・ミき雄・良湖・梅笠・氷壺・為山・  
 (ムサシ) 溪齋・天由・(上毛) 半湖・米室・(デハ) 御風・吟風・  
 素山・(ムツ) 多代女・清民・一止・如雲・太素・樗影・舍用・  
 (ヒタチ) 李郷女・(シナノ) 葛古・(エチゴ) 乙良・茶山・(イハミ)  
 青池・(カヅ) 柳壺・大夢・(ヒウガ) 駝岳・双鳥・(ヒゼン) 悠々・  
 (アハヂ) 其秀・希鱗・鷗池・(イヨ) 鶯居・菊圃女・(トサ) 嵐夕・  
 元史・(アハ) 葉陽・楚宮・夷岳・北誕・思遠・大夢・平蕪・  
 龜年・左一・完湖・應可・草尺・月古・騏郷・東阡・木鳥・  
 羅邨・宇雀・崎邨・蘿谷・有隣・思村・茶雷・蘿丈 二段組

※ 「乙卯春」

春興 全紙 梅叟 島寅 稚児人形図 ○ イエ ×

芹舎・梅通・有節・崑水・素屋・潮水・碑山・半谷・而后・  
 素明・墨芳・為山・西馬・(元ヨシ) 閑谷・甫翠・(中居) 潤姿・  
 (元ヨシ) 寿石・(大ノ) 米山・(元ヨシ) 晴浦・(元ヨシ) 菊潭・  
 (元ヨシ) 掬水・枳葉・春水・敬齋・(元ヨシ) 湖春・(元ヨシ)  
 寿石・指溪・離角・(今ハマ) 玉父・(大ノ) 泰令・桐一・ミつ女・  
 千山・香山・葉薙・竹溪・葉薙・(石塚) 嵐枝・(元ヨシ) 望月・

翠水・寿石・(九ノ木)夕霞・半閑・杉居・柴角・悠夕・茶筵・西里・琪月・涼翠・(元ヨシ) 蔦翠・竹山・甫龍・(中居) 寄鼎・枳翠・(元ヨシ) 寿石・盧峰・子竹」・悠平・(元ヨシ) 簪坡・道好・春英・亀尾・季節・圓應・旭紫・梅叟 二段組

追善 全紙 舍用 三拙 釣鐘草・番鳩図 ○ アイ 鷗波

如雲居士・舍用・禾月・泉洪・五雲・文人・雨竹・亀尾女・

西馬・為山・遲流・鶴翁・抱儀・等栽・尋香・萬古・鳥吟・見外・月杵・白亥・ミキ雄・逸渕・(京) 有節・梅通・公成・芹舎・(大坂) 鼎左・素屋・松隣・(イセ) 雀叟・(ヒゼン) 悠々・(イガ) 養瓜・(イヨ) 鶯居・(阿ハ) 茶雷・(トサ) 元史・(ハリマ) 鼎跡・(アハチ) 鷗池・(アフミ) 砺山・(ヲハリ) 而后・醉雨・(ミカハ) 三岳・(上毛) 栞堂・米室・(ムサシ) 潮月・天由・淇齋・(エチゴ) 茶山・鷺眠・(ヒタチ) 李郷女・(米ザハ) 璫山・峰丸・(モガミ) 二丘・(岩キ) 黙釣・(スカ川) 多代女・清民・(アヒツ) 東海・峰女・(桑折) 遊阿・也明・(高子) 梅月・(ミハル) 紫山・(モリ岡) 南江・一僊・(金成) 露調・(若柳) 白知・盧坡・東樹・(石ツ) 米花・醉夢・静外・(チカル) 万雪・(矢本) 柳江・(ワクヤ) 魯因・(サヌマ) 卯啼・蘿月・(水サワ) 虬山・(三本木) 年明・(ツルシ) 梅成・(ワタリ) 左竹・芳鳩・(大ガハラ) 江三」・禾月・心阿・宗古・東谷・五雲・文人・南成・三無・豊李・吳春・好々・蔦山・由己・泉洪・風聲・春林・亀尾女・樗影・白水・巾二・長洋・智幽・彫蟲・市曉・甫山・柏葉・千賀女・湖産・青湖・

三惠女・松蘿・志方・禾山・一邦・城思・杉芽・一止・雨竹・舍用 二段組

※ 「乙卯の初夏」／如雲四十九日追善

歲旦 三裁 落橙舎 秋亭 太鼓橋図 ○ イエ ×

花屋庵・此花庵・(山戸) 深茂亭・東臯・和翠・小嶼・里蝶・(美作) 佳年・(イナバ) 路水・柏葉・(ヒゼン) 竹友・(イヨ) 秋郷・月人・香山・涼松・梅圃・一千・梅可都・梅相・梅園・可登・花笠・二鳳・杜園・巴水・路外・可松・(友古更) 花映・桃里・落橙舎 30 21

※ 「乙卯春」

歲旦 三裁 可兆 秋亭 住吉乗合舟図 ○ アウ ×  
素屋・井資・挙一・(天和) 小嶼・小剛・如水・二貝・可来・月江・多洲・子順・(針間) 羽白・(美作) 芳洲・(左海) 柳冬・梅青・梅山・秋亭・米山・羅光・吳布・小窓・佳弟・曾利・蘭好・有静・不知讀人・鶴雄・栖香女・可兆 28 19

※ 「乙卯春」

夏興 三裁 竹賀 秋亭 住吉御田神祭図 ○ イエ ×  
(京) 祭魚・(京) 芹舎・(なには) 素屋・(なには) 月人・(なには)



鼎左・(江下)雛鶴・(神西下沢)秋涯・(神西上岩)霞松・(ナニハ)撫山・(ナニハ)春月・(ナニハ)好雪・(ナニハ)白雅・(平福)曙来・(平福)採薇・(平福)竹賀 15 16

その他 全紙 有柳 鶴峰・筠斎・水寮・覺斎

四季卷子・梅・杜若・葛・山茶花図 ○ アイウエ ×

由誓・西馬・見外・遅流・萬古・氷壺・以肅・五休・五雪・白亥・祖郷・為山・素屋・其山・松隣・松室・祭魚・清民・多代女・蕪畔・其仙・味風・松操・恬斎・雪琴・可亭・月琴・花幽・松庭・一法・西桃・南好・仕候・鶴峰・有光・鳳泉・怡々・竹雄・月兔・柏斎・鳳尾・二葉・雪鮮・素山・御風・有柳・梅通・有節・淡節・黄山・而后・一清・五鈴・養瓜・一止・みもと・音好・天由・山子・等栽・溪斎・良和・幽雅・薰暁・蟻道・二友・鶴眠・南嶮・哥扇・嵐翠・葛峰・菊香・孤南・湖嵐・歩丈・柴園・風柯・花遊・其谷・可隆・雲涯・鶴眠・清奇・松陽・國彦・唸風・御風・有柳・卓郎・夷則・未足・魯心・雪簫・如雲・舍用・慶里・可大・太乙・砺山・立宇・雀叟・大夢・悠々・鼎左・公成・(行脚)少哉・(行脚)総南・雲岱・詠之・三長・風知・枳北・大古・月岡・京山・蘿月・里桃・梅窓・芝園・双木・松塙・可風・可山・梅可・柳東・其月・桃一・吳柳・蘭慶・蝶香・抱山・有交・洗耳・其友・清梧・月想・落城・御風・有柳・抱儀・逸瀨・尋香・四端・半湖・鳥吟・いさ吉・一瓢・関市・関那・万像・茶雷・菊圃・

李曠・禾月・乙良・茶山・文海・芹舎・(行脚)月之・桐古・如春・可慎・醉月・秋峩・一江・枕石・竹之・鶴園・憐魚・文好・素文・二山・湖涯・竹庭・龜既・茶暁・鶴遠・随流・泉翁・而南・幽年・桃園・琴臺・(花考改)節之・河曉・露光・北臥・雪貢・撫泉・御風・有柳 四段組

※ 春・夏・秋・冬四季仕立

歳旦 全紙 冬秀 筠斎 松ヶ枝短冊・文台懷紙図 ○ アイウ 尚友

御風・雪鮮・唸風・二葉・雪貢・良和・其仙・雪岱・北臥・路之・化鵬・落城・素山・冬秀・□□・梅霞・梅南【以上短冊】・雪貢・二葉・唸風・良和・路之・雲岱・雪鮮・落城・撫泉・御風・冬秀・松塙・梅南・梅霞・素山・化鵬【以上懷紙】・梅通・有節・公成・淡節・鼎左・蟻兄・松室・白鷗・松隣・素屋・関那・茶雷・菊圃・悠々・李曠・梅裡・一清・醉雨・而后・丹嶺・柳壺・大夢・乙良・孤舟・茶山・多代女・清民・禾月・一止・舍用・崑年・立宇・溪斎・由誓・逸瀨・得蕪・等栽・氷壺・祖郷・卓郎・見外・音好・孤南・謝笠・美交・きく雄・鳥吟・完鷗・瓦村・波鷗・拙誠・尋香・萬古・抱儀・西馬・遅流・波静・泰我・太年・山子・三幹・為山・蟻道・月岡・茶暁・春岱・月兔・醉月・有雪・百南・桃斎・梅和・樂山・芦舟・花幽・如泉・□園・□我・有柳・大古・撫泉・梅南・

梅霞・松塙・冬秀

三段組

※ 「安政乙卯春日」

61 秋興 全紙 秋裁 画者不明 祭日図 ○ アイ ×

由誓・西馬・抱儀・見外・萬古・氷壺・龍守・苜丸・荷少・未足・瓦村・不染・以肅・波静・山子・尋香・鳥吟・閑那・等栽・祖郷・遅流・逸澗・溪斎・為山・梅通・芹舎・有節・公成・淡節・忝隣・素屋・鼎左・黄山・而后・李曠・丹嶺・大夢・萬像・茶雷・思風・菊圃・悠々・立宇・砺山・乙良・茶山・如雲・舍用・清民・多代女・(行脚)少哉・素山・雪貢・如春・雲岱・薰暎・洗耳・如翠・蟻道・詠之・月岡・抱山・枳北・河暎・大古・良和・花考・鳳尾・唵風・撫泉・御風・雪鮮・無心・有柳・竹之・祝月・應山・梅霞・井賀・可隆・月兔・和祐・梅南・文蝶・怡々・落城・覃々・有交・芝園・碧水・蒼江・左松・半明・華郭・鳳吹・月仙・桃正・桃雨・湖柳・梅雫・桃月・湖旭・桃夢・一庵・玉之・柳間・翠丈・静悟・枝香・旭峯・左孝・夏風・松雪・桃庭・耕々・可山・如柳・静柳・其友・鶴園・春岱・茶暎・秋峩 二段組

62 慶賀 全紙 愛山 松巖 四季耕作図 ○ イエ 以肅

素屋・遊河・夷菊・一止・舍用・淡節・丁酉・乙良・(七十九)悠々・尋香・白亥・逸澗・為山・西馬・山子・以肅・児川・

63 慶賀 四裁 愛山 勉翠 春景図 ○ イエ ×

而后・一清・我竟・醉雨・五峯・芝船・半嶺・梅裡・多代女・

二丘・抱儀・溪斎・梅笠・等栽・祖郷・氷壺・未足・萬古・鳥吟・大年・完鷗・美交・いさ元・可簫・蓬更・不染・吸月・泰山・月杵・さはめ・北松・(春器更)良湖・ミをと・均外・半湖・龜成・桃郷・南々・寄三・烏谷・而后・我竟・梅裡・醉雨・一清・応知・櫓水・李曠・烏律・雀叟・五鈴・砺山・蘆逸・琴賀・芹舎・黙池・有節・公成・月坡・霞川・玄子・梅通・鼎左・松隣・松室・太乙・鷗池・閑那・万像・愛三・龜年・思遠・大夢・茶雷・菊圃・絮泥・霞梢・禾堂・交水・春年・友甫・鶴榮・烏谷・五竹・其翼・荒城・桐鳴・関市・茂精・大夢・慶里・茶山・清水・鷺眠・御風・唵風・其仙・撫泉・峯丸・水竹・礫山・(尼)禾月・塘水・如雲・(女)禾山・江三・梅月・大費・分字・六槐・春耕・東里・菊也・英泉・甫山・阜雄・里水・布山・梅溪・佛緑・□花・鳳毛・守志・(七十九)多代女・雨石・静史・庚華・清甫・一帟・梅扇・緒孝・龜國・(梅年更)梅念・帰篤・清芝・芳谷・清倭・清里・清宇・清竹・清舎・祥芝・(九才)清知・春斎・一宣・文起・清民・壯山・愛山 156 175

※ 「嘉永七甲寅季秋」／二枚分横長／愛山新居の賀／肉筆画 62、63は嘉永七年

清民・白亥・以肅・尋香・春齋・文起・一宣・帰篤・清芝・  
壯山・愛山 20 29

※ 愛山新居の賀／肉筆画／62、63は嘉永七年

64 歳旦 全紙 圭布 高雅 齒固図 ○ アイ ×

(ラク) 有節・鳥谷・芹舎・淡節・鳥岳・梅通・月坡・公成・  
(セツ) 蟻兄・不角・鼎左・松隣・白鷗・林曹・素屋・(エド)  
未足・得蕪・逸澗・為山・由誓・祖郷・見外・西馬・梅笠・  
抱儀・溪齋・(ムツ) 舍用・(エチゴ) 茶山・(カヒ) 雲里・(エン州)  
路人・玄禮・(ミカハ) 令雅・梅谷・塞馬・竹甫・桃居・蓬宇・  
奇山・徳鳧・梢霞・(ヲハリ) 鵬居・而后・一桃・春松・一清・  
(イセ) 蕪雨・(アフミ) 蛎山・蕪雨・(ヒダ) 白鷹・(ヒゼン) 悠々・  
(ミカハ) 武陵・其楽・朶六・梅月・青芝・司玉・義玄・  
(シナノ) 無角・道生・如水・快眠・以未古・穆学・一静・雲底・  
吾三・如猿・雪岡・芳山・勝山・龍湖・蘭臺・松郭・源林・  
是堂・鳳雅・元堂・我蝶・葛山・芝文・莛寿・龜腰・其蕉・  
疎頭・扇哥・静月・李齋・文佐・以文・時習・真橘・玉糸・  
木風・如鳳・竹枝・楚雀・士墨・石雅・也素女・仙馬・峯逸・  
霞柳・長柳・醉露・幸女・武及・微醉・以楽・仙峯・いと女・  
重郷・(峯松更) 五柳・羅月・こと女・王圭・茂方・呼舟・  
まつ女・木甫・梧芳・東一・月對・芦雪・梅山・里梅・梅一・  
一狐・芳古・可木・圭布・武及・武及・圭布・圭布・武及・

武及・圭布・圭布

65 春興 全紙 孤南 圭岳 河岸花見図 ○ イエ 鷗波

(セツ) 鼎左・林曹・素屋・可大・(イセ) 只青・蕪雨・尔豊・  
移菜・如裡・(キ) 露舟・芳翠・(アフミ) 九起・蕪雨・(カミ)  
卓丈・(フト) 鳳兮・(エチゴ) 大経・(デハ) 蕪畔・唼風・(オク)  
多代女・梅月・(アキ) 甘古・芳笠・程崑・(ハ、キ) 愛山・蕪石・  
成峨・景太・(ヲハリ) 而后・春松・一清・玄至・錦水・(ミカハ)  
蓬宇・波文・完伍・(エン) 嵐牛・杜水・(スルガ) 漣山・保道・  
(上毛) 関市・(下毛) 和南・茂精・一峰・友松・雪山・文窓・(京)  
梅通・芹舎・公成・淡節・鳥谷・文海・漁藻・虚真・仙蘭・  
蒼雪・里玉・鳥岳・有節・□□□□□□□□□□□□□□□□□□  
徳隣・聞蕉・鶯室・芳所・瓠樽・花亭・八百善・木仙・清可・  
看雲・謝笠・未精・祖郷・瓦村・卜早・かつら・龜汀・雨兮・  
探響・古む良・帟遊・鶯居・氷壺・龜得・祐之・無貢・(ムサシ)  
文種・文呈(下フサ) 曾玩・萬古・平路・鳥吟・菊雄・見外・  
呉由・一雅・花朝女・舜雅・一瓢・思楽・(在エド) 鳩崑・  
(サガミ) 鳩松・(セツ) 梅圃・等栽・荷少・龍守・芦月・古春・  
等葉・等岐・居山・香以・(ムサシ) 勇賀・一賀・(セツ) 一清・  
桃舎・(ツガル) 童妓・(松前) 己節・逸澗・由誓・為山・(七十七)  
遅流・山子・泰我・(下フサ) 崑年・交水・(ムサシ) □□□□□□  
(サガミ) 布丈・□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□  
琴堂・心星・(オク) 如雲・舍用・桃人・慶専・五休・不染・

波鷗・(ムサシ)天由・竹山・五渡・龜成・松夫・卓郎・嵯泉・  
得蕪・吳城・春二・雪年・雪哉・少哉・半湖・洒雄・由也・  
雪簫・之啓・ミキ雄・其良・音好・茶瓢・萱草・如泉・潮堂・  
均外・三幹・(下フサ)如升・(ムサシ)其擔・大齡・波平・(少年)  
梅恭・心月・魏文・半月・其猿・連言・崑雪・梅市・笙波・  
白魚・唐土・琴月・宇笠・苜曆・梅笠・孤南 二段組

※ 「安政卯の春」

追善 全紙 絡石 是真 月・紫陽花図 ○ アイウ 鷗波

雨柳居士・絡石・護岳・花遊・松賀・幻外・卓郎・叩月・抱儀・  
鳥吟・逸瀨・西馬・萬古・波鷗・未足・茶瓢・為山・尋香・  
溪齋・大鵬・不染・羽雪・祖郷・苜麻呂・得蕪・遲流・梅笠・  
吳城・露谷・佳夕・等栽・冰壺・閑那・魯心・護岳・淳了・(京)  
梅通・有節・(坂)鼎左・素屋・(紀)閑那・(江)砺山・(尾)而后・  
月底・(三)波文・蓬宇・(信)萬古・硯水・(奥)多代女・清民・  
(松前)旭・(羽)御風・二丘・(加)大夢・柳壺・(越)乙良・  
茶山・(雲水)弄化・崑川・護物・護岳・絡石・花遊・東長・  
亘速・文今・梅雅・(相)立宇・(房)谷水・(上サ)鵲堂・柳枝・  
(下サ)田喬・(常)龍玉・(武)溪齋・逸瀨・為山・抱儀・(古)  
幻外・西馬・等栽・梅笠・大鵬・萬丈・魯心・苜麻呂・鳥吟・  
羽雪・尋香・少太・茶瓢・波鷗・不染・叩月・雨兆・吳城・  
佳夕・未足・冰壺・祖郷・遲流・得蕪・露谷・卓郎・一貴・

小蝶・東長・(村)風・梅郎・湖月・風子・秋鳥・山柳・一美・  
一花・漁遊・米秋・大瓢・梅雅・亘速・古兮・悠志・兎夕・  
薄雪・野草・其友・尚宣・風尾・淳了・松賀・護岳・花遊・  
絡石 三段組

※ 「安政乙卯年」／雨柳居士遠方忌

慶賀 全紙 多代女 圭岳 芭蕉句碑田植図 ○ ウエ 以肅  
為山・少哉・ミもと・迎山・逸瀨・逸瀨・為山・西馬・祖郷・  
等栽・萬古・魯心・山子・鳥吟・白亥・ミもと・可簫・俳禪・  
好甫・以肅・尋香・溪齋・南々・寄三・桃郷・李郷女・交水・  
半湖・和南・桐鳴・嵐牛・蓬宇・而后・我竟・梅裡・一清・  
李曠・醉雨・雀叟・五鈴・砺山・梅通・默池・公成・淡節・  
石外・祭魚・月坡・東樵・玄子・碩水・露川・芹舎・岳鳳・  
湧瀧・素屋・松隣・松室・鼎左・曲阜・閑那・默池・萬像・  
龜年・羅邨・大夢・思風・茶雷・(女)菊圃・泰山・青池・宇逸・  
駝岳・双鳥・少哉・悠々・大夢・慶里・素明・茶山・乙良・  
璫山・新甫・二丘・水竹・自厚・御風・唸風・二葉・撫泉・  
大古・雲涯・素山・卓堂・舍用・(尼)禾月・一止・樗影・(女)  
禾山・浪兮女・遊河・梅月・児川・丁酉・英泉・里水・布三・  
鳳毛・春齋・静史・愛山・壯山・文起・一宣・雨石・霞石・  
忠之・丁遊・一之・梅霞・ミつ良・時考・春路・東明・清民・  
晴霞多代 三段組

※ 多代女発句前書に「安政二乙卯五月」とある／多代女八十

自賀

68 夏興 全紙 御風 筠斎 干晒図 ○ イ 尚友

由誓・遅流・亀舂・瓦村・四端・完鷗・尋香・逸瀕・見外・  
萬古・きく雄・音好・芳艸・魯心・西馬・祖郷・半湖・みもと・  
以肅・五休・雪簫・等栽・冰壺・月杵・太年・山子・鳥吟・  
抱叔・為山・梅通・芹舎・淡節・公成・有節・鼎左・松隣・  
月人・□□・大夢・丹嶺・柳壺・而后・李曠・一清・春松・  
芝船・其岳・醉雨・烏律・乙良・ちから・茶山・舍用・宗古・  
如雲・樗影・一止・禾月・多代女・文起・愛山・蒼山・清民・  
茶雷・羅邦・蘿丈・鳳棲・溪斎・花外・桃郷・南々・寄三・  
天由・可大・岳鳳・砺山・心足・曾玩・湧瀧・五鈴・露牛・  
閑那・□□・□□・(雲水)少哉・海了・月之・桐古・(在坂)  
國彦・其仙・幽年・月岡・雪聲・文明・珊々・青雅・扇車・  
月仙・莊夢・太年・玉傍・柳月・蘭臺・樂山・傘落・風知・  
可然・涼花・文蜂・其風・其文・花頂・祐明・琴臺・露光・  
藤谷・雪琴・薰曉・北臥・素英・雪鮮・撫露・□和・蟻□・  
河曉・怡々・素玄・覃々・桃曉・應泉・松山・仙雫・梅窓・  
鳳尾・樗風・玉泉・歩丈・里桃・雪彦・淇月・迎風・龜江・  
蕉下・玉岡・二耕・柯亭・其石・如流・東洲・太嶺・枳北・  
抱山・とわめ・有雪・雲岱・藪城・喙風・詠之・幽雅・可慎・  
雲涯・素山・御風・御風・御風・御風

三段組

※ 「安政乙卯のとし晩夏」

69 追善 全紙 竹扨 箕山 焼香・沙羅図 ○ アイ ×

(故人松園) 轡三・(ナニハ) 素屋・(ツガ) 酒仙・(ツガ) 汲霞・  
(ソシキ) 一滑・(ツガ) 梅歩・(大エ) 一興・(上川ト) 宣和・後柳・  
(タツ) 一十・(ハツミ) 竹山・(エノツ) 雀洲・(ヲダ) 梅雪・  
(ハツミ) 雨竹・(井ハラ) 冠山・(大エ) 獨語・(カミムラ) 松園・  
(ソシキ) 鳶尾・露井・竹扨・(ハツミ) 悠水・(ハラ) 魚躍・  
(ヤカミ) 蚊声・(二山) 左雲・(ヲダ) 美泉・(トノムラ) 白丁・  
(イン原) 風笠・(ビンゴ) 月好・(矢上) 菊雄・志玉・(アコフ)  
一溪・(ワタツ) 一桃・(大エ) 文寅・花庭・(イツハ) 物未・(イダ)  
素白・(ユノツ) 井魚・(ハラ) 笑虎・(大ハヤシ) 風蝶・(フク原)  
古泉・(大エ) 岩鼓・(雲松) 一志・(トノムラ) 青雨・(ハラ) 清月・  
(ハツミ) 芳谷・(ナガラ) 左琴・(イシリ) 壽舟・(イハラ) 露石・  
(タクノ) 磯月・(フクミナ) 水柳・(太タ) 紫雲・(大エ) 桃溪・  
池月・梅荷・(ヤ上) 露堂・(ソシキ) 鑑石・(ヤ上) 僕々・(ソシキ)  
送石・(ソシキ) 雲梯・(イダ) 雪香・梅朗・(ヲダ) 繪簡・(ミヤコ)  
如水・(大エ) 素山・卓居・(タクボ) 如恣・(イダ) 柳坡・(ソシキ)  
舞溪・(ツガ) 吐花・(アクミツ) 詞耕・(ハツミ) 思溪・(川ト) 素ト・  
(ヤ上) 研露・(ナガラ) 一声・(太タ) 素光・(フクミツ) 石丈・  
(上川ト) 廉水・(南ザキ) 高山・(住コウ) 朝三・(タイ) 鷗村・  
(クロマツ) 松月・(上ムラ) 米女・(フク光) 又左・(クロマツ) 魚水・  
(大エ) 灯山・(南サキ) 花隣・(吉ナカ) 松風・(ミヤ内) 鳩巢・

(ヒタイ)一簣・(ヤ上)一甫・(中ムラ)鳳鳴・(中ムラ)酒泉・  
青雨・(川下)花峰・(住コフ)甘棠・(南ザキ)盛山・竹扨

三段組

※ 「乙卯夏」

70

慶賀 全紙 松朗 英齋 参詣図 ○ アイ ×

天来・井左・瓢六・水月・大年・梅左・井資・素屋・万利・  
有山・有年・寿扇・可兆・青山・春宥・荷村・鶯室・不角・  
梅蒼・白賀・松月・梅岳・公眠・梅雅・子雀・井龜・月人・  
舟左・辰齋・笠洲・鶯宿・五音<sub>景</sub>・知風・松彦・路松・柳美・  
一英・茂雄・珂雪・岱齡・杜鴻・其雪・梧岳・古槐・机英・  
几昇・豊水・菊操・雨外・草居・梅圃・香山・吾柳・涼松・  
美崎・崑曉・万頂・移石・梅弟・井竹女・鶴歩・五朗・月澄・  
成蹊・とら尾・高麗女・白雀女<sub>一</sub>・一千・風帟・小窓・淇石・  
有屋・春門・桃翠・梅朗・梅枝・梅曆・艸弘・梅宥・梅英・  
梅朝・梅蒼・梅弄・桃雅・霞松<sub>一本</sub>・有英・平一・馬洲・  
桴水・雪撫・里水・為遊丈・松洞<sub>双年</sub>・一考<sub>侘雪</sub>・春陵・  
八猿・華丸・松岳・我楽・楚遊・賀柳<sub>ラク</sub>・芹舎<sub>ラク</sub>・  
霞川・松朗

二段組

※ 松朗継号自祝／71と一対

71

慶賀 全紙 松朗 英齋 松図 単(墨) ウ ×

蟻兄・潮水・挙一・其月・方石・草洲・石叟<sub>(在坂)</sub>・蓬陽・  
祇白・珉朝・五葉・桃門<sub>其遊</sub>・大物<sub>佳水</sub>・有鳳<sub>梅霽</sub>・  
文昇<sub>一澄</sub>・箕柳<sub>蝶雲</sub>・桃溪<sub>怒堂</sub>・松居<sub>卜隣</sub>・(京)瓢齋<sub>(京)</sub>・  
其翠<sub>山朝</sub>・柳后<sub>桃下</sub>・柳意<sub>房女</sub>・黙郎<sub>惠影</sub>・凍洞<sub>似水</sub>・  
六和<sub>錦水</sub>・可尚<sub>梅巖</sub>・綾中<sub>草之</sub>・蕪雀<sub>梅敬</sub>・  
楓城<sub>奇鼎</sub>・春翠<sub>自足</sub>・楚雀<sub>蒼雪</sub>・佳寿<sub>禾明</sub>・黙池<sub>烏谷</sub>・  
(サガ)丈翠<sub>(アカシ)</sub>・柿玉<sub>(アハチ)</sub>・静眠<sub>(伯州)</sub>・楓千<sub>(イナバ)</sub>・  
霞洋<sub>(カハチ)</sub>・孤杉<sub>里花</sub>・(サカ本)蔵六<sub>楽浪</sub>・  
柳湖<sub>(ヨド)</sub>・友之<sub>(ナラ)</sub>・月染<sub>(ラシミ)</sub>・碑山<sub>(サカヒ)</sub>・拾種<sub>(サカヒ)</sub>・  
此松<sub>(サカヒ)</sub>・此方<sub>(ナダ)</sub>・錦子<sub>里証</sub>・松月<sub>兎原</sub>・  
閑々<sub>栞水</sub>・九瓜<sub>子猷</sub>・蘆江<sub>桜哉</sub>・時人<sub>青良</sub>・英之<sub>魚児</sub>・  
向堂<sub>万鳳</sub>・草雄<sub>一松</sub>・瓜月<sub>麟跡</sub>・篁月<sub>鴨汀</sub>・  
鯉尺<sub>千万女</sub>・紙賣<sub>草月</sub>・其朴<sub>静光</sub>・其刀<sub>朱雀</sub>・米老<sub>春翠</sub>・  
几草<sub>霞松</sub>・碧中<sub>一知</sub>・左公<sub>有村</sub>・醉月<sub>梅主</sub>・  
臥六<sub>善久</sub>・錦素<sub>一羽</sub>・龜年<sub>連梅</sub>・花童<sub>竹堂</sub>・春好<sub>松雫</sub>・  
梅窓<sub>湖風</sub>・丹柯<sub>可丈</sub>・乙三<sub>梁女</sub>・羽逸<sub>鼎左</sub>・  
松朗

二段組

※ 松朗継号自祝／70と一対

72

その他 全紙 丈翠 玉園 嵯峨硯図 ○ イ ×

(撰津)鼎左・素屋・杜鴻・知風・可蕉<sub>其涛</sub>・梅圃<sub>月人</sub>・

松室・鶯宿・公眠・豊水・梧岳・古槐・碧中・てる女・石叟・  
 蟻兄・糖人・岳明・孝月・似蘭・曲阜・(キイ)閑那・(サカイ)  
 休叟・此松・其逸・此方・(アキ)藍橋・(ハリマ)古谷・(イヨ)  
 鶯居・(アハ)鳳棲・思風・茶雷・(ヒゼン)悠々・(イガ)養瓜・  
 (イセ)如榿・東佐・(ヤマト)可撫・蛙切・洗我・(近江)芋丈・  
 砺山・(京)有節・梅通・芹舎・淡節・祭魚・禾明・篤明・詣繼・  
 湖嶺・仙菓・升悉・公成・月坡・烏谷・桃乙・可真・來峰・  
 禾口・里冬・鳥岳・文海・兔髯・麦香・大味・雨軒・湖雀・  
 白狸・八尾女・梅車・呂角・竹陰・(サガ)春亭・崑山・如月・  
 花明・芳池・野有・芳水・(タンバ)有秋・鑿水・(ワカサ)岩月・  
 (越ゼン)布珀・(ヲハリ)土前・李曠・梅裡・而后・(江戸)  
 桂花女・夫雪・渡江・遲流・見外・竹烟・(俗中更)貫乎・萬古・  
 西馬・梅笠・(ムサシ)竹山・(上毛)分尾・龍甫・半湖・(下毛)  
 桃仙・真笑・貫河・(ヒタチ)李郷女・(サガミ)立宇・素外・  
 (カヒ)可轉・登岐波・雲里・(シナス)迎祥・三都里・雪簑・  
 左波・月外・(越后)茶山・鷺眠・(デハ)御風・(オク)舍用・  
 如雲・(ノト)笑囿・稻波・鳳兮・(越中)草嶽・怨兮・慶里・  
 桐栽・(カミ)晴郊・大夢・(遊歴)音好・奇泉・芦十・均外・尼々・  
 蕙道・洒雄・故崖・(洛)文翠・(東都)逸澗・弘湖 二段組

※ 「安政二乙卯晩夏」／弘湖送別

73 夏興 半裁 鯉勢 南涯 卯花垣・遊鷄囿 ○ イエ ×

(京)有節・梅通・公成・淡節・月坡・也然・向月・烏谷・碩水・  
 芹舎・(大坂)鼎左・松隣・藜々・松室・素屋・(イセ)雀叟・  
 五鈴・(ミカハ)蓬宇・完伍・(江戸)逸澗・為山・見外・萬古・  
 月杵・ミキ雄・鳥吟・尋香・西馬・(ムサシ)溪齋・天由・(上毛)  
 分尾・半湖・(デハ)御風・唼風・(オク)多代女・清民・一止・  
 舍用・(エチゴ)茶山・乙良・(ヒゼン)悠々・(ヒウガ)駝岳・(アキ)  
 甘古・(イヨ)菊圃女・(アハヂ)其秀・鷗池・(アハ)葉陽・万快・  
 梧泉・松年・楚宮・夷岳・思遠・平蕪・龜年・月古・大耳・  
 逸松・三詞・玉壺・騎千・嘉幸・三徑・梅雪・稚居・蘿谷・  
 梅道・松霞・青枝女・筭路・北誕・木鳥・天馬・嵐石・雨蓼・  
 たゝ女・崎邨・野風・田花・應可・鶯峰・桃志・蘿丈・梧井・  
 宇雀・完湖・草尺・思村・石居・羅邨・東阡・順美・騏郷・  
 左郊・大夢・茶雷・有隣・鯉勢

※ 「乙卯夏」

98 50

74 秋興 半裁 應可 南涯 秋七草囿 ○ イエ ×

(京)有節・梅通・公成・淡節・月坡・烏谷・碩水・黙池・芹舎・  
 (大坂)鼎左・松隣・藜々・松室・挙一・素屋・(イセ)雀叟・  
 五鈴・(ヲハリ)李曠・一清・醉雨・梅裡・(ミカハ)蓬宇・(エド)  
 逸澗・為山・祖郷・月杵・萬古・鳥吟・ミキ雄・梅笠・尋香・  
 西馬・(ムサシ)溪齋・(上毛)半湖・(ヒタチ)李郷女・(デハ)御風・

素山・唸風・(オク)多代女・清民・愛山・舍用・(エチゴ)乙良・  
 (カド)大夢・(ヒウガ)駝岳・(ヒゼン)悠々・(イヨ)菊圃女・  
 (アハヂ)其秀・鷗池・(アハ)葉陽・松年・左一・北誕・羅邨・  
 月古・草尺・完湖・蘿丈・三徑・思村・鯉勢・崎邨・蘿谷・  
 逸松・梧井・有隣・桃志・鶯里・梅雪・青枝女・騎千・芝山・  
 龜年・平蕪・騏郷・夷岳・五栄・楚宮・大夢・思遠・左郊・  
 玉壺・梅道・嘉幸・松霞・三崎・大耳・嵐石・田花・雨蓼・  
 椎居・宇雀・多々女・順美・東阡・天馬・筭路・石居・木鳥・  
 茶雷・野風・應可

100 52

※ 「乙卯秋」

秋興 全紙 等裁 可庵 出漁図 ○ イ 抱節子

(近江) 砺山・月拳・(京) 芹舎・梅通・文海・公成・醒花・(摂津)  
 一徳・帟尺・曲阜・白鷗・松隣・春人・杜鴻・祇白・鼎左・  
 桃年・五音・知風・松室・一東・(在江戸) 五柳・素屋・可大・  
 月人・(尾張) 李曠・醉雨・月底・其岳・梅裡・而后・(ハリマ)  
 鼎跡・(キイ) 閑那・(肥前) 悠々・(伊勢) 五鈴・(達江) 烏谷・  
 杜水・(三河) 完伍・三岳・(サガミ) 立宇・布丈・(上毛) 心足・  
 関市・(カツサ) 未成・霞雪・富年・(エツ中) 慶里・□□・□□・  
 □□・□□・□□・素□・玄子・三幹・無外・新甫・茶瓢・  
 北松・ミキ雄・草雨・精器・孤南・青介・ミち雄・月之・春湖・  
 白亥・香文・一枝・(安房) 椿山・あや雄・(出羽) 有柳・雪員・

(在江戸) 撫泉・桂儼・介二・御風・唸風・柳眉・自厚・雪堂・  
 藻鏡・五徳・文想・朶峰・二丘・秋峨・(在大坂) 國彦・素山・  
 (陸奥) 一宣・春斎・壯山・多代女・舍用・禾月・五雲・樗影・  
 宗古・一止・清民・文起」松圃・布三・梅二・登山・打掌・  
 芝風・梅成・白水・梅月・遊阿・(下総) 栗堂・松林・崑年・  
 成雨・(越後) 習静・茶山・鷺眠・清水・夕照・菅池・帰風・  
 市猿・乙良・孤舟・文勝・尤儀・(下毛) 和南・茂精・(武蔵)  
 友輔・完鷗・龜成・其徳・遊里・水亭・抱叔・柯柳・弄花・  
 東女・重晴・花外・竹山・涼花・□□・□□・□□・□□・  
 □考・以肅・松佳・きく雄・素鱗・美各・範成・由之・未足・  
 東洲・帰一・魯心・探響・泰山・橋水・不染・樹石・梅笠・  
 竹烟・此負・如泉・充・麗巢・瓦村・五休・卜早・(在箱館)  
 山方・逸洌・旬正・祖郷・獲岳・月杵・文昇・鶯室・草仙・然々・  
 米山・好甫・可簫・墨芳・漣々・由誓・徳隣・普水・伴夢・  
 拙誠・春召・龜遊・氷壺・波鷗・桂山・海了・木鳴」成守女・  
 萬□・□□・□□・□□・□□・□□・□□・□□・□□・  
 □□・□□・□□・□□・□□・□□・□石・見外・榮晁・美交・  
 而平・香□・雨兮・梅□・紫藤・等岐・花朝女・叩月・山子・  
 芳洲・龜汀・西馬・鳥吟・禾山・荷少・芦月・松宜・木鶯・  
 惊父・為山・抱儀・龍守・苜磨・居山・崑雄・等葉・末一・  
 一來・武松・淇石・雪簫・松齡・儼湖・一賀・勇賀・等裁

※ 「安政乙卯初秋」

三段組





78 秋興 全紙 鼎左 秋亭 月下郭公図 ○ アイ ×

雨外・買山・北梅・杜鴻・梅亭・庵女・松彦・蕉林・蘭月・  
茂雄・素梅・映居・霞江・奇勝・桃后・春女・井竹女・隣草・  
吾草・鬼笑・(花曉改) 花郷・紫光・卜隣・芦郷・荷橋・松吟・  
文賀・(清友社) 草居・蘭操・梅弟・清機・梅榮・兔雪・其雪・  
秋暎・(花市社) 節一・崑曉・香山・美崎・吾柳・了然・移石・  
秋亭・関守・梅居・天圓・圓中・涼松・梅圃・(京) 有節・烏谷・  
月耕・文海・(江戸) 得蕪・西馬・見外・荷少・等栽・(下サ)  
由儀・(秋田在坂) 国彦・(但馬) 梅塙・雨岡・(池田) 可春・(西宮)  
崑久雄・(御影) 一徳・(兵庫) 其隣・似蘭・右汐・(阿波) 茶雷・  
蘿丈・北誕・草尺・應可・(淡路) 鷗池・(小豆島) 秋起・(いよ)  
棹舟・(宇和島) 鼎池・(ハリマ) 鼎跡・竹賀・足雄・悟一・(美作)  
耕雨・鶴寿・遊樂・三池・三宥・無名・東明・(備前) 鼎処・  
登帆・(備后) 紅顔・(石見) 青池・(さかひ) 麦雨・鹿野女・其芳・  
(若山) 寿抱・南溪・(南山) 石雄・(郡山) 花嘯・禾秋・(河内)  
左栗・桃水・月洲・崑久良・三枝・如子・一表・鶯宿・素屋・  
松隣・可兆・不角・公眠・舟左・月人・草洲・(さかひ) 此松・  
(在坂) 蓬陽・(左々改) 成基・挙一・鼎左 二段組

※ 「乙卯仲秋」

79 慶賀 全紙 挙一 松児 秋興図 ○ アイ ×

素屋・鶯室・月人・梅弟・崑曉・其昇・賀柳・其月・鶴歩・

(イケダ) 可春・井竹女・蘭操・寿抱・鶯宿・可兆・不角・舟左・  
笠洲・松室・杜鴻・井資・小窓・文昇・眉屋・桃門・其遊・  
眉山・梅亭・花楽・花雪・桂之・梅居・月梢・鷺洲・梅雪・  
梅春・柳哥・秀歌・松児・方石・梅英・路松・松朗・米老・  
几草・有邨・可丈・蟻兄・古槐・豊水・石叟・公眠・(京) 芹舎・  
(京) 公成・(京) 梅通・(江戸) 丁知・瓦邨・完鷗・東洲・得蕪・  
(三河) 蓬宇・(イガ) 養瓜・(越中) 恕兮・(アカシ) 柿玉・(石見)  
梅日・(石見) 青池・(カハチ) 左栗・月洲・崑久良・桃水・(大和)  
花嘯・禾秋・月耕・鼎左・香山・梅圃・吾柳・涼松・美崎・  
天圓・関守・節一・万頂・秋亭・移石・了然・挙一 二段組

※ 「乙卯秋」／辰一庵(新庵)落成祝

80 秋興 全紙 月人 鼎左 秋亭合作 月・四十雀図 ○

アイウエ ×  
鶯宿・白鷗・素屋・松隣・蟻兄・可兆・公眠・眉山・不角・  
挙一・舟左・笠洲・草洲・起雪・瓢六・(清友社) 蘭操・梅弟・  
其雪・兔雪・梅榮・秋暎・(花市社) 崑曉・香山・美崎・吾柳・  
涼松・了然・移石・節一・焮亭・関守・梅居・天圓・井竹女・  
梅圃・有節・芹舎・文海・烏谷・(秋田) 國彦・(若山) 寿抱・  
(河内) 左栗・桃水・月洲・(郡山) 花嘯・禾秋・月耕・(左海)  
鹿野女・其芳・(池田) 可春・(播磨) 竹賀・(伊豫) 棹舟・(石見)  
青池・北梅・杜鴻・梅亭・庵女・松彦・茂稚・奇勝・花曉・

鬼笑・卜隣・文賀・竹洲・(成隣社) 雨外・買山・草居・春女・清機・隣草・素流・春耕・素月・柴月・芹郷・吾草・鼎左・月人・月人 二段組

※ 「安政乙卯仲秋」

81 秋興 全紙 此方 鷗汀 珊瑚樹盆石図 ○ ウエ ×

此角・此虬・松居・溪風・此逸・霞白・一器・瓜郷・風丈・可醒・呂泉・素江・鼓腹・眉松・寿重女・寿て女・千寿女・霞山・五鈴・芹舎・文海・祭魚・鼎左・素屋・眉山・不角・月人・挙一・杜鴻・舟左・笠洲・松朗・草洲・瓢六・鶯宿・此松・舎笠・休叟・麦雨・其石・梅旭・静浦・米升・其芳・翠山・霞水・梅友・木山・徐風・寄梅・龜遊女・竹雌女・竹影女・鹿野女・柳吾・英二・五葉・石山・梅曉・素逸・静魚・一甫・竹窓・竹風・芦光・竹人・松亭・史梅・一方・五明・晴方・葦左・芹江・此方 二段組

82 冬興 全紙 湧瀧 東南 洗場図 ○ エ ×

芭蕉翁・(エド) 為山・(イハミ) 青池・(ナニハ) 鼎左・(ナニハ) 素屋・(ナニハ) 杜鴻・(ナニハ) 月人・(ナニハ) 松隣・(京) 芹舎・(京) 霞川・(京) 淡節・(タナベ) 静柳・(タナベ) 神楽・(タナベ) 保右・(タナベ) 山水・(タナベ) 畠守・(タナベ) 精神室・(タナベ) 一興・(タナベ) 草樹庵・(タナベ) 亭月・(タナベ) 瀬筏・(タナベ)

岡松・(タナベ) 芝遊・(タナベ) 月雲・(ヒカミ) 真澄・(ヒカミ) 我水・(ヒカミ) 花眠・(寺ムラ) 愚佛・(寺ムラ) 椿交・(寺ムラ) 竹遊・(ホヲキ) 九一・(ホヲキ) 一箕・(犬カンノ) 瓢堂・(ツチダ) 臥雲・(ナヒカ) 吐六・(ホヅ) 柴山・(ホヅ) 龍眠・(ホヅ) 魯雄・(シノムラ) 霞童・翠月・一藤・百工・對石・一掘・其玉・龍井・思樂・埤柳・一瓢・梅處・(庵裡) 花溪・湧瀧 二段組

83 秋興 半裁 方石 清暉 栗図 ○ イ ×

鼎左・瓢六・井資・眉年・舟左・笠洲・不角・鶯室・眉山・素屋・鶯宿・豐水・得所・巽儼・有隣・石叟・梧岳・古槐・松谷・杜鴻・路松・小窓・梅圃・三正・寿月・松岳・梅守・挙一・潮水・松朗・蓬陽・公眠・**蟻兄**・方石・梅英・龜柳・朗光・小雛・其石・梅遊・幸光・蟻兄・芹舎・方石 43十両吟歌仙 67

※ 「乙卯仲秋」

84 冬興 三裁 五郎 英斎 萬歳図 ○ イエ ×

(京) 芹舎・霞洋・鼎左・可兆・素屋・眉年・松室・不角・公成・月人・笠洲・鶯宿・潮水・路松・民月・柳美・一英・珂雪・梅圃・硯露・杜鴻・挙一・五郎 23 22

※ 「乙卯仲秋」

▼安政三年

85 歳旦 小 蕉林 春星 梅・旭日図 ○ イエ ×

芝雪・翠江・如猿・鶴翠・素屋・(洛) 黙池・鶯宿・蕉林・蕉林

※ 「丙辰春」／縦六裁

9 7

86 歳旦 全紙 心足 草谷 擬宝珠・凧図 ○ アイ 鷗波

(京) 公成・月坡・(大坂) 素屋・鶯宿・(サツマ) 桃裁・(ヒゴ) 十席・(スハウ) 閑雲・(アキ) 菊年・駟駿・(イヨ) 鶯居・(トサ) 元史・古鳳・(アハ) 鳳棲・茶雷・竹斎・思遠・(キイ) 黍丘・(ヲハリ) 而后・醉雨・(ミカハ) 蓬宇・(サガミ) 薰岱・(ア房) 季民・(下フサ) 月杵・汎翠・美精・梅麻呂・仁里・旭斎・(オク) 清民・愛山・千喬・夢庵・老竹・遊阿・江三・琴賀・禾月・一止・舍用・(デハ) 御風・璣山・唸風・(エチゴ) 乙良・茶山・(シナノ) 天隱・圭布・(下毛) 桃仙・(ムサシ) 南々・寄三・天由・亀成・竹山・梅笠・為山・等栽・萬古・抱儀・北因・鳥吟・完鷗・一夢・四端・慶専・鳳華・汲古・得水・(雲水) 貫乎・音よし・芦城・蒼布・洒雄・白亥」つね女・浪兮女・六守・ミキ雄・分尾・一朗・笥言・琴堂・一呂・雲和・又我・呑吹・樗月・米室・心星・草専・柳水・一重・朝鳥・照来・梅女・松翠・梅曲・高山・窓月・美晴・龜遊・雨柳・三嶽・裳雲・

87 慶賀 全紙 二丘 胤呂 書初図 ○ イエ ×

落水・菟角・愛丸・東山・松室・水月・鳥曉・忠幸・専扇・正水・月遊・松枝・知蔭・玉淵・鶴朗・松窓・泉女・山介・雪致・吟耕・田居・一正・雪居・白留」鳩居・松風・翠居・生垣・鬼老・福柳・柳下・良斗・逸美・半湖・竹烟・兔来・一考・林遊・蛙水・鶴水・かね人・巴玉・巴静・一専・兆水・篤山・(晚人更) 冠里・梅丸・木黄・五通・逸瀨・西馬・心足

※ 「丙辰の春」

三段組

はせを翁・乙二・日人・一具・赤城・川丈・二丘・梅通・淡節・公成・芹舎・有節・鼎左・素屋・松隣・由誓・西馬・見外・氷壺・万古・等栽・尋香・泰山・溪斎・為山・一清・醉雨・梅裡・而后・□□・大夢・慶里・悠々・茶雷・(雲水) 白亥・ミキ雄・海了・白鷺・ふみを・音好・月之・陳良・江平・ミもと・蒼山・半湖・玄子・(オク) 晴霞・清民・愛山・壯山・文起・分宇・一宣・清倭・春斎・江三・英泉・梅月・丁酉・東里・遊阿・舍用・五雲・樗影・智幽・禾山・杉萃・宗古・禾月・(アヒツ) 半岱・阜雄・里水・峯女・(米ザハ) 璣山・清井・鶯珎・双竹・朶峯」鳳兮・(アラト) 峯丸・洗旨・たき雄・(小〔崎〕) 星橋・□□・(手ノヨ) ミちを・(アキ田) 御風・唸風・撫泉・二葉・蔭城・桃宇・梅之・(サカ田) 魯長・(本庄) 菊水子・素文・

文峩・蝸牛・木知・五窓・素幽・魯玉・若璞・一翠・夫木・  
 知遊・芝水・柳溪・尔水・芝暈・石嘯・(ヤチ)緑峯・(マサハ)  
 芦葉・(イナザハ)稲洲・(ヨシカハ)双甫・(サカエ)月悠・(大谷)  
 如松・(長サキ)岩月・野泉・(山ガタ)螢雪・(タテ林)蔦花・都静・  
 羽生・(ウルシ山)寿岳・弘斎・清風・丘村・月峯・水竹・清因・  
 豊丘・歩店・一羽・丘雨・雲外・崑右・可保・宗宮・蒼馬・  
 素虬・晩山・甫裁・二兆・閑淋・一止・(有無改)守蔭・季蔭・  
 二丘

※ 二丘傘寿の慶賀

三段組

歳旦 全紙 半夢 葭亭 福・天狗面図 ○ アイ ×

芹舎・梅通・淡節・公成・向月・烏谷・有節・鼎左・松隣・蓼々・  
 素屋・養瓜・五鈴・李曠・醉雨・逸洩・為山・萬古・鳥吟・  
 ミキ雄・尋香・西馬・月杵・半湖・乙良・茶山・御風・唸風・  
 多代女・清民・愛山・舍用・柳壺・大夢・悠々・駝岳・菊圃女・  
 棹舟・其秀・鷗池・松丈・葉陽・龜年・思遠・完湖・草尺・  
 石居・梧井・三徑・玉壺・鯉勢・素英・(思村更)蓬固・椎居・  
 鶯里・田花・桃志・廉堂・苔庇・野風・露丘・平蕪・一聲・  
 青枝女・嘉幸・月古・天馬・木鳥・羅村・楚宮・左郊・夷岳・  
 北誕・東阡・旗郷・應可・順美・雨蓼・逸松・騎千・嵐名・  
 たゝ女・梅雪・蘿谷・三崎・止丘・其猷・五榮・月江・竺魚・  
 正孝・芝山・崎邨・有隣・宇雀・(蘿丈更)蟻城・茶雷・蒼風・

(大夢更) 半夢

※ 「丙辰春」

歳旦 全紙 蓬固 南涯 福笑図 ○ イ ×

(京)有節・梅通・公成・淡節・月坡・向月・祭魚・文海・也然・  
 碩水・烏谷・芹舎・(大坂)鼎左・松隣・月人・蓼々・松室・  
 素屋・(ヤマト)司水・(イガ)養瓜・(イセ)雀叟・只青・五鈴・  
 (ヲハリ)而后・李曠・一清・其岳・醉雨・梅裡・(ミカハ)蓬宇・  
 完伍・(サガミ)布丈・(エド)逸洩・為山・祖郷・萬古・見外・  
 鳥吟・弘湖・ミキ雄・五休・尋香・西馬・(ムサシ)梅笠・奇三・  
 天由・(下フサ)月杵・(ヒタチ)李郷女・(上毛)竹烟・米室・心足・  
 半湖・(下毛)松堂・(エチゴ)乙良・茶山・鷺眠・(デハ)御風・  
 素山・唸風・撫泉・璫山・(ヲク)多代女・清民・愛山・文起・  
 樗影・一止・舍用・(イハミ)青池・宣禾・(カミ)柳壺・大夢・  
 (タンバ)湧瀧・(ヒゼン)悠々・(ヒウガ)駝岳・双鳥・(アキ)  
 甘古・(イヨ)鶯居・悼舟・菊甫女・(トサ)古鳳・元史・(アハヂ)  
 其秀・鷗池・(アハ)楚宮・木鳥・夷岳・思風・龜年・梧井・  
 青枝女・椎居・鶯里・雨蓼・たゝ女・逸松・月古・東阡・葉陽・  
 北誕・完湖・鯉勢・素英・玉壺・(苔庇更)橘外・蒼風・桃志・  
 田花・三徑・左郊・平蕪・其猷・廉堂・思遠・石居・野風・  
 竺魚・露丘・草尺・順美・半夢・左一・應可・旗郷・羅村・  
 有隣・崎邨・月江・嵐石・蘿谷・一聲・騎千・(蘿丈更)蟻城・

二段組

宇雀・止丘・五栄・三崎・正孝・芝山・嘉幸・梅雪・茶雷・  
(思村吏) 蓬固 二段組

※ 「丙辰春」

90 春興 全紙 馬足 岸岱 桜花・鈴図 ○ イ ×

(ヒゼン) 悠々・(エド) 為山・(エド) 西馬・(エド) 抱儀・(ヲハリ)  
梅裡・(ヲハリ) 李曠・(ヲハリ) 而后・(京) 梅通・(京) 赤甫・(京)  
黙池・(在京) 月撫・(サガ) 丈翠・(サガ) 芳水・(京) 芹舎・  
(ナニハ) 松隣・(ナニハ) 知風・(イタミ) 曲阜・(兵ゴ) 醒花・  
(ナニハ) 素屋・有秋・暁堂・浩齋・耕春・鑒水・椿室・(僧)  
吐六・(僧) 臥雲・(僧) 瓢堂・(僧) 如々・愚佛・椿更・瓢鯁・龜  
樂・魯雄・黛山・梅處・富山・花溪・龍井・(僧) おに丸・梅林・  
輪上・百工・對石・思樂・其玉・埴柳・帛杖・芦山・古蛙・  
一藤・九價・霞童・端溪・金花・翠月・馬足 二段組

※ 「安政三丙辰年」

91 春興 全紙 鼎左 長水良 木蓮・牡丹・桜三花図 ○ アイエ ×

鶯宿・素屋・井資・眉山・可兆・花虫・眉年・不角・辰齋・  
月人・草洲・挙一・雨外・買山・杜鴻・梅圃・松彦・梅亭・  
桃雨・奇勝・蕉林・翠鶯・松吟・眉屋・連水・立志・東雅・  
(清友社) 蘭操・梅鼎・草居・清機・梅栄・兔雪・其雪・秋亭・

秋唄・春女・井竹女・(花市社) 節一・崑曉・香山・美崎・吾柳・

移石・万頂・涼松・(阿波) 北誕・里勢・(羅丈改) 蟻城・(思村改)

蓬固・應可・騏郷・完湖・茶雷・(河内) 不二門・左栗・龍川・

桃水・月洲・崑久良・(郡山) 花嘯・(枚方) 奇翠・(さかひ) 兔白・  
其水・(若山) 寿抱・(南山) 石雄・(池田) 可春・(いたみ) 晚香・(灘)

青旭・其芳・畚居・(ハリマ) 鼎跡・悟一・桃古・竹賀・(津山)

東明・(福山) 紅顔・(上下) 泰山・(石見) 青池・一桃・井谷・

(小豆島) 霞山・(イヨ) 水哉・棹舟・(筑前) 由太・(日向) 双鳥・  
(ヲハリ) 醉雨・(ヲハリ) 古道・(江戸) 萬古・(米沢) 敷山・(秋田)

国彦・鼎左 二段組

※ 「安政三丙辰弥生」

92 夏興・秋興 全紙 靖路 圭岳 夕涼図 ○ イウ 抱節子

素屋・有節・芹舎・梅通・鼎左・松隣・砺山・而后・醉雨・悠々・  
可大・羅村・蟻城・騏郷・茶雷・李朗・月人・未足・乙良・  
茶山・斗玉・楓九・禾月・禾山・旭齋・淡節・鷺眠・石山・  
今成・祭魚・薰岱・知風・一清・文帶・鳥谷・九起・梅堂・  
花外・茶暁・五渡・月杵・守黒・占魅・一止・樗影・舍用・  
清民・多代女・素山・撫泉・唸風・御風・契史・由誓・抱儀・  
鳥吟・平路・祖郷・きく雄・波鷗・見外・芳所・不染・尋香・  
由之・泰我・卓郎・逸洌・為山・西馬・拙誠・古友・芦城・

歳旦 全紙 契史 是真 初釜図 ○ イ 抱節子

由誓・逸洩・為山・徳隣・不染・宗羽・波鷗・未精・尋香・拙誠・丁知・氷壺・見外・西馬・萬古・卓郎・等栽・得蕪・梅笠・魯心・美交・きハ女・山子・草仙・月杵・鳥吟・由之・完鷗・祖郷・抱儀・芹舎・梅通・有節・公成・淡節・素屋・林曹・松隣・鼎左・悠々・而后・李曠・鳥律・塞馬・蓬宇・鳳棲・茶雷・万像・婦牛・鶯居・雀叟・閑那・砺山・岳鳳・漣山・丹嶺・大夢・立宇・薰岱・雲里・溪齋・五渡・松圃・西山・梅圃・芹雅・土明・崑年・護心・凡知・桐只・順雨・五政・栞風・草圃・其翼・竹烟・琴堂・一朗・圭布・一之・角丸」雪頂・橘茶・其秋・迎祥・御風・唵風・觀瀾・多代女・禾月・一止・江三・清民・梅月・卓堂・舍用・可大・春湖・

※ 「安政丙辰初秋」

得蕪・花海・其則・等栽・苜丸・梅笠・俳禪・物外・北因・波青・閑窓・宣稻・秋美・汶路・富草・岱水・騏年・清水・狐登・二水・甘茶・一竹・静遊・硯寿・叩月・三正・欣志・慶寿・海了・山子・四端・狐堂・盛洲・太年・完鷗・ミもと・氷壺・萬古」魯心・靖路・貴邦・芳草・清路・魯心・芳草・貴邦・魯心・靖路・貴邦・芳草・清路・魯心・芳草・貴邦・魯心・靖路・貴邦・宗普・真武・圭顥・孚谷・素訣・(少年) 筌子・泰布・十鷲・芳草・魯心・靖路 三段組

夏興 全紙 關曹 真澄 桐図 ○ アイウ ×

芹舎・淡節・公成・鳥谷・有節・鼎左・松隣・素屋・雀叟・五鈴・只青・梅裡・醉雨・李曠・蓬宇・逸洩・西馬・尋香・萬古・鳥吟・ミキ雄・為山・天由・月杵・半湖・御風・素山・吟風・璫山・多代女・一止・清民・舍用・乙良・大夢・其秀・鷗池・菊圃女・棹舟・悠々」楚宮・左郊・木鳥・羅村・思遠・蟻城・月古・青枝女・草尺・有隣・三徑・蘿谷・田花・三崎・桃志・梅雪・竺魚・正孝・梧井・一聲・橘外・止丘・蒼風・月江・鶯里・嵐石・嘉幸・たゝ女・順美・天馬・石居・夷岳・東阡・平蕪・季風・雨蓼・松芳・露丘・崎邨・野風・騎千・玉壺・(五榮更)如蚰・廉堂・芝山・其猷・東雲・應可・鯉勢・蓬固・宇雀・逸松・青芽・騏郷・龜年・(完湖更)抱節・半夢・

※ 「安政丙辰春」

波同・乙良・鷺眠・素明・茶山・蝶友・積翠・美橘・花儀・其樂・霞采・寿泉・静泉・銀界・白鷺・月昇・應居・琴風・箕山・南石・花影・帰楓・常晴・棠里・北溟・如瓶・急陳・自碧・溪春・夕照・清水・習静・半橋・雪潮・雄飛・蓬宇・有底・市猿・禾乃女・濱女」未足・契史・契史・未足・未足・契史・史郷・未足・契史・史郷・未足・契史・(史郷)・未足・契史・史郷・未足・契史・(淇竹更)采可・(二貫更)知秋・(醉青更)史郷・未足・(麻三更)契史 三段組

北誕・茶雷・椎居・(素英改) 蘭曹

二段組

※ 「丙辰夏」

95 その他 全紙 龍女 秋亭 葉鷄頭凶 ○ アイ ×

(京) 梅通・太斗彦・月樵・紅影・一涛・東樹・久賀・奇泉・  
董子・柳水・南徳・(近) うつを・箕玉・(信) 未暁・仙翅・枕山・  
遊野・松涛・水音・(大坂) 鼎左・鶯宿・松隣・素屋・眉年・  
鶯室・不角・公眠・舟左・辰斎・笠洲・林曹・白鷗・江宇・  
挙一・蟻兄・五音・淡水・仙夢・梅栄・巨柳・杜鴻・豊水・  
石叟・(女) とらの・柳枝・梧岳・古槐・一來・五朗・梅圃・  
蘭操・兎雪・月人・香山・知風・翠江・草居・大賀・賀柳・  
梅雄・梅月・露朝・素堂・(池田) 可春・(木ノ部) 木居・其艶・  
(兵ゴ) 醒花・其隣・直堂・似蘭・寸松・可大・(糸海) 曲阜・  
梅陰・晚香・きく畦・太丈・古碩・老草・ちかく・栄女・駒女・  
よね女・古涼・松遊・木公・吳東・蘭斎・春照・六契・生鶴・  
仙友・橘水・紫鳳・清川・静子・醉處・芦月・素名・孝月・  
春人・棗陰・岳明・古樵・ぬか人・椅陰・龍女・蘆十 二段組

※ 蘆十送別

二段組

96 歳旦 全紙 見外 其融 懸想文賣凶 ○ イ 董仙

(京) 烏谷・有節・梅通・(浪華) 素屋・鼎左・五音・杜鴻・

(サカヒ) 葦老・(尾張) 醉雨・而后・二鷗・(三河) 蓬宇・完伍・  
(ミノ) 龜遊・(飛驒) 有美・(遠江) 杜水・(日向) 双鳥・(阿波)  
茶雷・(出雲) 百年・(イナバ) 柏葉・小軌・(エチゼン) 醉賀・(加賀)  
柳壺・成々・丹嶺・鳩崑・柯丈・如流・(能登) 花溪・(越中)  
慶里・怨兮・(越後) 斗玉・大栗・(テハ) 御風・唸風・竹雄・  
露山・有交・河暁・甫成・柳塘・介二・桂儂・(オク) 清民・  
多代女・梅月・松眠・五雲・俗女・楚石・柳志・任阿・(松前)  
旭・(ハコダテ) 徐蓬・路雄・其柳・(エサシ) 斯文・(ナンブ) 文河・  
(下毛) 五政・琴風・鹿城・(上毛) 心星・竹磨・景三・秀芽・  
一静・遊かり・嗽石・玉英・(シナノ) 寫月・野暁・竹□・清井・  
(ムサシ) 卜儂・徐水・栞玉・竹山・梅笠・一啜・龜成・光席・  
常磐・星峰・司角・三通・真寿・完鷗・(サガミ) 旭松・薰岱・  
(アハ) 木二・汀砂・椿山・(上サ) 睡鷗・一澄・吳由・卜早・  
□都良・□□・□波・梅村・四端・(在江戸) 撫泉・不染・萬古・  
為山・鳥吟・等栽・物外・旬正・音好・香以・ちさ丸・卓郎・  
西馬・祖郷・得蕪・氷壺・逸洌・泰我・抱儀・兎眠・六也・  
草雨・(在京) 芦十・花朝女・蓼々・黄水・甘茶・東岡・一嘯・  
一瓢・白外・ひさ守・露丸・花外女・一雅・草笠・見外

※ 「丙辰春」

二段組



97 春興 全紙 露山 徐風 舌切雀図 ○ イ ×

如風・徐風・露山・如風・徐風・露山・有節・公成・梅通・

鼎左・素屋・林曹・由誓・萬古・卓郎・為山・梅笠・氷壺・  
丁知・得蕪・等栽・抱儀・鳥吟・卜早・見外・祖郷・逸淵・  
砺山・悠々・而后・萬像・龜年・愛三・巴凌・乙良・鷺眠・  
市猿・器山・茶山・多代女・清民・遜阿・舍用・一止・心阿・  
宗古・禾月・梅二・精器・茶三・桂笛・峰女・東海」御風・  
素山・撫泉・二葉・幽年・唸風・雲涯・國彦・松欄・枕石・  
梅曙・知足・桜逸・朗山・鶯里・竹園・素風・風柯・味風・  
(雲水) 如風・徐風・露山 二段組

※ 「安政三丙辰の春」

98 秋興 全紙 月人 清暉 笹・鮎図 ○ イウエ ×

(大坂) 鼎左・鶯宿・素屋・挙一・雨外・買山・井竹女・春女・  
艸居・蘭操・梅鼎・兔雪・梅栄・其雪・清穢・花雪・花嘯・  
左栗・隣草・素流・春耕・江笠・龜洞・五草・素月・秋亭・  
妖唄・(京) 梅通・公成・淡節・也然・文海・烏谷・祭魚・黙池・  
文翠・狐南・烏岳・月耕・芹舎・(江戸) 逸淵・為山・抱儀・  
見外・西馬・祖郷・萬古・得蕪・由誓・(ヲハリ) 而后・梅裡・  
一清・醉雨・(アハ) 茶雷・(ハリマ) 鼎石・有節・月人・月人

※ 「丙辰之秋」

99 秋興 全紙 龜年 南涯 群雀図 ○ アイエ ×

(京) 芹舎・淡節・也然・有節・(大坂) 鼎左・知風・藜々・月人・  
素屋・(イセ) 五鈴・(ヲハリ) 梅裡・醉雨・一清・静嘉・我竟・  
(ミカハ) 蓬宇・完伍・(江戸) 西馬・萬古・尋香・徳斎・靖路・  
鳥吟・ミキ雄・為山・(下ウサ) 月杵・(ムツ) 多代女・清民・  
愛山・文起・一止・舍用・(デハ) 御風・素山・除風・露山・  
唸風・璫山・(エチゴ) 乙良・鷺眠・茶山・(タンバ) 湧瀧・(ヒゼン)  
悠々・(イヨ) 鶯居・棹舟・(トサ) 古鳳・(アハチ) 其秀・(アハ)  
葉陽・思風・月古・草尺・(月江更) 葛路・左郊・闌曹・露丘・  
北誕・楚宮・夷岳・嘉幸・梧井・正孝・三崎・石居・騎千・  
野風・廉堂・椎居・其猷・三徑・東雲・橋外・季風・鶯里・  
一聲・玉壺・たゝ女・青芽・逸松・蟻城・抱節・木鳥」羅村・  
思遠・騏郷・蓬固・松芳・蒼風・芝山・青枝女・止丘・葉夫・  
崎邨・雨蓼・梅雪・順美・嵐石・天馬・桃志・蘿谷・竺魚・  
有隣・平蕪・宇雀・鯉勢・應可・東阡・半夢・茶雷・如蚰・  
龜年 二段組

※ 「丙辰秋」

58 59

100 冬興 全紙 葛路 南涯 稻扱図 ○ アイエ ×

(京) 有節・芹舎・淡節・鳥谷・公成・梅通・(大坂) 鼎左・松隣・  
月人・蓼々・素屋・(イセ) 五鈴・(ヲハリ) 而后・醉雨・一清・  
李曠・梅裡・(ミカハ) 蓬宇・(江戸) 西馬・得蕪・尋香・見外・  
鳥吟・契史・芳草・白亥・萬古・為山・(ムサシ) 天由・(下フサ)  
月杵・由儀・(上毛) 心足・半湖・(ミチノク) 多代女・清民・一止・  
舍用・(デハ) 璫山・唼風・(エチゴ) 乙良・(カヅ) 大夢・(イハミ)  
青池・(アキ) 甘古・(ヒゼン) 悠々・(イヨ) 菊圃・棹舟・(トサ)  
元史・(アハチ) 其秀・鷗池・希鯨・(アハ) 葉陽・思風・左一・  
天馬・夷岳・鯉勢・梧井・青枝女・石居・有隣・鶯里・芝山・  
露丘・楚宮・左郊・羅村・宇雀・東阡・草尺・順美・雨蓼・  
野風・騎千・蘿谷・桃志・蒼風・竺魚・東雲・其猷・三崎・  
葉夫・闌曹・騏郷」・應可・蓬固・三徑・平蕪・たゞ女・不丈・  
東郊・正孝・椎居・嵐石・玉壺・梅雪・一聲・橘外・松芳・  
廉堂・嘉幸・北誕・半夢・木鳥・思遠・龜年・蟻城・月古・  
抱節・止丘・崎邨・青芽・(如蝸更) 甘史・逸松・茶雷・季風・  
葛路 二段組

※ 「丙辰冬」

101 冬興 全紙 正孝 南涯 馬市図 ○ アイエ ×

(京) 梅通・有節・淡節・芹舎・(大坂) 鼎左・素屋・(イセ) 雀叟・  
(ヲハリ) 梅裡・(ミカハ) 蓬宇・(江戸) 為山・萬古・尋香・鳥吟・

ミき雄・西馬・(ヲク) 多代女・清民・(デハ) 唼風・(エチゴ)  
乙良・(ヒゼン) 悠々・(アハ) 北誕・抱節・鯉勢・三徑・橘外・  
蒼風・(闌曹) 嵐艸・左郊・楚宮・天馬・龜年・草尺・逸松・  
思遠・梧井・露丘・椎居・東阡・月古・夷岳・木鳥・半夢・  
應可・青芽・葛路・季風・一聲・東雲・松芳・騏郷」・羅村・  
有隣・蘿谷・騎千・嵐石・三崎・崎邨・蟻城・宇雀・甘史・  
止丘・芝山・嘉幸・梅雪・蓬固・茶雷・正孝 二段組

※ 「丙辰冬」

102 その他 全紙 龜成 × | | 杏林忠敬

蓬萊堂口上・(京) 公成・梅通・芹舎・有節・淡節・鳥谷・默池・  
(大坂) 鼎左・素屋・林曹・白鷗・挙一・(奥) 多代女・朶月・  
御風・唼風・舍用・清民・遊阿・(江戸) 由誓・祖郷・逸渕・  
西馬・為山・見外・尋香・等栽・抱儀・萬古・冰壺・鳥吟・  
苜月・以嘯・夷則・遲流・卜早・泰山・ミつる・墨芳・不染・  
(紀伊) 閑那・(尾張) 而后・月底・(肥前) 悠々・(長崎) 一石・  
(松前) 旭・已有・(ハユダテ) 練蓬・(エサシ) 淇山・(ハリマ)  
可大・(阿波) 茶雷・(近江) 砺山・(三河) 蓬宇・(スルガ) 漣山・  
(サガミ) 立宇・布丈・(エチゴ) 乙良・茶山・鷺眠・(信の) 葛古・  
(カヒ) 竹良・可轉・(ヒタチ) 反甫・鶴巢・よし香・(下サ) 崑年・  
更水・(かゞ) 柳壺・(ムサシ) 梅笠・護民・南々・天由・淇齋・  
竹山・潮月・勇賀・五渡・完鷗・一笑・草補・青浦」・松夫・

梅嶺・月錢・(ムサシ)如繼・涼花・花外・水亭・馬六・鷄年・東雲・猿彦・きら久・半艸・三草・幸草・欠艸・徳草・栄艸・加草・田艸・嘉葉・井草・新方・岳艸・清草・梅艸・銀艸・藤詠・亭午・伊藤・芳山・獨樂・東空・茶好・青隣・柳□・霞逸・光帟・素栄・良長・春澄・一瓢・邊岡・新雄・松琴・昭需・北溟・昭哉・高成・奉志・暉松・島佐・昇山・萬室・随盛・一琴女・孔翁・梅栄・梅志・松林・萬年・晴旭・宝舟・農夫・和水・梅月・秋蝶・瀧月・三花・一蛙・弥生・梅晴・勝芳・常盤・月精・鳳仙・田交・掃石・五風・大車・さくめ」・杉月・林当・岳亭・磯石・龜遊・迹水・一石・清夢・里悅・文志・五峰・里發・荷月・交友・主山・岳鶴・玉志・禾孝・澄月・岳雪・貞松・梅旭・一棹・秀鳥・瓢眠・松窓・其閑・幽谷・とるり・舛鶴・耕月・遊春・夢覺・志美・寛岳・陽武・遊鶯・東静・山祐・寺甫・光越・遊里・満月・正風・凡雅・一心・無詮・生徳・半白・山香・寛水・鶴丈・壺三・福基・里代女・松二・三都丸・心月・千丈・文涛・雨考・新枝・長春・雲和・専海・(七十四叟)当丸・(奉主計又)錦上・龜成 三段組

※「安政三辰とし仲秋」／天満宮奉納掲額句／金箔散らし料紙

慶賀 全紙 詠柳 是真 孟・龜凶 ○ イ 玄魚

(京)公成・淡節・祭魚・有節・(大坂)鼎左・素屋・松隣・(江戸)為山・抱儀・得蕪・萬古・五休・龜遊・ミき雄・躬幹・白亥・

尋香・等栽・氷壺・見外・祖郷・卓郎・西馬・逸瀨・柳湖・(下毛)大義・(奥)多代女・清民・英泉・得知・杉泉・淡水・謹養・鶴仙・東里・菊也・丁酉・大費・分字・三友・一實・西美・(在フクシマ)琴賀・梅月・遜阿・一保・棲遲・(モガミ)金英・旭峰・中龍・江流・(仙臺)禾月・舍用・一止・宗古・杉芽・五雲・未寺・禾山・白水・智幽・文人・太灵・洞月・柳美・志方・湖産・雨葦・梅仙・文居・春林・春朝女・可大・成池・柏葉・樗影」・也有・(白石)雄節・呉陵・篁盧・文裡・伯柳・李冠・加菊・(大ガハラ)松居・白水・梅柳・水由・春山・蘆洲・東有・里人・高廩・一泉・江斎・三楫・かね女・(金ガセ)秋蘿・(角田)梅叟・文好・桃園・東可・左圭・二扇・素船・鏡明・白亭・桃鳩・既醉・(丸モリ)一本・たから・(舟オカ)一分・寿岳・保養・素葉・什兮・逸舟・眉仙・柳斎・柏州・如佛・有臺・(舟迫)舟正・(ツタリ)左竹・左洲・(岩沼)東海・淺江・藤翠・東雄・一巡・龜児・梅人・其白・南人・三齋・(矢ノ夕)柳志・松苔・柳廣・柳長・丁斎・柳泉」・(カサシマ)満止・峯女・(早マノ)俊月・烏夕・其節・(ホリ内)露白・梅古・鳩巢・(北ガ夕)露□・(□ンタ)李兮・梅園・雲遊・(熊ノ堂)松友・蘭久・(柳生)池雄・文藻・山露・(ユリ上)南嶺・蜀山・月峯・浦玄・知仙・浦遊・(ワタノ心)一府・(入マタ)松華・春岱・利尾女・山花・松月・南枝・雫山・畠中・坂要・(ハサカ)葉新・(八七)鳳臺・遠平・露柳・館屋・呂丁・翠松・太竹・(ツキノ木)鹿床・民三・玉撰・邦跡・名石・笑厚・律調・潮水・江三・

詠柳

三段組

※ 「安政三丙辰歳」／詠柳四十九の賀

追善 全紙 珉子 箕山 月・芭蕉図 ○ アイウ ×

呼亭居士・呼亭居士・呼亭居士・呼亭居士・(京)梅通・有節・  
 芹舎・公成・烏谷・文海・赤甫・鳥岳・(大坂)林曹・素屋・  
 石叟・(スマ)可大・(ヒゼン)布国・(アキ)甘古・(アハ)茶雷・  
 半夢・(イヨ)菊圃・(ヒゼン)悠々・(キイ)閑那・(ヤマト)蒼仙・  
 司水・(イセ)蕙雨・(近江)帆道・月峯・(ヲハリ)而后・李曠・  
 梅裡・一清・醉雨・玄堂・栖霞・櫓水・静嘉・春松・其岳・  
 芝船・(ミノ)路友・(サガミ)立宇・布丈・(エド)西馬・祖郷・  
 吳由・見外・完鷗・いさ吉・山子・友義・梅笠・俊造・為山・  
 (上毛)関市・(オク)多代女・禾月・樗影・清民・舍用・(出羽)  
 御風・素山・吟風・雪琴・河曉・葵風・有交・冬秀・松塙・  
 梅霞・梅南・可慎・雲涯・月岡・其仙・鶴園・露城・撫泉・  
 (越后)乙良・茶山・(越中)恕兮・都盤・蓼牙・(ノト)花溪・  
 鳳兮・(越前)觀朝・三巴・梅人・草坡・且来・小和・虫二・  
 仁哉・(ツルキ)芦船・(コマツ)不睡・(宮ノコシ)竹浦・(ツバタ)  
 鶯呼・(金ザハ)柳壺・晴江・江波・弥光・茶筵・悠平・大夢・  
 卓丈・呼亭居士・蜺洲・丹嶺・貝山・北園・成々・木圭・可道・  
 知宥・桃下・梅谷・東雅・梧井・加計・東陽・一蜂・蓬雨・  
 呂邦・何笠・珉子・豊収・仁哉・虫二・梅令・芝仙・里石・

※ 「丙辰の秋」／呼亭居士追善

可静・梅枝・李蹊・醉月・朝霞・温叟・雅游・松抱・桜里・  
 千艸・一琴・湖舟・梅道・里橋・輕利・推瀨・多豊・疎園・  
 花醉・泉逸・自澄・丈雲・布珀・執筆・丹嶺・布珀・梅枝・  
 何某・里石・梅令・朝霞・珉子 三段組

冬興 全紙 松頂 圭岳 肩叩図 ○ アイ 鷗波

(ヒゼン)悠々・寸長・止行・(日向)双鳥・駝岳・(石ミ)青池・  
 (ビンゴ)泰山・(ヒゼン)布国・(イヨ)菊圃・(トサ)古鳳・雲外・  
 嵐夕・婦牛・松堂・歩牛・(アハ)茶雷・蓬玉・羅村・蟻城・  
 半夢・草尺・龜年・(兵ゴ)醒花・(大坂)林曹・公眠・松隣・  
 挙一・月人・鼎左・素屋・玉骨・丈翠・雪簫・(京)公成・淡節・  
 祭魚・有節・梅通・(タンバ)湧瀧・馬足・(キイ)黍丘・(イセ)  
 五鈴・雀叟・(近江)麦吟・帆道・(オハリ)而后・一清・李曠・  
 二鷗・醉雨・月底・(三河)蓬宇・完伍・塞馬・(遠江)嵐牛・  
 杜水・漣山・(サガミ)布丈・白羽・薰岱・(房)あやを・(カツサ)  
 蒼白・(トサ)崑年・月杵・土明・(ヒタチ)義香・一撫・龜水・  
 松露・春曉・一島・佳青・双武・一口・雪水・(上毛)百丈・  
 (下毛)和南・錦袋・(日光)甘庵・(白川)撫泉・佛孫・多代女・  
 清民・文起・此山・一宣・東郊・一止・舍用・(南部)南江・  
 (ツガル)冬松・(松前)旭・(箱タテ)三千丸・徐蓬・(デハ)久栄・  
 撫泉・素山・吟風・竹雄・何曉・御風・(カヅ)丹嶺・大夢・

▼  
安政四年

悠平・之啓・霞翠・(ノト)有尾・(エチ前)布珀・(エツ中)怒兮・  
 (エチゴ)乙良・鷺眠・清水・葉居・孤舟・未足・(サド)左山・  
 □□・□□・市耕・一巢・曇什・(在府)赤圃・茗圃・蘆城・  
 峰女・三幹・曲川・(武)逸洌・溪齋・五渡・勇賀・蟻道・松夫・  
 月識・月雄・天由・尋香・梅司・宇山・角丸・木鷲・香以・  
 西馬・漣々・然々・草宇・龜齡女・蓬室・蘿齋・俳禪・竹芳・  
 一盃・岸景・頤扇・笑山・湖松・賀鶴・静鶴・苜丸・見外・  
 鶯所・五風・等栽・木葉・一德・苜月・太眠・祖郷・鳥吟・  
 きく雄・萬古・由誓・完鷗・瓦村・氷壺・卓郎・不染・由之・  
 水月・德隣・美交・鶯室・潮堂・(この間九句不明)・梅□・如□・  
 青□・可簫・泰我・山方・山子・為山・梅笠・久め女・乙彦・  
 吳城・羅命・菫松・魯松・二朝・梅梢・涼松・吐舌・史頂・  
 岸松・鼠松・龍松・霞松・吹松・松郷・魯水・雅松・雲鶴・  
 花月・我松・龜陽・頂翠・荷村・松柳・烏朝・頂笠・松頂・  
 松頂

三段組

## ※ 「丙辰冬」

春興 全紙 路松 雪操 直入 金城 松竹梅図 ○ アイ ×

林曹・祇白・仙夢・淡水・浪熟・停雲・五音・霞外・松室・  
 白鷗・蟻兄・貞寿尼・后叟・梧岳・豊水・古槐・立居・照子・

藤一・方石・公眠・潮水・珂雪・昇山・野童・桑葉・鶴歩・  
 可丈・丹柯・連梅・柳思・碧中・(雲水)野鶴・苜十・霞洋・  
 (サカヒ)此松・麦雨・拾稚・(河内)左栗・桃水・(イケダ)可春・  
 (アカシ)柿玉・(ナラ)月流・(イマ井)竹裡・(イヅモ)如杉・  
 (ヲノミチ)物外・(ヲハリ)而后・一清・梅裡・芹舎・瓢齋・  
 黙池・霞川・月耕・橙庵・碑山・桃下・楓千・文海・有節・  
 梅通」・鼎左・井資・辰齋・月人・其雪・梅采・梅鼎・小窓・  
 梅光・涼松・梅居・天寛・天圓・眉山・可兆・瓢六・鶯宿・  
 不角・梅雅・舟左・爐翠・蕉林・翠江・桃翠・知齡・五葉・  
 卜隣・素陶・笠洲・鶯室・負年・素屋・松隣・五朗・稻處・  
 知風・硯露・小虎・鉄樵・嘉木・曲汀・素梅・一起・芳亘・  
 柳美・兔尺・梅圃・杜鴻・挙一・路松

二段組

## ※ 「丁巳春」

歲旦 全紙 田麓 貴徳 梅花笥図 ○ アイウエ 竹窓

梅通・芹舎・祭魚・文海・拾山・黙池・文翠・公成・淡節・  
 有節・鼎左・鶯宿・松隣・月人・白鷗・素屋・帆道・麦吟・  
 岳鳳・醒花・可大・而后・李曠・梅裡・青鏡・竹圃・鳩采・  
 有秀・其岳・醉雨・一清・□□・舍用・清民・一止・樗影・  
 芽塙・愛山・文記・五雲・東郊・禾山・禾月・多代女・乙良・  
 契史・史郷・市猿・習静・宇雀・李朗・文帯・桑居・鷺眠・  
 未足・御風・唵風・素山・撫泉・双鳥・駝岳・悠々」・由誓・

瓦村・拙誠・苴丸・五休・菊雄・波鷗・不染・逸瀾・為山・  
 太年・山子・泰我・茗圃・香陽・白亥・ミき雄・香以・西馬・  
 □□・芳所・美交・鶯室・雪朗・葵州・雨邨・来夫・惟精・  
 良可・甘茶・由之・卓郎・大夢・柳壺・丹嶺・悠平・卓丈・  
 心足・五渡・月杵・勇賀・由儀・茶暁・雨興・一朗・薰岱・  
 棋堂・桃園・旭齋・花外・萬像・羅村・思遠・鯉勢・蓬園・  
 半夢・騏鄉・蟻城・茶雷」・萬古・斗玉・古友・清輝・平路・  
 祐之・龜禾・曾玩・氷壺・得蕪・吳城・留木・千竹女・盛州・  
 花海・鳥吟・見外・等栽・靖路・□□・□□・□□・□□・  
 □□・漣々・硯寿・松秀・俳禪・草宇・赤甫・立左・汶路・  
 閑窓・さやか女・梅子女・岱水・蘆城・祖郷・宗普・鞠史・  
 真武・ちよ女・一昇・草栖・如泉・孚谷・牡青・清泉・栄女・  
 晴甫・苔礎・十鷲・魯心・芳艸・田麓

三段組

※「巳之春」

春興 全紙 一瓢 圭岳 渡舟図 ○ アイウエ 鷗波

(京)梅通・芹舎・有節・赤甫・雪簫・文翠・淡節・公成・碩水・  
 黙池・(ナニハ)大年・鼎左・松隣・林曹・和来・五音・杜鴻・  
 素屋」・(セツ)醒花・曲阜・(ヤマト)可撫・(キイ)露舟・(イカ)  
 養瓜・(アハジ)帆道・(イセ)又甫・菊山・都崑雄・(ヲハリ)而后・  
 醉雨・(ミカハ)完伍・(トフクミ)嵐牛・杜水・(ミマサカ)耕雨・  
 (ヒゼン)布國・(ビツ中)淡亭・(アハ)茶雷・(アキ)甘古・(日向)

双鳥・(松前)旭・蕉霏・己有・(ハユダテ)北崖・徐蓬・(カド)  
 柳壺・(フト)鳳兮・(エチ前)布珀・醉賀」・(エチゴ)乙良・驚眠・  
 (デハ)御風・唸風・(オク)一止・五雲・徳二・(イワキ)木之・  
 (□□)〔我〕暁・□□・□□・□□・□□・□□・立宇・旭□・(上サ)  
 嘸鷗・一□・月杵・(在京)芦十・(ムサシ)花川・(ムサシ)五渡・  
 逸瀾」・由誓・抱儀・為山・得蕪・卓郎・氷壺・西馬・等栽・  
 祖郷・萬古・鳥吟・四端・いさよし・草笠・一雅・花朝女・  
 龜司・きく丈・思楽・ト早・かつら・知江・池草・巨磨彦・  
 芳艸・一昇・由之・甘茶・一嘯・石居・英由・時彦・見外・  
 一瓢 四段組

※「丁巳春」

春興 全紙 契史 梅流・如集 水辺梅柳図 アイウエ 未精

芹舎・有節・祭魚・淡節・梅通・鼎左・素屋・林曹・五鈴・  
 茶雷・悠々・而后・土前・李曠・帆道・塞馬・蓬宇・漣山・  
 立宇・薰岱・雪朗・大夢・抱儀・氷壺・得蕪・不染・叩月・  
 大古・祖郷・古笠・拙誠・波鷗・魯心・尋香・卓郎・為山・  
 等栽・鳥吟・雲唾・完鷗・田麓・見外・宇山・徳斎・苴丸・  
 由之・瓦村・西馬」・万古・松頂・山子・宗羽・以肅・吳城・  
 巴雪・靖路・墨芳・等柴・芳草・由誓・美交・徳隣・五休・  
 三光・喜来・只青・きハめ・芳所・鶯室・とも多・芋臺・永年・  
 未精・舍用・多代女・一止・江三・清民・梅月・一之・角丸・

春興 全紙 心足 真観 羽根青簾図 ○ アイ 鷗波

唸風・御風・義香・芹雅・士明・月杵・喜年・良可・青圃・  
五渡・竹山・溪齋」・栞堂・一朗・文窓・和南・学圃・其翼・  
聡長・荒城・一糸女・凡知・夢外・貫河・一亀・菊羽・頂雨・  
五政・栞風・桐只・市猿・禾乃女・雄飛・清水・桃李・偉文・  
ミちよ・有底・其東・小濱女・乙良・鷺眠・習静・花儀・花敬・  
史郷・百邨・帰楓・常晴・里松・美橘・茶山」・采女・菊女・  
宗女・蝶女・いち女・雷石・知秋・子穠・寿水・梅司・禾雲・  
致有・桂亘・士英・未足・未足・契史・契史・契史 四段組

※ 「丁巳のはる」／四段粹入り散らし料紙

(京)梅通・有節・淡節・赤圃・公成・(大坂)鼎左・素屋・松室・  
公眠・(アハ)款甫・茶雷・龜年・(ヒゼン)悠々・(トサ)嵐夕・  
元史・(アフミ)帆道・琴賀・東逸・(ヲハリ)而后・醉雨・(エチゴ)  
乙良・茶山・鷺眠・(ミカハ)蓬宇・完伍・(オク)舍用・清民・  
多代女・(デハ)御風・唸風・(ヒタチ)李郷女・(下ツフサ)月杵・  
その女・旭齋・(カツサ)由儀・(アハ)季民・(下毛)桃仙・未洋・  
(ムサシ)南々・寄山・竹山・天由・梅笠」・由誓・抱儀・為山・  
一夢・萬古・尋香・卓郎・四端・きく雄・北因・得水・鳥吟・  
氷壺・祖郷・得蕪・潮堂・鶯室・等栽・呉城・史山・角丸・  
貫乎・芦城・五休・五雀・明水・洒雄・弘潮・浪兮・白亥・  
ミき雄・逸瀨・西馬・竹烟・分尾・一朗・半湖・筧言・成室・

歳旦 全紙 珀雄 素真 新春書画幅図 ○ ア 得齋

心星・琴堂・一呂・簫田・良斗・雪居・かつみ・吞吹・雲和・  
入禾・一分・逸美」・(亡具)柳下・鳥曉・道雲・松翠・梅洲・  
六邦・逸湖・雨柳・祇水・交時・鬼老・斉鶴・朝鳥・村茂・  
文林・流洲・月遊・一可・貞考・草霞・蝶公・泉女・久澄・  
鳥曉・竹夷・斐瀨・仙遊・小篋・梅雫・小林齋・星河・東和・  
其俣・水月・曉山・巴光・一桂・鶴郎・玉瀨・花外・田居・  
風和・凌霄・貞居・穂涛・梅蔭・梅林・落水・應々・松風・  
東山・鶴水・兔来・移柳・篤山・嵯帛・林遊・蛙水・正水・  
巴玉・白雨・簾風・一考・巴静・五通・兆水・一寿・かね人・  
冠里・吟耕・梅丸・木芝・心足 三段組

※ 「丁巳春」

梅通・公成・有節・丈翠・赤甫・芹香・素屋・松室・悠々・亭々・  
茶雷・思遠・鶯居・而后・一清・醉雨・蓬宇・椿山・龜友・  
季民・木母・月杵・御風・唸風・水竹・緑峰・梅幹・朶峰・  
朶山・月山・舍用・五雲・文人・一宣・愛山・文起・壮山・  
清民・多代女」・心足・一朗・筧言・雀水・木芝・古存・米室・  
半湖・竹烟・逸瀨・竹山・南々・寄三・浪兮・洒雄・梅笠・  
為山・抱儀・等栽・得蕪・萬古・四端・鳥吟・物外・五休・  
龜遊・香以・雪栲・賀好・明水・梅彦・佳雄・處山・□風・  
北生・吞舛・光雄・ミき雄・弘湖・故厓・**貫乎・一窓・桃野**・

五雀・剩古・珀雄・如柳・一鐘・雪柳・布明・兎友・執筆・  
西馬・貫乎・五雀・剩古・桃野・如柳・一恵・一鐘・布明・  
兎友・雪柳・珀雄

二段組

※ 「安政丁巳春」

春興 全紙 得蕪 是真鷄・鳩・啄餌図 ○ イエ 抱節子

(ヲハリ) 而后・李曠・一清・(京) 有節・公成・漁藻・赤甫・  
祭魚・梅母・(ナニハ) 五朗・芳宣・素屋・拳一・鼎左・逸淵・  
見外・瓦村・きく雄・ト早・山子・(ハリマ) 古谷・魁翁・龍吟・  
かつら・ちかや・隼・(ヤマト) 可樵・泰我・芳艸・萬古・静讓・  
(小川) 一桃・叩月・西馬・為山・都巖・尋香・梅司・一徳・  
貞一・(ムサシ) 来夫・荷少・(□□) □□・□□・□青・等葉・  
木鷲・秀民・(多田) 旭齋・二鳩・琴舟・羽雪・等栽・不染・  
卓郎・祖郷・芦窓・五休・(日向) 双鳥・駝岳・いさ元・一瓢・  
(王子) 如柳・永年・古溪・路風・(石見) 青池・一桃・双鳥・  
主拙・未足・試風・双寶・(クメ川) 華竹・寿・波鷗・藤主・  
秋喬・佳景・一雅・(ヲク) 江三・詠柳・舍用・豊春・帰風・  
疎舎・香以・抱儀」・東洲・完鷗・白起・楽齋・呂風・(房) 香雪・  
苔年・欣月・鼓汀・□□・□□・□路・(上サ) 由儀・守黒・  
柏翠・雨桐・五英・畝月・金波・千之・(トチギ) 優々・宇山・  
梅年・南交・未精・逸丁・(イセ) 梧翠・宗羽・塘景・魯心・  
權隱・米彦・角丸・文昇・芋臺・茶瓢・樹石・蝶遊・松頂・

鳥吟・(長南) 宜山・此君・鳩峰・綵賀・菊磨・(イセ) 五鈴・  
福来・慶我・松舟・芝角・拙誠・古笠・汎翠・梧井」・由誓・  
南枝・竹賀・只青・如昇・多美古・琴志・鷹哉・月夕・宜夕・  
何龍・如泉・多朗・留木・宗来・楽之・崑来・平民・松鶴・  
得蕪

三段組

※ 「丁巳のとし」

春興 全紙 東阡 貫古 桜花・貝盛籠図 ○ アイエ ×

西馬・得蕪・萬古・尋香・芳草・ミき雄・鳥吟・為山・天由・  
月杵・清民・壯山・静夫・一止・璵山・唸風・乙良・蓬宇・  
梅裡・大夢・芹舎・梅通・淡節・有節・鼎左・松隣・松室・  
素屋・棹舟・双鳥・悠々・葉陽・思風・半夢・羅村・騏郷・  
宇雀・鯉勢・梧井・蓬固・竺魚・思遠・平蕪・桃志・正孝・  
蒼風・騎千・葵影・葛路・甘史・一聲・三崎・廉堂・一龜・  
橘外・東郊・三徑・野風・木鳥・北誕」・楚宮・左郊・草尺・  
逸松・椎居・梅雪・露丘・青葉・止丘・葉夫・芝山・其猷・  
嵐石・蘿谷・季風・青芽・素蓬・崎邨・有隣・東雲・雨蓼・青  
枝女・玉壺・石居・葦坡・多々女・凡水・松芳・嵐艸・應可・  
月古・蟻城・夷岳・龜年・抱節・天馬・茶雷・順美・(七十一齡)  
東阡

二段組

※ 「丁巳の春」



春興 全紙 卜早 是真 梅花山見立打雲屏風図 ○  
アイウエ 抱節子

梅通・有節・枝月・祭魚・芹舎・鼎左・素屋・對眉・鶉川・  
泰山・木斎・松坡・悠々・双鳥・一化・茶雷・赤甫・而后・  
梅裡・蓬宇・立宇・彦貫・斗一・事松・清良・雨翠・李朗・  
文帶・蟻丈・習静・乙良・梅二・峰女・六槐・左乙・多代女・  
清民・祖山・扇々・璪山・月山・朶峰・金英・中龍・緑峰・  
久栄・川澄・水竹・藻鏡・詠柳・樗影・舍用・南江・李輔・  
秋岸・香文・旭・己有・淇山・三千丸・山方・御風・素山・  
唵風・可慎・落山・逸渕・栞堂・鶴巢・友甫・旭斎・心星・  
草涉・錦袋・溪斎・五渡・可久・花外・東雲・龜成・雨村・  
玄子・芦城・ミもと」由誓・瓦村・白起・苜曆・完鷗・巴雪・  
寿・白外・得蕪・卓郎・等栽・崑来・五休・鳥吟・探響・蓬々・  
惊父・尋香・高節・冰壺・抱儀・梅朗・抱政・春路・竹舎・  
欣輔・古里・竹丈・次郎彦・青螺・子翠・為山・魯心・不染・  
芦月・北松・吳由・内龜・山子・菊雄・東洲・峽舎・見外・  
西馬・波鷗・茶瓢・李春・竹賀・一崑・椿齡・樹石・龜汀・  
不一・拙誠・一鼎・直節・竹清・東曉・蒼波・子誘・竹枝・  
萬保・羽頂・素頂・秀翠・丁知・萬頃・雨兮・三羊・葛太・  
露滴・隼・抱叔・萬古・祖郷・秀女・ちよや・守英・かつら・  
霧外・卜早

二段組

※ 「安政丁巳早春」

春興 全紙 祖郷 是真 蛙遠矢図 ○ イエ 抱節子

(京) 梅通・芹舎・(ナニハ) 素屋・鼎左・(ビゼン) 遠々・  
(チクゼン) 木斎・松坡・(ヒゼン) 悠々・(日向) 双鳥・(アハ)  
茶雷・(ヲハリ) 而后・(ミカハ) 蓬宇・(サガミ) 榎堂・(カヒ) 彦貫・  
斗一・(シナノ) 双柳・事松・文叔・和風・清良・(エチゴ) 鷺眠・  
積翠・契史・雪湖・秀女・常晴・習静・未足・乙良・(アイヅ)  
茶三・坡石・桂留・布山・梅二・可應・松露・知芳・梅郷・  
芝風・精器・(宋サハ) 月山・璪山・鶯珍・朶峰・(ラク) 多代女・  
文起・静夫・春哉・一宣・清倭・清民・□□・□□・分字・  
詠柳・樗影・五雲・舍用・(南部) 車陸・三帛・龍山・まさを・  
雨清・松賀・億年・雲甫・姦月・呂月・南溪・南江・吐月・  
晚翠・逸志・李輔・(秋田) 落山・徐風・嚮斎・雪貢・可慎・  
大古・鶴汀・唵風・素山・御風・(松前) 而先・陽山・己有・  
耕雪・旭・此君・(江サシ) 淇山・素元・馬郷・雪曉・砂山・  
龜文・(箱ダテ) 北崖・三千丸・几由・和好・山方」赤甫・茶瓢・  
三静・芦城・峰女・(ムサシ) 龜友堂・山祐・遊里・光哉・南甫・  
錦上・壺三・文涛・雨考・富丸・鶴丈・生徳・春道・東雲・  
山鳥・可久・□□・□□・□□・素竹・五渡・(下毛) 茂精・  
和南・錦袋・文窓・(上毛) 心星・草涉・木公・琴堂・逸渕・  
(上サ) 惟馨・(下サ) 双岳・錦糸・素月・(ヒタチ) 鶴巢・友甫・  
(モガミ) 金英・石鼎・雲晴・(龍海更) 一賀・梅幹・江流・旭峰・  
中龍・(緑峰更) 五鳳・久栄・雲嶺・(近峰更) 吾蝶・曉月・丹鶴・  
川澄・清因・二兆・豊丘・水竹・一羽・丘雨・涼川・思明・

南叟・机友・青楓・嵯峨女・觴山・寄竹・藻鏡」・□□・□□・  
 白□・寿・卓郎・完鷗・抱叔・等裁・管曆・波鷗・西馬・山子・  
 萬古・きく雄・氷壺・鳥吟・叶・魯心・素水・尋香・探響・  
 秀翠・一鼎・花舛・拙誠・樹石・禾丈・見外・香昇女・不一・  
 為山・瓦村・東子・(小童)稻濤・雨兮・龜汀・惊父・祖風・  
 内龜・守英女・かつら・卜早・由誓・祖郷

三段組

※ 「安政四年弥生」

春興 全紙 鼎左 月松 桜花図 ○ アイウエ ×

雨外・買山・北梅・杏里・杜鴻・翠鶯・梅圃・奇勝・春馬・  
 枝紅・石峰・立志・吾草・春女・可柳女・井竹女・(江戸)得蕪・  
 可簫・為山・(ふち)左栗・月洲・岳久良・桃水・公然・一水・  
 一表・(さかひ)麦雨・兔白・其水・静甫・(□□)寿抱・(一村山)  
 禾秋・(いせ)五鈴・(糸海)曲阜・芝雀・(池田)可春・(灘)梅満・  
 (兵庫)簫卜・(たんば)梅塙・雨岡・(ひめじ)悟一・(平福)竹賀・  
 (備前)鼎処・(ふく山)紅顔・(アハ)茶雷・應可・季風・(サヌキ)  
 棹舟・(石見)青池・一桃・雪□・(濱江)桃塙・(松江)龍尾」・  
 (花一社)節一・香山・崑曉・美笑・吾柳・天圓・移石・萬□・  
 涼松・(清友社)草居・蘭操・梅鼎・梅榮・兔雪・其雪・清機・  
 花雪・(かふり山)花嘯・槐亭・秋畦・月人・鶯宿・素屋・挙一・  
 松隣・可兆・辰斎・草洲・(河内)桃肥・(さかひ)此姿・此方・  
 鼎左

二段組

※ 「安政よつのとしやよひ」／鼎左自筆版下

春興 全紙 悠平 来章 籠 桜花図 ○ アイエ ×

(エド)西馬・萬古・見外・(撰ツ)松朗・よねめ・知風・松隣・  
 素屋・(ヲハリ)梅裡・一清・錦水・醉雨・土前・(ミカハ)完伍・  
 (遠州)嵐牛・(エチゴ)梧葉・雪湖・乙良・(越ゼン)布珀・  
 (エツ中)完爾・都盤・樺丈・老圃・怒兮・(能ト)涼瓜・梅村・  
 娯遊・岳友・節来・蒼尾・槐窓・米山・梅谷・龜声・(在エド)  
 草仙・丹嶺・木圭・桜里・涼夢・西雅・圓應・禹翠・雪山・  
 一枝・歌樂・春夷・蒼江・大素・氷花・茄三・柳壺・旭紫・  
 廬峰・玄孔・重亭・(梅坡更)青溪・琪月・大夢・(山シロ)有節・  
 玉骨・鳥岳・也然・梅通・芹舎」・(在金府)東明・雅居・ミつめ・  
 茶筵・季節・悠平

二段組

※ 「丁巳乃春」

歲旦 全紙 倭山 高雅 新芽摘図 ○ アウ ×

梅通・有節・公成・拾山・淡節・芹舎・素屋・知風・五音・  
 不角・兔尺・ぬか人・月人・曲阜・醒花・松隣・悠々・杜凌・  
 梅臣・茶雷・希鱗・蔣池・涼呼・露舟・彦支雄・雪当・五鈴・  
 雀叟・養瓜・帆道・麦吟・米友」・蓬宇・完伍・塞馬・嵐牛・  
 湖月・茶暁・為山・鳥吟・魯心・卓郎・尋香・ミもと・芳草・  
 山子・見外・萬古・月杵・得蕪・逸測・西馬・氷壺・乙良・

茶山・丹嶺・布珀・多代・清民・一止・樗影・吟風・御風・  
 而后・土前・梅裡・我竟・李曠・一清・欣尚・醉雨・錦水・  
 茶城・五峯・素水・竹涯・芝船・土精・蔦緒・芝芳・耕々・  
 和雪・志道・霧晴・弓左・二鷗・鶴叟・儋山  
 二段組

119 歲旦 四裁 指石 高雅 青藁図 ○ イエ ×

悠々・帆道・塞馬・土前・李曠・櫓水・逸渕・鳥吟・完伍・  
 養瓜・三楓・欣尚・望湖・鼎左・丹嶺・西馬・涼呼・嵐牛・  
 為山・大年・醉雨・佳水・由誓・御風・淡節・茶山・醒花・  
 杜陵・梅臣・拾山・茶雷・五鈴・蓬宇・不退・星岬・兔尺・  
 乙良・林曹・白鷗・可大・一清・月底・梅通・梅裡・黙池・  
 晴霞・素屋・我竟・土芳・蘭陵・烏谷・清民・旭峰・巴水・  
 赤甫・有節・芹舎・而后・松斎・素秋・指石  
 61 5 5

※ 「丁巳歲旦」

120 歲旦 四裁 文鳥 華雅 団扇図 ○ イエ ×

梅通・淡節・鳥岳・春夕・祭魚・文海・素屋・梅裡・一清・  
 而后・旦来・布珀・古玉・有節・梅圃・帆道・木圭・大夢・  
 觀湖・朝霞・蒼生・文鳥  
 22 3 5

※ 「巳の夏」／「南越ふくい吳山著」

121 秋興 半裁 鳥岳 秋亭 木槿・空蟬図 ○ イエ ×

祖郷・見外・素屋・鼎左・龜年・草尺・蓬固・茶雷・梅裡・  
 一清・李曠・蔦雨・藍庭・圭布・鑿水・五鈴・文鳥・珉子・  
 朝霞・布珀・大夢・木圭・茶薙・悠平・未長・秀井・百和・  
 如舟・朝水・觀崑・逸外・淡節・文海・有節・鳥岳・鳥岳

※ 「巳のとし」／鳥岳の二句のみ下段に記す

36 3 6

122 夏興 半裁 貴邨 是真 氷図 ○ アイエ 鷗波

一清・鷺眠・醉雨・悠平・五鈴・御風・斗玉・五鳳・久栄・  
 月杵・静游・茶雷・由誓・逸渕・梅通・素屋・鼎左・乙良・  
 芹舎・淡節・得蕪・多代女・未足・為山・鳥吟・芳草・可簫・  
 未精・宗普・泰我・露滴・花海・閑窓・龜禾・卜早・松翁・  
 宗羽・ミき雄・田麓・松頂・祖風・青柿・牛政・波鷗・波青・  
 永年・和志海・平路・宜稻・甘志・真武・汶路・硯寿・古友・  
 仙月・季春・泰布・芳所・岱水・美交・苜曆・不染・山子・  
 靖路・欣志・等栽・花外・雪朗・来夫・薰岱・旭斎・士明・  
 二水・一竹・孚谷・松雫・荈角・五渡・西馬・祖郷・氷壺・  
 抱儀・魯心・萬古・貴邨  
 85 7 1

※ 「画の年記」安政巳水無月朔日

夏興 四裁 珉子 玉園 鷺瀑布図 ○ アイエ ×

有節・鳥岳・文海・(ムツ)多代女・(ナニハ)素屋・(エド)為山・  
(カヅ)大夢・可道・丹嶺・桃雄・石東園・林石・鳩禮・(フク井)  
布珀・朝霞・(ミクニ)遊室・雛山・不一・一聲・三蝶・さき女・  
雪斎・玉性・美井・小和・虫二・きぬ女・寿月・山松・露花女・  
卯閑・北尾女・仁哉・珉子

34 25

※ 「巳の夏」

追善 全紙 應可 南涯 琵琶 夏花図 ○ アイエ ×

(京)芹舎・有節・公成・淡節・文海・霞川・向月・祭魚・柳意・  
野雀・赤甫・鳥岳・黙池・碩水・梅通・(大坂)鼎左・松隣・  
挙一・松室・蔡々・鶯宿・方石・月人・梅巢・井竹女・舟左・  
素屋・(イガ)養瓜・(イセ)雀叟・五鈴・只青・(ヲハリ)而后・  
李曠・一清・静嘉・指石・三楓・不退・我竟・量湖・醉雨・  
梅裡・(ミカハ)蓬宇・完伍・(トフツウミ)鳥谷・杜水・(サガミ)  
布丈・(ムサシ)逸淵・天由・梅笠・洒雄・南々・一瓢・寄三・  
溪斎・(エド)由誓・為山・萬古・鳥吟・尋香・芳草・ミキ雄・  
氷壺・芳草・靖路・山子・宇山・貫乎・松頂・吟響・五休・  
斗玉・花海・呉城・呼石・四端・弘湖・白亥・見外・祖郷・  
竹烟・得蕪・抱儀・西馬・(上サ)由儀・(下サ)月杵・(ヒタチ)  
李郷女・(上毛)心足・米臺・半湖・(オク)多代女・一止・愛山・  
文起・壯山・樗影・静夫・清民・舍用・(デハ)御風・素山・

玉止・吟風・璫山・(カヅ)大夢・柳壺・(エチゼン)珉子・(エチゴ)  
乙良・契史・雪湖・桑居・梧葉・鷺眠・茶山・(タンバ)湧瀧・  
(イワミ)青池・(ビンゴ)棋臣・(アキ)甘古・(サツマ)桃戴・  
(ヒゼン)悠々・(ヒウガ)双鳥・駝岳・(キイ)露舟・(イヨ)  
菊圃女・棹舟・黙翁・(トサ)婦牛・元史・(アハチ)其秀・鷗池・  
(アハ)北誕・抱節・鯉勢・三徑・橘外・桑夫・嵐艸・蒼風・  
左郊・思遠・草尺・落丘・葦坡・青葉・野風・松丈・思風・  
木鳥・東阡・龜年・梧井・逸松・椎居・素蓬・月古・天馬・  
楚宮・桑陽・半夢・羅村・宇雀・青芽・甘夫・正孝・騎千・  
崎邨・止丘・蓬固・蟻城・葛路・騏郷・半臺・雪峯・左谷・  
廉堂・鷗羽・竹鳴・閑石・左琴・如帆・季風・其梓・晴呼・  
其道佛・應可・左一・佳篤・默史・一圭・茶雷・執筆・默史・  
左一・一圭・佳篤・茶雷・應可

三段組

※ 「安政四年四月五日」／應可の父其道佛十回忌

夏興 全紙 春俗 南斎 合歡小禽図 ○ アイエ ×

淡節・赤甫・松隣・素屋・此松・而后・梅裡・一清・蓬宇・  
為山・萬古・ミキ雄・芳草・鳥吟・尋香・西馬・乙良・璫山・  
唼風・多代女・清民・一止・鶯居・棹舟・双鳥・悠々・北誕・  
左郊・抱儀・草尺・蟻城・逸松・嵐艸・宇雀・鯉勢・落丘・  
葦坡・甘史・蓬固・一聲・石居・葛路・騎千・雨蓼・東雲・  
素蓬・松芳・泡花・一龜・三崎・青枝女・橘外・其猷・桃志・

盧堂・應可・騏鄉・羅村」・楚宮・木鳥・夷岳・葉夫・青芽・  
 崎邨・青葉・止丘・三徑・嵐石・平蕪・蘿谷・蒼風・有隣・  
 野風・梅雪・順美・季風・東阡・思遠・多々女・正孝・椎居・  
 芝山・梧井・月古・天馬・龜年・半夢・茶雷・蒼影・(竺魚更)  
 春岱 二段組

## ※ 「丁巳夏」

夏興 全紙 橘外 葭亭 夜掛神事図 ○ アイウエ ×  
 (京)有節・芹舎・淡節・公成・文海・霞川・梅通・(大坂)鼎左・  
 松隣・月人・松室・素屋・(イタミ)椅陰・(イガ)養瓜・(イセ)  
 雀叟・五鈴・(ヲハリ)而后・李曠・一清・梅裡・(ミカハ)蓬宇・  
 (ムサシ)逸瀨・天由・(エド)西馬・萬古・尋香・芳草・四端・  
 得蕪・見外・祖郷・鳥吟・抱儀・為山・(下サ)月杵・(上毛)  
 心足・半湖・(ムツ)多代女・清民・樗影・一止・舍用・(デハ)  
 御風・素山・唸風・璫山・(カヅ)大夢・(エチゴ)乙良・契史・  
 茶山・(石見)青池・(アキ)甘古・(ヒゼン)悠々・(ヒウガ)双鳥・  
 駝岳・(イヨ)棹舟・(トサ)元史・(アハヂ)其秀・鷗池・(アハ)  
 楚宮・龜年・草尺・月古・思遠・逸松・梧井・素蓬・董坡・  
 東阡」木鳥・露丘・椎居・野風・天馬・旗郷・蟻城・青芽・  
 正孝・宇雀・廉堂・季風・應可・蓬固・葛路・羅村・半夢・  
 抱節・鯉勢・嵐艸・蒼風・三徑・桃志・玉壺・桑先・左郊・  
 北誕・茶雷・橘外 二段組

## ※ 「丁巳春」

夏興 全紙 葵州 景村 染物風曝図 ○ アイウエ 仙鳧  
 栗青・梅通・有節・芹舎・默池・淡節・公成・赤甫・鼎左・  
 挙一・素屋・松隣・一清・而后・大夢・如流・知春・淇竹・  
 素仙・井鵝・北岳・茶山・しつか・乙良・鷺眠・惟精・契史・  
 未足・峰女・御風・舍用・禾月・一山・清民・多代女・男僮・  
 具瓶・如恒・芹雅・三籟・千紫・其一・一翠・雪窓・月杵・  
 至頌・欣月・梅人・烟囊・楚雲・月思・一長各金波・立宇・如々・  
 丁々・梅□・瓢□・左右久・ゆきを・潮月・海鷗・普周・桃郷・  
 汶鶯・守保・一保・月織・花川・志珊・天由・梅笠・雨村・  
 旧左・真寿・米守・無底・杉曉・来夫・起生・龜成・寄三・南々・  
 溪齋・逸瀨」・卓郎・完鷗・貴邦・宇山・きく雄・西馬・為山・  
 叩月・波鷗・崑来・太年・萬古・得蕪・成伍・田麓・閑雅・  
 芳艸・冰壺・吳城・羽雪・花海・潮堂・鳥吟・漣々・鳳洲・  
 松頂・梅司・山子・由誓・由之・香以・甘茶・無外・未精・  
 祖郷・等栽・苜曆・松叟・午政・尋香・見外・墨芳・櫛風・  
 東臯・実交・魯心・草宇・德隣・靖路・蘆城・泰我・不染・  
 鶯室・花亭・芳所・雲帷・魯中・永年・即不・□□・□□・  
 □□・□□・□□・宇蕉・□一・□年・良雅・双鳥・荷山・  
 翠露・鳩峯・宗羽・柳夫・利彦・都月・東月・花風・花薰・  
 杜柳・可友・里泉・賦雪・揺一・齡齋・桜朗・沙眠・處一・  
 胤人・曉齋・雨笠・曉山・柳我・兆山・素曉女・雪朗・抱儀・

葵洲

二段組

※ 「丁巳夏日」

秋興 全紙 鶯室 金堂 官女図 ○ イ 楽園

(洛) 有節・淡節・公成・(大坂) 鼎左・素屋・(陸奥) 多代女・  
 舍用・(在蝦夷) 古武良・(出羽) 吟風・(越后) 茶山・市猿・契史・  
 未足・(阿波) 茶雷・(駿河) 芦鶴・(信濃) 迎祥・有信・雪頂・  
 嬌雨・かと丸・一之・撫影・長宇・景由・其秋・雨竹・常草・  
 阿公・左右太・枝春・崑悦・山敬・快雅・雨笠・一遊・菊泉・  
 都久裳・亀柏・一朗・槐叟・杜流・五調・由水・雲老・葛古・  
 (上毛) 心足・鹿鳴・茄言・魚魯・柳圃・竹麻呂・紅碩・嗽石・  
 玉英・半湖・竹烟・(常陸) 撫圃・(下サ) 以兄・(相模) 立吟・  
 文中・榎堂・(雲水) 芦城・時彦・孤南・芦十・青介・董逸・  
 清良・良可・(武蔵) 梅笠・雨村・雪朗・葵洲・来夫・可久・  
 勇賀・梅齡・一寿・義正・東雲・花外・帰一・節山・月太・  
 桃郷・月織・松夫・逸淵」・由誓・万古・不染・漣々・蘿齋・  
 松頂・為山・西馬・墨芳・甘茶・芳艸・妥雅・在我・兎荷・  
 卜早・永機・梅梢・□□・祖郷・荳丸・草宇・瓦村・得蕪・  
 四端・鳥吟・護岳・泰民・氷壺・尋香・雪貢・輝山・春二・  
 芦洲・花海・宗羽・波平・如泉・永耒・叩月・花亭・抱儀・  
 見外・呉城・潮堂・鶯室

※ 「安政四巳の秋」

二段組

追善 全紙 田甫 是真 朝顔図 ○ アイ 抱節子

(エド) 由誓・抱儀・西馬・為山・卓郎・得蕪・見外・氷壺・  
 尋香・萬古・等栽・白亥・ミキ雄・四端・瓦村・卜早・荳磨・  
 祖郷・梅通・芹舎・有節・公成・(大坂) 鼎左・素屋・(ヒゼン)  
 悠々・(日向) 双鳥・(アハ) 茶雷・(ラク) 多代女・清民・(仙ダイ)  
 舍用・禾月・(エチゴ) 大経・乙良・鷺眠・茶山・(モ上) 水竹・  
 緑峰・(上毛) 吞吹・(ムサシ) 五渡・心星・文窓・(ヲハリ) 而后・  
 春松・(サガミ) 立宇・(カイ) 雲里・菟焉・(シナノ) 迎祥・葛古・  
 圭布・獨醒・桃五・(ミカハ) 蓬宇・莪玄・十駕・乗槎・絡亘・  
 其囊・黙莽・其香・其白・松所・其仙・其遊・梅有・洗耳」・  
 丸池・聞那・竹應・雨柳・巴岱・守仙・蔦峰・姑英・柎女・  
 茶山・梅丘・一敬・玄奇・静風・笑席・春壺・名扱・角丸・  
 斗采・蘿谷・玄及・林斎・真茂・里扇・連竹・竹子・桃谷・  
 琴女・此川・吟調・蕪掩・甫月・桃寿・梅我・霞扇・甫竹・  
 松若・志友・昇月・呂友・青池・撫歌・蕉流・専雅・東湖・  
 梅宴・豊洲・清根・素好・茂久・里友」・雲底・龍湖・鷗侶・  
 花月女・珎斎・銀岱・竹圓・鶯櫓・蘭臺・守黒・白翁・雪岡・  
 百丈・東洲・清美・如猿・松郭・省我・草結・雪槎・遊花・  
 一鳳・苔榎・田仲・鶴鳴・白外・田丸居士・田甫・松雄・遊花・  
 松月・雪槎・吾齋・千之・松月・吾齋・(孫少年) 金吾・(少年)  
 松太郎・(娘少年) かい女・松雄・千之・田甫

※ 「丁巳初秋」／田丸七回忌追善

三段組

追善 全紙 魯心 三拙 手向秋花図 ○ アイエ 鷗波

公成・淡節・九起・有節・赤甫・素屋・鼎左・松隣・月人・  
知風・而后・梅裡・一清・醉雨・晴霞・清民・一止・乙良・  
斗玉・東郊・文帶・習靜・李朗・靜游・鷺眠・茶山・吟風・  
素山・一朗・羅村・茶雷・欣月・薰岱・月杵・旭齋・桃園・  
奇三・花外・葵洲・雪朗・逸洌・由誓・拙誠・卓郎・波鷗・  
得蕪・菊雄・古友・青柿・五休・芳所・泰我・尋香・苴磨・  
賀好・雪樹・不染・慶寿・可簫・香以・白亥・ミき雄・西馬・  
為山・祖郷・万古・山子・花海・甘志・硯寿・士逸・美交・  
平路・万久住・鳳洲・永機・評十・三正・南交・甘茶・松頂・  
卜早・芦城・鳥吟・冰壺・見外・抱儀・芬居・汶路・宣稻・  
生宣・柳雨・猛牴・百旨・樂水・陽風・樂成」・英史・長宜・  
其得・琴雄女・雨琴女・晋路・一崑女・琴友女・柳糸女・楨子・  
千もと女・千竹女・芳草・宗普・田麓・草雨・松雫・芦角・  
貴邦・孤堂・吉作・呂調・鯉水・文中・葦美・其則・欣志・  
不醒・鯉可・里水・種九・素訣・孤登・二水・柳曉・柳蝶・  
一竹・燕子・糸川・麦露・梨黒・伍柚・靖路・魯心 二段組

※ 「巳仲秋」

秋興 全紙 鼎左 鼎左 赤竹図 ○ ウエ ×

雨外・杜鴻・寿抱・万極女・兔向・桃雨・翠鶯・(九四丸事)梅仙・  
松吟・奇勝・(かふち)左栗・月洲・桃水・崑々良・公然・木鷄・

桃肥・(花市社)倚松・崑曉・香山・春馬・郷青・立志・涼松・  
吾草・(左海)麦雨・其岳・鹿野女・柳桂・其水・(糸海)椅蔭・  
龍女・古樵・曲阜・(池田)可春・(清友社)草居・梅鼎・(梅榮改)  
桃左・兔雪・其雪・花雪・清機・秋亭・秋唾・(郡山)花嘯・  
(在江戸)蘭操・月人」・(京)月耕・文海・(江戸)荷少・一徳・  
(たんば)梅塢・雨岡・(たじま)萩里・(いはみ)青池・桃左・  
一桃・(日向)双鳥・(はりま)足雄・悟一・兔仙・竹賀・(作陽)  
東明・遊樂・雨水・光曜・三池・寿省・耕雨・(やまと)可樵・  
禾秋・(備前)可樂・(備後)自樂・紅顔・(あはち)鷗池・(いよ)  
悼舟・水哉・(あは)茶雷・(さかひ)此方・此松・鶯宿・可兆・  
笠洲・肖年・玉谷・草洲・挙一・鼎左 二段組

秋興 全紙 悠平 春岳 稻穂・雀図 ○ アイ ×

梅通・碩水・美田・鳥岬・文海・淡節・芹舎・素屋・白鷗・  
松隣・舟左・一清・李曠・梅裡・而后・晴霞・清民・壯山・  
御風・乙良・鷺眠・文帶・梅巨・悠々・西馬・抱儀・尋香・  
ミき雄・欣志・花海・魯心・祖郷・為山・布珀・都盤・慶里・  
完爾・木圭・桜里・松臺・春耕・秋岳・兔来・文洲・鴨遊・  
梅亭・梅村・亀声・佳丈・蒼尾・玉郎・五岳・東明・恕堂」・  
寿石・若水・南月・東里・李曉・晴浦・敬所・小野女・はる女・  
芦江女・(女)志津枝・菊潭・閑谷・春汀・柳舟・竹亭・寒湖・  
茶筵・琪月・梅叟・柳臺・春岳・雪山・一枝・玄孔・みつ女・  
重亭・西雅・涼夢・素一・旭紫・季節・悠平 二段組

## ※ 「巳の秋」

秋興 全紙 露丘 葭亭 童子・獅子舞図 ○ アイエ ×

(ミヤコ) 梅通・有節・淡節・芹舎・(ナニハ) 鼎左・松隣・素屋・  
 (ヲハリ) 梅裡・一清・李曠・(ミカハ) 蓬宇・(エド) 為山・鳥吟・  
 尋香・白亥・芳草・吳城・ミキ雄・西馬・(上毛) 半湖・(デハ)  
 璫山・吟風・(ラク) 多代女・清民・一止・(エチゴ) 乙良・茶山・  
 (カミ) 大夢・(ヒゼン) 悠々・(ヒウガ) 双鳥・(イヨ) 悼舟・  
 (アハチ) 鷗池・(アハ) 左郊・北誕・龜年・青芽・椎居・葛路・  
 葉夫・季風・東郊・桃志・一聲・是佛・青葉・多々女・松芳・  
 騏郷・木鳥・月古・宇雀・宗也・東雲・其猷・泡花・蒼風・  
 松裡・廉堂・正孝・崎邨・甘史・石居・蟻城・應可・羅村・  
 抱節・逸松・鯉勢・野風・春帛・止丘・梅雪・橘外・素蓬・  
 蘿谷・平蕪・順美・思遠・天馬・夷岳・楚宮・東阡・雨蓼・  
 青枝女・梧井・葵影・堇坡・三径・嵐石・一龜・有隣・蓬固・  
 嵐艸・草尺・半夢・茶雷・騎千・露丘 二段組

## ※ 「丁巳秋」

追善 全紙 青々 其融 水仙図 ○ イ 莖仙

青阿仏・青々・見外・青々・見外・青々・(サツマ) 桃戴・  
 (ヒゼン) 悠々・(ツシマ) 達夫・(ビンゴ) 梅臣・(ビンゴ) 泰山・  
 (イヅモ) 百年・(イヨ) 北洋・(ビゼン) 涼呼・(アハ) 茶雷・

(ハリマ) 北梅・(セツ) ぬか人・(ヤマト) 可撫・(京) 九起・  
 黙池・有節・梅通・公成・(ナニハ) 鼎左・素屋・杜鴻・(イガ)  
 養瓜・(イセ) 雪当・知幽・(ヲハリ) 而后・二鷗・(ミカハ) 完伍・  
 (遠江) 杜水・(サガミ) 丁々・旭松・立宇・(カヒ) 静月・東華・  
 (シナノ) 迎祥・草哲・(エチゴ) 乙良・(エツ中) 恕兮・(カド)

柳壺・知春・(フト) 竹外・(ラク) 舍用・(ハコダテ) 徐蓬・巳有・  
 三千丸・(出ハ) 御風・(下毛) 友松・□古・□□・□□・□□・  
 (上サ) 一清・椿山・金陵・藍守・(アハ) 木二・(ムサシ) 葵洲・  
 桃郷・閑禾・星呼・梅笠・逸洌・(江戸) 思樂・涼雨・蟻道・  
 香以・由誓・得蕪・完鷗・卓郎・卜早・不染・抱儀・瓦村・  
 香芸・花海・泰我・為山・祖郷・等栽・尋香・氷壺・西馬・  
 吳城・漣々・由之・一雅・花朝女・草笠・草守・一瓢・東松・  
 正甫・菊丈・萬外・嘉月・素外・こま彦・蓼々・静六・時彦・  
 (芦十更) 鷺洲・累五・仙路・桂華・即堂・蘭岱・草宇・鷺船・  
 普然・春蝶・鳳菊・金羅・蛙想・寒唇・寬里・素願・雨笠・  
 玉柳・雀子・葉柳・梅実・□□・□□・□□・三遊・景司・  
 桃暁・侗窓・隣麗長・酒好・昌山・抱柳・城山・箕洲・樂真・  
 月丸・静月・清月・玉八・青參・柳知・昌輔・和介・すみ女・  
 芳女・興女・見外・見外・青々・青々 二段組

## ※ 「安政丁巳のとし臘月」／如雪居士一周忌



歳旦 全紙 靖路 圭岳 高輪望初日図 ○ アイウエ ×  
 梅通・有節・淡節・文海・祭魚・鳥丘・赤甫・九起・公成・  
 素屋・松隣・稻處・梅榮・月人・挙一・鼎左・玉骨・可大・  
 帆道・春湖・乙也・孤南・桃五・新甫・未足・五鈴・完伍・  
 蓬宇・茶雷・羅村・抱節・半夢・嵐艸・鯉勢・橘外・應可・  
 葛路・宇雀・春岱・露丘・楚宮・□□・龜年・蟻城・悠平・  
 茶薙・之敬・大夢・一清・梅裡・李曠・望湖・醉雨・而后・  
 抱儀・得蕪・尋香・不染・瓦村・鶯室・可簫・泰我・松頂・  
 三交・德隣・由之・羽人・波鷗・梅雅・如山・樂山・吸月・  
 霞村・芳泉・叩月・吳城・曉山・清輝・鳳洲・梅年・讓甫・  
 甘茶・孤堂・素訣・慶寿・永機・宜稻・汶路・文昇・百旨・  
 孤登・(少年)三調・筌子・□□・泰布・□□・靖路 二段組

## ※ 四季混雜

歳旦 全紙 芳艸 是真 金鼓暮雪図 ○ イウエ 抱節子  
 悠々・駝岳・双鳥・馬翁・一化・杜水・月溪・山方・萬古・  
 由几・三千丸・湧瀧・棹舟・松堂・泰山・慶里・古鳳・思風・  
 麦鳥・斧刪・素席・漣山・有俛・芦什・一朗・梅堂・奇三・  
 其翼・自思・勇賀・龜成・琴堂・永齋・雨村・葵洲・葵白・  
 由儀・欣月・里川・双橋・梅仙・淇園・鶴汀・里仁・桃園・  
 蘆水・南茂・其光・二鳩・旭齋・月杵・五鳳・久榮・應谷・  
 撫泉・素山・唵風・御風・逸瀨・心足・天由・薰岱・立宇・

由岐雄・花外・吳雪・五渡・竹煙・溪齋・卓郎・梅笠・花海・  
 鹿鳴・鱗三・太年・完鷗・樂之・窓月・雪年・宇山・好甫・  
 竹二・佳節・良可・一瓢・岱柳・左白・静波・榮昇・柳葉・  
 潮堂・吾同・如泉・真武・古友・蘆城・鳥吟・冰壺・草雨・  
 苔礎・艸栖・晴甫・牡青・幸玉・草池・草峨・草葉・草長・  
 芳艸 三段組

## ※ 「戊午早緑月」

春興 全紙 田麓 素真 隅田鞠場梅林図 ○ アイウエ ×  
 乙良・茶山・習静・契史・李朗・桑居・應池・竹堂・尺池・  
 惟精・青洋・しつか・古棠・文帶・清水・史郷・斗玉・市猿・  
 驚眠・由誓・為山・祖郷・宗普・苜丸・拙誠・卜早・算交・  
 山子・貴邦・龜得・祐之・仙月・五休・永年・芳所・墨芳・  
 羽雪・弘湖・草秀・柳湖・欣志・是道・泉舎・一丸・一知・  
 蕉阿・柩石・如椿・柳子・甘志・伍柚・一竹・升金・伊三元・  
 月栖・良斗・銀岱・椿岱・洒雄・呼名・梅司・明水・四端・  
 成伍・白亥・ミキ雄・香以・菊雄・草宇・漣々・見外・西馬・  
 舍用・一止・五雲・湖月・壯山・東郊・清民・多代女・李郷女・  
 その女・留木女・一夢女・一糸女・ミツ女・千代女・千竹女・  
 陽知女・龜齡女・龜榮女・薰女・千雀女・文女・なミ女・  
 つね女・菊女・禾山女・浪兮女・菊圃女・田麓 二段組

冬興 全紙 半夢 南涯 時雨樵夫図 ○ アイエ ×

(京) 梅通・淡節・赤甫・文海・(向月更) 江月・碩水・有節・  
 (大坂) 素屋・公眠・松隣・(イツミ) 此松・(イガ) 養瓜・(イセ)  
 只青・(ヲハリ) 而后・醉雨・李曠・(ミカハ) 蓬宇・(トウツウミ)  
 杜水・(江戸) 西馬・鳥吟・見外・魯心・苜蓿・(上毛) 竹烟・半湖・  
 冰壺・祖郷・(ムサシ) 逸淵・(下ヲサ) 月杵・(上毛) 竹烟・半湖・  
 (オク) 多代女・(ムサシ) 清民・(デハ) 素山・(エチゴ) 茶山・  
 (エチゼン) 珉子・(カバ) 大夢・(ヒゼン) 悠々・(ヒウガ) 双鳥・  
 (アキ) 甘古・(キイ) 露舟・(アハヂ) 其秀・(イヨ) 鶯居・(トサ)  
 元史・北誕・左郊・抱節・嵐艸・鯉勢・橋外・落丘・甘史・  
 正孝・季風・止丘・葛路・蓬固・騏郷・應可・宇雀・青芽・  
 蟻城・羅村・茶雷・半夢

二段組

※ 「丁巳冬」 / 139と一对の趣向

冬興 全紙 半夢 葭亭 雪中漁夫図 ○ イウエ ×

(京) 芹舎・公成・霞川・鳥岳・祭魚・野鶴・黙池・(大坂) 鼎左・  
 稻處・月人・藜々・知風・挙一・(ヲフミ) 帆道・(イセ) 雀叟・  
 五鈴・(ヲハリ) 梅裡・一清・我竟・指石・三楓・土前・(ミカハ)  
 完伍・(トフツウミ) 鳥谷・(江戸) 由誓・為山・尋香・山子・音好・  
 五休・みもと・呉城・白亥・四端・芳草・抱儀・(ムサシ) 天由・  
 梅笠・(上毛) 心足・琴堂・(ヒタチ) 李郷女・(ヲク) 舍用・一止・  
 樗影・愛山・文起・春斎・静夫・(デハ) 御風・璣山・(エチゴ)

乙良・契史・(カバ) 丹嶺・柳壺・(ビンゴ) 梅臣・(イハミ) 青池・  
 (ヒウガ) 駝岳・(サツマ) 桃戴・(アハヂ) 蔣池・墨雨・鷗池・  
 (イヨ) 菊圃女・棹舟・(トサ) 嵐牛・婦牛・(アハ) 松丈・思風・  
 左一・其樟・葉陽・楚宮・木鳥・龜來・天馬・夷岳・石居・  
 順美・椎居・素蓬・青枝女・葉夫・春俗・青葉・三徑・宗也・  
 葦坡・梧井・平蕪・野風・逸松・月古・草尺・東阡・茶雷・  
 半夢

二段組

※ 「丁巳冬」 / 138と一对の趣向

歲暮 全紙 蟻城 葭亭 正月飾準備図 ○ イエ ×

有節・淡節・黙池・芹舎・鼎左・松隣・素屋・梅裡・醉雨・  
 三楓・不退・李曠・蓬宇・西馬・抱儀・見外・鳥吟・四端・  
 芳草・靖路・魯心・為山・半湖・月杵・御風・素山・多代女・  
 清民・壯山・文起・樗影・一止・悠々・鶯居・棹舟・葉陽・  
 龜年・應可・逸松・椎居・橋外・三徑・桃志・松裡・宗也・  
 葦坡・北誕・木鳥・羅村・宇雀・天馬・夷岳・青葉・廉堂・  
 石居・順美・思遠・崎邨・野風・春俗・季風・葉夫・東郊・  
 葛路・平蕪・月古・蓬固・嵐艸・抱節・草尺・鯉勢・止丘・  
 梧井・蘿谷・正孝・是佛・青枝女・騏郷・東阡・楚宮・左郊・  
 半夢・蒼風・東雲・一聲・素蓬・蒼影・騎千・梅雪・たゝ女・  
 其猷・得二・雨蓼・落丘・有隣・甘史・青芽・茶雷・嵐石・  
 蟻城

二段組

※ 「丁巳晚冬」

141 追善 全紙 荷少 圭岳 翁童肩叩図 ○ アイ 竹窓

梅通・芹舎・公成・九起・淡節・祭魚・也然・鳥岳・雪簫・  
赤甫・有節・鼎左・素屋・松隣・草居・白鷗・米女・鶯室・  
潮堂・帆道・稻處・竹叟・杜鴻・春人・三花・曲阜・可大・  
林曹・而后・梅裡・一清・蓬宇・乙良・鷺眠・御風・多代女・  
舍用・一止・大夢・青池・悠々・由誓・不染・得蕪・抱儀・  
卓郎・荳磨・冰壺・溪齋・尋香・花海・鳥吟・魯心・瓦村・  
芦月・勇賀・五休・太珉・山子・可簫・好甫・梅笠・拙誠・  
菊雄・如泉・蘆城・北松・桃五・西馬・祖郷」・一徳佛・久仰女・  
佳悠・為山・見外・等葉・李東・東涛・乙什・五柳・而平・  
逸潤・等栽・荷少 二段組

※ 「安政丁巳冬」／一徳追善

142 歳旦 全紙 吸月 三拙 十煎茶図 ○ アイエ 以肅

芹舎・淡節・有節・赤甫・公成・梅通・林曹・松隣・素屋・  
鼎左・而后・一清・梅裡・よね女・湧瀧・鳥谷・嵐牛・杜水・  
塞馬・完伍・蓬宇・雀叟・帆道・布丈・茶雷・泰山・悠々・  
双鳥・乙良・古棠・市猿・布山・精器・桂留・多代女・壮山・  
文起・一宣・清民・遊阿・一止・樗影・葉蝶・舍用・禾山・  
三千丸・御風・唵風・素山・五鳳・水竹・璣山・崑年・友甫・

鶴巢・文窓・景三・逸働・梅笠・溪齋・完鷗・未足・新甫・  
三交・楓九・桃五・由誓・抱儀・得蕪・冰壺・見外・等栽・  
為山・祖郷・瓦村・波鷗・西馬・きく雄・山子・泰我・松頂・  
可簫・花海・升金・荳丸・いさ元・窓月・鶯室・芳泉・芳草・  
鳩園・香芸・鳥吟・不染・梅令・卓郎」・好甫・宇山・梅司・  
一扇・露囊・きく女・清女・雲波・百丸・杜三・泰羅・驪郷・  
如山・梅雅・以肅・尋香・貞一・此道・樂山・戰雨・路風・  
佛卵・霞村・百寿・南交・吸月 二段組

※ 「安政五年歳次戊午王春之月」

▼安政五年

143 歳旦 全紙 山夕 是真 大黒寿老人他書初図 ○ アイ輝松

曙柳子・槃阿子・舞水・□□・一□・醉月・三光・唐人・琴女・  
五明・氷狐・鶯逸・(ムサシ)逸潤・(ムサシ)梅笠・(ムサシ)天由・  
(京)雪簫・(京)公成・(オク)多代女・(オク)舍用・(上毛)心足・  
(上毛)栞堂・(エチゴ)乙良・(大サカ)素屋・(アフミ)栞賀・  
(ヒゼン)悠々・(アハ)茶雷・(サガミ)薰岱・(ヲハリ)醉雨・  
(デハ)御風・明水・鳥吟・一夢・(エド)龍遊子・(エド)弘湖・  
(エド)蓼守・(榎庵中)ミキ雄・(榎庵中)白亥・西馬」・□□・  
□□・静湖・梅影・梁夢・機言・卜早・東甫・香以・雪樹・  
雪路・知節・子曳・静波・雪蹄・桐勘・器月・涛坡・五雀・

花楓・鶯拙・かつら・千好・千代・やす・まる・六造・乙芽・  
守一・永機・湖十・巴雪・山夕  
二段組

※ 「牛の春」

144 夏興 全紙 香以 是真 鯉昇滝図 ○ アイエ ×

由誓・得蕪・抱儀・為山・卓郎・物外・尋香・きく雄・鳥吟・  
祖郷・見外・氷壺・弘湖・永機・三正・三曜・乙芽・四端・  
巴雪・雪樹・賀好・卜早・拙誠・芳艸・花海・五休・波鷗・  
瓦村・山子・完鷗・靖路・青柿・不染・志節・吾雀・為伍・  
秣翁・龍遊子・一夢・蓼守・魚道・桃人・得水・明水・乙年女・  
白亥・ミキ雄・逸洩・西馬・香以  
二段組

※ 「戊午春」

145 春興 全紙 心足 素真 絵馬飛翔図 ○ アイ 鷗波

(京) 公成・赤甫・(ナニハ) 素屋・松隣・(ヒゼン) 悠々・(ビンゴ)  
泰山・(サツマ) 桃戴・(日向) 双鳥・(トサ) 元史・(アハ) 茶雷・  
龜年・葛路・橘外・蓬花・鯉勢・穎三・(ヲハリ) 梅裡・醉雨・  
(ミカハ) 蓬宇・(サガミ) 薰岱・(ムサシ) 逸洩・天由・寄三・  
五渡・洒雄・浪兮・(下サ) 月杵・旭齋・(ヒタチ) 李郷・(オク)  
舍用・清民・多代女・(デハ) 御風・唸風・茶山・文帯・鷺眠・  
抱儀・為山・見外・卓郎・得蕪・尋香・祖郷・氷壺・芳草・

靖路・田麓・花海・呉城・苜城・きく雄・鳥吟・弘湖・音よし・  
龍遊子・四端・一夢・香以・慶寿・桃人・明水・吾雀・得水・  
白亥・ミキ雄・乙年女・西馬・分尾・半湖・一朗・栞堂・一呂・  
かつみ・烏曉・(盲) 柳下・□室・□星・□□・□□・□□・  
竹烟・逸芙・和春・泉女・東山・梅住・朝鳥・松翠・草霞・  
梅女・貞考・雨柳・清遊・梅枝・裳雲・松風・桜亭・玉静・  
梅好・交時・正里・高翠・已連名・忠幸・朴人・卓翠・岱通・  
寿楽・貞居・安人・鶴世・巴玉・巴光・落水・巴静・東水・  
鉄蕉・月遊・正水・簾風・知蔭・白雨・蛙水・かね人・篤山・  
鶴水・一考・梅九・兆水・吟耕・移柳・兔来・枕流・五通・  
木芝・心足  
二段組

※ 「戊午春」

146 春興 全紙 靖路 圭岳 群鶴図 ○ イエ 鷗波

梅通・淡節・公成・赤甫・芹舎・有節・月人・松隣・素屋・鼎  
左・而后・一清・醉雨・李曠・可大・悠々・舍用・御風・  
素山・唸風・撫泉・應谷・東郊・五雲・禾月・一止・清民・  
多代女・茶雷・羅村・蟻城・騏郷・抱節・龜年・應可・有隣・  
未足・李郎・契史・斗玉・習静・青洋・鷺眠・乙良・月杵・  
五渡・薰岱・旭齋・二鳩・桃園・其光・如水・梅堂・葵洲・  
一朗・栞堂・花外・逸洩・由誓・梅笠・不染・花海・泰我・孤  
堂・ミキ雄・白亥・拙誠・西馬・為山・由之・山子・苜磨・平

路・德隣・羽雪・狐登・芳泉・見外・卓郎・桃五・好以・  
 良可・二水・甘茶・尋香・鳳洲・物外・宜稻・汶路・永機・  
 三正・太年・得蕪・抱儀・蘆城・鳥吟・素訣・古友・如泉・  
 欣志・冰壺・祖鄉・鹿鳴・桂陰・波鷗・慶寿・子竹女・田麓・  
 宗普・芳草・貴邦・伍袖・百旨・一竹・木伯・文礎・(□□)  
 筌子・孚谷・泰布・魯心・靖路  
 二段組

※ 「安政五戊午孟春」

慶賀 全紙 其岳 高雅 還城楽図 ○ アイ 指石

而后・花嶂・鵬居・仙翁・醉雨・五峰・素水・竹涯・儵山・  
 折風・茶城・如菊・幾行・有来・指石・梅裡・拾山・茶雷・  
 應可・葉陽・羅村・吟風・梅通・淡節・芹舍・霞川・赤甫・  
 黙池・公成・文翠・文海・九起・董子・有節・畚石・岳鳳・  
 碩水・司水・可樵・素屋・松隣・不角・林曹・祇白・知風・  
 鼎左・曲阜・鶯宿・白鷗・公眠・杜鴻・可大・醒花・古谷・  
 為山・見外・太年・山子・尋香・等栽・芳草・月杵・みもと・  
 田麓・魯心・冰壺・得蕪・逸洌・遲流・西馬・帆道・月挙・  
 うつを・養瓜・雀叟・五鈴・都岐雄・雪当・梅笠・露牛・山士・  
 塞馬・蓬宇・完伍・嵐牛・杜水・漣山・立宇・晴霞・清民・  
 春齋・英泉・一止・禾月・舍用・御風・素山・撫泉・梅雨・  
 松塙・茶山・乙良・鷺眠・大夢・丹嶺・柳壺・柏紫・布国・  
 楳臣・方長・萬像・半夢・蓬固・龜年・蘿丈・春湖・蒼山・

曲川・孤南・寄泉・松朗・野鶴・姑山・鳥岳・蘆城・波同・  
 士前・一清・士芳・桃舟・應知・桃里・星岬・我竟・欣尚・  
 習也・拙齋・三楓・不退・量湖・大年・素秋・二鷗・吾聲・  
 芝船・章圍・五明・竹圃・青鏡・松齋・錦水・春松・鶴叟・  
 李曠・月底・其岳  
 三段組

※ 其岳父四十賀

追善 全紙 知風 翠崖 土筆硯図 ○ イ ×

岱年居士・知風・仙夢・粧山・浪燕・硯露・祇白・也行・梅通・  
 有節・淡節・公成・九起・祭魚・文海・寄泉・野鶴・柳齋・  
 雪簫・鳥岳・豆生・董子・枝月・鷺洲・孤柳・升悉・硯水・  
 萬丈・美田・鳥岬・波同・赤甫・黙池・芹舍・帆道・麦唸・  
 由誓・抱儀・西馬・□□・見外・得蕪・祖鄉・等栽・不染・  
 莖丸・魯心・冰壺・卓郎・逸洌・而后・梅裡・一清・量湖・  
 星岬・三楓・櫓水・御風・欣尚・我竟・李曠・士前・雀叟・  
 都岐雄・蓬宇・完伍・嵐牛・鳥谷・晴江・林坡・丹嶺・布珀・  
 文鳥・乙良・茶山・御風・唸風・多代女・清民・桃乙・蒼山・  
 春湖・可大・醒花・其隣・曲阜・古樵・□女・ぬか人・露舟・  
 黍丘・涼呼・梅臣・万像・茶雷・柏石・藜杖・蟻兄・鶯宿・  
 公眠・自来・国彦・秦々・爐翠・停雲・松隣・五音・石叟・  
 眉年・不角・兔尺・杜鴻・挙一・白鷗・林曹・鼎左・雨翠・  
 雲藻・稻處・素屋・祇白・仙夢・粧山・浪燕・也行・硯露・

慶賀 全紙 婦牛 素真 椿藁包函 ○ アイ ×

※「安政五戊午春」／岱年七回忌追善

春興 全紙 積翠 × | | | 緑水

由誓・西馬・抱儀・等栽・山子・靖路・鳥吟・芳草・香以・  
 田麓・荷少・花海・為山・塞馬・茶雷・鷗池・栞堂・旭斎・  
 双鳥・悠平・多代女・清民・御風・唵風・舍用・精器・帆道・  
 士前・一清・李曠・而后・松隣・知風・素屋・梅通・淡節・  
 芹舎・清水・偉文・有木・蘭抱・斗玉・花像・一葉・寿美丸・  
 花我・桃李・葉居・東明・箕山・栞丸・月鴻・掃楓・青山・  
 林外・得之・雪堂・杉吏・竹雨・竹蒼・竹窓・市猿・鷺眠・  
 季眠・晴楓・梧葉・桜逸・李年・山暎・簑猿・可洗・応池・  
 静亭・草坡・まかき女・淳雨・因伍・常晴・青池・里松・東徑・  
 竹堂・芳雲・蓬岱・桜九・竹窓・青洋・雪湖・汀柳・尺池・  
 杏村・池柳・晴雲・玉林・青湖・習静・禾乃女・釋香・雪山・  
 因齋・古蒼・為節・竹宇・百邨・可村・宗休・波山・春翠・  
 花秋・十雨・青甫・之由・桜青・北洲・木梢・神方・蓼塙・  
 市柳・ぬい女・柳臯・夕照・乙良・(稲彦更) 積翠 二段組

※「牛の春」／桜花散らし飾梓

婦牛・習竹・松堂・涼揚・壺通・南臺・而康・月器・二橋・  
 蠶園・麦翠・白浦・梢夕・竹郎・應一・可泉・羅海・只曉・

公成・梅通・奇泉・有節・九起・淡節・赤甫・千撫・素屋・  
 鼎左・鶯宿・松隣・知風・湧瀧・泰山・楳臣・柳塘・甘古・  
 閑雲・一化・有両・青年・双鳥・桃戴・麦鳥・茶雷・羅村・  
 草尺・宇雀・左一・龜年・蟻城・嵐草・応可・蓬固・抱節・  
 半夢・騏郷・竹齋・棹舟・鶯居・天萊・古谷・而后・醉雨・  
 完伍・杜水・帆道・栞賀・天隨・布珀・恕兮・乙良・鷺眠・  
 茶山・悠平・御風・舍用・一止・五雲・多代女・清民・北崖・  
 薰岱・竹烟・茄言・春吹・栞堂・心足・竹外・季郷女・葵白・  
 月杵・その女・逸洩・梅笠・天由・寄三・五渡・洒雄・浪兮女・  
 貫乎・陳良・音好・乙也・新甫・故厓・抱儀・卓郎・為山・  
 魯心・祖郷・得蕪・由誓・芳草・烟波・尋香・花海・水壺・  
 さく雄・徳隣・升金・無鳴・四端・鳳什・得水・靖路・詠久・  
 魚道・弘湖・蓼守・明水・桃人・五雀・尔牛・一夢・桃明・  
 如泉・乙年女・白亥・西馬・嵐夕・雲外・文中・金雪・(蒼鳥更)  
 右柏・似然・方圓・竹隣・□□・(少年) 蒲丈・半湖・南洋・  
 芹水・紫峯・木鷄・因之・双路・潮花・(少年) 桃園・可木・  
 甫紅・其橙・砂子女・素月女・其玉女・馬朝・露竹・知松・  
 柗雫・小舟・梢雨・遲濤・栞石・羅海・松堂・月笠・涼揚・  
 而康・壺通・(在エド) 晚成・南蓬・竹郎・麦翠・只曉・二橋・  
 鹿山・是凡・梢夕・蠶園・可泉・応一・(起月更) 白浦・元史・

習竹・婦牛

二段組

※ 「戊午春」／習竹還曆祝

151 歳旦 全紙 山子 圭岳 旭日雀図 ○ アイウ 鷗波

多代女・清民・壯山・一宣・文起・仏孫・撫泉・素礎・江三・  
 樗影・五雲・禾山・一止・舍用・梅成・精器・布山・南江・  
 冬松・旭・一翫・山方・万古・三千丸・北崖・徐蓬・由几・  
 御風・唵風・洗耳・撫泉・素山・五鳳・久栄・璵山・乙良・  
 驚眠・清水・未足・契史・茶山・李朗・有信・市耕・如真・  
 山皎・一巢・山莊・山浴・蕉堂・圭布・恕兮・慶里・布珀・  
 丹嶺・柳壺・大夢」・公成・有節・芹舎・淡節・雪簫・祭魚・  
 赤甫・九起・梅通・湧瀧・鑿水・黍丘・露舟・可撫・林曹・  
 素屋・杜鴻・稻處・白鷗・松隣・鼎左・よね女・□□・糠人・  
 可大・醒花・茶雷・蟻城・羅村・應可・蓬固・草尺・半夢・  
 龜年・抱節・鷗池・婦牛・古鳳・元史・羅海・松堂・歩牛・  
 雲外・菊圃・泰山・梅臣・青池・双鳥・駝岳・有両・悠々・  
 而后・李曠・梅裡・三楓・不退・指石・一清・醉雨・馬曉・  
 露牛・帆道・麦吟・蘆逸・養瓜・五鈴・雀叟・塞馬・蓬宇・  
 完伍・嵐牛・杜水・由岐雄・竹山・薰岱・布丈・立宇・椿山・  
 あやを・交水・崑年・月杵・士明・竹雨・和南・文窓・百丈・  
 義香・天由・桃郷・逸渕・花外・梅笠・五渡・溪斎」・由誓・  
 瓦村・完鷗・拙城・波鷗・茶瓢・五休・苜磨・得蕪・卓郎・

152 追善 全紙 山子 圭岳 読経図 ○ イエ 鷗波

由之・成伍・不染・良可・美交・徳隣・芳所・抱儀・氷壺・  
 祐之・甘茶・□□・靖路・芳草・魯心・見外・等葉・為永・  
 窓月・芦城・鹿鳴・弘湖・草宇・漣々・等栽・尋香・宇山・  
 吸月・楽山・霞村・芳泉・仏卵・南交・梅司・好甫・西馬・  
 香以・白亥・五雀・荷少・北松・香芸・太珉・芦月・節之・  
 祖郷・春湖・曲川・吾同・楓九・乙也・ミもと・新甫・桃五・  
 太年・きく雄・鳥吟・花海・升金・甘志・精舎・鳩園・山尺・  
 五教・清女・其六・梅處・青柿・雪香・淇青・霜眉・梅祥・  
 松道・可簫・三交・為山・泰我・山子 三段組

※ 「戊午の春」

鳥吟信士・糸一・きく雄・山子・花海・泰我・為山・淇斎・  
 乙也・新甫・梅通・公成・赤甫・波同・有節・黙池・淡節・  
 芹舎・素屋・松隣・杜鴻・月人・知風・不角・稻處・鼎左・  
 林曹・可大・醒花・蘭陵・泰山・梅臣・青池・寸長・有両・  
 双鳥・鶯居・婦牛・松堂・雲外・茶雷・半夢・蓬固・草尺・  
 葛路・抱節・蟻城・羅村・龜年・露舟・黍丘・湧瀧・玉骨・  
 帆道・五鈴・雀叟・□□・□□・一清・不退・三楓・量湖・  
 醉雨・指石・我竟・李曠・梅裡・完伍・蓬宇・嵐牛・杜水・  
 鳥谷・ゆきを・薰岱・布丈・榎堂・立宇・雷石・圭布・史山・  
 一巢・市耕・山莊・山浴・有信・古棠・李郎・茶山・習静・

桑居・文貞・清水・鷺眠・乙良・恕兮・布珀・丹嶺・大夢・  
 柳壺・悠平・霞翠・有芳・其年・之啓・璵山・久榮・水竹・  
 五鳳・唵風・撫泉・香年・河曉・大古・二葉・素山・御風」・  
 多代女・清民・文起・一宣・春齋・壯山・素燈・精器・舍用・  
 一止・禾山・五雲・樗影・布三・江三・冬松・童岐・旭・已有・  
 北崖・萬古・三千丸・山方・其翼・和南・文窓・□□・可大・  
 義香・由儀・月杵・旭齋・久雄・崑年・椿山・あやを・逸瀨・  
 五渡・寄三・双鳥・抱叔・龜成・杉曉・花外・天由・海了・  
 如草・陳良・桃五・新甫・淇齋・卓郎・抱儀・冰壺・不染・  
 好甫・完鷗・瓦村・芳艸・苴磨・甘志・物外・墨芳・一夢・  
 四端・欣志・田麓・青々・漁藻・祐之・三正・弘湖・雷々・  
 灵城・詠久・樹石・拙誠・五休・荷少・霞村・南交・升金・  
 尋香・祖郷」・得蕪・西馬・見外・等栽・魯心・香芸・龜導禾・  
 芦月・□□・太珉・只青・稻濤・靖路・五教・五雀・明水・  
 白亥・柳處・如泉・鳩園・可鶯・淇青・青柿・春雄・霜眉・  
 梧十・雪香・北松・貫乎・稔市・梅處・慎舍・漣々・德隣・  
 由之・甘茶・香以・卜早・可簫・芦城・樂山・松順・太年」・  
 由誓・乙也・聞賀・泰我・花海・為山・きく雄・山子 四段組

※ 「安政五年弥生」／鳥吟追善（新願忌）

追善 全紙 祖郷 圭岳 桜花図 ○ イ 竹窓

蒼虬居士・梅通・芹舎・有節・淡節・赤甫・黙池・公成・枝月・

鼎左・林曹・白鷗・素屋・泰山・宇逸・木齋・双鳥・鶯居・  
 河亭・漣志・表鳥・半夢・草尺・應可・抱節・龜年・茶雷・  
 而后・塞馬・蓬宇・芳山・立宇・布丈・榎堂・東河・左乙・  
 多代女・壯山・一宣・春齋・文起・清民・六槐・分字・詠柳・  
 江三・樗影・舍用・南江・雅風・尺露・峰秀・一鼎・億年・  
 龜山・呂月・南溪・吐月・逸志・東里・一兆・梅旭・御雲・  
 真月・晚翠・李輔・有川・童岐・米穗・秋岸・小野人・一湖・  
 香文・而先・已有・一翫・旭・北崖・徐蓬・三千丸・由几・  
 萬古・和好・山方・百逗・可轉・彥貫・守黒・白外・柳條・  
 事松・李朗・古棠・五具・文帶・茶山・尺池・習静・常晴・  
 竹堂・鷺眠・乙良・布山・梅二・可應・精器・茶三・坡石・  
 淇溪」・友甫・鶴巢・正寿・旭齋・丈水・崑年・松休・素月・  
 双岳・逸瀨・栞堂・心星・景三・木公・梅郷・草淺・錦袋・  
 文窓・友松・和南・茂精・由儀・溪齋・五渡・清良・梅笠・  
 花外・杉曉・東雲・竹堂・遊里・錦上・龜成・好仙・西馬・  
 尋香・霞村・梅司・南交・可鶯・漣々・雪年・潮堂・見外・  
 鹿鳴・いさ元・貴邦・欣志・魯心・田麓・靖路・芳艸・松頂・  
 升金・甘志・香寄・墨芳・呉城・甘茶・弘湖・冰壺・祐之・  
 卓郎・竹賀・得蕪・永年・由之・霞曉・鶯室・不染・完鷗・  
 抱叔」・□□・新甫・ミき雄・如泉・北松・白亥・楓九・良可・  
 乙也・桃五・為山・山子・太珉・芦月・節之・在尔・等栽・  
 荷少・等葉・芦城・きく雄・花海・苴磨・白起・波鷗・拙誠・  
 樹石・桂陰・稻濤・花升・素更・九升・素水・志来・内龜・



祖風・雨兮・龜汀・守英女・かつら・ト早・瓦村・由誓・抱儀・  
祖郷  
三段組

※ 「安政五年弥生日」／蒼虬居士十七回忌

慶賀 全紙 璣山 素真 鹿図 ○ イエ 鷗波

(セツ) 鼎左・(エド) 為山・祖郷・白亥・西馬・(山シロ) 梅通・  
公成・有節・淡節・波同・芳水・黙池・芹舎・(セツ) 松隣・  
知風・梅栄・鶴歩・湖水・公眠・芝考・素屋・(ムサシ) 逸淵・  
天由・寄三・完鷗・霞村・山子・五休・泰我・升金・四端・  
一夢・桃人・明水・乙年女・尋香・見外・得蕪・由誓・(アハ)  
鳳棲・茶雷・羅村・龜年・春俗・應可・東阡・鯉勢・抱節・  
蓬固・葛路・半夢・嵐艸・橘外・蘭曹・落丘・宇雀・思遠・  
季風・万像・(イヨ) 鶯居・棹舟・(トサ) 雲外・(ヒゼン) 一化・  
(サツマ) 桃栽・(アキ) 芝水・(ヤマト) 司水・(キイ) 露舟・  
(ヲハリ) 而后・(上ケ) 竹烟・吞吹・栞堂・(エチゴ) 乙良・茶山・  
みちよ・蘭橋・鷺眠・(オク) 多代女・清民・壯山・英泉・鼎州・  
片雲・一止・五雲・禾山・江三・宗古・舍用・(雲水) 海了・  
楨山・曲川・音好・貫乎・未足・(デ) 御風・吟風・魯長・  
水竹・新甫・蒼山・金英・松花・帰一・巨権・梅繁・松雲・  
五鳳・水儼・梅雪・心鶴・雨喬・子温・鶯珎・鶯淇・朶峰・  
星橋・龍尾・可有・梅雄・汝松・菊谷・季山・陽水・梅暁・  
玉山・月山・藍々・左栞・玄子・西馬・璣山 二段組

※ 「戊午仲夏」／一妙璣還曆賀

歳旦 半裁 朝霞 有章 盆栽・硯箱図 ○ イエ 白根

(京) 有節・淡節・文海・祭魚・蒼雪・鳥岳・寿泉・芹舎・梅通・  
(ナニ) 鼎左・月人・素屋・(ヲハリ) 而后・李曠・士芳・一清・  
梅裡・山方・逸淵・得蕪・見外・為山・多代・如積・悠平・  
晴江・大夢・(江州) 麦吟・末長・吳柳・逸外・(中田) 可床・  
(山中) 自澄・(大聖寺) 木圭・梅枝・里石・龜水・芝山・月下・  
李溪・松琴・醉月・花谷・梅令・東雅・丹嶺・(ホツボ) 醉賀・  
秋水・且来・(府中) 藤亭・驢一・杏齋・壺中・香雨・草波・  
(三国) 巴一・(丸岡) 梅人・(四十谷) 波龍・其光・布珀・文鳥・  
朝霞 62 3 3

※ 「戊午の春」

夏興 四裁 波龍 画園 滝図 ○ アイ ×

(京) 梅通・(京) 鳥岳・(ナニ) 素屋・(ヲハリ) 而后・(ミクニ)  
素堂・(府中) 香雨・(カヅ) 大夢・(カヅ) 華谷・(カヅ) 可床・  
(フク井) 文鳥・(フク井) 朝霞・(フク井) 布珀・清花・里照・  
其光・波龍 16 1 5

※ 「戊午の春」／南越四十谷連

夏興 三裁 鳥岳 雄仙 早乙女図 ○ イエ ×  
 茶雷・半夢・羅村・草尺・鯉勢・蓬固・葛路・楚宮・應可・  
 其樟・一光・芦風・佳月・李溪・左一・為山・花海・魯心・  
 芦城・草宇・五鈴・梅臣・其戎・吳柳・九峰・茶菴・梅裡・  
 杣舎・武貫・李曠・文鳥・朝霞・香雨・珉子・鼎左・素屋・  
 梅通・淡節・文海・有節・鳥岳  
 41 3 4

春興 全紙 梧井 葭亭 茶摘図 ○ イエ ×  
 有節・梅通・淡節・公成・芹舎・鼎左・松隣・知風・素屋・  
 梅裡・指石・李曠・蓬宇・西馬・尋香・芳草・靖路・ミキ雄・  
 鳥吟・為山・天由・半湖・素山・吟風・礪山・多代女・清民・  
 一止・乙良・茶山・青池・大夢・思風・葉陽・楚宮・左郊・  
 抱節・羅村・草尺・逸松・宇雀・椎居・應可・鯉勢・月古・  
 石居・蓬固・青枝女・葛路・葉夫・思遠・正孝・春倍・蒼影・  
 落丘・松裡・梅雪・青葉・止丘・兆々・嵐石・葦坡・季風・  
 桃志・有隣・宗也・蘿谷・橘外・廉堂・三徑・竹里・順美・  
 たゞ女・崎邨・野風・蒼風・騎千・甘史・其猷・得二・東雲・  
 是佛・一外・東郎・天馬・東阡・騏郷・嵐艸・青芽・蟻城・  
 龜年・半夢・北誕・茶雷・一聲・梧井  
 94 9 4

※ 「戊午晚春」

夏興 全紙 橘外 葭亭 魚形唐鈴図 ○ アイエ ×  
 有節・芹舎・淡節・公成・赤甫・文海・梅通・鼎左・松隣・  
 知風・素屋・養瓜・五鈴・雀叟・而后・李曠・指石・梅裡・  
 蓬宇・西馬・祖郷・芳草・田麓・伊三元・窓月・ミキ雄・為山・  
 天由・心足・月杵・多代女・一止・樗影・舍用・御風・唵風・  
 乙良・茶山・青池・大夢・双鳥・草尺・東阡・羅村・半夢・  
 椎居・甘史・春倍・帆風・北誕・蘿谷・梧井・桃志・有隣・  
 三徑・嵐石・蒼影・松裡・楚宮・桃年・落丘・一外・葦坡・  
 得二・宗也・月古・騏郷・葛路・青芽・龜年・蟻城・是仏・  
 抱節・嵐艸・石居・順美・青枝女・野風・左郊・兆々・思遠・  
 多々女・天鳥・崎邨・蒼風・騎千・青葉・梅雪・一聲・止丘・  
 東雲・竹里・雪雅・葉夫・季風・其猷・廉堂・正孝・蓬固・  
 鯉勢・逸松・宇雀・應可・茶雷・東郊・橘外  
 二段組

※ 「戊午夏」

夏興 全紙 一外 南涯 篔扇図 ○ イエ ×  
 芹舎・梅通・默池・淡節・公成・赤甫・文海・祭魚・松郎・  
 烏舟・鳥岳・有節・此松・鼎左・松隣・稻處・挙一・公眠・  
 知風・月人・素屋・養瓜・雀叟・五鈴・而后・一清・李曠・  
 醉雨・我竟・三楓・指石・儵山・土前・梅裡・蓬宇・完伍・  
 烏谷・杜水・布丈・西馬・抱儀・祖郷・得蕪・見外・尋香・  
 魯心・芳草・一夢・香以・靖路・田麓・巴雪・山子・四端・

五休・松頂・吳城・花海・ミキ雄・白亥・為山・逸瀨・梅笠・  
 寄三・天由・月杵・李郷女」・帆道・心足・半湖・琴堂・米室・  
 竹烟・多代女・一止・清民・壯山・樗影・静夫・舍用・御風・  
 素山・唵風・璫山・珉子・大夢・丹嶺・乙良・茶山・竹堂・  
 湧瀧・青池・梅臣・甘古・其秀・鷗池・蔣池・墨雨・鶯居・  
 菊圃女・默翁・元史・起月・蠶園・月器・而康・婦牛・思風・  
 葉陽」・北誕・抱節・鯉勢・桑夫・橘外・宗也・桃志・三徑・  
 嵐艸・左郊・草尺・露丘・松裡・兆々・青葉・帆風・葦坡・  
 春俗・楚宮・龜年・月古・逸松・椎居・得二・梧井・天馬・  
 東阡・羅村・騏郷・蟻城・應可・正孝・甘史・葛路・蓬固・  
 宇雀・青芽・半夢・茶雷・一外

三段組

※ 「戊午夏」

夏興 全紙 正孝 葭亭 驅馬図 ○ イウエ ×

(京) 梅通・有節・默池・淡節・赤甫・祭魚・霞川・江月・文海・  
 鳥岳・鳥舟・松朗・公成・芹舎・(ヤマト) 可撫・(イハミ) 此松・  
 (大坂) 鼎左・松隣・知風・稻處・月人・丹左・不角・藜々・  
 鶯宿・公眠・挙一・素屋・(イタミ) 春人・古撫・糠人・(アフミ)  
 帆道・(イガ) 養瓜・(イセ) 雀叟・五鈴・(ヲハリ) 而后・李曠・  
 一清・三楓・不退・土前・二鷗・我竟・指石・醉雨・梅裡・  
 (ミカハ) 蓬宇・完伍・塞馬・(トヲウウミ) 鳥谷・杜水・嵐牛・  
 (サガミ) 布丈・(エド) 由誓・為山・祖郷・抱儀・得蕪・卓郎・

尋香・五休・甘茶・清良・五雀・香以・一夢・泰我・巴雪・  
 梅詳・霞村・貴邨・山月・明水・欣志・宇山・苜磨・山子・  
 未足・花海・芦城・靖路・田麓・吳城・魯心・ミキ雄・四端・  
 白亥・芳草・松頂・見外・西馬・(武蔵) 逸瀨・梅笠・寄三・  
 洒雄・天由・溪斎・(下フサ) 月杵・(上サ) 由儀・(ヒタチ) 李郷女・  
 (上毛) 心足・楽堂・竹烟・米室・半湖・(オク) 多代女・一止・  
 文起・壯山・静夫・春斎・樗影・清民・舍用・(デハ) 御風・  
 撫泉・唵風・雲涯・露山・愛木・應谷・栗堂・素文・節之・  
 素山・璫山・玉止・(エチゼン) 珉子・布珀・(カグ) 大夢・丹嶺・  
 悠平・柳壺・(エチゴ) 乙良・契史・葉居・竹堂・積翠・鶯眠・  
 尺池・茶山・(イナバ) 柏葉」・(タンバ) 湧瀧・(イハミ) 青池・  
 (ビンゴ) 梅臣・(アキ) 甘古・閑雲・(イヨ) 鶯居・菊圃女・  
 (サヌキ) 藜丈・(トリ) 元史・婦牛・月器・而康・起月・蠶園・  
 (ヒウガ) 駝岳・双鳥・(アハヂ) 其秀・鷗池・園水・蔣池・墨雨・  
 (アハ) 楚宮・抱節・龜年・思風・梧井・椎居・春俗・東阡・  
 得二・一外・葦坡・露丘・橘外・石居・鯉勢・月古・三徑・  
 天馬・逸松・草尺・嵐艸・左郊・北誕・半夢・左一・宇雀・  
 騏郷・甘史・季風・葛路・蓬固・其樟・應可・蟻城・青芽・  
 羅村・茶雷・正孝

二段組

※ 「安政五年五月」

慶賀 全紙 羅村 葭亭 靈芝図 ○ アイ ×

(八十二齡) 多代女・為山・淡節・素屋・李曠・鶯居・清民・大夢・鼎左・西馬・有節・芹舎・黙池・公成・祭魚・鳥岳・鳥舟・江月・赤甫・拾山・梅通・松隣・知風・葵々・月人・鶯宿・養瓜・五鈴・梅裡・三楓・不退・静嘉・醉雨・蓬宇・鳥谷・杜水・布丈・抱儀・見外・山子・尋香・四端・五休・白亥・みもと・芳艸・靖路・貴邨・田麓・松頂・吳城・窓月・一夢・三交・梅詳・欣志・泰我・明水・新甫・魯心・音好・祖郷」  
 溪齋・天由・逸渕・月杵・李郷・半湖・栞堂・舎用・文起・壯山・樗影・一止・唵風・素山・璫山・茶山・乙良・湧瀧・其秀・鷗池・菊圃・棹舟・嵐夕・婦牛・習竹・蝘園・起月・元史・駝岳・双鳥・東阡・楚宮・月古・逸松・椎居・得二・梧井・思風・葉陽」北誕・抱節・嵐艸・三徑・葦坡・一外・春岱・青葉・橘外・鯉勢・草尺・左郊・半夢・騏郷・青芽・葛路・有隣・季風・一聲・止丘・甘史・其樟・一惺・東郊・正孝・騎千・ひさ彦・蓬固・應可・雀堂・左一・蟻城・茶雷・嵐石・崎邨・蘿谷・羅村 三段組

※ 「安政五年夏月」／羅村不惑の賀

追善 全紙 不一 是真 蓮・捻香図 ○ アイエ 山彦

(京) 梅通・公成・有節・芹舎・(ナニハ) 林曹・素屋・鼎左・(ハリマ) 可大・(アハ) 茶雷・(トサ) 元史・(イヨ) 鶯居・(ヒウガ)

双鳥・□□・□□・薰岱・□□・悠平・□□・(オク) 舎用・多代女・(デハ) 御風・(上サ) 葵白・雨兮・(下サ) 越卯・(ムサシ) 逸渕・天由・(エド) 得蕪・水壺・梅笑・鞋波女・顧曉・桜曉・成柳女・藤水女・居六・幸山・梅志・霞丈・三明・戲水・画水・踊水・戲遊・うさき・鬼外・藍水・北扇・曳二・千たけ・雷々・冬翠・晴柳・湖舟・京水・一陽・一曉・久山・大喬・等筏・見外・由誓」  
 不一・米什・西馬・真昇・為山・白亥・祖郷・橘堂・卓郎・守高・抱儀・香昇女・為山・祖郷・白亥・橘堂・香昇女・守高・真昇・米什・抱儀・卓郎・西馬・不一 二段組

※ 「安政五年戊午水無月」／二虚百回忌

その他 全紙 林曹 梅洲 一弦琴図 ○ イエ ×

(秋田) 國彦・(在江戸) 見齋・(在江戸) 泰山・(在江戸) 笹麻呂・(カヅ) 丹嶺・(ヒダ) 有美・(ミノ) 志計留・(ミノ) 無名女・(ミノ) 立左・(ミノ) 巨笠・(イセ) 雪当・(イセ) 梅笠・(イセ) 雀叟・(アキ) 甘古・(ビンゴ) 梅臣・(ビンゴ) 梅下・(ビンゴ) 露萩・(ビンゴ) 龜洲・(ビンゴ) 暁村・(ハ、キ) 龜友・(アハ) 佳月・(アハ) 三松・(アハ) 晴鳧・(アハ) 思風・(アハ) 麦鳥・(ハリマ) 梅曆・(三田) 冬岐・(イケダ) 可春・(イタミ) 糠人・(イタミ) 梅陰・(イタミ) 晚香・(イタミ) 古撫・(イタミ) 春人・(イタミ) よね女・(イタミ) 曲阜・白鷗・挙一・公眠・石叟・姑山・兔尺・葵々・梅圃・稻所・杜鴻・知風・仙夢・五音・素屋・自来・葺山・齋徑・

蘭園・霞江・余功・鞞斎・桃年・閑遊・翠城・春一・可悅・  
 桃雅・梅窓・爐翠・停雲」・希聲・松坡・蕉林・貴泰・素梅・  
 楨立・帛尺・露雀・白鷹・淡児・黄来・東塘・時人・桜哉・  
 乙蟻・知堂・紫筵・霞外・林曹  
 二段組

※ 林曹江戸より帰坂の記念

追善 全紙 梅裡 梅僊 鳳仙花図 ○ アイエ 指石

篤志居士・三聲居士・静嘉居士・櫓水居士・梅裡・知風・林曹・  
 黙池・多代・楳臣・清民・乙也・赤甫・梅通・淡節・芹舎・撫  
 泉・蓬宇・挙一・烏谷・完伍・西馬・乙良・蒼山・悠平・  
 氷壺・魯心・山子・祖郷・柳壺・帆道・大夢・公成・布珀・  
 醒花・柳斎・御風・吟風・有節・由誓・墨雨・嵐牛・双鳥・  
 花海・一止・拾山・白鷗・晴江・素屋・吟麦・塞馬・奇泉・  
 杜水・茶雷・兔尺・為山・碩水・春湖・蘭凌・涼呼・抱儀・  
 逸渕・可大・菊雄・山士・芳草」・月底・仙翁・李曠・欣尚・  
 一清・尤嶂・我竟・醉雨・習也・至清・土前・土芳・桃里・  
 里岬・大年・李裳・柳坡・鶴叟・而后・三楓・不退・二鷗・  
 素秋・涼盧・一志・拙斎・佳水・松斎・指石・量湖 二段組

※ 「戊午仲秋」／櫓水居士追善

秋興 全紙 葛路 無極斎 花扇・花笠図 ○ イエ ×  
 由誓・西馬・抱儀・得蕪・芳艸・香以・靖路・花海・魯心・  
 田麓・明水・山子・瓦村・四端・甘茶・白亥・菊雄・霞村・  
 弘湖・芦城・松頂・泰我・尋香・見外・為山・逸渕・天由・  
 月杵・由儀・金陵・季郷女・心足・琴堂・米室・半湖・多代女・  
 清民・壯山・一止・舍用・御風・素山・唵風・如春・璫山・  
 玉止・乙良・契史・常晴・茶山・布丈・烏谷・杜水・□□・  
 □□・一清・指石・我竟・量湖・醉雨・梅裡・雀叟・五鈴・  
 帆道・芹舎・梅通・赤甫・淡節・文海・鳥岳・漁藻・公成・  
 有節・素屋・松隣・稻處・鶯宿・知風・月人・挙一・鼎左・  
 珉子・布珀・大夢・恕兮・青池・梅臣・甘古・双鳥・其秀・  
 鷗池・鶯居・棹舟・元史・蠶園・起月・帰牛・葉陽・思風・  
 其樟・一惺・芦風・一光・左一・抱節・嵐艸・三徑・橘外・  
 宗也・桑夫・鯉勢・左郊・北誕・松裡・帆風・一外」・草尺・  
 葦坡・青葉・露丘・春俗・順美・東阡・月古・楚宮・得二・  
 稚居・梧井・天馬・逸松・東郊・應可・季風・青芽・騏郷・  
 半夢・兆々・古彦・竹里・東雲・一聲・騎千・羅村・崎邨・  
 有隣・嵐石・蟻城・正孝・蓬固・宇雀・茶雷・葛路 二段組

※ 「戊午秋」

秋興 全紙 青芽 葭亭 牧童図 ○ イ ×  
 (京) 芹舎・梅通・淡節・公成・赤甫・文海・黙池・有節・(大坂)

素屋・松隣・挙一・月人・知風・鼎左・(イセ)雀叟・五鈴・  
 (ヲハリ)而后・李曠・一清・指石・梅裡・(ミカハ)蓬宇・完伍・  
 (遠江)烏谷・杜水・嵐牛・(サガミ)布丈・(エド)為山・尋香・  
 芳草・靖路・山子・白亥・抱儀・(ムサシ)逸淵・天由・梅笠・  
 (下フサ)月杵・(上毛)心足・竹烟・琴堂・米室・半湖・(ムツ)  
 多代・清民・樗影・一止・舍用・(デハ)御風・素山・唸風・  
 璫山・(エチゴ)乙良・鷺眠・茶山・(カヅ)大夢・(イハミ)青池・  
 (ヒウガ)双鳥・(アキ)甘古・(イヨ)鶯居・棹舟・(トサ)元史・  
 習竹・婦牛・(アハヂ)墨雨・蔣池・鷗池・其秀・(アハ)桑陽・  
 左一・其樟・佳長・月荷・清順・顯三・太挙・其象・北誕・  
 左郊・抱節・鯉勢・嵐艸・三徑・蒼風・橘外・宗也・桃志・  
 廉堂・其猷・是佛・桃年・東郊」・半夢・羅村・騏郷・蟻城・  
 應可・宇雀・蓬固・葛路・崎邨・正孝・甘史・騎千・有隣・  
 東雲・一聲・竹里・葵影・梅雪・蘿谷・嵐石・季風・止丘・兆々・  
 雪雅・古彦・野風・松裡・一外・帆風・青葉・葦坡・落丘・  
 石居・青枝女・春俗・順美・梧井・得二・稚居・天馬・逸松・  
 月古・東阡・草尺・楚宮・茶雷・桑夫・青芽 二段組

※ 「戊午秋」

冬興 全紙 可盛 雙石 鷄・雪達磨図 ○ アイ ×  
 (京)梅通・淡節・公成・九起・百可・祭魚・奇泉・文海・赤甫・  
 芹舎・(ナニハ)鼎左・素屋・知風・蟻兄・林曹・(イタミ)曲阜・

古樵・ぬか人・(ヲハリ)而后・一清・我竟・士芳・三楓・其岳・  
 醉雨・量湖・李曠・梅裡・(ミノ笠松)志計留・安屋馬・文哉・  
 無名女・砂水・立左・訥斎・紅影・木好・四海・甫立・巨笠・  
 (セキ)露牛・(タル井)南陽・藍庭・(アハ)茶雷・左一・其樟・  
 應可・半夢・正樹・羅村・麦鳥・(江戸)為山・見外・山子・  
 五律・苜廬・菅城・芳草・山方・卓郎・抱儀・五鈴・雪当・  
 梅臣・羨梅・拾山・御風・多代女」・(江州)芳溪・逸外・吳柳・  
 梅亭・杞柳・草波・塵外・蔦齋・麦吟・帆道・(タンバ)南涯・  
 樂水・(金沢)晴江・林波・江波・茶筵・蕉窓・巴城・古来・  
 柳壺・悠平・大夢・(ツバタ)我柳・里朝・(大正寺)北園・木圭・  
 梅枝・里石・花谷・月下・李蹊・龜水・松琴・醉月・梅令・  
 東雅・丹嶺・可床・自澄・桜里・稻波・蘭秀・龍水・蔵六」・  
 (本保)秋水・竹賀・且来・(府中)草波・藤亭・都雲・壺中・  
 杏齋・驢一・(丸岡)三巴・東林・梅人・(三國)甫山・巴一・  
 如仙・土籠・(大ノ)松翠・(村サハ)自笑・(四十谷)波龍・  
 (ヨシガキ)珉子・仁成・(福井)布珀・(福井)文鳥・(雲水)鳥岳・  
 鳥岳・鳥岳・(福井)朝霞・(府中)香雨・(輪島)可盛 三段組

※ 「戊の午冬」

夏興 四裁 金陵 長水 夜分郭公図 単(墨) アイウエ ×  
 鼎左・鶯宿・素屋・眉山・一澄・金陵 6 14

## 編集後記

大阪府立図書館紀要 第 42 号をお届けします。

当館第2代館長長田富作関連資料を「中之島百年」編集を経て、目録を完成することができました。戦前の図書館を調べるうえで、貴重な資料を明らかにする一助を今号が担えたと思います。

前号に掲載された翻刻について読者からご指摘がありました。文字校正はもとより、編集に関しても一層こころして取り組みたいと存じます。

今後とも本紀要の充実のため、引き続きご愛読いただき、忌憚なきご意見を賜りますようお願い申し上げます。

なお、当紀要に登載された著作物に係る著作権は執筆者に属し、その著作の使用に関しては大阪府立図書館は著作権者の了解を得ています。

## 編集委員（◎は編集長）

中之島図書館 ◎岡部 朗 本多まつ 坂本弥生（2012 年度） 藤原紀恵（2013 年度）

大北悦子 袋井龍成

中央図書館 大西登貴子（2012 年度）吉川逸子（2013 年度） 仙田ひろ子 小杉裕枝

大阪府立図書館紀要 第 42 号

2013 年 10 月 31 日

編集・発行

大阪府立中之島図書館

〒530-0005 大阪市北区中之島 1-2-10

大阪府立中央図書館

〒577-0011 東大阪市荒本北 1-2-1

<http://www.library.pref.osaka.jp/> <無断転載を禁ずる>